

明治国際医療大学 看護学科

講義概要

[2021]

看護学科における実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

講義科目名	開講期間	配当年	単位数
コミュニケーション論	後期	1	1
ヘルスアセスメントⅠ	後期	1	1
看護学概論	前期	1	1
看護基礎理論	前期	1	1
基礎看護援助論Ⅱ	後期	1	2
基礎看護学実習Ⅰ	後期	1	1
成人看護学概論	後期	1	1
精神看護学概論	後期	1	1
病理学	後期	1	1
母性看護学概論	後期	1	1
カウンセリング論	前期	2	1
リハビリテーション看護援助論	後期	2	1
リハビリテーション看護学概論	前期	2	1
医療コミュニケーション学	後期	2	1
看護過程論	前期	2	1
基礎看護学実習Ⅱ	後期	2	2
基礎助産学	後期	2	2
急性期看護援助論Ⅰ	前期	2	1
急性期看護援助論Ⅱ	後期	2	1
公衆衛生看護学概論	後期	2	2
在宅看護概論	後期	2	1
疾病治療総論	前期	2	1
疾病治療論Ⅲ	前期	2	1
小児看護援助論Ⅰ	前期	2	2
小児看護援助論Ⅱ	後期	2	1
精神看護援助論Ⅰ	前期	2	1
精神看護援助論Ⅱ	後期	2	1
東洋医学概論	前期	2	2
母性看護援助論Ⅰ	前期	2	2
母性看護援助論Ⅱ	後期	2	1
コンプリメンタリーセラピーⅠ	前期	3	1
メンタルヘルスケア論	前期	3	1
家族関係援助論	前期	3	1
健康教育論	前期	3	1

看護学科における実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

講義科目名	開講期間	配当年	単位数
公衆衛生学	前期	3	1
公衆衛生看護学方法論	前期	3	2
公衆衛生看護活動論Ⅰ	前期	3	1
公衆衛生看護活動論Ⅱ	前期	3	2
災害看護学	前期	3	1
在宅看護援助論Ⅰ	前期	3	1
在宅看護援助論Ⅱ	前期	3	1
産業保健論	前期	3	1
助産診断・技術学Ⅰ	前期	3	3
助産診断・技術学Ⅱ	前期	3	4
世界の統合医療	前期	3	1
精神保健	前期	3	1
東洋医学診断学・治療	前期	3	2
保健医療福祉行政論	前期	3	2
クリティカルケア論	後期	4	1
ヘルスプロモーション	後期	4	1
看護技術論	後期	4	1
公衆衛生看護学実習Ⅲ	前期	4	2
助産管理	通年	4	1
地域保健活動システム論	後期	4	1
癒しの看護論	後期	4	1
在宅看護実習	後期-前期	3・4	2
リハビリテーション看護学実習	後期-前期	3・4	2
急性期看護学実習	後期-前期	3・4	3
公衆衛生看護学実習Ⅰ	後期-前期	3・4	1
公衆衛生看護学実習Ⅱ	後期-前期	3・4	4
助産学実習	後期-前期	3・4	11
小児看護学実習	後期-前期	3・4	2
精神看護学実習	後期-前期	3・4	2
母性看護学実習	後期-前期	3・4	2
合計単位数			101
省令で定める基準単位数			13

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
山下八重子 佐藤裕見子 矢野忠 市川哲			
添付ファイル			

授業目標	<p>本学の建学の精神・教学の理念を学び、本学の看護学部が目指す社会に貢献できる看護師となるために、本学の教育について理解する。本学の学生としての自学と心構えをもち、自己の将来の目標に向かって卒業を目指してしっかり学びを進める力を身につける。</p> <p>本学部特有の「西洋医学に加えて東洋医学を学ぶ」ことの意味も考えて現代医療を考えるきっかけをつくる。さらに、医療大学として他学科の教育について学び、付属病院の役割について考える。</p>
授業計画	<p>第1・2回 大学の教育と研究（学長）課題学習 [到達目標] 1. 本学の歴史と教学の理念を知る 2. 本学の発展の歴史を知る [授業形態]課題提示しレポート提出 ①本学のあゆみと目指す医療人の姿とは ②本学のあゆみと目指す医療人の姿とは レポートの文字数は600字以上～800字以下 提出締め切りは4月24日</p> <p>第3回 大学の教育と研究（市川）課題学習 [到達目標] 1. 建学の精神の理解 [授業形態]課題提示しレポート提出 見学の精神について レポートの文字数は600字以上～800字以下 提出締め切りは4月28日</p> <p>第4回 看護学部の教育（山下）課題学習 [到達目標] 1. 看護学科の教育概要と目指す人間像の理解し、自己目標達成のために学生時代に身につけておくべき能力について考える事ができる [授業形態]課題レポート提出 「学生便覧を読み、1年生でまず身に付けなければならないこと（習慣や能力等）は、どんなことか？現在の自己を振り返って考え、決意も含めた内容のレポートを作成し提出しなさい。」 文字数は1000～1600字以内で提出 提出締め切りは4月28日</p> <p>第5回 東洋医学の考え方と看護の関連性（佐藤） [到達目標] 1)カリキュラムの特徴である東洋医学の特徴 2)本学の特徴である東西両医学の有機的関連付けるとは [授業形態]講義形式</p> <p>第6回 看護と倫理・看護師のキャリア形成（山下） [到達目標] 1. 看護師に必要とされている倫理について述べる事ができる 2. 看護職の特殊性と看護職の生涯教育について理解し自己像を描く事ができる [授業形態]講義形式 + レポート（目指すキャリアと自己像について描く）</p> <p>第7回 他学部の教育と付属病院の役割について の役割（山下）課題学習 [到達目標] 1. 鍼灸学部・柔道整復学科・救急救命学科の教育概要 2. 付属病院の役割 [授業形態]課題学習 ①学生便覧やホームページを閲覧し、医療大学としてそのようなライセンスを取得できる学科があるか？ 他学部の医療分野での仕事の特徴をレポートしてください。 ②付属病院について、どのような機能を持っているか調べてレポートしてください。 課題1つにつき1枚のレポートを提出（A4 1600字以内）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>（事前学習） 各学部の学生便覧に目を通しておく（30分程度） 各授業毎に感想を記載し（レポート用紙1枚：1400～1600字）提出する（30～60分）</p>

教科書	なし
参考書	なし
成績評価	出席は厳密に取ります。 課題は締め切り厳守のこと。 締め切りと提出場所は、講義終了後1週間目の1③時まで指示された方法で提出する（表紙は不要）。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 山下 八重子 研究室 : 10号館8階教授室 メールアドレス : y_yamashita@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日 連絡してください</p> <p>担当教員名 : 樋口 敏宏 研究室 : 病院 1 階MRセンター メールアドレス : higuchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 伊藤 和憲 研究室 : 病院2階 鍼灸学系教員室 メールアドレス : k_itou@meiji-u.ac.jp 担当教員名 : 岡田成賛 研究室 : メールアドレス : S_okada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー :</p> <p>担当教員名 : 苗村 建慈 研究室 : 病院 2 階教授室 メールアドレス : オフィスアワー : 月曜日 16:30-17:00</p> <p>担当教員名 : 佐藤裕見子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : y_asto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 連絡してください</p>
備考	山下八重子 (看護学部長) 矢野忠 (学長) 市川哲 (教学部長) 樋口敏宏 (副学長) 伊藤和憲 (鍼灸学部長) 岡田成賛 (保健医療学部長) 苗村建慈 (附属病院病院長) 佐藤裕見子 (看護学部長補佐)
	この授業のDPとの関連 「◎-4」 「○-3」
	新型コロナウイルスのパンデミックにより、在宅学修となったため一の変更が生じたことから、今年度に限り内容を変更した。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
藪田 拓哉			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	「心」は実に曖昧なものでありながらも、我々にとっては非常に身近なものでもある。本講義では「心」を対象として、基礎心理学・学習心理学・社会心理学・認知心理学・発達心理学に基づく基礎的な知識を理解する。 加えて、カウンセリングや精神疾患をはじめとする臨床心理学的援助についての基本的な考え方を学ぶ。適切な医療的ケアを施すために、患者の心の動きにどう寄り添うかについて、基本的な考え方を身につけることを目標とする。
授業計画	1回目 インTRODクシヨン 心理学とは？ [到達目標] 心理学の歴史および基礎心理学の概要を学ぶ。 2回目 学習、社会と集団 [到達目標] 学習心理学、社会心理学の概要を学ぶ。 3回目 認知の役割、成長と発達 [到達目標] 認知心理学、発達心理学の概要を学ぶ。 4回目 心理アセスメント [到達目標] 臨床心理学におけるアセスメントの方法について学ぶ。 5回目 心理療法の理論 [到達目標] 臨床心理学における各心理療法の理論について学ぶ。 6回目 精神疾患 [到達目標] 精神疾患について学ぶ。 7回目 まとめと試験 [到達目標] これまでの授業のまとめを行い、試験を通じて知識の定着を図る。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	心理学的事象は日常生活においても数多く見られる。 講義内で学習したことを思い出しながら身近な出来事へと照らし合わせることで体験的理解へと深めること。
教科書	特になし。適宜、資料を配布する。
参考書	青木紀久代(2009)「徹底図解 臨床心理学—フロイトの理論から現代の臨床事例まで」新星出版社
成績評価	毎回の出席状況・授業態度30%、期末試験70%として、総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 藪田拓哉 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-4, ○-3

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
戸田 一男			
授業形態：講義・演習	時間数：15時間	コミュニケーションカードを使用	
添付ファイル			

授業目標	コミュニケーションの特徴と、医療におけるコミュニケーションの重要性を理解することができる。また、コミュニケーションの基本的な方法について学び、それを実践することができる。
授業計画	<p>1回 コミュニケーションとは [到達目標] ・コミュニケーションの意義と目的を理解することができる。</p> <p>2回 コミュニケーションの構成要素と成立過程 [到達目標] ・コミュニケーション手段や構成要素と成立過程について考え、理解することができる。</p> <p>3回 関係構築のためのコミュニケーションの基本 [到達目標] ・接近的コミュニケーションの原理について理解することができる。 ・接近的行動と非接近的行動について考えることができる。</p> <p>4回 効果的なコミュニケーションの実際① [到達目標] ・聴くことの利点・意味・効果を考えながら傾聴することの重要性が理解できる。</p> <p>5回 効果的なコミュニケーションの実際② [到達目標] ・情報収集及び説明の技術について理解することができる ・アサーティブコミュニケーションについて理解することができる。</p> <p>6回 コミュニケーション障害への対応 [到達目標] ・言語的コミュニケーションに必要な身体機能について理解できる。 ・コミュニケーション障害がある人への対応が理解できる。</p> <p>7回 まとめ及び試験 [到達目標] ・1回～6回の講義資料等を用いてまとめを行い主要内容について理解を深めることができる。 ・試験</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	①教科書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し、講義で学修した内容をまとめてください。合わせて1時間程度。 ②自己学習により講義内容の理解を深め、知識を広げるため、適宜課題を課す。 (各講義で提示する)
教科書	系統看護学講座 「基礎看護技術Ⅰ」 基礎看護学② (医学書院)
参考書	特に指定しない。
成績評価	筆記試験70%・提出課題・授業参加態度30%とする。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 戸田一男 研究室 : 10号館8階807研究室 メールアドレス : k_toda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (精神看護学実習のため病院出張以外)</p> <p>担当教員名 : 梶川拓馬 研究室 : 10号館7階713研究室 メールアドレス : t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (精神看護学実習のため病院出張以外)</p> <p>担当教員名 : 大永慶子 研究室 : 10号館6階南共同研究室 メールアドレス : k_oonaga@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (精神看護学実習のため病院出張以外)</p>
備考	戸田教員：精神科領域での多岐にわたる豊富な臨床経験をもとにコミュニケーション論についての講義を行う。 梶川教員：精神科領域での臨床経験をもとにコミュニケーション論についての講義を行う。 大永教員：精神科領域での臨床経験をもとにコミュニケーション論についての講義を行う。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-3、○-4、○-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
下川 篤			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	日本語を読み、理解し、書く能力は学習を進めるアカデミックスキルとして不可欠であり、また社会人、医療人としても必須の能力です。 この講義では、日本語の表記や文章の構成等について学び、小論文を実際を書くことを通して、日本語のリテラシーを身につけ、日本語を正しく使うための基礎的知識を学ぶことを目標とします。
授業計画	第1講 国語力の確認テスト。日本語の表記について（1）。 第2講 当初テストの解説。日本語の表記について（2）。文章構成の基本（1）。 第3講 文章構成の基本（2）。 第4講 小論文の書き方。小論文作成（1）。 第5講 小論文（1）について。小論文作成（2）。 第6講 小論文（2）について。小論文作成（3）。 第7講 小論文（3）について。まとめ（評価含む）
授業時間外の学習（準備学習等）について	配布プリントを参考に講義で学習した内容をしっかり復習して下さい。 配布プリントを参考に、各講義のタイトルに関連する内容を事前学習（予習90分）し、講義で学修した内容をまとめて下さい（復習90分）。
教科書	授業で配布するプリントを使って、日本語の表記や文章の書き方等について学びます。 また、読む側が正確に理解できる文章の書き方について練習します。
参考書	国語辞典（高校時代のものでよい。電子辞書も可。）
成績評価	出席や提出物、試験、の三項目を総合的に評価します。 出席20%、提出物20%、試験60%で評価します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 下川篤 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-1, ○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
渡邊 勝之			
添付ファイル			

授業目標	医学・医療の歴史の変遷、現状、進むべき方向性について考え、伝統医学と近代医学の長所と短所を理解する。 また、医学・医療における共通基盤を捉え、チーム医療、統合医療を実践してゆくための、基本的な知識を得る。		
授業計画	歴史1	古代医学の歴史の概要を説明できる 医学・医療の歴史：医療原論・第4章の予習をして、講義を受講する	
	歴史2	近世・近代医学の歴史の概要を説明できる 医学・医療の歴史：医療原論・第5章1～3の予習をして、講義を受講する	
	歴史3	ギリシャ・ローマ医学の歴史の概要を説明できる ユナニ・ティブ（世界三大伝統医学）：医療原論・第5章4・5の予習をして、講義を受講する	
	歴史4	インドにおける医学・医療の歴史の概要を説明できる アールヴェーダ（世界三大伝統医学）：医療原論・第6章の予習をして、講義を受講する	
	歴史5	中国における医学・医療の歴史および各文化圏における医学の特徴の概要を説明できる 伝統中国医学1（世界三大伝統医学）：医療原論・第7章1～2の予習をして、講義を受講する	
	歴史6	古代から明治までの医学・医療の歴史の概要を説明できる 日本における医学・医療の歴史1：医療原論・第8章1～5の予習をして、講義を受講する	
	歴史7	明治維新以降の医学・医療の変遷の概要を説明できる 日本における医学・医療の歴史2：医療原論・第8章6・7の予習をして、講義を受講する	
	歴史8	まとめの講義を行ったのち、試験を実施する まとめ・試験	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	講義範囲の教科書を事前に読んで予習をして下さい。 また、講義内容と教科書を踏まえて、オリジナルノートを作成する、復習も行って下さい。		
教科書	医療原論 第二版 : 渡邊勝之編著, 医歯薬出版社, 2017.		
参考書	医学・医療原論 いのち学&セルフケア : 渡邊勝之, 錦房株式会社, 2016. 医学概論 : 日野原重明, 医学書院, 2003. 医療概論 : 中川米造, 医歯薬出版社, 1993.		
成績評価	評価：平常評価(受講態度、出席カード：20%)と試験評価(80%)による。 試験：受験資格は出席日数3/5以上とする。総合60点以下の者は、追再試験を実施する。 成績：60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優とする。		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 渡邊勝之 研究室 : メールアドレス : k_watanabe@mst.meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義実施日		
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5, ○-1		

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
大山 由紀子			
添付ファイル			

授業目標	<p>授業目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護職をめざすものとして今後の学習への動機づけができる。 ・看護や人間についての自己の考えを述べるができる。
授業計画	<p>1回目 全体オリエンテーション</p> <p>[授業概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全体オリエンテーション、担当教員紹介 2. 各グループに分かれ自己紹介、グループワークに関するオリエンテーション、テーマの決定等 <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入ゼミの目的と進め方がわかり、最終回の発表会に向けた準備（概略）ができる。 ・テーマを決めることができる。 ・グループ内での役割を決めることができる。 ・何故看護師を目指すのか。どんな看護師になりたいか。そのためにこの1年間どのように過ごすかを各自が発表できる。 <p>[授業形態]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体オリエンテーション、グループワーク <p>[備考]</p> <p>オンライン授業</p> <p>2回目 グループワーク</p> <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自が選んだ文献の紹介ができる。 ・闘病記を読んだ感想を発表することができる。 ・発表をもとにグループワークできる。 <p>[授業形態]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク <p>[備考]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット、書籍、新聞、その他より情報を集める <p>3回目 グループワーク</p> <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「看護とは」についてディスカッションできる。 ・自分の考えを発表できる。 <p>[授業形態]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク <p>4回目 グループワーク</p> <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人間とは」についてディスカッションできる。 ・自分の考えを発表できる。 <p>[授業形態]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク <p>5回目 グループワーク</p> <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでゼミを通して考えたことをまとめることができる。 <p>[授業形態]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク <p>6回目 グループワーク</p> <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7回目の発表会に向けた準備ができる。 ・発表用パワーポイント、発表原稿の作成ができる。 ・発表の仕方について話し合い決定することができる。 <p>[授業形態]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク <p>7回目 全体グループ発表（合同グループ発表会）</p> <p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミを通して考えたこと、学んだことを分かりやすく発表することができる。 ・導入ゼミの成果を確認することができる。 ・看護、人間について自己の考えをまとめることができる。 <p>[授業形態]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体でのグループ発表。 <p>[備考]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表後、各グループ指導教員から助言・評価の実施。

授業時間外の学習 (準備学習等)について	・各自が関病記を1冊は必ず文献検索し読んでおくこと。 【授業外での個人の学習およびグループでの学習時間として、資料収集20時間、まとめ10時間を使用し、その際の資料、まとめを授業に持参する事】
教科書	なし
参考書	「看護覚え書」フローレンス・ナイチンゲール著 うぶすな書院 「看護の基本となるもの」ヴァージニア・ヘンダーソン著 日本看護協会出版社 「人間対人間の看護」トラベルビー 医学書院 「人間関係の看護論」ペブロー 医学書院 「夜と霧」ヴィクトール・E・フランクル みすず書房 「愛深き淵より」星野富弘 学研
成績評価	①レポート評価 60点 ②グループワーク参加状況・積極性を担当教員が評価する 20点 ③グループワークの成果及び発表を評価する 20点 ①+②+③=100点 *欠席は特別な理由が無い限り認めない。 *テストが無い教科のため、出席重視とする。2回以上欠席した者は単位未修得となる。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 大山 由紀子 研究室 : 10号館(看護学部棟)8階803 メールアドレス : y_ooyama@meiji-u.ac.jp 担当教員名 : 看護学部全教員(1Gにつき約2名) 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :
備考	この授業とDPとの関連 「◎-4」「○-5」

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
梶川 拓馬			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義・対話	
添付ファイル			

授業目標	1) 「読み」「書き」「考える」能力の基礎となる「国語」「数学」「生物」等の理解をすることができる。 2) 大学での学修を円滑に進めるために学力向上を図ることができる。
授業計画	<p>1回 ・ガイダンス ・基礎学力（国語力）の確認 [到達目標] 正確に読み解く力、簡潔に要点をまとめる力等「国語力」を習得することができる。</p> <p>2回 理科①人体についての知識の確認 [到達目標] 生命の維持・感覚と運動・体内環境の維持・体内環境をまもるしくみについて学習し、理解を深めることができる。</p> <p>3回 理科②化学についての知識の確認 [到達目標] 身のまわりの物質・物質のなりたち・水溶液・酸とアルカリ・中和について基本的な知識を習得することができる。 講義で使用する教科書にある化学についての基本的な知識について理解することができる。</p> <p>4回 理科③生物についての知識の確認 [到達目標] 細胞のなりたち・有性生殖・遺伝の法則性について理解を深めることができる。 講義で使用する教科書にある生物についての基本的な知識について理解することができる。</p> <p>5回 数学についての知識の確認① [到達目標] 基本の計算、数の表現、複数の値の関係について理解を深めることができる。 講義で使用する教科書にある数学の計算式や方法について理解することができる。</p> <p>6回 数学についての知識の確認② [到達目標] 様々な単位、数量関係について理解を深めることができる。 講義で使用する教科書にある数学の知識について理解することができる。 看護分野で必要となる単位、計算式について理解を深めることができる。</p> <p>7回 物理についての知識の確認 [到達目標] 力のはたらき・圧力・力の法則性について理解を深めることができる。 講義で使用する教科書にある物理学における力動について理解することができる。</p> <p>8回 まとめ・試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し、各自が不得意な項目を明確にしておくこと。また、講義で学修した内容をまとめる。合わせて1時間程度。
教科書	看護学生 スタートアップトレーニング メディカ出版
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験、小テスト、授業への参加等で総合的に評価する。 (試験70%、小テスト・授業態度30%)
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 梅田 雅宏、鳴瀬 善久、戸田 一男、梶川 拓馬</p> <p>担当教員名 : 戸田 一男 (科目責任者) 研究室 : 10号館 (看護学部棟) 8階 807 メールアドレス : k_toda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時(事前にメールにてアポイントメントをとること)</p> <p>担当教員名 : 梶川拓馬 研究室 : 10号館7階713研究室 メールアドレス : t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (事前にメールにてアポイントメントをとること)</p>
備考	ディプロマポリシーとの関連 ◎ー3 (関心・意欲) ○ー4 (態度)

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
前中 一晃			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	21世紀の人類の課題は、エネルギーや資源、自然、環境、生命をめぐる多くの問題に向いあうことである。そのためにさまざまな現象を生み出してきた地球の環境条件がどのように変化してきたかを体系的に学習する。		
授業計画	1回目	はじめに [到達目標] 地球にはさまざまな環境問題がある。	
	2回目	地球史概観 [到達目標] 地球46億年の歴史について概観する。 [備考] 地球史年表の作成 地球環境の変遷について理解するため地球史の時代区分を知っておく。	
	3回目	地球環境を変えたもの① [到達目標] 大気の成分を変えたもの	
	4回目	地球環境を変えたもの② [到達目標] 地球の環境を破壊したもの	
	5回目	病んでる地球 [到達目標] 病んでる地球とはどういうことか	
	6回目	深刻な環境問題 [到達目標] 地球温暖化・ごみ問題	
	7回目	広がる環境問題 [到達目標] オゾン層の破壊・水問題	
	8回目	まとめ レポート作成等	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	使用するプリントを事前配布する。あらかじめ下調べしておくように。 教科書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習（予習90分）し、講義で学修した内容をまとめて下さい（復習90分）。		
教科書	毎週プリントを配付		
参考書	特になし		
成績評価	出席点＋試験点で判断。 出席点には毎授業で実施する小試験の点数を加味。		
担当教員の基本情報	担当教員名：前中 一晃（非常勤講師） 研究室：6号館1階非常勤講師室 メールアドレス：mae7kaz3aki4@docomo.ne.jp オフィスアワー：授業終了後		
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-3		

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
佐藤裕見子 大山由紀子 梅田千恵子 河原照子 梶川拓馬			
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 大学での勉学にむけて、高校までとは違った自ら学ぶ姿勢、技術が必要となってくる。その技術を習得するための基礎教育として本科目を位置づける。</p> <p>【授業目標】 ・大学4年間を通して“学ぶ”ために必要な、「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」「まとめる」「表現する」「伝える」「考える」の9つの力を段階的に学習し、理解できる。 ・本授業のあとに配置される「基礎ゼミⅠ」の授業で十分に力が発揮できるように、9つの力を身につける。</p>
授業計画	<p>第1回 導入 スタディ・スキルズとは 第1章 (佐藤) 【到達目標】 ・大学で学ぶとはどういうことかを考え、本科目の必要性を理解できる(グループで話し合い、意見発表)。</p> <p>第1・2回 聴く・読む 第2～4章 (河原) 【到達目標】 ・ノートのとり方がわかる ・テキストの種類に応じた読み方ができる ・文章を要約することができる ・読んで感じたこと(意見)をまとめることができる</p> <p>第3回 調べる・整理する 第5章 (佐藤) 【到達目標】 ・情報収集とその必要性が理解できる ・大学図書館の利用方法がわかる</p> <p>第4回 インターネットによる情報収集、情報整理 第6～7章 (梶川) 【到達目標】 ・インターネットを利用した文献検索ができる ・情報整理の必要性と仕方がわかる</p> <p>第5回 まとめる・書く 第8章 (梶川) 【到達目標】 ・レポートの書き方が理解できる</p> <p>第6回 効果的なアカデミック・ライティングの基本 第9～10章 (梅田) 【到達目標】 ・わかりやすい文を書くための方法がわかる ・PCを使用したレポート作成がわかる</p> <p>第7回 表現する・伝える 第11～12章 (梅田) 【到達目標】 ・プレゼンテーションの基本的スキルが理解できる</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	授業内容は教科書に準じて進行するので、授業ごとに関連するページを事前学習し(予習130分)、講義で学習した内容のふりかえりや課題を遂行する(復習130分)。
教科書	「大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ 第5版」学習技術研究会編
参考書	特にありません
成績評価	・各教員が、提出物の内容、授業態度をもとに評価する(各25点×4名) ・提出物の提出先、期限等は、各担当教員の指示に従うこと
担当教員の基本情報	佐藤裕見子 10号館8階 メールアドレス: y_sato@meiji.u.ac.jp オフィスアワー: 随時 大山由紀子 10号館8階 メールアドレス: オフィスアワー: 随時 梅田千恵子 10号館8階 メールアドレス: c_umeda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー: 随時 河原 照子 10号館8階 メールアドレス: t_kawara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー: 随時 梶川 拓馬 10号館7階 メールアドレス: t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー: 随時
備考	②この授業とディプロマポリシーとの関連 ○ー③ ○ー② ○ー⑤

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
山下八重子 戸田一男 他 外部講師4名			
添付ファイル			

授業目標	京都は日本の長い歴史の中で政治や文化の中心として重要な役割を担ってきた都市であり、伝統的な特有の文化を発展させてきている。伝統的な職業や生活様式などに精通した講師から京都のさまざまな文化を学び学び、異文化を理解して日本人や人間について考える。そして、京都は看護教育の発祥の地であり、様々な視点から京都の文化を学ぶことで、医療専門職として看護の視点で健康を考える。		
授業計画	第1回 4/14	京都を代表するものをひとつ挙げる（山下） 「到達目標」京都の文化を知る。 京都の代表的なものを1つ挙げて、その歴史を知る。 [授業形態]課題学習 1週間以内に、レポート2枚以内にまとめて提出する。	
	第2回 4/21	南丹市を調べて興味を持つ（山下） 「到達目標」大学の立地する南丹市を知る。 南丹市を調べて興味あるものを1つ挙げて、詳細をレポートする。 [授業形態]課題学習 1週間以内にレポート2枚以内にまとめて提出する。	
	第3回 5/12	座禅体験（西尾） 「到達目標」 お寺の歴史を学び、座禅体験を通して座禅の真髄に触れる。 座禅を通して気持ちの落ち着かせ方を体得する。 [授業形態]講義形式+座禅演習（感想文提出）	
	第4回 5/19	京野菜と健康(松尾)	
	第5回 5/26	到達目標 大学の近所の農家さんより南丹から丹波地域の農産物の紹介や、害獣等被害対策・後継者不足等様々な山間部の過疎の問題なども含めて講義を受ける。この地域の特徴や水は食べ物と健康について考えるきっかけとする。 [授業形態]講義形式（感想文提出） 南丹市の楽しみ方（京都府南丹振興局）	
	第6回 6/9	到達目標 南丹市の魅力の発見。南丹市の取り組みを知る。 大学の近辺を中心に近場の食べ歩き、見どころの情報を得て出かけてみよう。 [授業形態]講義形式（感想文提出） 学生生活を安全に過ごすために(北山)	
	第7回 6/16	「到達目標」防犯意識や交通マナーを守って安全に生活できる。 大学に近くの保野田駐在所の警察官の講義。 犯罪に巻き込まれないように学生生活を過ごす方法を考えることができる。 [授業形態]講義形式（感想文提出） 京都の地理的特徴と気候（戸田）	
	評価	「到達目標」 県外出身者に京都の観光名所や地理的気候特徴を知ってもらう。 これまでの様々な講義と各自で調べた京都の文化を織り交ぜて、京都の文化と健康について考える。 [授業形態]講義形式（感想文提出） 毎回のレポートの提出 締め切りは、次回講義の13時までとする。 講義の感想文はA4用紙1枚にまとめる。	
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義毎に予備知識をつけるためにインターネット等を通じて調べて授業に臨む。（45分程度） 講義終了後、感想文や内容に関連した文献を調べてレポート1枚作製し提出する。（60分程度）		
教科書	なし		
参考書	なし		

成績評価	講義後のレポートで評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山下八重子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : y_yamashita@meiji-u.ac.jp 担当教員名 : 戸田一男 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : k_toda@meiji-u.ac.jp
備考	講義は様々な職業に従事する講師が担当するオムニバス形式の講義です。 警官・僧侶・農家・南丹市職員等の方々から様々な講義が聞けます。 南丹市の見所・遊びどころも学べます。
	選択科目ですが、初年次なので選択を勧めます。 試験はしませんが、毎回レポート1枚の提出があります。
	この授業のDPとの関連 ◎-4、○-3
	新型コロナウイルスのパンデミックの影響で、在宅学修となったため課題学習とオンライン授業を組み合わせ実施する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年後期～3年	1	選択必修
担当教員			
田中小百合、 河原照子			
配当学科：看護学科	時間数：45時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 学生自ら施設を選択したり、連絡等行いながら、保健医療看護福祉分野でのボランティア活動を行う。</p> <p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動をすることによって視野を広め、在学中、大学卒業後にも地域社会に貢献できるスキルを身につけることができる。 ・ボランティア活動の基本理念である自主性・社会性・無償性・創造性について体験から理解できる。
授業計画	<p>① ガイダンス（履修登録者対象）</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動とは何か、ボランティア活動の心がまえ、ボランティア活動を行うにあたっての手順、注意事項等の説明をうけ、理解できる <p>② 活動までの準備：ボランティアの受入先を探す・施設側に面接を申し込む</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアを希望する受入施設に電話連絡し、ボランティアの受入が可能かどうか、打ち合わせの訪問日時、担当者名の確認などができる ・「ボランティア活動の希望書（用紙1）」を持参の上、活動内容や時期等を調整することができる ・決定したボランティア活動内容等について、教員に報告することができる <p>③ ボランティア活動の計画書の提出</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設担当者との話合いで決定したことを担当教員に報告できる（用紙2） <p>④ ボランティア活動</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づき、ボランティア活動ができる ・日々の活動について日誌（用紙3）に記述できる <p>⑤ 活動報告</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの活動のまとめ、振り返りとしてレポートが作成できる。 ・指定の記録物が提出できる。 ・礼状の郵送ができる。
授業時間外の学習（準備学習等）について	活動日誌、ボランティア活動実績一覧表とまとめのレポートの記載、礼状の作成、郵送を行うこと。
教科書	特に指定しない
参考書	特に指定しない
成績評価	記録物の提出と礼状の郵送をした時点で評価する。
担当教員の基本情報	田中小百合：10号館810 メールアドレス：sayutana@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時 河原照子：10号館804 メールアドレス：t_kawara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前にメール連絡すること）
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・1年後期～3年後期の開講科目である。 ・合計活動時間が累積40時間以上にて1単位として認定する（例えば、1日4時間の活動を10日間行うなど）。5時間分はオリエンテーション、日々の活動日誌の記載、連絡調整、礼状作成などの時間に使用する。 ・保健、医療、看護、福祉分野を活動分野とする。 ・履修登録は半期毎のため、活動時間の継続中、また活動する意思がある場合は、引き続き履修登録をすること。履修登録を中止した時点で、不可となる。 ・3年後期から臨地実習が始まるので、3年前期までに終了することが望ましい。 ・学生自身が選定し、連絡調整を行うため、社会人として失礼のない対応をすること。 ・車で通う場合（施設側の許可を得ること）は、事故にあっても学生保険は適用されない。よって公共交通機関、自転車を使用すること。
	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-4、○-3、5

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
鳴瀬 善久			
添付ファイル			

授業目標	<p>【教育目標】 生物について学ぶことは、自分自身をより深く理解することにつながる。 生物のなりたちを、それを構成する分子から細胞・組織へと順に学び、ヒトのからだのかたちやはたらきについて理解する（解剖生理学への入門）。 生物の発生や遺伝の原理、人間が受精卵といった1個の細胞からどのようにして発生するのか、また子供はどうして親に似ているのかなど、生物の生きている不思議さと尊厳を学ぶ。医療人の一人として、ウイルスや微生物、植物、動物など生物界を通し、人間の存在意義について理解し考察できることを目指す。</p>
授業計画	<p>1回目 序論：胃、心臓ってどこにある？カラダの中の器官（臓器）がどこにあるのか知ろう。 [到達目標] ヒトのカラダの中の空間と器官（臓器）の位置関係が描ける。また器官の簡単なはたらきを説明できる。 [備考] 毎回、講義に必要な部分のプリントを配布する。講義終了後は、必ず復習をしてその日のうちに講義内容を理解しよう！次回講義までに必ず復習と予習をすること。次回の講義では、はじめの15分～30分で前回の講義内容をグループディスカッションして学修を深める（アクティブラーニング）。 数字で考えてみよう：ヒトは生まれてから死ぬまで、いったい何をしているのだろうか？（数字で知る人体：カラダの中の数字）について理解する。</p> <p>2回目 食物は口から入ってどこへ行く？食べ物はどう消化されるの？（消化器系と酵素） [到達目標] 口から肛門まで食べ物が通過する器官を説明できる。3大栄養素はどのように消化されるか説明できる。 [備考] 口腔、咽頭、食道、小腸、大腸、肛門、肝臓、胆嚢、膵臓、3大栄養素、タンパク質、糖質、脂質、消化酵素など</p> <p>3回目 カラダをつくる物質は何からできているのか？ [到達目標] 体を作り上げるさまざまな分子とその働きを理解する。3大栄養素のタンパク質、糖質と脂質について説明できる。 [備考] 五大栄養素(タンパク質、糖質、脂質、ビタミン、ミネラル)と核酸、水など</p> <p>4回目 呼吸、なぜ酸素と二酸化炭素のガス交換が必要か?(呼吸器系) [到達目標] ガス交換としての呼吸器系(外呼吸と内呼吸)を説明ができる。さまざまな代謝系(代謝経路 マップ)の説明ができる。 [備考] 呼吸器:鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺など</p> <p>5回目 酸素と栄養素を運搬する血液循環としての血管、心臓の循環器系とは? [到達目標] 酸素・栄養素を運び、毛細血管で二酸化炭素と老廃物を交換する血液とポンプの役割としての心臓を通し循環器系を説明できる。 [備考] 循環器:心臓、動脈、静脈、生命の維持と活動に必要なエネルギーATP</p> <p>6回目 カラダの老廃物はどこへいく?(泌尿器) [到達目標] カラダの中の老廃物はどこで作られ、どこへ運ばれるか説明できる。 [備考] 腎臓、尿管、膀胱、尿道、尿、アンモニア、尿素、尿酸など</p> <p>7回目 カラダをコントロールする神経系とは? [到達目標] カラダを動かす運動神経、感覚を伝える感覚(知覚)神経、器官の働きをコントロールする自律神経を説明できる。 [備考] 中枢神経:脳、脊髄。末梢神経:脳神経、脊髄神経。体性神経、運動神経、感覚神経、自律神経 など</p> <p>8回目 五感とは?(感覚器系) [到達目標] 見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触れるなどの五感や感覚を説明できる。 [備考] 視覚、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚、触覚、感覚(表在感覚、内臓感覚、深部感覚)など</p> <p>9回目 血液とカラダを守る免疫とは? [到達目標] 血液とカラダを守る免疫系を理解し説明できる。 [備考]</p>

	<p>血液、血液の細胞、カラダを守る(免疫系、血液凝固、組織の再生、解毒など)、細胞性免疫、液性免疫</p> <p>10回目 ホメオスタシス(恒常性)とホルモン(内分泌) [到達目標] 外部環境に対する体内環境の調節を説明できる。ホルモン(内分泌)調節について理解し説明できる。 [備考] 外部環境に対する生体の巧妙な対応。体内環境の調節(生体の化学成分はほぼ一定)、代謝、ホルモン(内分泌)。</p> <p>11回目 命の誕生(生殖と発生)と性の決まるしくみ(生殖器) [到達目標] 生殖と性、減数分裂と受精について説明できる。ヒトの体はどのようにしてつくられるのか、発生のしくみを説明できる。 [備考] 途切れの無い生命をつなぐ担い手、子孫を残す生殖細胞(精子、卵子、受精)減数分裂、染色体発生(受精卵の分化、胎児の発育・出生)。</p> <p>12回目 遺伝子の働き(1) [到達目標] 染色体と遺伝子について説明できる。 【実習と演習】 遺伝暗号を解読しよう①。 [備考] 生命の設計図、DNA、RNA、染色体、遺伝子、セントラルドグマ、転写、翻訳</p> <p>13回目 遺伝子の働き(2) [到達目標] 遺伝暗号とタンパク質ができる仕組みを説明できる。オペロンを説明できる。 【実習と演習】 遺伝暗号を解読をしよう②。自分のDNAを見てみよう! [備考] 生命の設計図であるDNAを簡単な実験で見てみよう!(DNAはどれだけ集めれば目で見えるのか?)</p> <p>14回目 遺伝の仕組み、突然変異と遺伝病 [到達目標] 遺伝、特にメンデル遺伝について説明できる。 [備考] メンデル遺伝、伴性遺伝、遺伝病など</p> <p>15回目 定期試験 各講義で行われた小テストをもとに定期テストを行う。(70%)</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	講義は、生物学の教科書や参考書、人体の構造と機能(入門編)を基にプリントを作成し、それらを用いて講義を進める。そのため講義までにその内容を精読すること(予習:30分-1時間)。講義後は必ずプリント内容の理解に努め、わからない場合は徹底的に調べ復習すること(復習:1時間)。また、毎回ではないが講義内容の小テストを数回行い、どの程度理解できているか確認する(講義後提出)。
教科書	特になし(講義時間ごとにプリントを配布)
参考書	<p>高校教科書『生物』(数研出版)1,287円など</p> <p>『生物用語集』吉田邦久 他共著(駿台文庫)1,250円+税</p> <p>『視覚でとらえる フォトサイエンス 生物図録』鈴木孝仁 監修(数研出版)1,130円+税</p> <p>『のほほん解剖生理学』玉先生 他(永岡書店)2016年、1,480円+税</p> <p>【もっと詳しく学びたい学生へ】</p> <p>『カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1~5巻』D・サダヴァ(著),石崎 泰樹他(翻訳)(ブルーバックス 講談社)各1,400円から1,600円+税</p> <p>『キャンベル 生物学』Neil A. Campbell、小林 興 監訳(丸善)15,000円+税</p>
成績評価	講義内容に関連したヒトのからだの簡単な構造やはたらき、生命を構成する物質、染色体と遺伝子、遺伝などの基本知識を筆記試験で把握し、その理解度を評価する。 評価割合:小テスト30%、試験70%
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 鳴瀬 善久</p> <p>研究室 : 8号館4階 教授室または3号館学修支援センター</p> <p>メールアドレス : ynaruse@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 水曜日放課後17:30-19:00</p>
備考	<p>備考:①実務経験の有無:実務経験あり。製薬会社、研究所、医科大学の解剖学教室に勤務していた。その実務経験をもとに生物について講義を行う。</p> <p>②この授業とディプロマポリシーとの関係:1. 知識・理解◎-1、 2. 思考・判断○-2</p>

講義科目名称： 物質の反応

授業コード：

英文科目名称： Chemical and material reactions (Basic Chemistry)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
千葉 章太			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	医療系学生に必要な化学の知識を習得することを目標とする。 到達目標： ・おもな元素記号、分子を覚える。 ・物質量の計算ができる。 ・溶液の濃度計算ができる。 ・化学反応式から反応物と生成物について定量的に説明できる。
授業計画	<p>第1回 元素記号・周期律・化学の基礎 到達目標：おもな元素記号を記述できる。</p> <p>第2回 原子の構造、電子配置と原子軌道 到達目標：陽子、中性子、電子を使って原子を説明できる。 s軌道とp軌道を使って電子配置を説明できる。</p> <p>第3回 価電子と共有結合 到達目標：分子軌道により共有結合を説明できる。</p> <p>第4回 炭素の化学 到達目標：ヘキサン、シクロヘキサン、ベンゼンの空間的構造の違いを説明できる。</p> <p>第5回 陽イオンと陰イオン 到達目標：主要な塩の組成式を作ることができる。</p> <p>第6回 分子の間に働く力 到達目標：化学結合の特徴を説明できる。</p> <p>第7回 分子量と物質量mol 到達目標：分子量と物質量を計算できる。</p> <p>第8回 質量、物質量、分子量 到達目標：理想気体の体積を物質量から計算できる。</p> <p>第9回 溶液と濃度・コロイド 到達目標：モル濃度を計算できる。</p> <p>第10回 化学反応 到達目標：主な化学反応を化学反応式で表せる。 化学反応式の係数を決定できる。</p> <p>第11回 酸・塩基、水素イオン濃度、酸化・還元 到達目標：酸・塩基、水素イオン濃度、酸化・還元反応の性質を説明できる。</p> <p>第12回 化学反応とエネルギー 到達目標：化学反応の進行をエネルギーの観点で説明できる。</p> <p>第13回 イオン化傾向・電池・電気分解 到達目標：イオン化傾向・電池・電気分解を説明できる。</p> <p>第14回 期末試験/無機・有機・高分子化合物 期末試験 到達目標：身近な化合物の性質を理解する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習(予習130分)し、講義で学修した内容をまとめてください(復習130分)
教科書	「化学の基礎—元素記号からおさらいする化学の基本—」 中川 徹夫著(化学同人) ISBN978-4-7598-1437-8
参考書	「よくわかる化学基礎+化学」 富田 功監修(Gakken) ISBN978-4-05-303852-4
成績評価	出席が6割に満たないものは期末試験の受験を認めない。 期末試験により成績を評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 千葉 章太 (ちば しょうた) 研究室 : 研究棟 5号館 2F メールアドレス : s_chiba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日、木曜日 12:40-13:30
備考	②「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-1

--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
河合 裕子			
添付ファイル			

授業目標	コンピュータおよび表計算ソフトウェアを用いて、実験データなど多くの情報を整理し解析する手法を身につけることを目的とする。また、デジタルデータを正確に取り扱い、実験データの記録と解析をコンピュータを用いて達成できることを到達目標とする。
授業計画	<p>第1回 ガイダンスおよび表計算ソフトを用いた基本練習 [到達目標] Google Classroomが利用できる オンラインストレージが利用できる 関数を使った計算を復習し、棒グラフを作成することができる キーボードショートカットを用いた操作を修得する [備考] 課題提出あり</p> <p>第2回 さまざまなグラフ①・散布図 [到達目標] 散布図を作成することができる 相関係数について説明できる 散布図や相関係数を使ってデータの特徴を表現できる [備考] 課題提出あり</p> <p>第3回 さまざまなグラフ②・度数分布 [到達目標] 度数の意味や使い方を理解する 絶対参照・相対参照について理解する 絶対参照・相対参照について、表計算ソフトにおける操作方法を修得する [備考] 課題提出あり</p> <p>第4回 さまざまなグラフ③・ヒストグラム [到達目標] ヒストグラムの示すデータの意味を理解する 関数を利用した場合分けを実施できる 結果を予測して利用する関数を工夫できる データを度数分布表およびヒストグラムとして表現することができる [備考] 課題提出あり</p> <p>第5回 関数の応用と図表の読み取り [到達目標] 資料等に示される図表を正しく読み取り解釈できる 実用的な関数を使い、データ処理の省力化を体験する 関数を正しく活用することができる [備考] 課題提出あり</p> <p>第6回 復習と演習 [到達目標] 学修した内容をもとに、独力でデータを統計的に解析できる PCおよびソフトウェア操作の基本的な操作をスムーズに行う事ができる 割合やデータの相関など、必要に応じたグラフを選択して作成することができる [備考] 課題提出あり</p> <p>第7回 実験ノートとデジタルデータの取り扱い・試験 [到達目標] 実験で得たデータの安全な取り扱い方と実験ノートの意義について理解する データ処理の必要性およびデータを活用するためのスキルについて考察する 適した解析方法を選択して提示された数値データを正確に処理し、グラフ等を用いて視覚的にレポートを作成できる</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：講義で利用するHPを参考にして、各講義で必要となる用語や操作手順をまとめておくこと（130分程度）。 ・復習：次回の講義開始時に実施する確認テストに解答できるようにしておくこと。特に講義内容および理解に時間を要した操作について復習を行い、躓きの解消とコンピュータスキルの獲得に努めること（130分程度）。 ・講義をやむを得ず欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認して演習問題に解答できるようにしておくこと。
教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。

成績評価	試験90%、課題10% 選択式および記述式の問題により、総合的にデータ処理能力の到達度を評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 〇河合 裕子 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:20-18:20</p> <p>担当教員名 : 梅田 雅宏 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンター メールアドレス : ume@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:20-18:20</p> <p>担当教員名 : 村瀬 智一 研究室 : 病院1階 メディカルMRセンター メールアドレス : murase@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日13:00-13:50</p>
備考	<p>講義の資料は学内ホームページを参照のこと。 https://sites.google.com/a/mst.meiji-u.ac.jp/medinfo02/data-analysis2020 課題の提出およびフィードバックにはGoogle Classroomを利用する。 https://classroom.google.com</p> <p>「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-3, ○-1</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
樋口 也寸志			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	英語の4技能（聞く・読み・話す・書く）を習得するには基本が大切である。この講義では、英語の4技能を習得するために中学・高校英語の基礎から復習する。受講生の理解度をチェックするために高校入試・大学入試の過去問を素材にした小テストを2回行う予定である。
授業計画	<p>第1講 文の作り方 be動詞・一般動詞 [到達目標] 中学英語の最初から復習する。講義の前半では文の作り方の解説をする。後半では前半の例文を素材にした口頭英作をする。口頭英作を通して英語をスラスラ話せるようになることを目指す。 [備考]</p> <p>第2講 文型 [到達目標] 英文の基本である文型を説明する。文型（SVOC）が理解できれば専門書もスラスラ読むことができる。前半では5文型の英作の練習、後半では口頭英作をする。 [備考]</p> <p>第3講 時制 [到達目標] 英文法の中で苦手意識のある単元の一つが時制である。この講義では、前半で中学英語の過去形・現在形・未来形の復習をする。後半では過去完了・現在完了・未来完了の復習をする。 [備考]</p> <p>第4講 助動詞 [到達目標] 助動詞は覚える量が多く、苦手な人が多いと言われている。前半では中学英語の助動詞を復習する。後半では高校の助動詞を説明する。高校英語で習う慣用表現は多いが、この講義では覚える慣用表現の量を最小限に抑える。 [備考]</p> <p>第5講 小テスト(1回目)と不定詞 [到達目標] 授業の前半で1回目（第1講から第4講まで）の小テストをする。小テスト終了後、中学英語の不定詞の復習をする。中学英語の復習を終えてから高校英語の不定詞を復習する。 [備考]</p> <p>第6講 動名詞 [到達目標] 前半で中学英語の動名詞の復習をする。後半で高校英語の動名詞を説明する。 [備考]</p> <p>第7講 受動態 [到達目標] 中学英語・高校英語の受動態を復習する。前半では受動態の基本的な文の作り方とby以外の受動態について説明する。後半では能動態を受動態に、受動態を能動態にそれぞれ書き換える練習をする。 [備考]</p> <p>第8講 分詞 [到達目標] 前半では現在分詞・過去分詞の説明から始める。後半では高校英語の分詞・分詞構文を説明する。この単元では、2語以上で修飾する場合、後ろから修飾することを意識することを目標とする。 [備考]</p> <p>第9講 関係詞 [到達目標] 前半では中学英語の関係代名詞の復習から始める。後半では高校英語の関係代名詞・関係副詞を説明する。 [備考]</p> <p>第10講 小テスト(2回目)と前置詞 [到達目標] 前半で2回目の小テスト(第5講から第9講まで)を行う。後半では前置詞について説明する。 [備考]</p> <p>第11講 仮定法 [到達目標] 高校英語の重要な単元である仮定法について説明する。後半では仮定法の慣用表現を取り上げる。 [備考]</p> <p>第12講 英文解釈 [到達目標] パラグラフリーディングを実践することで、英語の長文読解ができるようになることを目標とする。</p>

	<p>る。 [備考] 第13講 文法演習 [到達目標] 第1講文の作り方から第11講仮定法までの範囲から大学入試とTOEIC・GTECなどの民間試験の演習問題をする。 [備考] 第14講 まとめ (評価含む)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	予習することはありません。講義を終えたら必ず例文をスラスラ言えるようになるまで覚えてください。
教科書	なし。レジュメで指導します。
参考書	高校で使用していた教科書・参考書。
成績評価	小テスト30%、最終講義試験70%です。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 樋口 也寸志 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業後10分間
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5, ○-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
小島 奈名子			
添付ファイル			

授業目標	この科目においては、英単語の記憶、英文法の習得を中心に英語の基礎力を深め、表現力を磨いていくことが目的となります。将来、医療従事者として活動する際に必要な表現を念頭に置きながら、授業を展開していきます。		
授業計画	第1講	オリエンテーション [到達目標]この科目での学習内容、目標を理解する。 [備考]この科目を受講するにあたって、日常的にどのような準備や心がけを要するのか、説明します。	
	第2講	文・文型 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語と表現の説明を受けた後、ペーパーチェックを実施します。 [備考]授業に備えて重要単語を習得しておきましょう。	
	第3講	疑問詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語と表現の説明を受けた後、ペーパーチェックを実施します。 [備考]授業に備えて重要単語を習得しておきましょう。	
	第4講	形容詞・副詞・比較 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語と表現の説明を受けた後、ペーパーチェックを実施します。 [備考]授業に備えて重要単語を習得しておきましょう。	
	第5講	動詞・時制 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語と表現の説明を受けた後、ペーパーチェックを実施します。 [備考]授業に備えて重要単語を習得しておきましょう。	
	第6講	助動詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語と表現の説明を受けた後、ペーパーチェックを実施します。 [備考]授業に備えて重要単語を習得しておきましょう。	
	第7講	不定詞・動名詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語と表現の説明を受けた後、ペーパーチェックを実施します。 [備考]授業に備えて重要単語を習得しておきましょう。	
	第8講	法 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語と表現の説明を受けた後、ペーパーチェックを実施します。 [備考]授業に備えて重要単語を習得しておきましょう。	
	第9講	態 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語と表現の説明を受けた後、ペーパーチェックを実施します。 [備考]授業に備えて重要単語を習得しておきましょう。	
	第10講	関係詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語と表現の説明を受けた後、ペーパーチェックを実施します。 [備考]授業に備えて重要単語を習得しておきましょう。	
	第11講	前置詞 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語と表現の説明を受けた後、ペーパーチェックを実施します。 [備考]授業に備えて重要単語を習得しておきましょう。	
	第12講	話法 [到達目標]本講で扱われている重要単語と文法の内容を習得する。 [授業形態]単語と表現の説明を受けた後、ペーパーチェックを実施します。 [備考]授業に備えて重要単語を習得しておきましょう。	
	第13講	まとめ1 [到達目標]これまでの授業内容を理解することができる。 [備考]これまでの授業内容を振り返り、身につけたことを確認しましょう。	
	第14講	まとめ2（評価を含む） [到達目標]これまでの授業内容を理解することができる。 [備考]これまでの授業内容を振り返り、身につけたことを確認しましょう。	
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業では、英単語を多く習得できるように、毎回小テストを実施しますので、準備してください。また、ここでは医療英語をふまえた文法の学習を中心に行う予定です。本授業をきっかけに、将来医療現場で活用できる英語表現を一つでも多く習得することができるように、積極的に授業に参加してください。		

	TOIECやTOEFLなどの学外英語検定、国家試験等に対応した英語学習を希望する学生の割合に応じて、授業内容をフレキシブルに展開していく予定です。自らの将来的なビジョンを明確にするよう、心がけてください。
教科書	基本的にこちらでレジユメを作成しますが、英単語テキストとして以下を使用。 ターゲット編集部編『英単語ターゲット1900（大学JUKEN（新書））』（2000）旺文社。
参考書	授業ごとに必要があれば紹介します。
成績評価	授業への参加、提出物（小テストを含む）と、定期試験またはレポートの結果より総合的に評価します。授業参加・提出物30～50%、定期試験またはレポート50～70%を目安として考えています。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 小島 奈名子
備考	「この授業とディプロマポリシーとの関連」 : ◎-5、○-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
調整中			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>この科目では、医療・保健・看護にかかわる英語の基礎や基本を学習します。医療分野で頻繁に使用される基本的な語彙をできるだけ多く記憶することに努めましょう。覚えるためには、繰り返して発音したり書いたりする反復練習が大切です。また、できる限りみなさんに興味・関心をもって読んでもらえる医療に係るテキストを用意します。直読直解ができるようになること、すなわち日本語に直さないで英語の語順で理解ができるようになること、概要や要点をしっかりと把握しながら読み進むことなどを当面の目標にしましょう。さらに、医療現場で使用される英語の短文表現を反復練習して身に付けることにも努力しましょう。</p>
授業計画	<p>第1回 この科目のオリエンテーション 〔到達目標〕 この科目の目標、内容等が理解できる。 〔備考〕 この科目に係わる基本的な学習方法、また授業時間外における予習・復習の仕方等についても説明します。</p> <p>第2回 医療分野の読み物（1） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（1） 医療分野の短文表現（1）</p> <p>第3回 医療分野の読み物（2） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（2） 医療分野の短文表現（2）</p> <p>第4回 医療分野の読み物（3） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（3） 医療分野の短文表現（3）</p> <p>第5回 医療分野の読み物（4） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（4） 医療分野の短文表現（4）</p> <p>第6回 医療分野の読み物（5） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（5） 医療分野の短文表現（5）</p> <p>第7回 医療分野の読み物（6） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（6） 医療分野の短文表現（6）</p> <p>第8回 医療分野の読み物（7） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（7） 医療分野の短文表現（7）</p> <p>第9回 医療分野の読み物（8） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（8） 医療分野の短文表現（8）</p> <p>第10回 医療分野の読み物（9） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（9） 医療分野の短文表現（9）</p> <p>第11回 医療分野の読み物（10） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（10） 医療分野の短文表現（10）</p>

	<p>第12回 医療分野の読み物 (11) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙 (11) 医療分野の短文表現 (11)</p> <p>第13回 医療分野の読み物 (12) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙 (12) 医療分野の短文表現 (12)</p> <p>第14回 総復習 (1) 〔到達目標〕 これまで扱ってきた教材の主なものについて、十分意味内容が理解できる。 〔備考〕 大切な文は正しく音読ができる、さらに暗誦することができることも目指しましょう。</p> <p>第15回 総復習 (2) 〔到達目標〕 これまで扱ってきた教材の主なものについて、十分意味内容が理解できる。 〔備考〕 大切な文は正しく音読ができる、さらに暗誦することができることも目指しましょう。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<p>英語力の向上を目指して、授業時間外に少しでも多く予習と復習の時間を確保してください。以下は、授業時間外の学習についての留意事項です。</p> <p>1) 英語に触れる機会を少しでも多くしてください。たとえ10分でも20分でも集中すればそれだけの効果があります。</p> <p>2) 英語の学習の基本は、理解することと練習することです。この両方に半分ずつのエネルギーを使ってください。内容理解と反復練習のサイクルを積み重ねることにより、英語力は着実に向上していきます。</p> <p>3) 与えられた英文の意味を、語彙力と構文力を使って正確に理解することがまず第一歩です。辞書を活用しながら、推測力を働かせてわからない個所の意味を把握しようとしてください。</p> <p>4) 意味が理解できたら、その次は反復練習です。繰り返して音読、音読+筆写することによって、その英文をできるだけしっかりと身につけよう、覚えてしまおうとする努力が大切です。</p> <p>5) 英語の学習もまずは自分から主体的に取り組む姿勢が肝心です。授業を刺激剤として意欲を活性化し、自らの力で問題解決を試み、能力・技能を身につけていこうとする積極性が大切です。</p>
教科書	特に指定しない。(毎時間プリントを配布します)
参考書	英和辞典は授業時に必携です。
成績評価	授業参加への積極性、授業での発言・発表、提出物、そして定期試験の結果などにより総合的に評価します。とりわけ授業参加への積極性は、重要な評価の対象です。評価の内訳は目安として、授業参加 20～30%、発言・発表と提出物 10～20%、定期試験 50～70% を考えています。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 岡田 成替 研究室 : 8号館4階教授室 メールアドレス : s_okada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業後10分間</p>
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5, ○-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
小島 奈名子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	この科目は、医療・保健・看護にかかわる英語の基礎力を充実・発展させることを目指します。医療分野で頻繁に使用される語彙をできるだけ多く記憶することに努めましょう。覚えるためには、繰り返して発音したり書いたりする反復練習が大切です。また、できる限りみなさんに興味・関心をもって読んでもらえる医療に係るテキストを用意します。直読直解ができるようになること、すなわち日本語に直さないで英語の語順で理解ができるようになること、概要や要点をしっかりと把握しながら読み進むことなどを当面の目標といたしましょう。さらに、医療現場で使用される英語の短文表現を反復練習して身に付けることにも努力しましょう。
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション 〔到達目標〕 この科目の目標、内容等が理解できる。 〔備考〕 この科目に係わる基本的な学習方法、また授業時間外における予習・復習の仕方等についても説明します。</p> <p>第2講 医療分野の読み物（1） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔授業形態〕 ペアワークやグループワークで練習を行ったあと英語でプレゼンテーションをする機会を持ちます。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（1） 医療分野の短文表現（1）</p> <p>第3講 医療分野の読み物（2） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔授業形態〕 ペアワークやグループワークで練習を行ったあと英語でプレゼンテーションをする機会を持ちます。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（2） 医療分野の短文表現（2）</p> <p>第4講 医療分野の読み物（3） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔授業形態〕 ペアワークやグループワークで練習を行ったあと英語でプレゼンテーションをする機会を持ちます。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（3） 医療分野の短文表現（3）</p> <p>第5講 医療分野の読み物（4） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔授業形態〕 ペアワークやグループワークで練習を行ったあと英語でプレゼンテーションをする機会を持ちます。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（4） 医療分野の短文表現（4）</p> <p>第6講 医療分野の読み物（5） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔授業形態〕 ペアワークやグループワークで練習を行ったあと英語でプレゼンテーションをする機会を持ちます。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（5） 医療分野の短文表現（5）</p> <p>第7講 医療分野の読み物（6） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔授業形態〕 ペアワークやグループワークで練習を行ったあと英語でプレゼンテーションをする機会を持ちます。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙（6） 医療分野の短文表現（6）</p> <p>第8講 医療分野の読み物（7） 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔授業形態〕</p>

	<p>ペアーワークやグループワークで練習を行ったあと英語でプレゼンテーションをする機会を持ちます。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙 (7) 医療分野の短文表現 (7) 医療分野の読み物 (8) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔授業形態〕 ペアーワークやグループワークで練習を行ったあと英語でプレゼンテーションをする機会を持ちます。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙 (8) 医療分野の短文表現 (8) 医療分野の読み物 (9) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔授業形態〕 ペアーワークやグループワークで練習を行ったあと英語でプレゼンテーションをする機会を持ちます。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙 (9) 医療分野の短文表現 (9) 医療分野の読み物 (10) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔授業形態〕 ペアーワークやグループワークで練習を行ったあと英語でプレゼンテーションをする機会を持ちます。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙 (10) 医療分野の短文表現 (10) 医療分野の読み物 (11) 〔到達目標〕 本文の内容が理解できる。また構文や意味に注意しながら正しく音読することができる。 〔授業形態〕 ペアーワークやグループワークで練習を行ったあと英語でプレゼンテーションをする機会を持ちます。 〔備考〕 次の教材も扱います。医療分野の語彙 (11) 医療分野の短文表現 (11) 総復習 (1) 〔到達目標〕 これまで扱ってきた教材の主なものについて、十分意味内容が理解できる。 〔備考〕 大切な文は正しく音読ができる、さらに暗誦することができることも目指しましょう。 第14講 総復習 (2)&まとめ (評価含む) 〔到達目標〕 これまで扱ってきた教材の主なものについて、十分意味内容が理解できる。 〔備考〕 大切な文は正しく音読ができる、さらに暗誦することができることも目指しましょう。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<p>英語力の向上を目指して、授業時間外に少しでも多く予習と復習の時間を確保してください。以下は、授業時間外の学習についての留意事項です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 英語に触れる機会を少しでも多くしてください。たとえ10分でも20分でも集中すればそれだけの効果があります。 2) 英語の学習の基本は、理解することと練習することです。この両方に半分ずつのエネルギーを使ってください。内容理解と反復練習のサイクルを積み重ねることにより、英語力は着実に向上していきます。 3) 与えられた英文の意味を、語彙力と構文力を使って正確に理解することがまず第一歩です。辞書を活用しながら、推測力を働かせてわからない個所の意味を把握しようとしてください。 4) 意味が理解できたら、その次は反復練習です。繰り返して音読、音読+筆写することによって、その英文をできるだけしっかりと身につけよう、覚えてしまおうとする努力が大切です。 5) 英語の学習もまずは自分から主体的に取り組む姿勢が肝心です。授業を刺激剤として意欲を活性化し、自らの力で問題解決を試み、能力・技能を身につけていこうとする積極性が大切です。
教科書	特に指定しない。(毎時間プリントを配布します)
参考書	特に指定しません。
成績評価	授業参加への積極性、授業での発言・発表、提出物、そして定期試験の結果などにより総合的に評価します。とりわけ授業参加への積極性は、重要な評価の対象です。評価の内訳は目安として、授業参加 20～30%、発言・発表と提出物 10～20%、定期試験 50～70% を考えています。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 岡田 成賛 研究室 : 8号館4階教授室 メールアドレス : s_okada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業後10分間</p>
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-4, ○-5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
コルネリス・ヴァンスタデン			
配当学科：看護	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>The main focus of this course is to introduce useful expressions so students can communicate in different situations, both medical and in daily life. Students will get opportunities to speak and practice the target language in every lesson. 70% to 80% of each class will cover a particular language function. The other 20% to 30% of each lesson will focus on physiology and medical related words, phrases and expressions.</p> <p>このコースでは、医療現場や日常生活における様々なシチュエーションで役立つ英語表現を学ぶ。また、毎回授業でその日扱うターゲット表現を実際に声に出して練習する。各授業の7～8割は特定のトピックを扱い、残りの2～3割は医療・生理学に関連する単語・フレーズ・表現を扱う。</p>			
授業計画	第1講	<p>Introductions and Small Talk - casual and professional 自己紹介とスモールトーク (カジュアル用とフォーマル用)</p> <p>[到達目標] Formal (medical personnel and patient) and informal expressions for self-introduction and expressions used during small talk. フォーマル (医療従事者と患者間の会話) 及びインフォーマル (自己紹介の表現) と、スモールトークで使われる表現について学ぶ。</p> <p>[備考]Some time will be spent giving a course introduction and overview. コースの紹介・概要説明も行う。</p>		
	第2講	<p>Expressing Preferences / Patient profile 好き嫌いの表現/患者のプロフィール</p> <p>[到達目標] Talking about one's likes and dislikes and the degree to which one likes or dislikes something. 好き嫌いや、その度合いについて話す。</p> <p>This lesson will also cover questions that medical personnel can ask patients to create a patient profile. また、医療従事者が患者のプロフィール作成時に患者に尋ねる表現についても学ぶ。</p>		
	第3講	<p>Responding / Medical History 返答表現/病歴</p> <p>[到達目標] Responding to a variety of different statements. 多様な意見に返答する。</p> <p>This lesson will also cover questions that medical personnel can ask patients regarding their medical history. また、医療従事者が患者に病歴を尋ねる表現についても学ぶ。</p>		
	第4講	<p>Directions [VERBAL TEST 1] 道案内[口頭テスト1]</p> <p>[到達目標] Students will learn and practice how to ask for and give directions. This will be followed by a verbal test. 道を尋ねたり、道案内をする表現を学び、練習する。その後、口頭テストを行う。</p>		
	第5講	<p>Speculating / Hospital Departments 推測表現/病院診療科</p> <p>[到達目標] Expressing different degrees of certainty. This lesson also covers vocabulary for describing different departments in hospitals. 確信の度合いを表現する。また、病院診療科の名称や語彙についても学ぶ。</p> <p>[備考] Students will all comment on a variety of different videos and questions using the target language. ターゲット表現を用いて、様々なビデオや質問に対して意見を述べる。</p>		
	第6講	<p>Giving Instructions / Giving patients instructions 指示表現/患者への指示表現</p> <p>[到達目標] Giving step-by-step instruction on how to do different things ranging from making tea to first aid. This lesson will also cover giving patients instructions in a medical setting.</p> <p>お茶の入れ方から救急まで、様々な場面における動作一つ一つの指示を行う。 また、医療現場における患者への指示表現についても学ぶ。</p>		
	第7講	<p>Comparing & Contrasting / Parts of the body 比較と対照/体の部位</p> <p>[到達目標] Students will practice comparing and contrasting different items. This lesson will also cover vocabulary regarding body parts.</p>		

	オフィスアワー : 随時
備考	Due to the Corona virus, this syllabus might be subject to change. 新型コロナウイルスの影響による、シラバス内容変更の可能性あり。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5, ○-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
矢放 昭文			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	初級中国語を学ぶことが授業目標である。学習方法は；①シャドーイングの反復を通じて、リスニングと発音、意味の把握、文法的仕組みの理解を同時並行的に習得する。②グループ（ペア）ワーク（2人または4人）を通じて、入力（耳：input）・出力（口：output）と書写（書き取り）練習を繰り返し、定着度をお互いに確認しつつ初級中国語の運用力を身につける。学習進度と習得度を踏まえつつ、看護・救急・救命・鍼灸などの現場で使われる漢語語彙の読み方を中国語、英語と対照しつつ材料に採り入れ、中国語音の知識をゆたかにすることも目標の一つとする。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション</p> <p>① 中国語とはどのような言語か、「中国語音節表」（p.74-75）も併せてその概略を学ぶ。 ② 教科書に基づき、授業の進め方を説明し、確認する。 ③ 次回授業の準備：p.11-16を予習する。 ④ 補助教材として、プリントを配布することがある。また参考書は必要に応じて授業中に紹介する。</p> <p>2回目 第1課 自己紹介</p> <p>① 発音：単母音・声調・軽声・子音を学習する。 ② ペアワークを通じて挨拶・自己紹介ができるようにする。 ③ 次回授業の準備：p.17-18「ドリル」を完成し、p.19-22を予習する。</p> <p>3回目 第2課 どうなさいましたか</p> <p>① 前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合を確認・補正する。 ② 発音：複母音・声調表記と「新出語句」（p.20）の発音練習・書取を行う。 ③ 「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn・答dá」できるようにする。 ④ 次回授業の準備：p.23-24「ドリル」を完成し、p.25-28を予習する。</p> <p>4回目 第3課 この薬はどう飲みますか</p> <p>① 前回ドリルの答え合わせを行い、確認・補正する。 ② 発音：鼻母音と「新出語句」（p.26）の発音・書取を行う。 ③ 「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn・答dá」できるようにする。</p> <p>5回目 第3課 この薬はどう飲みますか</p> <p>① 「会話」の復習。ペアワークで薬の飲み方を説明できるように練習し・定着を目指す。 ② 次回授業の準備：p.29-30「ドリル」を完成し、p.31-35を予習する。</p> <p>6回目 第4課 病室はどこですか</p> <p>① 前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合を確認・補正する。 ② 発音：「声調の変調」「アール化音」「新出語句」（p.33）の練習・書取を行う。 ③ 「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn・答dá」できるようにする。</p> <p>7回目 第4課 病室はどこですか</p> <p>① 「会話」の復習。ペアワークで場所を訊ねたり、教えたりできるように練習し・定着を目指す。 ② 次回授業の準備：p.36-37「ドリル」を完成し、p.38-41を予習する。</p> <p>8回目 第5課 具合はいかがですか</p> <p>① 前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合を確認・補正する。 ② 発音：「新出語句（p.38）」「補足語句（p.40）」と「表現」の練習・書取を行う。 ③ 「会話」を練習し、ペアワークで相互に「問wèn・答dá」できるようにする。</p> <p>9回目 第5課 具合はいかがですか</p> <p>① 「会話」の復習。ペアワークで「具合はいかがですか」と「問wèn・答dá」できるようにする。 ② 次回授業の準備：p.42-43「ドリル」を完成し、p.44-46を予習する。</p> <p>10回目 第6課 心配ありません</p> <p>① 前回ドリルの答え合わせを行い、習得度合を確認・補正する。 ② 発音：「新出語句（p.44）」「補足語句（p.46）」と「表現」の練習・書取を行う。 ③ 「会話」を練習し、ペアワークで相互に病気の現状を説明できるようにする。</p> <p>11回目 第6課 心配ありません</p> <p>① 「会話」の復習。ペアワークで、病気の現状説明と患者を落ち着かせる会話、の練習をする。 ② 次回の授業：p.47-48「ドリル」を完成し、p.49-51を予習する。</p> <p>12回目 第7課 退院おめでとう</p> <p>① 前回のドリルの答え合わせを行い、習得度合を確認、補正する。 ② 発音：「新出語句（p.50）」「補足語句（p.51）」と「表現」の練習・書取を行う。 ③ 「会話」を練習し、ペアワークで「退院おめでとう」や注意事項などを言えるようにする。</p> <p>13回目 第7課 退院おめでとう</p> <p>① 「会話」の復習。ペアワークで「退院おめでとう」や注意事項などを相互に言えるようにする。 ② 次回授業の準備：p.52-53のドリルを完成する。 ③ 「チャレンジ（p.54）」をグループワークで行う。</p> <p>14回目 まとめ（評価含む）</p>

	① 前回ドリルの答え合わせを行う。 ② 第1課～第7課のまとめ (p.55-60) を行う。 ③ 評価と今後の学習のための助言。
授業時間外の学習 (準備学習等) について	① 予習 (音声ファイルをダウンロードし、繰り返し聞くこと。特にイントネーション (声調) に注意して聞くと効果がある) と復習 (音読・書写) を習慣として行うこと。 ② 「ドリル」を完成すること。 ③ ペンイン、単語、例文などを音読しながら書写すると定着度は高い。
教科書	『協同学習で学ぶ医療系中国語会話』李偉・管虹共著、白帝社 (定価: 2100 円+税)
参考書	授業中に紹介する。
成績評価	平常点 (50%) と期末試験 (50%) の成績を総合して評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 矢放 昭文 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」: ◎-5, ○-4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
荻野 豊			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	フランス語の基本的な文法を学び、フランス語の語彙の拡大に努めるとともに、旅行などに必要な日常会話を練習する。また、フランスの歴史・文化に触れ国際的な視野をもった人格の形成をめざす。		
授業計画	第1講	冠詞と名詞 【到達目標】 (文法) 冠詞の役割と種類を理解する (会話) あいさつをする (トピック) シャンゼリゼ	
	第2講	形容詞 【到達目標】 (文法) 形容詞と名詞の結びつきを理解する (会話) お礼をする	
	第3講	人称代名詞 【到達目標】 (文法) 人称代名詞の種類を理解する (会話) お詫びをする (トピック) モンマルトル	
	第4講	所有形容詞 【到達目標】 (文法) 所有形容詞の種類を理解する (会話) 返事をする	
	第5講	直接目的語・間接目的語 【到達目標】 (文法) 直接目的語・間接目的語の違いを理解する (会話) 気持ちを表す (トピック) ムーランルージュ	
	第6講	動詞(1) 「～する」 【到達目標】 (文法) 動詞の活用を理解する (小テスト) 第1講から第5講までの内容の理解度を確認する	
	第7講	動詞(2) 「～である」「～を持つ」 【到達目標】 (文法) 動詞の活用を理解する (会話) 自分のことを伝える	
	第8講	否定文 【到達目標】 (文法) 否定文のつくり方を理解する (会話) たずねる (トピック) シテ・ユニヴェルシテール	
	第9講	疑問文 【到達目標】 (文法) 疑問文のつくり方を理解する (会話) 時間をきく	
	第10講	疑問詞 【到達目標】 (文法) 疑問詞の種類・用法を理解する (会話) いくらかをきく (トピック) クロワッサン	
	第11講	過去 【到達目標】 (文法) 過去の表現を理解する (小テスト) 第6講から第10講までの内容の理解度を確認する	
	第12講	単純未来 【到達目標】 (文法) 単純未来の表現を理解する (会話) 予定を伝える	
	第13講	受動態 【到達目標】 (文法) 受動態のつくり方を理解する (会話) 希望を伝える (トピック) ポルト・ディタリ	
	第14講	代名動詞 【到達目標】 (文法) 代名動詞の意味と用法を理解する (まとめ) 第1講から第14講までの要点をまとめる	
授業時間外の学習 (準備学習等) について	繰り返しテキストを音読し、暗唱する。また授業内容を確認するために課題を課す。課題は授業の進行をふまえてその都度指示する。これらの成果を確認するため小テストを行う。 教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習30分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習30分)。		
教科書	なし		
参考書	なし		
成績評価	出席回数・小テスト・期末テストなどから総合的に評価する。		

担当教員の基本情報	担当教員名 : 荻野 豊 研究室 : 非常勤講師控室 メールアドレス : og-yutaka@hotmail.co.jp オフィスアワー : 授業の前後
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5, ○-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
梅田 雅宏			
添付ファイル			

授業目標	<p>コンピュータとインターネットを便利に使い、文書作成、プレゼンテーションソフト、表計算ソフトを利用した様々な書類の作成とデータ整理のスキル獲得を目標とします。また、コンピュータとインターネットに絡んだ犯罪から身を守る知識の修得し、具体的に対処する方法について学びます。4年間の大学生活を送るにあたり必要なコンピュータスキル(特にExcel)と犯罪に巻き込まれないための知識を修得し、実践できることを到達目標としています。</p> <p>ガイダンスには「必ず」出席して下さい。本学のコンピュータシステムおよびメール等、学生生活に必要な事項について説明します。</p>		
授業計画	第1講	ガイダンス、PCとメール、melly等の利用法 [到達目標] 本学のコンピュータ利用方法を理解する コンピュータからメールが送受信できる 学修支援システムとmellyを利用できる 大学内で印刷を行う具体的な方法を理解する [備考] 入学時ガイダンスでの配布物(パスワードが記載された用紙)を必ず持参すること	第2講
	第2講	基本操作の修得①：Word [到達目標] ワープロが使い、文書のレイアウトを整えることができる 電子レポートを提出できる 電子書類をコンピュータ上で適切に保存できる タッチタイピングの修得方法がわかる MacでのUSBフラッシュメモリ利用に対する注意点を理解する [備考] 小テストあり 課題提出あり NOA出版の教科書を持参すること 必要に応じてUSBメモリーを持参すること(任意)	第3講
	第3講	基本操作の修得②：PowerPoint [到達目標] プレゼンテーションソフトが使い、必要に応じてレイアウトを整えることができる 電子書類を提出できる 電子書類をコンピュータ上で適切に保存できる [備考] 小テストあり 課題提出あり NOA出版の教科書を持参すること	第4講
	第4講	基本操作の修得③：Excel [到達目標] 表計算ソフトが使い、必要に応じてレイアウトを整えることができる 表計算ソフトを操作し、四則演算ができる 電子書類を提出できる 電子書類をコンピュータ上で適切に保存できる [備考] 小テストあり 課題提出あり NOA出版の教科書を持参すること	第5講
	第5講	情報倫理とネットセキュリティ [到達目標] IT情報リテラシーおよび情報倫理として適切な事柄を示すことができる ネットのビジネスなマナー、アカウントとパスワードの意味、悪意のあるプログラムとその対策について学修する [備考] 講義時間の前半で情報倫理に関するwebテストを実施 課題提出あり	第6講
	第6講	有線型のイヤホン(orヘッドホン)を持参すること ループリックに沿った文章表現の実践 [到達目標] Wordを利用し、自力でレポート課題に取り組むことができる 指定された条件をレポートに適用できる [備考] 課題提出あり	第7講
	第7講	デジタル環境を利用したレポート相互評価の実践 [到達目標] 客観的視点をもって他者の文章を精査することができる	

	<p>デジタル環境を利用した評価の利点と欠点について考察する [備考] 課題提出あり</p> <p>第8講 ルーブリックに沿ったプレゼンテーションの実践 [到達目標] PowerPointを利用し、自力でプレゼン資料を作成できる 指定された条件を適用できる [備考] 課題提出あり</p> <p>第9講 デジタル環境を利用したプレゼン資料相互評価の実践 [到達目標] 客観的視点をもって他者の資料を精査することができる 評価ポイントを文章で表現できる デジタル環境を利用した評価の集約と共有の方法について考察する [備考] 課題提出あり</p> <p>第10講 表計算①：関数の使い方と表計算ソフトの便利な機能 [到達目標] 表計算ソフトで棒グラフが作成できる 表計算ソフトで良く使う関数を使うことができる キーボードショートカットを活用できる [備考] 小テストあり 提出課題あり</p> <p>第11講 表計算②：さまざまなグラフと表・数値の読み方 [到達目標] グラフの特徴を理解し、活用することができる 種々のグラフ、表、数値を読み解くことができる データに対して適切なグラフを作成することができる [備考] 小テストあり 提出課題あり</p> <p>第12講 表計算③：さまざまな関数の利用 [到達目標] 引数の概念を理解する “条件分け”の関数を適用することができる “抽出”の関数を適用することができる [備考] 小テストあり 提出課題あり</p> <p>第13講 表計算④：復習と演習 [到達目標] 表計算ソフトを利用し学修した内容を独力で実践できる [備考] 小テストあり 提出課題あり</p> <p>第14講 表計算⑤：表計算を用いたデータ整理と表示法のテストおよび解説 [到達目標] 表計算ソフトを独力で使いこなすことができる [備考] 表計算ソフトを用いたテストを実施する</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)に ついて	各講義で必要となる用語や操作手順を事前に調べ、まとめておいて下さい(35分程度)。 適宜、復習を行い、コンピュータスキル獲得に努めて下さい(35分程度)。 第2講～第4講では情報倫理に関する小テストを実施しますので、「情報倫理ハンドブック」を事前に熟読し、理解を深めて下さい。 第11講～第13講では前回の講義で実施した内容に関する小テストを実施します。小テストに解答できるように十分な復習を行って下さい。
教科書	「情報倫理ハンドブック」(NOA出版)
参考書	特に指定しない。
成績評価	評価割合は授業内課題30%、小テスト10%、情報倫理に関するwebテスト10%、表計算テスト50%とします。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 〇梅田 雅宏 研究室 : 病院1階 メディカルMR センター メールアドレス : ume@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:20-18:20 担当教員名 : 河合 裕子 研究室 : 病院1階 メディカルMR センター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:20-18:20 担当教員名 : 村瀬 智一 研究室 : 病院1階 メディカルMR センター メールアドレス : murase@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日13:00-13:50
備考	学内専用ホームページ http://mmh1.meiji-u.ac.jp/moodle 「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」: ◎-1, ○-3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
佐別当 義博			
添付ファイル			

授業目標	倫理学の普遍的課題を前提にしながら、生命倫理学成立の歴史的背景、生命倫理学の学問的性格と今日的課題について、概略的に理解する。重要なことは、この理解をもとに、各自が「人間的な生誕はどうあるべきか」「人間的な死はどうあるべきか」すなわち「人間的な生はどうあるべきか」といった問題を医療・看護の具体的な状況と関係づけて、考えることである。この思考がどの程度達成されているかを確認する為に授業内レポートを実施する。このレポートは、採点し必要に応じてコメントを記し返却するので、受講生は再度しっかり考える機会になる。生命を扱う職業人として倫理的思考を展開できる素養と姿勢を身に付けてほしい。
授業計画	<p>第1講 ガイダンスならびに生命倫理の課題と特殊性 [到達目標] 医療関連の倫理綱要を知り、倫理学を学ぶ意義を理解する。</p> <p>第2講 [備考] 各自志望する業界にどのような倫理綱要があるか調べておく。 生命倫理の歴史 [到達目標] 生命倫理の歴史を社会問題との関連で理解し、生命倫理の必要性を説明できる。</p> <p>第3講 [備考] ヒポクラテスの誓い、ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言を一読しておく。 生命倫理の原則 1 [到達目標] SOLとQOLの2原則を理解し、具体的な問題に適用できるようになる。</p> <p>第4講 [備考] 医療関係者と患者との関係についてどうあるべきか考えておく。 生命倫理の原則 2 [到達目標] 自己決定とパターンリズムを理解し、具体的な問題に適用できるようになる。</p> <p>第5講 [備考] 保護者（救援者）と被保護者（被救援者）との関係についてどうあるべきか考えておく。 生殖補助医療 [到達目標] 生殖補助医療に関し自分なりの是非論を展開できるようになる。</p> <p>第6講 [備考] 生殖補助医療の問題点について調べておく。 脳死と臓器移植 [到達目標] 脳死・臓器移植に関し自分なりの是非論を展開できるようになる。</p> <p>第7講 [備考] 脳死判定の問題点について調べておく。 尊厳死と安楽死 [到達目標] 尊厳死・安楽死について自分なりの是非論を展開できるようになる。 [備考] 尊厳死・安楽死が事件化した事例について調べておく。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	1. 講義資料等を参考に、授業計画に記載した課題についてメモを作っておくこと（予習130分）。 2. 授業時に取ったノートもとにテーマに即した内容を文章化しておくこと（復習130分）。 後述する授業内レポートを作成する際に必要となるので励行してください。
教科書	使用しない。
参考書	『医療倫理 1』 グレゴリー・E・ペンス著 みすず書房出版 2000年 5,500円 『医療倫理 2』 グレゴリー・E・ペンス著 みすず書房出版 2001年 5,500円
成績評価	①評価方法 2回の授業内レポートで評価する。第4講と第6講に実施する。 レポート作成時には自作ノート持ち込み可。採点の結果基準を満たさない場合には再レポートを課す。 ②評価基準 倫理学の課題として展開されているかどうか 40% 論理的に展開されているかどうか 30% 自分なりの問題意識が明確化どうか 30% ③留意事項 私語は厳禁。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 佐別当 義博（非常勤講師） 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : y-sabetto@outlook.jp オフィスアワー : 授業終了後
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-1, ○-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
北小路 博司			
添付ファイル			

授業目標	<p>本科目の目標は、医学・医療及び社会とのかかわりについて、考え、理解するための基礎知識を習得し、医療人としての資質を身につけることであり、そのために医学、医療に関連する基本用語を理解し、また医学・医療の現状および問題点などについて幅広く学習する。</p> <p>具体的には、医療の歴史、健康の概念、医の倫理、医療の質と安全性、医療事故と医療者の責任、QOLとヘルスプロモーション、医療と経済、EBMと補完代替医療などについて理解を深める。上記を踏まえ、生命倫理、医療倫理の諸問題について考える基礎力を身につけることを目的とする。</p>
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン～医療の歴史 INTRODUCTIONとして医療概論で学ぶことの概要と意義を説明する。その後医療の歴史についてテキストに基づいて説明しスライドを用いて補足する。</p> <p>第2回 医療と健康の概念 医療および健康の概念について説明する。特にWHOによる健康の定義について重点的に解説し、理解させる。</p> <p>第3回 医の倫理とバイオエシックス 医療従事者の倫理観について概説する。また医療技術や遺伝子工学の進歩とともにクローズアップされたバイオエシックスについても解説する。配布テキストによる説明とスライドによる補足説明。</p> <p>第4回 医療の質と安全性 医療の質の現状や評価について解説する。また医療事故の概要と防止策についても説明する。配布テキストとスライドにより補足説明する。医療者の責任と医療訴訟について、概要を説明し、実例やデータをもとに解説する。配布資料とスライドによる補足説明を行う。</p> <p>第5回 QOLとヘルスプロモーション 健康の概念について再確認するとともに、生活の質（QOL）の考え方について解説する。配布資料とスライドによる補足説明を行う。</p> <p>第6回 医療と経済 医療費と医療保険制度の概要について概説する。配布資料とスライドによる補足説明を行う。EBM(エビデンスに基づく医療)と補完代替医療(CAM)について概説する。配布資料とスライドを利用する。</p> <p>第7回 EBMとCAM 筆記試験を行う（試験会場については別途伝える）。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>初回講義で配布される資料を中心に復習してください。</p> <p>配布資料・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習90分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習90分)。</p>
教科書	なし(プリントを配布します)
参考書	「医療概論」 東洋療法学校協会編 医歯薬出版社
成績評価	出席日数は、3/5以上を受験資格とし、筆記試験結果が60点以下の者は、追・再試験を実施する。
担当教員の基本情報	<p>担当者 : 北小路博司 研究室 : 非常勤講師室 メールアドレス : hkitakoji@gmail.com オフィスアワー : 講義終了後</p>
備考	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-2</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
榎原 智美			
添付ファイル			

授業目標	<p>看護の対象となる人間は、どのようなからだのしくみをもって生きているのだろうか。その正常な基本を学び、病的状態を理解するための基礎知識を修得する。からだのしくみは、構造（かたち）と機能（はたらき）に分けて考えられる。解剖学では、主に構造に重点をおいて学ぶが、機能に重点をおいて学ぶ生理学と渾然一体となっている。</p> <p>人体のなりたちの概要をつかみ、主要な機能ごとに分けられるグループ（器官系）にわけて学習を進める。解剖学 I では、動く（運動器系）、食べる（消化器系）、息をする（呼吸器系）を中心に、それらの働きを支える血液循環（循環器系）について学習する。解剖学 II ではさらに、排泄（排尿・排便）する（泌尿器系・消化器系）、子どもを生む（生殖器系）、感じる（感覚器系）を加え、これらを調節・維持する機構（循環器系（再）・内分泌系・神経系）を学習する。</p>
授業計画	<p>1回目 からだのなりたち 解剖学総論 1. 細胞はそこで生きている 【到達目標】《教科書 第1章（特に27-30, 55-58）》 人体のなりたちを、複数の視点から概説できる。 細胞が”生きる”とは（細胞活動）、”そこ”とは（各組織）について概説できる。 細胞活動の中心に、たんぱく質合成があることを知る。</p> <p>2回目 からだのなりたち 解剖学総論 2 組織 【到達目標】《教科書 第1章（特に46-55）》 人体は、細胞と細胞以外（細胞間質）でできていると知る。 人体を構成する全4組織について、それぞれ区別できる。</p> <p>3回目 支える・動く 運動器系 1（ 総論、 体幹 ） 【到達目標】《教科書 第7章（特に表7-1、図7-1, 2）》 骨格の概要（体幹・上肢・下肢）を説明できる。 ほぼ全ての骨名を、自分の身体に指し示しながら列挙できる。 主要な関節名を、自分の身体に指し示しながら列挙できる。 頭蓋骨、脊柱、胸郭、骨盤 の構成要素を説明できる。</p> <p>4回目 支える・動く 運動器系 2（ 上肢 ） 【到達目標】《教科書 第7章（特に図7-30, 32, 33）》 上肢の主要な関節（胸鎖関節・肩関節・肘関節・橈骨手根関節）を示せる。 上肢の各関節の主要な運動を引き起こす筋を示せる。</p> <p>5回目 支える・動く 運動器系 3（ 下肢 ） 【到達目標】《教科書 第7章（特に図7-43, 44, 45）》 下肢の主要な関節（仙腸関節・股関節・膝関節・距腿関節）を示せる。 下肢の各関節の主要な運動を引き起こす筋を示せる。</p> <p>6回目 支える・かむ・息をする・血液をつくる 運動器系 4（ 体幹 ） 【到達目標】《教科書 第7章（特に図7-43, 44, 45）》 呼吸筋（息をする運動）を示せる。 咀嚼筋（噛む）、頰の筋・脊柱起立筋・腹筋（体幹を支える）を示せる。 造血組織である赤色骨髄はどこにあるかを示せる（図3-36, 7-3）。</p> <p>7回目 血液をめぐるさせる 循環・呼吸器系 1（ 総論 ） 【到達目標】《教科書 第4章（特に168-177）》 心臓・血管（動脈・静脈・毛細血管）を完璧に区別できる。 心臓の基本構造を図示できる。 心臓の弁について説明できる。</p> <p>中間試験を実施する。（試験範囲：第1～7回目内容） 試験日は別途知らせる。</p> <p>8回目 血液をめぐるさせる・息をする 循環・呼吸器系 2（ 肺循環 ） 【到達目標】《教科書 第3・4章（特に108-120）》 体循環と肺循環を区別できる。 肺循環と肺呼吸をリンクして説明できる。 胸腔・胸膜腔・心膜腔・縦隔を定義できる。</p> <p>9回目 血液をめぐるさせる 循環・呼吸器系 3（ 体循環 ） 【到達目標】《教科書 第4章（特に193-206）》 大動脈を4区画にわけ、それぞれの流域を概説できる（図4-23）。 静脈系の主要な流路を示せる（図4-26）。</p>

	<p>1 0 回目 リンパをめぐる 循環・呼吸器系 4 (リンパ系) 【到達目標】 《教科書 第 4 ・ 9 章 (特に226-228, 476-479) 》 リンパと血液を区別できる。 リンパの主要な流路を示せる。 主要なリンパ性器官 (リンパ節・胸腺・脾臓・扁桃) の位置と機能を示せる。</p> <p>1 1 回目 食べる・栄養の消化と吸収 消化器系 1 (総論) 【到達目標】 《教科書 第 2 章 (特に64-66) 》 消化管 (口腔・咽頭・食道・胃・小腸・大腸) と消化腺 (唾液腺・肝臓・膵臓) を区別して説明できる。 食物 (三大栄養素) 摂取から、咀嚼・嚥下・消化・吸収・排泄 の過程が上記のどこで生じるのか示せる。</p> <p>1 2 回目 食べる・栄養の消化と吸収 消化器系 2 (消化管) 【到達目標】 《教科書 第 2 章 (特に66-95, 96-105) 》 消化管各部の主な肉眼的構造を示せる。 胃粘膜と胃腺、胃の筋層について説明できる。 腸絨毛における栄養素の吸収の場について説明できる。 腹膜後器官を列挙できる (102-105) 。</p> <p>1 3 回目 食べる・栄養の消化と吸収 消化器系 3 (消化腺) 【到達目標】 《教科書 第 2 章 A, C, D 》 口腔の構造と唾液腺の位置を示せる (図2-7)。 肝臓と胆嚢の位置と構造を示せる (図2-25, 28, 29) 膵臓の位置と構造を示せる (図2-24, 28, 29)</p> <p>1 4 回目 食べる・栄養の消化と吸収 消化器系 4 (総論 + 呼吸・循環器系 5) 【到達目標】 《教科書 第 2 ・ 4 章 (特に図4-4, 5, 23~29) 》 吸収後の栄養素が、からだの各組織に到達するまでの脈管路を概説できる (循環器系とリンクさせる)。 目的地 ①心臓の壁、②脳、③頬の皮膚、④上腕、⑤胸壁・腹壁、⑥胸腔内臓、⑦腹腔内臓、⑧骨盤内臓、⑨下腿、⑩手・足</p> <p>1 5 回目 子どもをうむ・食べる・息をする (予習) (胎児循環) 【到達目標】 《教科書 第 10 章 (特に図10-18, 19, 22) 》 母体の栄養素や酸素が、胎児の各組織に到達するまでの脈管路を概説できる (消化器系・呼吸器系・循環器系総合)。目的地 胎盤 期末試験を実施する。(試験範囲：第 8 ～14 回目内容) 試験日は別途知らせる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	シラバスの各項をチェックし、教科書のページを事前学習してください(予習 3 5 分 x 2 / 1 日分)。その内容が授業で解説されます。授業では随時、隣席の学生間で理解したことを説明しあう時間をとります。授業で学習した内容を自分なりのノートにまとめて下さい(復習 3 5 分 x 2 / 1 日分)。知識の整理をすることで自分のモノにします。自分のモノになると楽しくなります。なかなか楽しくならないひと、学習内容に関して不明な点あるいは疑問点があるひとは、気軽に担当教員に質問し補ってください。
教科書	『系統看護学講座 専門基礎 1 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学』坂井建雄 他 (医学書院) 各回ごとの講義資料あり。
参考書	『解剖生理学』(新体系 看護学全書 人体の構造と機能①) 橋本尚詞、鯉淵典之編著、メヂカルフレンド社 「カラー人体解剖学」井上貴央 監訳 西村書店 「入門組織学」牛木辰男著 南江堂 「読んでわかる解剖生理学」竹内修二著 医学教育出版 「解剖学トレーニングノート」竹内修二著 医学教育出版
成績評価	中間試験 (100 点満点) と期末試験 (100 点満点) を行い、総合して評価します。試験日は別途お知らせします。合格基準は平均点数 6 0 % 以上とします。出席率 6 0 % 未満の学生さんは受験資格がありませんので注意してください。 試験形式はいずれも、国試形式の選択問題 5 0 % 記述式 5 0 %
担当教員の基本情報	担当教員名 : ○ 榎原 智美 (博士 (医学) 専門 : 解剖学・組織学・神経機能形態学) 研究室 : 5 号館 1 階 解剖学教室 メールアドレス : s_ebara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火～木 早朝または放課後 (できるだけ前日までにメールまたはmellyで予約下さい。)
備考	アクティブラーニング ; 授業前にシラバスの要点をもとに予習をし、授業ではその内容と補足の解説を受けた後、随時、学生間で理解内容を確認しあう時間を設けます。授業後それを自らノートにまとめ、かつ予習を進め、この繰り返しにより、知識・理解を確実なものとしします。
	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-1 ○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
榎原 智美			
添付ファイル			

授業目標	<p>看護の対象となる人間は、どのようなからだのしくみをもって生きているのだろうか。その正常な基本を学び、病的状態を理解するための基礎知識を修得する。からだのしくみは、構造（かたち）と機能（はたらき）に分けて考えられる。解剖学では、主に構造に重点をおいて学ぶが、機能に重点をおいて学ぶ生理学と渾然一体となっている。</p> <p>人体のなりたちの概要をつかみ、主要な機能ごとに分けられるグループ（器官系）にわけて学習を進める。解剖学Ⅰでは、動く（運動器系）、食べる（消化器系）、息をする（呼吸器系）を中心に、それらの働きを支える血液循環（循環器系）について学習する。解剖学Ⅱではさらに、排泄（排尿・排便）する（泌尿器系・消化器系）、子どもを生む（生殖器系）、感じる（感覚器系）を加え、これらを調節・維持する機構（循環器系（再）・内分泌系・神経系）を学習する。</p>
授業計画	<p>1回目 血液から尿をつくる 泌尿器系1（総論、腎臓1） 【到達目標】《教科書 第5章（232-253、特に図5-1～5）》 泌尿器系器官（腎臓・尿管・膀胱・尿道）の基本構造を示せる。 血流路を示せる。 ネフロン構成要素を示せる。</p> <p>2回目 血液から尿をつくる 泌尿器系2（腎臓2） 【到達目標】《教科書 第5章（232-253、特に図5-1～5）》 ろ過の場を示すことができる（ネフロンのどこ？ 腎小体の血液・尿閉門）。 再吸収の場を示すことができる（尿細管・集合管のどこ？ 上皮細胞）。</p> <p>3回目 血液から尿をつくる・排尿する 泌尿器系2（尿路） 【到達目標】《教科書 第5章（特に図5-1,13）》 尿路（腎臓（腎杯・腎盤）・尿管・膀胱・尿道）を順に示せる。 膀胱の骨盤における位置を示せる。 膀胱括約筋・尿道括約筋の位置を示せる。</p> <p>4回目 ホルモンで調節 内分泌系1（総論） 【到達目標】《教科書 第6章 B,C》 内分泌と外分泌を明確に区別できる（膵臓の図2-96,6-19を用いて）。 内分泌腺細胞、ホルモン、血流、標的細胞を連携して説明できる。 主要な古典的内分泌器官（下垂体・甲状腺・副腎・膵ランゲルハンス島）の位置と分泌されるホルモン名を示せる。</p> <p>5回目 ホルモンで調節 内分泌系2（視床下部・下垂体） 【到達目標】《教科書 第6章（特に図6-13～16）》 視床下部および下垂体の位置と関係について概説できる。 下垂体門脈の他とは異なる点を指摘できる。</p> <p>6回目 ホルモンで調節 内分泌系3（甲状腺・副腎皮質・腎臓・消化管・膵臓） 【到達目標】《教科書 第5章 A③④・6章 B,C》 甲状腺・副腎皮質の位置が示せる。 レニン・アンギオテンシン・アルドステロン系による尿量調節を概説できる（図5-10,11）。 抗利尿ホルモンによる尿量調節を概説できる。 消化管ホルモンを列挙できる。 膵ホルモンが、肝臓や上腕の皮下組織に届くまでの経路が言える。</p> <p>7回目 子どもを生む ホルモンで調節 内分泌系4・女性生殖器系1 【到達目標】《教科書 第6章（296-9）・第10章（図10-5,10）》 女性性周期を、卵巣周期と月経周期を区別して説明できる。 卵巣における卵子の成熟過程と排卵後の黄体形成について説明できる。 女性ホルモンを列挙し、それぞれの内分泌器官と標的器官を示せる。</p> <p>中間試験を実施する。（試験範囲：第1～6回目内容） 試験日は別途知らせる。</p> <p>8回目 子どもを生む 女性生殖器系2 【到達目標】《教科書 第10章 B（特に図10-2,4～6,10）》 女性生殖器（卵巣、卵管、子宮、膣、外陰部）の基本構造について概説できる。 排卵・受精・卵割・着床・分娩・月経が生じる部位を示せる（図10-13）。</p> <p>9回目 子どもを生む 女性生殖器系3 【到達目標】《教科書 第10章（図10-18,19,21,22）》 胎盤の構造説明し、母体の血液と胎児の血液が混ざることなく胎児が育つことを示せる。</p>

	胎児循環のみに特殊な構造を列挙できる。
10回目	子どもを生む 男性生殖器 【到達目標】《教科書 第10章 (494-500)》 精巣の曲精細管における精子形成について概説できる。 精路(精巣上体・精管・射精管・尿道 および 生殖腺)の配置について示せる。 陰茎の基本構造を示せる。
11回目	神経で調節 神経・感覚器系1(総論) 【到達目標】《教科書 第8章 A,B》 神経細胞(細胞体+突起)と神経膠細胞を区別できる。 中枢神経(脳+脊髄)と末梢神経(脳神経+末梢神経)を明確に区別できる。 脳の基本構造(6区画、脳室)を区別できる。 神経細胞体の分布場所(灰白質・神経節)を指摘できる。 髄膜の構造について、3層を区別できる。
12回目	神経で調節 神経・感覚器系2(中枢神経・末梢神経) 【到達目標】《教科書 第8章 C,E,F, 第6章 A》 末梢神経の感覚神経・運動神経・自律神経を形態学的に明確に区別して定義できる。 主要な上行性伝導路の経路を概説できる。 主要な下行性伝導路の経路を概説できる。
13回目	感じる・神経で調節 神経・感覚器系3(視覚器) 【到達目標】《教科書 第8章 432-445》 眼球の基本構造を説明できる。 眼球の付属器官の構造を説明できる。
14回目	感じる・神経で調節 神経・感覚器系4(聴覚器, 味覚・嗅覚器・皮膚) 【到達目標】《教科書 第8章 447-452》 内耳の基本構造を説明できる。 外耳・中耳を説明できる。 舌の味蕾、嗅球の位置を指摘できる。 皮膚と皮膚の付属器(爪・毛・毛包腺・汗腺)について説明できる。
15回目	解剖学総括 [補講] 【到達目標】 妊娠中の花子さんが、呼吸をし、排泄し、食事をし、映画を鑑賞する。花子さんの口や鼻から摂取した栄養や酸素が、胎児の脳に至るまでに経る経路を順に説明できる。 期末試験を実施する。(試験範囲:第8~14回目内容) 試験日は別途知らせる。
授業時間外の学習(準備学習等)について	シラバスの各項をチェックし、教科書のページを事前学習してください(予習35分x2/1日分)。その内容が授業で解説されます。授業では随時、隣席の学生間で理解したことを説明しあう時間をとります。授業で学習した内容を自分なりのノートにまとめて下さい(復習35分x2/1日分)。知識の整理をすることで自分のモノにします。自分のモノになると楽しくなります。なかなか楽しくならないひと、学習内容に関して不明な点あるいは疑問点があるひとは、気軽に担当教員に質問し補ってください。
教科書	『系統看護学講座 専門基礎1 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学』坂井建雄 他(医学書院) 各回ごとの講義資料あり。
参考書	『解剖生理学』(新体系 看護学全書 人体の構造と機能①)橋本尚詞、鯉淵典之編著、メヂカルフレンド社 「カラー人体解剖学」井上貴央 監訳 西村書店 「入門組織学」牛木辰男著 南江堂 「読んでわかる解剖生理学」竹内修二著 医学教育出版 「解剖学トレーニングノート」竹内修二著 医学教育出版
成績評価	中間試験(100点満点)と期末試験(100点満点)を行い、総合して評価します。試験日は別途お知らせします。合格基準は平均点数60%以上とします。出席率60%未満の学生さんは受験資格がありませんので注意してください。 試験形式はいずれも、国試形式の選択問題50% 記述式 50%
担当教員の基本情報	担当教員名 : ○ 榎原 智美(博士(医学) 専門:解剖学・組織学・神経機能形態学) 研究室 : 5号館1階 解剖学教室 メールアドレス : s_ebara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火~木 早朝または放課後(できるだけ前日までにメールまたはmellyで予約下さい。)
備考	アクティブラーニング;授業前にシラバスの要点をもとに予習をし、授業ではその内容と補足の解説を受けた後、随時、学生間で理解内容を確認しあう時間を設けます。授業後それを自らノートにまとめ、かつ予習を進め、この繰り返しにより、知識・理解を確実なものとしします。
	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」:◎-1 ○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択必修
担当教員			
榎原 智美			
添付ファイル			

授業目標	<p>解剖学Ⅲでは、解剖学Ⅰ・Ⅱの復習と総理解をはかるため、”妊婦である明治花子さんは、トイレを済ませ、好きな映画を観ながら軽く体操した後、焼魚定食を食べながら、胎児に話しかけた。”ということを、教科書の図やことばを用いて解説できるようになることを目指す。その際、具体的には、食物中の栄養や、肺から取り込んだ酸素が、胎児の脳や内臓や四肢に届くまでの主な経路と、経過中や目的地の各要所で生じている現象について語れるようになる。</p> <p>解剖学では、看護の対象となる人間のからだのしくみの正常な基本を学び、病的状態を理解するための基礎知識を修得する。解剖学Ⅰでは、動く（運動器系）、食べる（消化器系）、息をする（呼吸器系）を中心に、それらの働きを支える血液循環（循環器系）を、解剖学Ⅱでは、排泄（排尿・排便）する（泌尿器系・消化器系）、子どもを生む（生殖器系）、感じる（感覚器系）およびこれらを調節・維持する機構（循環器系（再）・内分泌系・神経系）を学習した。からだのしくみは、構造（かたち）と機能（はたらき）に分けて考えられる。解剖学では、主に構造に重点をおいて学ぶが、機能に重点をおいて学ぶ生理学と渾然一体となっていることを再確認したい。</p>
授業計画	<p>1回目 からだのなりたち 【到達目標】《教科書 第1章》 人体の成り立ちについて概説できる。 細胞と組織について説明できる。 上皮組織・支持組織・筋組織・神経組織を区別できる。</p> <p>2回目 食べる 消化器系1（総論、消化管） 【到達目標】《教科書 第2章》 消化器系の概要と口腔、咽頭、消化管（食道、胃、小腸、大腸）について説明できる。</p> <p>3回目 食べる 消化器系2（消化腺、腹膜） 【到達目標】《教科書 第2章》 消化腺（肝臓、膵臓）と腹膜について説明できる。</p> <p>4回目 息をする 呼吸器系（総論、気道・肺、呼吸運動） 【到達目標】《教科書 第3・4章》 呼吸器系の概要と気道（鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支）について説明できる。 肺の構造と呼吸運動について説明できる。 肺循環（循環器系）と併せて呼吸を説明できる。</p> <p>5回目 血液をめぐらせる 循環器系1（総論、心臓） 【到達目標】《教科書 第4章》 循環器系の概要と心臓について説明できる。</p> <p>6回目 血液をめぐらせる 循環器系2（血管系・リンパ系） 【到達目標】《教科書 第4章》 動脈、静脈および毛細血管について説明できる。 リンパ管系とリンパ性器官について説明できる。</p> <p>7回目 尿をつくる 泌尿器系1（腎臓） 【到達目標】《教科書 第5章》 腎臓について説明できる。 再吸収とは、何が、どこからどこへ動くかを説明できる。</p> <p>8回目 尿を出す 泌尿器系2（尿路） 【到達目標】《教科書 第5章》 尿路（尿管、膀胱、尿道）について説明できる。</p> <p>中間試験を実施する。試験範囲：第1～8回。試験日は別途知らせる。</p> <p>9回目 からだの恒常性を維持・調整する 内分泌系 【到達目標】《教科書 第6章》 内分泌系の概要と下垂体、甲状腺、ランゲルハンス島、副腎について説明できる。 自律神経の交感神経と副交感神経を区別して説明できる。</p> <p>10回目 子どもを生む 生殖器系1（男性・女性生殖器） 【到達目標】《教科書 第10章》 男性生殖器：精巣と精路について説明できる。</p>

	<p>女性生殖器：卵巣・卵管・子宮・膣 について説明できる。</p> <p>11回目 子どもを生む 生殖系2 (女性性周期・胎盤・胎児循環) 【到達目標】《教科書 第10章》 女性性周期についてホルモンと関連させて説明できる。 胎盤において、母体と胎児の血液が混ざらないことを説明できる。 胎児循環を説明できる。</p> <p>12回目 感じて考えてうごくために 神経・感覚器系1 【到達目標】《教科書 第8・9章》 神経系の概要と中枢・末梢神経について説明できる。</p> <p>13回目 感じて考えてうごくために 神経・感覚器系2 【到達目標】《教科書 第8・9章》 視覚器、聴覚器、平衡覚器、皮膚について説明できる。</p> <p>14回目 支える・うごく 運動器系1 (骨格、関節と骨格筋) 【到達目標】《教科書 第7章》 骨格、関節および骨格筋について説明できる。 脊柱・胸郭・骨盤を説明できる。 体幹、上肢・下肢の主要な関節を挙げ、運動について説明できる。</p> <p>15回目 解剖学総括 [補講] 【到達目標】 妊娠中の花子さんが、呼吸をし、排泄し、食事をし、映画を鑑賞する。花子さんの口や鼻から摂取した栄養や酸素が、胎児の脳に至るまでに経る経路を順に説明できる。 期末試験を実施する。(試験範囲：第8～14回目内容) 試験日は別途知らせる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	解剖学Ⅰ・Ⅱのシラバスとあわせて各項をチェックし、相当する項目を事前に学習してください(予習35分x2/1日分)。その内容が授業で解説されます。授業では随時、隣席の学生間で理解したことを説明しあう時間をとります。授業で学習した内容を自分なりのノートにまとめて下さい(復習35分x2/1日分)。知識の整理をすることで自分のモノにします。自分のモノになると楽しくなります。なかなか楽しくならないひと、学習内容に関して不明な点あるいは疑問点があるひとは、気軽に担当教員に質問し補ってください。
教科書	『系統看護学講座 専門基礎1 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学』坂井建雄 他(医学書院) 解剖学Ⅰ・Ⅱで配布した講義資料
参考書	『解剖生理学』(新体系 看護学全書 人体の構造と機能①)橋本尚詞、鯉淵典之編著、メヂカルフレンド社 「カラー人体解剖学」井上貴央 監訳 西村書店 「入門組織学」牛木辰男著 南江堂 「読んでわかる解剖生理学」竹内修二著 医学教育出版 「解剖学トレーニングノート」竹内修二著 医学教育出版
成績評価	中間試験(100点満点)と期末試験(100点満点)を行い、総合して評価します。試験日は別途お知らせします。合格基準は平均点数60%以上とします。出席率60%未満の学生さんは受験資格がありませんので注意してください。 試験形式はいずれも、国試形式の選択問題50% 記述式 50%
担当教員の基本情報	担当教員名 : ○ 榎原 智美 (博士(医学) 専門:解剖学・組織学・神経機能形態学) 研究室 : 5号館1階 解剖学教室 メールアドレス : s_ebara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火～木 早朝または放課後(できるだけ前日までにメールまたはmellyで予約下さい。)
備考	アクティブラーニング;授業前にシラバスの要点をもとに予習をし、授業ではその内容と補足の解説を受けた後、随時、学生間で理解内容を確認しあう時間を設けます。授業後それを自らノートにまとめ、かつ予習を進め、この繰り返しのより、知識・理解を確実なものとしします。
	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」:◎-1 ○-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
林 知也			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：この授業では、正常な状態での生体機能のうち、細胞の機能、血液・循環、呼吸、消化と吸収、腎機能、体温調節を学ぶ。これらの知識は、正常な機能が破綻した状態、すなわち疾患を学ぶ上で必須なものとなる。</p> <p>到達目標：生体の基本構成要素である細胞の働き、ガスや栄養素を全身に運搬する血液・循環機能、換気とガス交換の仕組み、生体を構成する物質やエネルギー源となる物質を得るための消化吸収、体液の恒常性維持に必須の腎機能、体温を一定に保つための体温調節機能等を理解し、説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 イントロダクションと細胞生理・分子生理 到達目標：細胞の機能、物質移動について説明ができる。 備考：教科書 (p. 30-42, 541) , 並びに配布プリントを熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第2回 体液と血液 (1) 到達目標：体液、ホメオスタシス、血液の組成、赤血球について説明できる。 備考：教科書 (p. 59-62, 141-150) , 並びに配布プリントを熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第3回 体液と血液 (2) 到達目標：白血球、血小板、血漿タンパク質、血液凝固と線溶、血液型について説明できる。 備考：教科書 (p. 152-165) , 並びに配布プリントを熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第4回 循環 (1) 到達目標：循環器系の構成、心臓の興奮とその伝播、心電図について説明できる。 備考：教科書 (p. 168-170, 175-184) , 並びに配布プリントを熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第5回 循環 (2) 到達目標：心拍出量、心周期、心室の圧-容積関係、心音、血圧について説明できる。 備考：教科書 (p. 185-193, 206-210) , 並びに配布プリントを熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第6回 循環 (3) 到達目標：血管の機能的分類、循環の調節、リンパ循環について説明できる。 備考：教科書 (p. 210-221, 228) , 並びに配布プリントを熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第7回 前半のまとめ 到達目標：第1回～第6回までの内容について説明できる。 備考：事前に提示された課題に対して、説明できるようにすること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第8回 呼吸 (1) 到達目標：内呼吸と外呼吸、呼吸運動、呼吸気量について説明できる。 備考：教科書 (p. 120-130) , 並びに配布プリントを熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第9回 呼吸 (2) 到達目標：ガス交換とガスの運搬、呼吸運動の調節について説明できる。 備考：教科書 (p. 130-137) , 並びに配布プリントを熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第10回 消化と吸収 (1) 到達目標：消化と吸収の概要、口腔の機能、嚥下、胃の機能について説明できる。 備考：教科書 (p. 65-66, 71-72, 74-76, 78-82) , 並びに配布プリントを熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第11回 消化と吸収 (2) 到達目標：小腸の機能 (膵液、胆汁を含む) , 栄養素の消化と吸収、大腸の機能、肝臓の機能について説明できる。 備考：教科書 (p. 84-90, 94-95, 100-102) , 並びに配布プリントを熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第12回 尿の生成と体液の調節 到達目標：腎臓の機能、糸球体濾過、尿細管再吸収、尿細管分泌、クリアランスと糸球体濾過量、尿の貯蔵と排尿、酸塩基平衡について説明できる。 備考：教科書 (p. 232-244, 246-248, 250-252, 258-260) , 並びに配布プリントを熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p> <p>第13回 体温とその調節 到達目標：熱産生と熱放散、体温の分布と測定、体温調節、体温の異常について説明できる。 備考：教科書 (p. 484-490) , 並びに配布プリントを熟読すること。 アクティブラーニングの有無：なし</p>

	<p>第14回 後半のまとめ</p> <p>到達目標：第8回～第13回までの内容について説明できる。</p> <p>備考：事前に提示された課題に対して，説明できるようにすること。</p> <p>アクティブラーニングの有無：なし</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>各講義項目の分野に関して，事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。(予習35分)</p> <p>各講義後，配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし，それでも分からない部分は質問にて理解できるようにする。(復習35分)</p>
教科書	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 「解剖生理学」第10版，坂井建雄・岡田隆夫 著，医学書院</p>
参考書	<p>※必要に応じて，自分に合うと思えるものを選ぶこと。</p> <p>「はじめの一歩のイラスト生理学(改訂第2版)」 照井直人 編(羊土社)</p> <p>「マンガでわかる基礎生理学」田中 越郎 監修(オーム社)</p> <p>「カラーイラストで学ぶ 集中講義 生理学 改訂2版」 岡田隆夫 編集(メジカルビュー社)</p> <p>「やさしい生理学(改訂第6版)」 彼末一之・能勢博 編集(南江堂)</p> <p>「生理学テキスト(第8版)」 大地陸男 著(文光堂)</p>
成績評価	<p>試験の結果(100%)にて評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 林 知也</p> <p>研究室 : 8号館4F林知教授室</p> <p>オフィスアワー : 月曜日17:00～18:00</p>
備考	<p>この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-1，○-2</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
岡田 薫			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 内分泌系では、ホルモンの作用や分泌調節、妊娠や出産、成長と老化について学習します。神経系では神経の基本から脳の機能、自律神経のはたらきについて学習します。感覚・筋骨格系では、皮膚や深部組織などの体性感覚、視覚や嗅覚など特殊感覚、運動神経と筋収縮、運動調節などについて学習します。</p> <p>【到達目標】 生体機能を調節する神経系および内分泌系、感覚系と筋骨格系について学び、人体のしくみを理解し説明できる</p>
授業計画	<p>第1回 内分泌系（1）総論、視床下部・下垂体前葉 【到達目標】ホルモンの定義と分類、視床下部・下垂体前葉から分泌されるホルモンとそのはたらき、分泌調節について説明できる。 【授業形態】アクティブラーニング有 出席カードに質問、コメントを書いてもらい、次の授業の最初に復習を兼ねてフィードバックする 【備考】自主学習 教科書p 272-288, 299-301を熟読すること。</p> <p>第2回 内分泌系（2）下垂体後葉、甲状腺、副甲状腺 【到達目標】下垂体後葉、甲状腺、副甲状腺から分泌されるホルモンとそのはたらき、分泌調節について説明できる。 【授業形態】アクティブラーニング有 出席カードに質問、コメントを書いてもらい、次の授業の最初に復習を兼ねてフィードバックする 【備考】自主学習 教科書p 272-288, 299-301を熟読すること。</p> <p>第3回 内分泌系（3）膵臓、副腎皮質、副腎髄質 【到達目標】膵臓、副腎から分泌されるホルモンとそのはたらき、分泌調節について説明できる。 【授業形態】アクティブラーニング有 出席カードに質問、コメントを書いてもらい、次の授業の最初に復習を兼ねてフィードバックする 【備考】自主学習 教科書p 288-306を熟読すること。</p> <p>第4回 内分泌系（4）性ホルモン、その他のホルモン 【到達目標】精巣、卵巣から分泌されるホルモンとそのはたらき、分泌調節について説明できる 【授業形態】アクティブラーニング有 出席カードに質問、コメントを書いてもらい、次の授業の最初に復習を兼ねてフィードバックする 【備考】自主学習 教科書p 288-306を熟読すること。</p> <p>第5回 神経系（1）神経の基本（静止膜電位、活動電位） 【到達目標】静止膜電位、活動電位について説明できる。 【授業形態】アクティブラーニング有 出席カードに質問、コメントを書いてもらい、次の授業の最初に復習を兼ねてフィードバックする 【備考】自主学習 教科書p 40-43, 53-55を熟読すること。</p> <p>第6回 神経系（2）神経の基本（興奮伝導、シナプス伝達、神経伝達物質） 【到達目標】神経の興奮伝導およびシナプス伝達について説明できる。 【授業形態】アクティブラーニング有 出席カードに質問、コメントを書いてもらい、次の授業の最初に復習を兼ねてフィードバックする 【備考】自主学習 教科書p 384-394を熟読すること。</p> <p>第7回 神経系（3）末梢神経（自律神経） 【到達目標】自律神経の構成、特徴、伝達物質と受容体について説明できる。 【授業形態】アクティブラーニング有 出席カードに質問、コメントを書いてもらい、次の授業の最初に復習を兼ねてフィードバックする 【備考】自主学習 教科書p 262-272, 415-418を熟読すること。</p> <p>第8回 神経系（4）末梢神経（体性感覚神経、デルマトーム、疼痛） 【到達目標】皮膚や深部組織の体性感覚および上行性の脊髄伝導路が説明できる。 【授業形態】アクティブラーニング有 出席カードに質問、コメントを書いてもらい、次の授業の最初に復習を兼ねてフィードバックする 【備考】自主学習 教科書p 431-434, 455-459を熟読すること。</p> <p>第9回 神経系（5）末梢神経（運動神経、筋収縮、脊髄反射） 【到達目標】興奮収縮連関、筋収縮とその調節、脊髄反射について説明できる。 【授業形態】アクティブラーニング有 出席カードに質問、コメントを書いてもらい、次の授業の最初に復習を兼ねてフィードバックする 【備考】自主学習 教科書p 369-381, 395-397を熟読すること。</p> <p>第10回 神経系（6）中枢神経（大脳基底核、小脳、錐体路、錐体外路） 【到達目標】大脳基底核および小脳による運動調節、錐体路、錐体外路について説明できる。 【授業形態】アクティブラーニング有 出席カードに質問、コメントを書いてもらい、次の授業の最初に復習を兼ねてフィードバックする 【備考】自主学習 教科書P 400-404, 429-430を熟読すること。</p>

	<p>第11回 神経系（7）中枢神経（脳幹、間脳、大脳辺縁系） 【到達目標】 脳幹と間脳、大脳辺縁系のはたらきが説明できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 出席カードに質問、コメントを書いてもらい、次の授業の最初に復習を兼ねてフィードバックする 【備考】 自主学习 教科書p 397-409を熟読すること。</p> <p>第12回 神経系（8）中枢神経（大脳皮質機能局在、高次機能、脳波、睡眠、脳脊髄液） 【到達目標】 大脳皮質の機能局在、および高次機能、脳脊髄液のはたらきが説明できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 出席カードに質問、コメントを書いてもらい、次の授業の最初に復習を兼ねてフィードバックする 【備考】 自主学习 教科書p 418-429を熟読すること。</p> <p>第13回 感覚系（1）視覚、嗅覚、味覚 【到達目標】 視覚、嗅覚、味覚の特徴および伝導路を説明できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 出席カードに質問、コメントを書いてもらい、次の授業の最初に復習を兼ねてフィードバックする 【備考】 自主学习 教科書p 434-455を熟読すること。</p> <p>第14回 感覚系（2）聴覚、平衡感覚 【到達目標】 聴覚と平衡感覚の特徴および伝導路を説明できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 出席カードに質問、コメントを書いてもらい、次の授業の最初に復習を兼ねてフィードバックする 【備考】 自主学习 教科書p 434-455を熟読すること。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	当該分野に関して教科書を予習し（35分程度）、授業で配布されたプリントは、講義ノートとともに必ず整理してください。 授業後は、必ず次の授業までに復習（35分）を行って理解を深めてください。
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 「解剖生理学 人体の構造と機能1」 阪井建雄・岡田隆夫 著（医学書院）
参考書	「人体の構造と機能」佐藤昭夫 他 編（医歯薬出版） 「やさしい生理学」彼末一之・能勢博 編（羊土社） 「標準生理学」小澤清司 他 編（医学書院）
成績評価	各授業ごとに小テスト、中間および期末に筆記試験を行います。 成績は、小テスト（30%）＋筆記試験（70%）で評価を行います。 本試験を適切な理由なくして欠席した場合は、追試験を行いません。必ず試験日より1週間以内に、欠席届を提出してください。
担当教員の基本情報	担当教員名：岡田 薫 研究室：5号館3F生理学教室 オフィスアワー：月曜日17：00～18：00 メールアドレス：k_okada@meiji-u.ac.jp
備考	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-1、○-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
辻村 敦			
添付ファイル			

授業目標	<p>生化学では人体を構成する物質とその物質の合成や分解(代謝)の基本的知識を、医学の基礎を支える自然科学のひとつとして体系的に学びます。生化学を理解することは、自分のカラダや患者さんのカラダの状態を理解することにつながり、また、患者さんに栄養指導をするためにもとても重要な科目です。従って、本講義では、栄養学のためのタンパク質代謝、糖質代謝、脂質代謝、核酸代謝などを理解してもらうことを目的とする。生化学の学習を通して、ダイエット、高脂血症と動脈硬化、メタボリックシンドローム、アレルギーや免疫の仕組み、糖尿病、骨粗鬆症、痛風などについて考察できる力を身に付ける。看護・鍼灸・保健医療サービスの担い手に求められる生化学的基礎知識を習得する。</p>
授業計画	<p>第1講 序論:生化学学習目標の理解。生体を構成する生体分子の構造と機能を学ぶ。 [到達目標] 生化学の基礎を理解。分子の構造、アミノ酸とタンパク質、酵素、基質について説明できる。 [授業形態] 講義プリントを配布し、パワーポイントを利用して説明を行う。 毎回、前回の復習とその日のまとめ問題を提示し、全員で理解度を確認する。 [備考] 人体を構成、調整する生体物質を理解する。生命活動維持のに重要な必須成分と酵素の働きを理解。</p> <p>第2講 糖質と糖質代謝 [到達目標] 糖質の生体内での消化、吸収、動態、エネルギー産生について説明できる。 [備考] 糖質の構造と代謝を体系的に理解する。解糖系、TCA回路、ペントースリン酸回路。</p> <p>第3講 脂質と脂質代謝 [到達目標] 脂質の化学構造、性質と代謝について説明できる。 [備考] 脂質の生体内での消化、吸収、動態を理解。脂質のエネルギー代謝を理解。</p> <p>第4講 タンパク質・アミノ酸 [到達目標] タンパク質の消化、吸収、代謝について説明できる。 [備考] タンパク質とアミノ酸の化学構造と性質。タンパク質の代謝を理解。アンモニアと尿素について。</p> <p>第5講 核酸(ヌクレオチド)の代謝 [到達目標] 核酸生合成と分解について説明できる。 [備考] 核酸(ヌクレオチド)の生合成と分解を通してその役割と遺伝子について理解。核酸のプリン塩基、尿酸と痛風について。</p> <p>第6講 ビタミン、ホルモンの役割 [到達目標] ビタミンの生理機能をヒトの栄養の面より理解。ホルモンを生体内恒常性の維持として理解できる。 [備考] ビタミンの生体内での役割。カルシウム代謝と調節など。補酵素としての機能。ホルモンの役割。脂溶性ビタミン、ステロイドホルモンなど。</p> <p>第7講 総括(評価含む) [到達目標] 生体物質の構造と代謝を関連づけて説明できる。 [備考] 全講義の総括を行い、評価を行う。講義内容の理解度を測る問題だけではなく、自分の考えを記述する問題もあるため、普段から生化学を学ぶ意義について考えておくこと。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>平易な視覚的生化学の参考書を基にプリントを作成し、それらを用いて講義を進める。そのため講義後は必ずプリント内容の理解に努める必要がある。体系的授業のため、遅刻・欠席は厳禁で、受講者は全ての講義に出席すること! 参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習(予習130分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習130分)。</p>
教科書	<p>特になし(講義時間ごとにプリントを配布します。重要項目のマーキングや追加の情報を記入して、自分のプリントを完成させてください)。</p>
参考書	<p>『栄養科学イラストレイテッド生化学』 藪田 勝/編 (羊土社) 『マンカでわかる生化学』 武村 政春他(オーム社) 『イラストレイテッド生化学』 石崎 泰樹他(翻訳) 原書5版(丸善出版)</p>
成績評価	<p>講義内容に関連した知識を筆記試験(定期試験、小テスト)にて把握し、その理解度を評価する。授業時間中の質問に対する回答、演習への積極的な取り組み状況を評価する。 評価割合:(定期試験 60%、小テスト20%、平常点20%)とし総合評価60%以上を合格とする。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 辻村敦 研究室 : 京都府立医科大学・基礎老化学 メールアドレス : atsuji@koto.kpu-m.ac.jp オフィスアワー : 講義内容についての質問は、講義後またはメールで質問してください。</p>

備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-1, ○-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
調整中			
添付ファイル			

授業目標	健康の維持・増進や疾病の回復・悪化防止のための栄養学を理解することを目的とし、その基礎を学習する。さらに、臨床栄養の基本と正しい食事療法の進め方などを、最新の情報を取り入れながら、基礎情報と関連付けて理解する。		
授業計画	第1講	栄養学入門、NST 【担当】 谷口祐一 【到達目標】 栄養学と看護の関連について理解する。NSTにおける看護師の役割について理解する。 【授業形態】 講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。 【必要な準備】 シラバスの内容を確認するとともに、教科書を購入しておく。(45分)	
	第2講	エネルギーと栄養バランス、食事バランスガイド 【担当】 岩佐真代 【到達目標】 バランスの良い食事を科学的に理解する。 【授業形態】 講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。 【必要な準備】 前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(45分)	
	第3講	栄養素のはたらき 糖質・脂質・たんぱく質 【担当】 岩佐真代 【到達目標】 糖質・脂質・たんぱく質の代謝を理解し、生体内での役割を把握する。 【授業形態】 講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。 【必要な準備】 前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(45分)	
	第4講	栄養素のはたらき ビタミン・ミネラル 【担当】 岩佐真代 【到達目標】 ビタミン・ミネラルの代謝を理解し、生体内での役割を把握する。 【授業形態】 講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。 【必要な準備】 前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(45分)	
	第5講	栄養素の消化と吸収、代謝 【担当】 岩佐真代 【到達目標】 各栄養素の消化と吸収、代謝について理解する。 【授業形態】 講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。 【必要な準備】 前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(45分)	
	第6講	ライフステージと栄養 学童期・高齢期、妊娠期・授乳期 【担当】 谷口祐一 【到達目標】 ライフステージ別の栄養の特徴について理解する。 【授業形態】 講義終了時にコミュニケーションカードに必要事項を記入する。次回講義にフィードバックを行う。 【必要な準備】 前回の内容について配布したプリントを用いて復習をするとともに、今回の内容について教科書の該当箇所を熟読し予習する。(45分)	

	<p>書の該当箇所を 熟読し予習する。(45分)</p> <p>第7講 総括(評価を含む)</p> <p>【担当】岩佐真代</p> <p>【到達目標】 第1回目から第6回目の内容について理解する。</p> <p>【授業形態】 前半に講義、後半に試験を実施する。</p> <p>【必要な準備】 第1回目から第6回目の内容について配布したプリントを用いて復習をする。(45分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>次回の予習箇所については、毎回講義内で伝達する。</p> <p>講義をやむなく欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認し、プリントの穴埋めについて解答しておくこと。</p>
教科書	<p>「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [3] 栄養学(第12版)」 小野 章史/杉山 みち子/鈴木 志保子/外山 健二/中村 丁次 著 (医学書院)</p>
参考書	指定しない
成績評価	<p>定期試験70% 課題レポート15% 毎回のコミュニケーションカード15%</p> <p>・実習などのやむを得ない理由で欠席する予定が分かっている場合は、担当者に事前に報告すること。 ・配布されたプリント類は自己責任で保管し、欠席した場合は、次回講義までに教学課に取りに行くこと。 (講義内で、欠席分のプリント配布は行わない)</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 岩佐 真代 (第2、3、4、5、7回担当)</p> <p>研究室 : 京都華頂大学 現代家政学部 食物栄養学科 京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 栄養科学研究室</p> <p>メールアドレス : iwasa@kpu.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 講義終了後もしくはメールにて質問を受け付ける</p> <p>担当教員名 : 谷口 祐一 (第1回および6回担当)</p> <p>研究室 : 京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 健康科学研究室</p> <p>メールアドレス : hirokazu-t@kpu.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 講義終了後もしくはメールにて質問を受け付ける</p>
備考	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-2</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
千葉 章太			
添付ファイル			

授業目標	感染症について、疾病の要因としての病原微生物の特徴、感染症の発症のメカニズムについて学び、その上で、我々の体に備った感染防御のメカニズムについて理解する。さらに、いかに感染制御するか：滅菌法と消毒法、診断と治療について学ぶ。実践的に感染制御に携われる看護師を目指す。
授業計画	<p>第1回 微生物と感染症 到達目標：感染症とは、病原微生物の分類と特徴を理解する。</p> <p>第2回 発症のメカニズム 到達目標：病原体の排泄経路・感染経路と発症のメカニズムについて理解する。 発症に関わる病原体側因子および宿主因子について理解する。</p> <p>第3回 細胞内寄生体・真菌・原虫・寄生虫 到達目標：リケッチア・クラミジア・ウイルス・真菌・原虫・寄生虫についてそれらの特徴、構造、増殖様式およびそれらの関わる感染症について理解する。</p> <p>第4回 滅菌と消毒、感染予防 到達目標：感染予防の方法：感染源対策、感染経路対策、感受性体対策について理解する。 滅菌法・消毒法の種類と特徴および問題点を理解する。 検体の取り扱いについて理解する。</p> <p>第5回 化学療法 到達目標：化学療法剤の分類・特徴・作用機序およびその副作用について理解する。</p> <p>第6回 感染防御反応1 到達目標：自然免疫と獲得免疫について理解する。</p> <p>第7回 感染防御反応2、アレルギー、自己免疫疾患 到達目標：自然免疫と獲得免疫について理解する。 I～IV型アレルギーについて理解する。 自己免疫疾患について理解する。</p> <p>第8回 中間試験/全身感染症 中間試験 到達目標：全身感染症を起こす病原微生物の特徴、および全身感染症の予防および感染と発症のメカニズムについて理解する。</p> <p>第9回 呼吸器感染症 到達目標：呼吸器感染症を起こす病原微生物の特徴、および呼吸器感染症の予防および感染と発症のメカニズムについて理解する。</p> <p>第10回 消化器感染症 到達目標：消化器感染症を起こす病原微生物の特徴、および消化器感染症の予防および感染と発症のメカニズムについて理解する。</p> <p>第11回 尿路・生殖器感染症、皮膚感染症、神経系および眼感染症 到達目標：尿路・生殖器感染症、皮膚感染症、神経系感染症および眼感染症の予防および感染と発症のメカニズムについて理解する。</p> <p>第12回 ウイルス性肝炎 到達目標：ウイルス性肝炎の予防および感染と発症のメカニズムについて理解する。</p> <p>第13回 レトロウイルス・プリオン 到達目標：レトロウイルス感染症の予防・感染と発症のメカニズムについて理解する。 プリオン病の病原体の特徴、予防・感染と発症のメカニズムについて理解する。</p> <p>第14回 期末試験/注目される感染症 期末試験 到達目標：最近注目されている感染症について理解する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習(予習35分)し、講義で学修した内容をまとめてください(復習35分)
教科書	「病原体・感染・免疫」 藤本秀士 編(南山堂)
参考書	「系統看護学講座 微生物学」南嶋洋一、吉田眞一 著 医学書院) 「戸田細菌学」吉田眞一、柳雄介 編(南山堂) 「シンプル微生物学」東匡伸、小熊恵二、堀田博 編(南江堂)
成績評価	出席が6割に満たないものは試験の受験を認めない。 中間試験および期末試験により成績を評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 千葉 章太 (ちば しょうた) 研究室 : 研究棟 5号館 2F メールアドレス : s_chiba@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日、金曜日 12:40-13:30

備考	②「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-1、○-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
深田 雄志			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	GIO（一般目標）：女性生殖器分野の、看護師として必要な代表的疾患について、それぞれの病態生理・診断（検査を含む）・治療（薬物療法・手術療法ほか）および予後について説明できる。 SBO（個別目標）：勉強すべき範囲は厚生労働省の示す「看護師国家試験出題基準」がインターネットなどで閲覧できるので参考のこと。講師は、大切な事項は繰り返し登場するよう協力するので、学生は繰り返したことが理解できていないと感じたときは、教科書や講師を使い、理解を確実にする。		
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション 月経周期と疾患 月経前症候群<PMS> 月経前不快気分障害<PMDD> これから学ぶ主要疾患</p> <p>第2講 性感染症・不妊症 ウイルス／細菌／真菌／原虫感染症 骨盤内炎症症候群<PID> 男性不妊 精索静脈瘤</p> <p>第3講 原発性／続発性無月経 内分泌性・性器形態異常・染色体異常 摂食障害・やせ</p> <p>第4講 月経困難症 機能性月経困難症 器質性月経困難症（子宮筋腫・子宮内膜症・子宮腺筋症）</p> <p>第5講 女性／男性生殖器がん 子宮頸がん 子宮体がん 卵巣がん 精巣がん 陰茎がん</p> <p>第6講 更年期障害 自律神経症状と不定愁訴 萎縮性陰炎 骨粗鬆症</p> <p>定期試験 定期試験</p> <p>第7講 まとめ</p>		
授業時間外の学習（準備学習等）について	定期試験後にレポートを課題しますので、定期試験とレポートの時期（1月中旬から2月上旬ごろ）は時間外学習ができるように、時間の確保を必ずお願いします。 講義は、「基礎」「重要」となる部分をなるべく絞って、繰り返すことを心がけています。ですので、特別な予習・復習は必要ありません。ただ、解剖学・生理学・生化学などが大きく理解不足だった学生は、ついてくるのが難しい可能性もあるので、予習・復習の仕方を相談にきて、1年生を脱落しないように努めてください。また、優秀でより先・より上を勉強したい学生は、追加の学習の案内をしますので、教員に尋ねてください。		
教科書	「女性生殖器—成人看護学〈9〉」（医学書院）		
参考書	<p>おすすめのものとその理由を示します。他に良書があれば講師に教えてください。</p> <p>「看護のための臨床病態学 改定3版」（南山堂） ：2年次の疾病治療論の教科書なので、先に購入しておいても損になりません。</p> <p>「なぜ？ どうして？ 2019-2020」（メディックメディア） ：看護学生とネコナースの会話形式で、とにかくブログや絵本のように読みやすい参考書です。記憶がストーリーだと定着しやすい人向きです。1冊あたり安いです。講師のイチオシです。</p> <p>「病気がみえる 第4版」（メディックメディア） ：中学校の「資料集」のようなビジュアルで疾患や臓器のことを解説しているので、視覚で記憶する人向きの参考書です。</p>		
成績評価	定期試験70％・レポート30％で評価します。再試験時の評価については、必要な時期に示します。		
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 深田 雄志 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : 質問・問合せはMellyを使ってください オフィスアワー : 授業の際に示す</p>		
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-2		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
後藤 渉子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>[授業概要] 病理学は、解剖学や生理学などの正常な人体の構造や機能を学んだ上で、「病気の原因や成り立ち」を理解するために学ぶ学問であり、「基礎と臨床の架け橋」となっています。人はみな誰でも病気になる可能性があり、病気を治すあるいは上手に付き合っていくためには、この「病気の正体」をよく知る必要があります。この講義では、病気（疾患）の原因には何があるのか、何がどうなって身体に影響をおよぼすのか、臓器や組織そして細胞がどのように変化するのかについて学びます。講義では、はじめに前回の復習を兼ねた小テストを実施します。この小テストで合格点を取ることが目標です。そのために、講義の最後に今日の講義範囲内の確認問題を使ったテストを行いますので、それを利用し授業時間外学習として課題ノートを作成します。また、講義内容についてのフィードバックペーパーや講義アンケートも利用し、自立できる学習者となることを目指します。</p> <p>[到達目標] 臨床医学を理解していくために必要な「疾患の原因や成り立ち」を理解し説明できるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 病理学とは・疾病について [到達目標・学習目標] 病理学で学ぶこと・疾病についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。 [備考] ①復習として、ノートに「今日のおさらい」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。 ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。 ③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。 ④講義前には、次の講義（病因①）範囲の教科書を読み予習しておく。</p> <p>第2回 病因①（内因） [到達目標・学習目標] 病因①（内因）についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。 [備考] ①復習として、ノートに「今日のおさらい」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。 ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。 ③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。 ④講義前には、次の講義（先天性異常）範囲の教科書を読み予習しておく。</p> <p>第3回 先天性異常 [到達目標・学習目標] 先天性異常についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。 [備考] ①復習として、ノートに「今日のおさらい」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。 ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。 ③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。 ④講義前には、次の講義（病因②）範囲の教科書を読み予習しておく。</p> <p>第4回 病因②（外因） [到達目標・学習目標] 病因②（外因）についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。 [備考] ①復習として、ノートに「今日のおさらい」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。 ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。 ③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。 ④講義前には、次の講義（生物学的外因と感染症）範囲の教科書を読み予習しておく。</p> <p>第5回 生物学的外因と感染症 [到達目標・学習目標] 生物学的外因と感染症についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p>

第6回	<p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考] ①復習として、ノートに「今日のおさらい」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。 ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。 ③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。 ④講義前には、次の講義（炎症）範囲の教科書を読み予習しておく。</p> <p>炎症</p> <p>[到達目標・学習目標] 炎症についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p>
第7回	<p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考] ①復習として、ノートに「今日のおさらい」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。 ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。 ③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。 ④講義前には、次の講義（免疫異常とアレルギー）範囲の教科書を読み予習しておく。</p> <p>免疫異常・アレルギー</p> <p>[到達目標・学習目標] 免疫異常・アレルギーについての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p>
第8回	<p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考] ①復習として、ノートに「今日のおさらい」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。 ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。 ③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。 ④次回の中間試験に向け、「病理学とは」から「免疫異常・アレルギー」までの課題ノートを使い復習しておく。</p> <p>中間試験と試験解説</p> <p>[到達目標・学習目標] 「病理学とは」から「免疫異常・アレルギー」までの範囲の試験で合格点を取る。 わからなかったところ、間違ったところについては、復習して理解する。</p>
第9回	<p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） 中間試験とともにフィードバックペーパーを配布。試験で「わからなかったところや質問等」を記載し提出。その内容についてはメリーで返信するか次回の講義でクラス内に共有する。</p> <p>[備考] ①試験後の解説で、わからなかった問題・間違えた問題をチェックして、正しい答えを理解しておく。 ②次の講義（循環障害①）範囲の教科書を読み予習しておく。</p> <p>循環障害①</p> <p>[到達目標・学習目標] 循環障害①についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p>
第10回	<p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考] ①復習として、ノートに「今日のおさらい」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。 ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。 ③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。 ④講義前には、次の講義（循環障害②）範囲の教科書を読み予習しておく。</p> <p>循環障害②</p> <p>[到達目標・学習目標] 循環障害②についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p>
第11回	<p>[授業形態] アクティブラーニング（対話） フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。</p> <p>[備考] ①復習として、ノートに「今日のおさらい」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。 ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。 ③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。 ④講義前には、次の講義（細胞傷害）範囲の教科書を読み予習しておく。</p> <p>細胞傷害（退行性病変・代謝障害）</p> <p>[到達目標・学習目標] 細胞傷害（退行性病変・代謝障害）についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。</p>

	<p>第12回</p> <p>③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。 ④講義前には、次の講義（進行性病変）範囲の教科書を読み予習しておく。 進行性病変 [到達目標・学習目標] 進行性病変についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。 [備考] ①復習として、ノートに「今日のおさらい」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。 ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。 ③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。 ④講義前には、次の講義（腫瘍①）範囲の教科書を読み予習しておく。</p> <p>第13回</p> <p>腫瘍① [到達目標・学習目標] 腫瘍①についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。 [備考] ①復習として、ノートに「今日のおさらい」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。 ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。 ③講義前には、次の講義の初めに行う「小テスト」対策として課題ノートを見なおしておく。 ④講義前には、次の講義（腫瘍②）範囲の教科書を読み予習しておく。</p> <p>第14回</p> <p>腫瘍② [到達目標・学習目標] 腫瘍②についての基礎知識を理解し説明できる。次週の小テストで合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） フィードバックペーパーに、講義内容について「理解できたところ、わからなかったところ」などを記載し提出。この用紙は後日返却する。 [備考] ①復習として、ノートに「今日のおさらい」をまとめる（配布プリントや教科書を参考に）。 ②「確認問題」をノートに貼って解説をつけておく（課題ノート作成）。 ③次回の期末試験に向け、「循環障害①」から「腫瘍②」までの課題ノートを使い復習しておく。</p> <p>第15回</p> <p>期末試験と試験解説 [到達目標・学習目標] 「循環障害①」から「腫瘍②」までの範囲の試験で合格点を取る。 [授業形態] アクティブラーニング（対話） 期末試験とともにフィードバックペーパーを配布。試験で「わからなかったところや質問等」を記載し提出。その内容についてはメリーで返信する。 [備考] ①試験後の解説で、わからなかった問題・間違えた問題をチェックして、正しい答えを理解しておく。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>予習（15分） ①次の講義範囲の教科書を読み予習しておく。 ②前回の講義で出された「宿題」をやっておく。 復習（45分） ①配布プリントや教科書を参考にノートに「今日のおさらい」をまとめる。 ②講義時間の最後に行う「確認問題」をノートに貼って解説をつける（課題ノート）。 わからないことは、「フィードバックペーパーやアンケート用紙に記入する」、「メリーやメールで聞く」、「教員に直に聞きに行く」などして、必ず解消しておいてください。</p>
教科書	「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学」大橋 健一他著（医学書院）
参考書	<p>「新訂版クイックマスター病理学 第2版」堤 寛著（サイオ出版） 「こわいもの知らずの病理学講義」仲野 徹緒（晶文社） 「解明 病理学 第3版」青笹克之総編集（医歯薬出版） 「病理学概論」公益社団法人 東洋療法学校協会編 滝澤 登一郎・畠山 茂著（医歯薬出版） 「病理学概論 改訂第3版」公益社団法人 全国柔道整復学校協会監修 関根 一郎著（医歯薬出版）</p>
成績評価	定期試験（中間・期末）80%、小テストと課題ノート10%、平常点（フィードバックペーパー含む）10%より総合的に評価します。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 後藤 涉子 研究室 : 附属病院2階病理部 メールアドレス : s_goto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月一金曜日 14:00-17:00</p>
備考	<p>①「各学科の資格に関する実務経験の有無」 臨床検査技師、細胞検査士（国内・国際）、2級甲類臨床検査士（病理学、循環生理学）、博士（医学）市中病院、病理検査センター勤務を経て、現在も本大学附属病院病理部にて病理組織診検査、細胞診検査業務に従事する。その実務経験をもとに「病気の原因や成り立ちについて」授業をすすめる。 ②「この授業とディプロマポリシーとの関連」 ◎-1、○-2</p>

--	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
池谷 博 ・ 井上 郁			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	医療に従事する者は、医療関係法規に関する基本的理解が不可欠である。患者の権利（日本国憲法）、生命倫理（刑法）、医療事故（民法）などの基本法を踏まえ、厚生行政、医療法、薬事関連法規、医師法、保健師助産師看護師法などの医療関係法規の中で医療現場に必要な事項を理解する。		
授業計画	1	法の概念 法の一般的・基本的事項の概説。厚生行政のしくみを講義する。	
	2	看護法、医事法 保健師助産師看護師法および看護師等の人材確保の促進に関する法律の概説。保健師・助産師・看護師・准看護師の養成、免許取得要件、業務、義務に関して講義する。日本の医事法体系（医療法、医療関係資格法、保健医療福祉資格法、医療を支える法）に関して講義する。	
	3	環境衛生法、環境法 環境衛生分野と看護とのかかわり、環境保全・公害対策における看護のかかわりに関して講義する。	
	4	福祉法、労働法と社会基盤整備 社会福祉に関する法律ならびに各行政サービスの概説。児童・高齢者虐待、生活保護支援に関して講義する。労働関係法令（労働基準法、労働安全衛生法、雇用保険法など）の基礎的知識に関して講義する。	
	5	保健衛生法 保健衛生法の目的、各法律（共通保健法、分野別保健法、感染症に関する法など）に関して講義する。	
	6	薬務法、社会保険法 薬務法の目的、法改正の背景、劇毒物の取扱い上の注意点などを概説。社会保障制度の仕組み、社会保険の種類・内容に関して講義する。	
	7	まとめ	
授業時間外の学習（準備学習等）について	新聞、マスコミ等に報道される日々の生活事例や医療関係記事に興味を持ち、自分の意見や考えを発言し、周囲の学生との意見交換の機会を持つよう心がける。また、興味を持った内容については図書館等において文献を読むなどし、自らが積極的に学習する時間を持つよう心がける。		
教科書	系統 看護学講座 看護関係法令 健康支援と社会保障 (4) 医学書院		
参考書	講義時に関連文献を適宜紹介する。		
成績評価	試験及び平常点、授業への出席状況等を総合的に評価する。		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 教授・池谷 博、助教・井上 郁 研究室 : 京都府立医科大学大学院法医学教室 メールアドレス : hoi@koto.kpu-m.ac.jp オフィスアワー : 上記、メールアドレスまで連絡のこと。		
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-2, ○-1, ○-3		

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
大山 由紀子			
添付ファイル			

授業目標	1) 看護の基本となる概念が理解できる 2) 看護の機能と役割が理解できる 3) 看護実践の基盤となる倫理、法律、医療安全について基本的事項が理解できる 4) 看護専門職者の教育とキャリア形成について学び、看護を学ぶ自分と向き合う動機づけができる
授業計画	<p>1回目 看護（学）への導入、看護の本質（概念） 【到達目標】 ・看護とは何かを考えることができる ・看護の役割・機能拡大について理解できる ・看護の本質 看護の歴史 中世における看護 近代における看護 ・変化している看護 【授業形態】 課題学習</p> <p>2回目 看護の対象となる個人・家族・地域の理解 【到達目標】 ・統合体としての人間について理解できる ・健康の概念について理解できる ・家族とその機能について知り、家族の価値について理解することができる ・人間存在とは、 エリクソンの発達課題 マズローのニード QOLの概念 ・健康とは WHOの定義 ・家族とその機能 【授業形態】 課題学習</p> <p>3回目 看護実践の心理・社会的理解 【到達目標】 ・自己理解、他者理解の重要性について理解できる ・ストレス/コーピング・ストレスマネジメント・ソーシャルサポートについて理解できる ・医療現場におけるスピリチュアリティと看護師の死生観について考える ・自己と他者 役割 ・ストレスとコーピング ・スピリチュアルケアと癒し 【授業形態】 オンライン授業</p> <p>4回目 看護実践の基盤 【到達目標】 ・看護倫理に関する基本的知識と倫理的意思決定を行うための枠組みが理解できる ・看護実践の基盤となる技術の特性について理解できる ・看護技術とは 看護技術の特性 技術における安全性・安楽性・自立支援 ・倫理とは 看護倫理の原則 自己決定権 インフォームドコンセント 【授業形態】 オンライン授業</p> <p>5回目 看護実践の基盤 【到達目標】 ・看護を取り巻く主な法律を理解する ・保健師助産師看護師法について理解し、看護の果たす役割と背景を考えることができる ・看護の責任と医療安全について考えることができる ・保健師助産師看護師法 看護教育改革 ・医療安全の必要性 医療事故とヒューマンエラー 【授業形態】 オンライン授業</p> <p>6回目 看護の展開 チーム医療と看護 【到達目標】 ・看護過程の一連のプロセスが理解できる ・チーム医療の目的と多職種連携について理解できる ・報告、記録の重要性について理解できる ・クリティカルシンキングとは ・看護過程とは、 看護記録の構成要素と記録時の注意点 ・チーム医療と看護者の役割 【授業形態】 オンライン授業</p> <p>7回目 専門性の探求 看護の展望 【到達目標】 ・看護教育制度の変遷について理解できる</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職としての責務について理解できる ・EBNとは何かが理解できる ・看護教育制度の変遷 ・専門職の定義 専門看護師 認定看護師 ・EBNとは <p>【授業形態】 オンライン授業</p> <p>8回目 終講筆記試験</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1～7回の内容を復習することにより看護学概論のまとめができる ・筆記試験で60点以上を取得できる <p>【授業形態】 筆記試験</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	教科書を熟読し、配布プリントと合わせて理解に努めること 課題は授業の進捗を踏まえ、その都度指示する
教科書	1) 「看護学原論 改訂第3版」南江堂
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 1) 「対訳 看護覚え書」うぶすな書院 2) 「看護の基本となるもの」日本看護協会出版社 3) 「新版・看護の本質」現代社
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> 1) 授業への出席が3/5以上であること 2) 授業への参加度、課題提出と内容、試験結果などを踏まえ総合的に評価する
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 大山 由紀子</p> <p>研究室 : 10号館 8階 803研究室</p> <p>メールアドレス : y_ooyama@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 講義内で相談後対応</p>
備考	公立病院の看護管理者及び看護専門学校での管理者を経験。 その実務経験をもとに看護学概論の授業を行う
	この授業とDPとの関連 「◎-2」「○-1, 3」

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
深田 實江子			
添付ファイル			

授業目標	1) 看護理論とは何かを理解できる 2) 看護の概念と理論との関連性を述べるができる 3) 主な看護理論家とその理論の概要がわかる 4) 看護理論の看護実践への活用がわかる
授業計画	<p>1回目 看護理論の基本的理解 【到達目標】 ・看護理論とは何かがわかる ・看護の概念と看護理論の関連がわかる 【授業形態】講義形式</p> <p>2回目 ナイチンゲール 【到達目標】 ・ナイチンゲールと「看護覚え書」が書かれた時代背景の概要がわかる ・「看護覚え書」を読んで、基礎看護学実習に対する動機づけができる 【授業形態】講義形式+グループワーク</p> <p>3回目 ヘンダーソン 【到達目標】 ・ヘンダーソンと看護理論の成り立ちについて、その概要が理解できる ・「看護の基本となるもの」を読んで、基礎看護学実習に対する動機づけができる 【授業形態】講義形式+グループワーク</p> <p>4回目 ペプロウ、ウィーデンバック、オーランド 【到達目標】 ・三者の人間関係理論、プロセスレコードについて概要を理解し、実践への活用の動機づけができる 【授業形態】講義形式+グループワーク+発表</p> <p>5回目 トラベルビー、オレム 【到達目標】 ・トラベルビー「人間対人間の看護」の視点と実践への活用がわかる ・オレムの「セルフケア理論」の視点と実践への活用がわかる 【授業形態】講義形式+グループワーク+発表</p> <p>6回目 ロイ、ワトソン 【到達目標】 ・ロイの「適応看護モデル」の視点と実践への活用がわかる ・ワトソンの「ヒューマンケアリング」の視点と実践への活用がわかる 【授業形態】講義形式+グループワーク+発表</p> <p>7回目 ロジャーズ、アブデラ、ニューマン 【到達目標】 ・ロジャーズの看護科学理論の概要がわかる ・アブデラの21の看護問題理論の概要がわかる ・ニューマンのパターンで表現する健康理論の概要がわかる 【授業形態】講義形式+グループワーク+発表</p> <p>8回目 終講筆記試験 【到達目標】 ・12名の看護理論家について、それぞれ理論のキーワードがわかる ・学んだ看護基礎理論の1つを具体的に述べるができる 【授業形態】筆記試験</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	事前・事後学習を課す。教科書を熟読し、配布プリントと併せて理解に努めること
教科書	1) 「看護理論 改訂第3版」 筒井真優美編 南江堂 2) 「対訳 看護覚え書」 ナイチンゲール著 うぶすな書院 3) 「看護の基本となるもの」 ヘンダーソン著 日本看護協会出版会
参考書	1) ワークブックで学ぶナイチンゲール「看護覚え書」 メヂカルフレンド社 2) 看護師・看護学生のための「なぜ? どうして?」 メディックメディア
成績評価	筆記試験60%、課題レポート30%、授業での発表・授業態度10%で総合的に評価
担当教員の基本情報	担当教員名 : 深田実江子 研究室 : 10号館7階706研究室 メールアドレス : m_fukata@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義内で相談後対応
備考	①京大病院の循環器内科と市中病院の訪問看護ステーションに勤務。その実務経験をもとに看護基礎理論の授業を行う ②「この授業とディプロマポリシーとの関連」→「◎-2, ○-1, ○-3」

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
扇田千代 大山由紀子 深田實江子 他			
添付ファイル			

授業目標	<p>1) 看護技術の概念について理解を深めることができる</p> <p>2) 看護の対象となる人々の生活環境を整えるための基本的技術を身につけることができる</p> <p>3) 「安全・安楽」の原則を理解し、効率的な姿勢や動作に基づいた技術が修得できる</p> <p>4) 看護の対象となる人々の日常生活における「活動・休息」へのニーズを把握し、生活を支える看護介入の基礎を習得することができる</p>
授業計画	<p>第1回目 看護技術の概念・コミュニケーション</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護実践の構成要素には知識・技術・態度があることを理解する。 看護技術においてアートとサイエンスの側面から考えることができる。 看護実践と看護技術のつながりについて熟考することができる。 看護における相互作用とコミュニケーションの意義を理解し、効果的なコミュニケーションのための知識、技術、態度を習得する。 <p>・援助課程において患者の尊厳と権利を擁護する方法を学習する。</p> <p>【授業形態】 講義+対話</p> <p>第2回目 看護技術の概念・コミュニケーション</p> <p>【到達目標】 <到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 演習を通して円滑なコミュニケーション技術を習得する。 <p>【授業形態】 演習+プレゼンテーション</p> <p>第3回目 感染予防を推進する技術 (標準予防策・経路別予防策)</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染予防の意義やスタンダードプリコーションの概念が理解できる 標準予防策・経路別予防策・環境整備の必要性について理解できる <p>【授業形態】 講義+対話</p> <p>第4回目 感染予防を推進する技術 (標準予防策・経路別予防策・環境整備)</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 手洗い・エプロン・マスク・手袋の手技を習得することができる。 環境整備ができる。 <p>【授業形態】 演習</p> <p>第5・6回目 快適な環境を作る技術 (生活環境・ベッドメイキング)</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間にとっての環境の意味を理解し、健康的な生活環境を整えるための知識と援助方法を習得する。 健康が障害されて、生活していた環境の変更を余儀なくされた人間の闘病意欲を高める環境について、自力度に応じて環境のニーズを充足する方法を看護の視点からアセスメントできる。 <p>・援助の一環であるベッドメイキングができる。</p> <p>【授業形態】 講義+演習+対話</p> <p>第7・8回目 効率的で安楽な動きを作り出す技術 (安楽な体位・ボディメカニクス)</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ボディメカニクスの基本原理を理解し、援助課程において、患者と看護者双方が、安楽かつ安全な体位で、効果的・効率的にケアを実践する基本的方法を習得する <p>【授業形態】 講義+演習+対話</p> <p>第9回目 シーツ交換</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活環境のニーズを充足する方法としてのシーツ交換の意義が理解できる 臥床中の患者にとって安全・安楽なシーツ交換の方法が理解できる ボディメカニクスを活用しながら、シーツ交換が実施できる <p>【授業形態】 講義+演習</p> <p>第10・11回目 ベッドメイキング実技試験</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 清潔で安全な寝心地のよいベッドが作成できる ボディメカニクスを活用したベッドメイキングができる

<p>第12・13回目</p>	<p>【授業形態】技術試験 活動・運動を支援する技術（体位変換・床上運動・立位と歩行・移動・移送）</p> <p>【到達目標】 ・人間の活動・運動の意義を理解し、患者が健康生活を送る為に必要な援助の方法を習得する。 ・ボディメカニクスを活用しながら、安全安楽に体位変換・床上運動・立位と歩行・移動・移送が実施できる</p> <p>【授業形態】講義+演習+対話</p> <p>【</p>
<p>第14回目</p>	<p>まとめと筆記試験</p> <p>到達目標】 ・基礎看護援助論Ⅰのまとめができる ・筆記試験で60点以上を取得できる</p>
<p>授業時間外の学習（準備学習等）について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎看護援助論は履修する項目が多いので、講義までに教科書を読んで、ある程度理解して臨むこと ・各技術は、既習の技術が積み上げられて成立していくため、自己学習を行い次の項目に入るまでに既習技術はマスターしておくこと ・技術の自己学習（練習）のために、実習室は9：30～18：00まで使用可能。希望者は申請の上、自主的に練習する ・事前学習、事後学習は講義内で指示する。レポート等は必ず期限を守って提出のこと。 ・提出物はすべて成績評価の対象となる
<p>教科書</p>	<p>1) 「ナースィング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術」メディカ出版 3) 「看護がみえる①基礎看護技術」メディックメディア 4) 「看護がみえる②基礎看護技術」メディックメディア</p>
<p>参考書</p>	<p>1) 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院 2) 「看護技術プラクティス」学研</p>
<p>成績評価</p>	<p>講義演習の3/5以上の出席が定期試験受験の要件であり、また筆記試験60%以上の到達であることが成績評価の対象となる。その他提出されたレポート等を総合的に評価する。</p>
<p>担当教員の基本情報</p>	<p>担当教員名：扇田 千代 研究室：10号館 7階 711研究室 メールアドレス：c_oogida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p> <p>担当教員名：大山 由紀子 研究室：10号館 8階 803研究室 メールアドレス： オフィスアワー：</p> <p>担当教員名：深田 実江子 研究室：10号館7階706研究室 メールアドレス：m_fukata@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：講義内で相談後対応</p>
<p>備考</p>	<p>②「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-5, ○-1, ○-4</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修
担当教員			
深田 實江子			
配当学科：看護学科	時間数：60時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	1) 患者・看護師役割をとりながら、各看護ケアの根拠を理解し、対象のニーズに応じた具体的介入方法を身につける。 2) 講義・演習をつうじて看護職者として必要な知識・技術・態度を考察し、身につける。		
授業計画	1回目	オリエンテーション 看護技術の根拠をなすもの 環境調整技術 安全確保の技術 【到達目標】 ・基礎看護援助論Ⅱを学習するにあたって、その学習方法と演習方法がわかる ・環境を整える技術・寝床内環境についての意義を理解する ・環境の要素を理解し、具体的な調整のしかた・方法を理解する ・安全について考え、方法と技術を身につける 【授業形態】講義形式	
	2回目	食事援助技術 【到達目標】 ・自力で食事摂取ができない患者に対して、セルフケア能力・生活習慣を考慮した安全・安楽な食事介助ができる ・安全な経管栄養法のチューブ管理と栄養剤の注入方法を理解し、モデル人形を用いた経管栄養剤の準備と注入ができる 【授業形態】講義形式	
	3回目	食事援助技術 【到達目標】 ・自力で食事摂取ができない患者に対して、セルフケア能力・生活習慣を考慮した安全・安楽な食事介助ができる ・安全な経管栄養法のチューブ管理と栄養剤の注入方法を理解し、モデル人形を用いた経管栄養剤の準備と注入ができる 【授業形態】デモンストレーション+演習	
	4回目	食事援助技術 【到達目標】 ・自力で食事摂取ができない患者に対して、セルフケア能力・生活習慣を考慮した安全・安楽な食事介助ができる ・安全な経管栄養法のチューブ管理と栄養剤の注入方法を理解し、モデル人形を用いた経管栄養剤の準備と注入ができる 【授業形態】デモンストレーション+演習	
	5回目	排泄援助技術 【到達目標】 ・排泄のメカニズムと床上安静患者の安全・安楽な排尿、排便の援助と排泄後の清潔を保つ方法を理解する ・排便を促すケア：腹部マッサージ・浣腸・摘便の方法について理解する 【授業形態】講義形式	
	6回目	排泄援助技術 【到達目標】 ・排泄の援助技術として床上安静患者の安全・安楽な排尿、排便の援助と排泄後の清潔を保つ方法を理解する ・排便を促すケア：腹部マッサージ・浣腸・摘便の方法について理解する ・便器・尿器を用いた援助方法がわかり、実施することができる 【授業形態】デモンストレーション+演習	
	7回目	清潔・衣生活援助技術 総論 【到達目標】 ・看護における清潔の意味とその意義について理解する ・整容の意義と方法がわかる ・入浴/手浴/足浴/陰部洗浄/口腔ケアの意義と方法がわかる 【【授業形態】講義形式	
	8回目	清潔・衣生活援助技術 全身清拭・寝衣交換 【到達目標】 ・全身清拭の意義と方法がわかる ・床上安静患者の身体を清潔にする方法について理解する ・対象の健康状態を考慮した全身清拭が行える ・寝衣交換の方法を理解し、安全安楽に実施することができる 【授業形態】講義形式	
	9回目	清潔・衣生活援助技術 全身清拭・寝衣交換 【到達目標】 ・全身清拭の意義と方法がわかる ・床上安静患者の身体を清潔にする方法について理解する ・対象の健康状態を考慮した全身清拭が行える ・寝衣交換の方法を理解し、安全安楽に実施することができる 【授業形態】デモンストレーション+演習	

10回目	<p>清潔・衣生活援助技術 全身清拭・寝衣交換</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全身清拭の意義と方法がわかる ・床上安静患者の身体を清潔にする方法について理解する ・対象の健康状態を考慮した全身清拭が行える ・寝衣交換の方法を理解し、安全安楽に実施することができる <p>【授業形態】 演習</p>
11回目	<p>清潔・衣生活援助技術 全身清拭・寝衣交換</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全身清拭の意義と方法がわかる ・床上安静患者の身体を清潔にする方法について理解する ・対象の健康状態を考慮した全身清拭が行える ・寝衣交換の方法を理解し、安全安楽に実施することができる <p>【授業形態】 演習</p>
12回目	<p>清潔・衣生活援助技術 洗髪</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗髪の意義と方法がわかる ・床上安静患者の洗髪：ケリーパット、洗髪車、ドライシャンプー、洗髪台を用いた方法を理解し、患者の状態に合わせた援助方法を理解する ・対象に合わせた方法を選択し、安全・安楽な洗髪ができる <p>【授業形態】 講義形式+デモンストレーション</p>
13回目	<p>清潔・衣生活援助技術 洗髪</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床上安静患者の洗髪：ケリーパット、洗髪車、ドライシャンプー、洗髪台を用いた方法を知り、患者の状態に合わせた援助方法を理解する ・対象に合わせた方法を選択し、安全・安楽な洗髪ができる <p>【授業形態】 演習</p>
14回目	<p>清潔・衣生活援助技術 洗髪</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・床上安静患者の洗髪：ケリーパット、洗髪車、ドライシャンプー、洗髪台を用いた方法を理解し、患者の状態に合わせた援助方法を理解する ・対象に合わせた方法を選択し、安全・安楽な洗髪ができる <p>【授業形態】 演習</p>
15回目	<p>清潔・衣生活援助技術 手浴/足浴/フットケア</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足浴の意義と方法がわかる ・床上安静患者の身体を清潔にする方法について理解する ・対象の健康状態を考慮した足浴が行える <p>【授業形態】 講義形式+デモンストレーション</p>
16回目	<p>清潔・衣生活援助技術 手浴/足浴/フットケア</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足浴の意義と方法がわかる ・床上安静患者の身体を清潔にする方法について理解する ・対象の健康状態を考慮した足浴が行える <p>【授業形態】 演習</p>
17回目	<p>清潔・衣生活援助技術 手浴/足浴/フットケア</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足浴の意義と方法がわかる ・床上安静患者の身体を清潔にする方法について理解する ・対象の健康状態を考慮した足浴が行える <p>【授業形態】 講義形式+デモンストレーション+演習</p>
18回目	<p>清潔・衣生活援助技術 陰部洗浄/洗面/眼・耳・鼻の清潔 整容</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部位を清潔にする意義と安全なケアの方法を理解する ・セルフケア能力と生活習慣を考慮しつつ、安全安楽に各部位への清潔のケアが実施できる <p>【授業形態】 講義形式+デモンストレーション+演習</p>
19回目	<p>清潔・衣生活援助技術 口腔ケア</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔ケアの意義と安全な口腔ケアの方法を理解する ・セルフケア能力/生活習慣を考慮しつつ、安全安楽に口腔ケアが実施できる <p>【授業形態】 講義形式+デモンストレーション+演習</p>
20回目	<p>清潔・衣生活援助技術 口腔ケア</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔ケアの意義と安全な口腔ケアの方法を理解する ・セルフケア能力/生活習慣を考慮しつつ、安全安楽に口腔ケアが実施できる <p>【授業形態】 演習</p>
21回目	<p>環境整備技術</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境整備についての意義と方法がわかる ・ベッド周囲の環境整備を患者の状況に合わせて行う方法を理解し実施できる <p>【授業形態】 講義形式+演習</p>
22回目	<p>苦痛の緩和・安楽確保の技術</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審法についての理解と援助の実践ができる <p>【授業形態】 講義形式+デモンストレーション+演習</p>
23回目	<p>苦痛の緩和・安楽確保の技術 (演習)</p> <p>【到達目標】</p>

	<p>・ 審法についての理解と援助の実践ができる</p> <p>【授業形態】 演習</p> <p>24回目 技術確認</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今までに学んだ技術のそれぞれを最低6割以上は的確に実施することができる ・ 各項目につき最低3回以上練習して臨むことができる ・ 基礎看護学実習Ⅱで学んだことの復習を行うことができる <p>【授業形態】 技術試験</p> <p>25回目 技術確認</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今までに学んだ技術のそれぞれを最低6割以上は的確に実施することができる ・ 各項目につき最低3回以上練習して臨むことができる ・ 基礎看護学実習Ⅱで学んだことの復習を行うことができる <p>【授業形態】 技術試験</p> <p>26回目 技術確認</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今までに学んだ技術のそれぞれを最低6割以上は的確に実施することができる ・ 各項目につき最低3回以上練習して臨むことができる ・ 基礎看護学実習Ⅱで学んだことの復習を行うことができる <p>【授業形態】 技術試験</p> <p>27回目 東洋医学療法（ツボ療法）を看護技術に応用する</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東洋医学療法（特にツボ療法）について学び、それを清拭や足浴などの援助に活用することができる <p>【授業形態】 講義+デモンストレーション+演習</p> <p>28回目 筆記試験</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎看護援助論Ⅱで学んだことのまとめができる ・ 筆記試験で60点以上を取得できる <p>【授業形態】 筆記試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎看護援助論Ⅱは履修する項目が多いので、講義までに必ず教科書、参考書の該当箇所を読んで講義/演習にのぞむこと。 ・ 各技術は積み上げの学習であるので、次の項目に入るまでに空きコマや放課後の時間を計画的に利用し自己学習を行い、技術を順次マスターすること。 ・ 技術項目の自己学習（練習）のために、実習室は9:30～19:00まで使用できる。希望者は申請の上、自主的に練習すること。ただし、指導に応じず実習室の利用状況が悪い場合は利用を制限する場合がある。 ・ 事前学習、事後学習課題は講義内で指示する。レポート等は必ず期限を守って提出すること。提出物はすべて成績評価の対象とする。
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術」メディカ出版 2) 「看護がみえる①基礎看護技術」メディックメディア 3) 「看護がみえる②臨床看護技術」メディックメディア
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院 2) 「看護技術プラクティス」学研 3) 「看護ケアの根拠と技術」医師薬出版株式会社
成績評価	<p>講義演習の3/5以上の出席が定期試験受験の要件であり、また技術試験、筆記試験共に60%以上の到達であることが成績評価の対象となる。その他提出されたレポートや看護師としてふさわしい態度等を総合的に評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員 : 深田 實江子 研究室 : 10号館 7階 706研究室 メールアドレス : m_fukata@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義内で相談後対応</p> <p>担当教員 : 大山 由紀子 研究室 : 10号館8階803号室 メールアドレス : オフィスアワー :</p> <p>担当教員 : 扇田 千代 研究室 : 10号館 7階 711研究室 メールアドレス : オフィスアワー :</p>
備考	<ol style="list-style-type: none"> ①京大病院の循環器内科と市中病院の訪問看護ステーションに勤務。その実務経験をもとに基礎看護援助論Ⅱの授業と演習を行う。 ②「この授業とディプロマポリシーとの関連」→「◎-2, ○-1, ○-5」

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
大山 由紀子			
添付ファイル			

授業目標	1) ヘルスアセスメントの概念が理解できる。 2) バイタルサインの重要性と測定の意義、方法について理解することができる。 3) 原理原則に基づきバイタルサイン測定が実施できる。
授業計画	<p>第1回 ヘルスアセスメントの概念と治療的人間関係 【到達目標】 ・ヘルスアセスメントの概念と治療的人間関係の意義が理解できる。 ・フィジカルアセスメントの概念が理解できる。 ・バイタルサインの概念と重要性が理解できる。</p> <p>第2回 【授業形態】講義形式 体温の基礎知識と測定方法 【到達目標】 ・体温の基礎知識と測定方法、留意事項が理解できる。 ・体温の基礎知識と測定方法、留意事項が述べられる</p> <p>第3回 【授業形態】講義形式 呼吸の基礎知識と測定方法 【到達目標】 ・呼吸の基礎知識と測定方法、留意事項が理解できる</p> <p>第4回 【授業形態】講義形式 脈拍・血圧の基礎知識と測定方法 【到達目標】 ・脈拍・血圧の基礎知識と測定方法、留意事項が理解できる。 ・生命兆候を把握するためのバイタルサインの測定方法が理解できる。</p> <p>第5回6回 【授業形態】講義形式 血圧の基礎知識と測定方法 【到達目標】 ・血圧の基礎知識と測定方法が理解できる ・原理原則に基づいたバイタルサイン測定の方法が習得できる。</p> <p>第7回8回 【授業形態】デモンストレーション+演習 バイタルサインの測定方法 【到達目標】 ・原理原則に基づいたバイタルサイン測定の方法が習得できる。 ・バイタルサインの測定値からアセスメントし、記録することができる。</p> <p>第9回10回 【授業形態】演習 バイタルサインの測定：技術試験 【到達目標】 ・安全・安楽かつ正確にバイタルサイン測定が実施できる。</p> <p>第11回 【授業形態】技術試験 看護における観察・記録・報告 【到達目標】 ・看護における観察・記録・報告の意義と方法が理解できる</p> <p>第12回13回 【授業形態】講義形式+演習 課題に応じて実験検証 【到達目標】 ・バイタルサイン測定の変動因子が理解できる ・検証結果をまとめることができる</p> <p>第14回 【授業形態】実験+グループワーク 課題に応じて実験検証 【到達目標】 ・実験検証結果を発表することができる ・バイタルサイン測定の変動因子が理解できる</p> <p>第15回 【授業形態】プレゼンテーション 筆記試験 【到達目標】 ・ヘルスアセスメントⅠで学んだことのまとめができる ・筆記試験で60点以上を取得できる 【授業形態】筆記試験</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の機能と構造・生理学等の基礎知識がないと全身を系統的にアセスメントすることができないので、事前学習として必要な知識を予習し授業に臨むこと。特に体温・呼吸・循環に関する基礎知識が分らないと演習ができないため、十分に学習しておくこと。 ・技術の自己学習(練習)のために、実習室は9:30～19:00まで使用可能。希望者は申請の上、自主的に練習すること。 ・事前学習、事後学習課題は講義内で指示する。レポート等は、必ず期限を守って提出すること。提出物はすべて成績評価の対象とする。
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「フィジカルアセスメントがみえる」メディックメディア 2) 「基礎看護学③ 基礎看護技術」ナースングラフィカ メディカ出版 3) 「看護技術プラクティス」学研
参考書	1) 「看護ケアの根拠と技術」医師薬出版株式会社
成績評価	講義演習の3/5以上の出席が定期試験受験の要件であり、また技術試験、筆記試験共に60%以上の到達であることが成績評価の対象となる。その他提出されたレポート等を総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 大山由紀子 研究室 : 10号館 8階 803研究室 メールアドレス : y_ooyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義終了後に相談すること
備考	公立病院での実務経験及び看護教員経験をもとにヘルスアセスメント I の授業と演習を行う。
	この授業とDPとの関連 「◎-2」「○-1,5」

講義科目名称： 成人看護学概論

授業コード：

英文科目名称： Introduction to Adult Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
梅田 智恵子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義・GW	
添付ファイル			

授業目標	成人期の人々の特徴と健康上の問題を理解し、急性期・回復期・慢性期・終末期の健康障害の特徴と経過と、これらの人々の健康維持・促進ならびに健康障害時に活用される看護理論に視点を置き、幅広く効果的な援助の方法について学習する
授業計画	<p>1回 ライフサイクルからみた成人の成長と発達、身体機能の特徴と看護 [到達目標] 成人の定義、成長発達の特徴、身体機能の特徴と看護が理解できる。 [授業形態] 問題解決型学習・グループワーク [備考] 教科書12P～72Pを予習してくる。</p> <p>2回 成人の生活を理解する視点と方法、多様な健康観、学習の特徴と看護 [到達目標] 成人の生活、健康観の多様性と看護が理解できる。 アンドラゴジーモデル・エンパワーメントモデルを理解し、成人の学習の特徴と看護が理解できる。 [授業形態] 問題解決型学習・グループワーク [備考] 教科書74P～129Pを予習してくる。</p> <p>3回 成人期にみられる健康障害① [到達目標] 生活習慣・職業・生活ストレス・セクシャリティに関する健康障害が理解できる。 [授業形態] 問題解決型学習・グループワーク [備考] 教科書130P～180Pを予習してくる。</p> <p>4回 成人期にみられる健康障害② 成人への看護に有用な概念① [到達目標] 余暇活動・更年期にみられる健康障害が理解できる。 痛みの軌跡について考えることができる。 [授業形態] 問題解決型学習・グループワーク [備考] 教科書182P～214Pを予習してくる。</p> <p>5回 成人への看護に有用な概念② [到達目標] セルフケア論、ストレス・コーピングが理解できる。 [授業形態] 問題解決型学習・グループワーク [備考] 教科書216P～236Pを予習してくる。</p> <p>6回 成人への看護に有用な概念③ [到達目標] 危機理論、適応看護モデル、自己効力理論が理解できる。 [授業形態] 問題解決型学習・グループワーク [備考] 教科書238P～268Pを予習してくる。</p> <p>7回 ヘルスプロモーション [到達目標] ヘルスプロモーションの理念が成人の理解と看護に有効であることを知る。 [授業形態] グループワーク・ディスカッション [備考] 教科書270P～275Pを読み、ヘルスプロモーションと看護について自分の意見をまとめてくる。</p> <p>8回 テスト (60分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	毎授業時、「授業計画」の〔備考〕を参照して下さい。
教科書	ナーシング・グラフィカ 成人看護学?成人看護学概論 メディカ出版 教科書を元に授業を進めるので、必ず授業時毎回持参して下さい。
参考書	授業中に提示します。
成績評価	出席状況は大学学生便覧に準ずる 授業課題レポート20%、テスト80%で総合的に評価します。 授業課題レポートは、引用した出典文献を明記すること。 また他の学生のレポートの盗用はカンニング行為とみなして厳罰処分します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 梅田智恵子 研究室 : 10号館 8階 研究室805 メールアドレス : c_umeda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日15:00-16:00
備考	他学生の学習の妨げになるため、授業中の携帯・スマホ等のIT機器の持ち込みは禁止します。持ち込みが発覚した場合は、教室から退席とし欠席扱いとします。 梅田智恵子：急性期・亜急性期(循環器内科、脳神経内科、呼吸器科)9年、 外科系病棟8年、訪問看護4年、療養型病棟4年、看護管理14年の実務経験あり
	この授業とディプロマポリシーとの関連 ◎ー1、○ー2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
栗山 真由美			
添付ファイル			

授業目標	<p>超高齢社会下の保健・医療・福祉の観点から看護の対象である高齢者を多角的に捉え 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴が説明できる 高齢者の加齢変化と疾患や生活機能変化について理解し、それが生活にどのように影響しているのかを説明できる 高齢者看護の倫理と自己決定支援について説明できる</p>
授業計画	<p>第1回 老年看護学の概要/高齢者の理解 [到達目標] ①高齢者に関する統計的特徴をこれまでの変遷と将来予測まで説明できる ②高齢者の健康状態をアセスメントする方法を説明できる</p> <p>(準備) シラバスに目を通しておくこと (予習) 教科書「高齢者の健康と障害」P. 11-33を読んでくる</p> <p>第2回 [授業形態]講義形式 グループワーク 発表 高齢者とQOL/加齢に伴う変化 [到達目標] ①高齢者のQOLとは何かについて理解しさらにQOLを向上させる関わりについて説明できる ②加齢に伴う身体・精神・社会的な特徴について概要を説明できる</p> <p>(予習) ①高齢者へインタビューし、レポートにまとめる ②教科書「高齢者の健康と障害」P. 34-59を読んでくる</p> <p>第3回 [授業形態]講義形式 グループワーク 発表 高齢者をとりまく社会 [到達目標] ①高齢者が生活する場と家族の生活の場の特徴について説明できる ②高齢者を支える社会制度の全体像、介護保険制度の概要について説明できる</p> <p>(予習) 教科書「高齢者の健康と障害」P. 62-106を読んでくる</p> <p>第4回 [授業形態]講義形式 グループワーク 発表 長期療養施設等の看護 [到達目標] ①介護保険施設のそれぞれの特徴について説明できる ②介護保険施設における看護師の役割を述べる事ができる</p> <p>(予習) ①新聞記事を読み、高齢者の生活の場についてレポートにまとめる ②教科書「高齢者の健康と障害」P. 108-137を読んでくる</p> <p>第5回 [授業形態]講義形式 グループワーク 発表 高齢者看護の基本 [到達目標] ①老化および加齢による変化とは何か説明できる ②高齢者や家族のもつ能力や強みからそれを支える看護を考えることができる</p> <p>(予習) 教科書「高齢者の健康と障害」P. 140-159を読んでくる</p> <p>第6回 [授業形態]講義形式 グループワーク 発表 高齢者看護における倫理/高齢者によくみられる疾患 [到達目標] ①高齢者看護の倫理と自己決定の支援について説明できる ②高齢者に対する虐待の実態とその背景、対応の必要性和方法を考え、説明できる ③老化と加齢による変化に伴う疾患について説明できる</p> <p>(予習) ①新聞記事について自己の考えをレポートにまとめる ②教科書「高齢者の健康と障害」P. 159-213を読んでくる</p> <p>第7回 [授業形態]講義形式 グループワーク 発表 高齢者のヘルスプロモーション/生活を支える看護 [到達目標] ①高齢者のヘルスプロモーションの必要性について説明できる ②コミュニケーション能力の変化による生活の影響とそのアセスメント、セルフケア支援方法を</p>

	<p>説明できる</p> <p>(予習) 教科書「高齢者の健康と障害」P. 228-290を読んてくる</p> <p>[授業形態]講義形式 グループワーク 発表</p> <p>講義外(終講試験) 知識の整理とまとめ(60分)</p> <p>【到達目標】 老年看護学概論の学びの到達度を確認する</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>(予習と復習の徹底)</p> <p>予習: 授業予定の範囲の教科書を読んで授業に臨むこと。事前課題を課すことがある。60分程度</p> <p>復習: 新しいキーワードや十分理解できなかった内容は復習し次の講義に備えること。課題は授業の進行をふまえてその都度指示する 60分程度</p>
教科書	<p>「老年看護学-高齢者の健康と障害-」堀内ふきほか著(メディカ出版)第5版2019</p> <p>「老年看護学-高齢者看護の実践」堀内ふきほか著(メディカ出版)第4版2019</p>
参考書	<p>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子ほか著(医学書院)2018</p> <p>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態 疾患論」佐々木英忠ほか著(医学書院)2018</p>
成績評価	<p>定期試験60% 課題レポートおよび提出物等40%</p> <p>課題レポートや提出物等の期限が守られない場合減点の対象となる</p> <p>☆講義時配布したルーパーファイル(ポートフォリオ)を活用するため、指示された方法でまとめておくこと(紛失等は減点対象となる)</p> <p>再試験実施は1回のみとする</p> <p>欠席3回以上で定期試験を受けることができない</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 栗山 真由美</p> <p>研究室 : 10号館8階研究室</p> <p>メールアドレス : ma_kuriyama@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 随時 (メールにて約束をとること)</p>
備考	<p>授業時間開始までに着席すること</p> <p>総合病院にて地域医療連携、高齢者への運動指導、栄養管理等の経験を踏まえて講義を行う</p> <p>◎-2 ○-1.3</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
山下 八重子			
添付ファイル			

授業目標	<p>小児看護に必要な概念と理論を理解し、小児看護師の役割と機能について考える。子どもの権利の尊重、子どもの成長発達を理解し、子どもをとりまく社会問題のおよび健康問題と施策について考えることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の理念と用語と概念を理解する 2. 子どもの権利について理解する 3. 正常な成長発達を理解する 4. 子どもを取り巻く施策を理解する
授業計画	<p>第1回 小児看護の歴史と意義 「到達目標」 小児看護の歴史とその意義について学び小児看護の役割について述べられる 1. 小児看護の対象と役割を理解する 2. 小児看護の歴史と子育ての課題や養育環境について考えられる [授業形態] 講義形式</p> <p>第2回 子どもの権利と法律および母子保健施策 「到達目標」 子どもの権利と法律および母子保健施策について理解できる 1. 子どもの権利を保障するための法律や取り組みを理解する 2. 母子保健統計を理解し流れを読み解ける 3. 子どもを取巻く社会環境について考える事ができる [授業形態] 講義形式</p> <p>第3回 子どもの成長発達 「到達目標」 子どもの成長発達について学び、小児各期の特徴を理解し述べる事ができる 1. 成長発達の原則と小児各期の成長発達課題と健康問題を述べられる 2. セルフケアの発達を理解し発達の過程を述べられる [授業形態] 講義形式</p> <p>第4回 乳児期の子どもの成長発達と看護の特徴 「到達目標」 乳児期の子どもの成長発達と看護の特徴について理解し述べる事ができる 1. 乳児期の機能的発達を理解する 2. 心理・社会的発達の特徴を理解する 3. 乳児期の子どもと健康問題・養育環境について考える事ができる [授業形態] 講義形式</p> <p>第5回 幼児期の子どもの成長発達と看護の特徴 「到達目標」 幼児期の子どもの成長発達と看護の特徴について理解し述べる事ができる 1. 幼児期の成長発達の特徴を理解する 2. 心理社会的発達の特徴を理解する 3. 基本的生活習慣の確立の形成と支援について学び、発達の評価ができる [授業形態] 講義形式+レポート課題の通知</p> <p>第6回 学童期および思春期の子どもの特徴 「到達目標」 学童期および思春期の子どもの特徴について理解し述べる事ができる 1. 学童期・思春期の発達の特徴を理解する 2. 発達課題と健康問題について学び理解する 3. 学校保健法に基づく健康評価について理解する 4. 心の問題について考える事ができる [授業形態] 講義形式</p> <p>第7回 小児看護に用いる主な理論 「到達目標」 小児看護に用いる主な理論を学び小児を理解する 1. セルフケア理論 2. エリクソンの自我発達理論 3. ピアジェの認知発達理論 4. 母子関係論 5. 家族理論 [授業形態] 講義形式</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>(予習・復習の徹底)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに沿って教科書で講義予定の範囲を読んでおく (60分程度) ・復習として教科書・配布資料等を読み直す (60分程度)

	<ul style="list-style-type: none"> ・分らない文言があれば調べて理解できるようにしておくこと。 (授業時間外学習) ・子どもに関するニュース等を興味をもって見て、なぜそのような問題が起こっているのか考える。 ・子どもが身近にいない学生は、子どもの多い場所で子どもを観察しておく。 ・自己の母子手帳を見て、成長記録を知っておく。
教科書	ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 中野綾美編 (MCメディカ) 小児臨床看護論 小児臨床看護総論 医学書院
参考書	適宜紹介 母子健康手帳配布 (卒業まで失くさない) DENVER II 発達診断票配布 (国試終了まで失くさない)
成績評価	レポート課題の提出 20点 筆記試験 80点 (レポート提出が無い場合は試験は受けられない)
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山下八重子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : y_yamashita@meiji-u.ac.jp
備考	大阪府の総合病院で小児看護歴約15年 (小児外科・小児内科) の経験を踏まえて講義を行う
	この授業のDPとの関連 「◎-2」 「○-1・3」

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
坪倉 浩美			
添付ファイル			

授業目標	<p><授業概要> 女性のライフサイクルを通して、女性の成長・発達課題を理解し、リプロダクティブヘルス/ライツの視点から、女性と男性の性と生殖に関する健康問題について看護・援助方法について学ぶ。母性看護の歩みや現代社会における母性保健をめぐる課題について理解する。母性看護を実践するために必要な生命倫理について認識する。</p> <p><授業目標> 1. 母性に関連する主要概念を説明することができる。 2. 女性のライフサイクル各期における特性を、身体的、心理的、社会的側面から捉えて説明することができる。 3. 母性保健の現状や保健医療の仕組みを理解し、看護の役割や今後の課題を説明できる。 4. 生命の尊厳や倫理観について学び、自己の考えをまとめ、説明することができる。</p>
授業計画	<p>1 母性看護の基本となる概念1 母性、父性、リプロダクティブヘルスライツについて説明することができる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>2 母性看護の基本となる概念2 母性看護のあり方、母性看護における倫理について理解することができる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>3 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 母子保健統計の動向、母子保健に関連する施策について理解することができる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>4 母性看護の対象理解 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化について理解することができる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>5 リプロダクティブヘルスケア1 家族計画、性感染症、人工妊娠中絶、喫煙女性、性暴力を受けた女性、児童虐待の現状を把握し、必要な看護を話し合い、理解することができる。 【授業形態】グループワーク</p> <p>6 リプロダクティブヘルスケア2 家族計画、性感染症、人工妊娠中絶、喫煙女性、性暴力を受けた女性、児童虐待の現状を把握し、必要な看護を説明することができる 【授業形態】GWと発表</p> <p>7 女性のライフステージ各期における看護 思春期・成熟期・更年期・老年期の看護を理解することができる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書をもとに、各授業のタイトルに関連するページを事前学習(予習60分)し、授業で学修した内容を整理してまとめて下さい(復習60分)。
教科書	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 森恵美他 医学書院
参考書	・ウイメンズヘルスナーシング 女性のライフサイクルとナーシング 女性の生涯発達と看護 高橋真理他 NOUVELLE HIROKAWA ・ウイメンズヘルスナーシング ウイメンズヘルスナーシング概論 女性の健康と看護 村本淳子他 NOUVELLE HIROKAWA ・母性看護学(1):概論・リプロダクティブヘルスと看護 編集申込さと子他 メディカ出版
成績評価	定期試験70% 課題レポート30%
担当教員の基本情報	坪倉浩美 研究室：10号館8階研究室 メールアドレス：h_tubokura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー 随時(事前に連絡をください)
備考	坪倉浩美 助産師として長年病院で勤務し経験豊富。その実務経験をもとに「母性看護学概論」について授業を進める
	この授業のD Pとの関連 「◎—2」 「○—1・3」

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
戸田 一男			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義・対話	グループワーク
添付ファイル			

授業目標	目標：精神看護に必要な基礎的知識について学ぶことができる。 概要：教科書および配布資料を用いて、精神看護に関する知識を網羅的に学ぶことができる。
授業計画	<p>1回目 精神医療の現状と精神看護の目指すもの [到達目標] 精神医療の現状と精神看護の目的について理解することができる。</p> <p>2回目 「精神の障害」とは何か [到達目標] 「精神の障害」とは何であるのかを理解するとともに、学生自身の考えを述べるすることができる。</p> <p>3回目 こころの問題を理解するための様々な理論 (1) [到達目標] 自我と自己・知能・意識・思考・認知・感情について理解することができる。</p> <p>4回目 こころの問題を理解するための様々な理論 (2) [到達目標] フロイトの精神分析の基本的な考え方について理解することができる。</p> <p>5回目 こころの問題を理解するための様々な理論 (3) [到達目標] エリクソンの発達理論・対象関係論等を理解することができる。</p> <p>6回目 危機介入とストレス [到達目標] 危機介入とストレスに関する基本的な考え方について理解することができる。</p> <p>7回目 こころの問題と家族及び集団との関係 [到達目標] こころの問題にも影響を及ぼす家族及び集団との関係性について学ぶことができる。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し、講義で学修した内容をまとめて下さい。 合わせて1時程度。
教科書	系統看護学講座 「精神看護の基礎」 精神看護学① (医学書院)
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験および提出課題、授業への参加によって評価する。 (定期試験70%・レポートおよび受講態度30%)
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 戸田一男 研究室 : 10号館8階807研究室 メールアドレス : k_toda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (精神看護学実習のため病院出張以外)</p> <p>担当教員名 : 梶川拓馬 研究室 : 10号館7階713教室 メールアドレス : t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (精神看護学実習のため病院出張以外)</p> <p>担当教員名 : 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :</p>
備考	戸田教員：精神科領域での多岐にわたる豊富な臨床経験をもとに精神看護学に必要な基本的知識についての講義を行う。 梶川教員：精神科領域での臨床経験をもとに精神看護学に必要な基本的知識についての講義を行う。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-3、○-2、○-1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
深田 實江子 大山 由紀子 扇田 千代 他			
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 様々な治療の場と看護活動を見学し、療養している看護の対象を理解する</p> <p>【到達目標】 看護援助の見学・体験を通して看護の機能と役割について学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 療養中の人々の療養環境を知る 2) コミュニケーションを通して療養中の人々を知る 3) 日常生活行動の援助の体験を通して看護援助の重要性がわかる 4) 病院の機能と役割を知り医療チームにおける看護の機能と役割を考える 5) 看護学生としてふさわしい行動をとることができる 6) 実習経験をとおりて看護について考えることができる
授業計画	<p>1日目 病院オリエンテーション、病棟オリエンテーション</p> <p>【到達目標】 病院実習（1日目） 午前：病院オリエンテーションを通して、病院の概要および看護部の役割と組織について学ぶ 病院施設内見学（外来・病棟・手術室・検査室等）を通して病院施設の機能を知る 外来診察見学を通して、各診療科・処置室等を知る 午後：病棟オリエンテーション カンファレンスを行い、一日の実習の振り返りとまとめができる</p> <p>【授業形態】 実習</p> <p>2日目 病院実習2日目</p> <p>【到達目標】： 病院実習（2日目）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①患者の生活の場を知る ②患者による援助方法の違いを知る ③コミュニケーションを通して療養中の人々を知る ④カンファレンスを通して実習の学びを整理する <p>【授業形態】 実習</p> <p>3日目 病院実習3日目</p> <p>【到達目標】 病院実習（3日目）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①日常生活行動の援助の体験を通して、新重要性がわかる ②看護師と共に安全・安楽に留意して看護援助を行う（環境整備、理念交換、車椅子移送など） ③患者の全体像をとらえる ④カンファレンスを通して実習の学びを整理する <p>【授業形態】 実習</p> <p>4日目 鍼灸センター・リハビリテーションセンター見学実習</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①鍼灸センター・総合リハビリテーションセンターの特徴が述べられる ②医療チームにおける多職種の役割を連携について考える ③カンファレンスを通して実習の学びを整理する <p>午前：鍼灸センター見学実習 午後：リハビリテーションセンター見学実習</p> <p>【授業形態】 見学実習</p> <p>5日目 実習のまとめ・発表会</p> <p>【到達目標】 ・実習目標に沿って意見交換することで学習を深め、学びを共有することができる</p> <p>【授業形態】 グループワーク+発表会</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「基礎看護援助論 I」「ヘルスアセスメント I」で学んだ知識・技術を整理しておく（人権尊重と安全・安楽・自立が保証されるように技術練習は必ず行うこと） 2) 「看護基礎理論」の復習（看護とは何か、という知識の整理）
教科書	実習要項を事前に配布する
参考書	「看護学概論」「看護基礎理論」「基礎看護援助論 I」「ヘルスアセスメント I」で学習したテキスト・資料、及び紹介した文献
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> 1) 実習時間の5分の4以上の出席がなければ評価対象とはならない 2) 実習目標達成度を実習評価表、実習姿勢、実習記録（レポートを含む）により評価する
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：深田 實江子 研究室：10号館 7階 706研究室 メールアドレス：m_fukata@meiji-u.ac.jp</p>

	<p>オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 大山 由紀子 研究室 : 10号館 8階 803研究室 メールアドレス : オフィスアワー :</p> <p>担当教員名 : 扇田 千代 研究室 : 10号館 7階 711研究室 メールアドレス : オフィスアワー :</p> <p>担当教員名 : 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :</p>
備考	<p>①京大病院の循環器内科と市中病院の訪問看護ステーションに勤務。その実務経験をもとに基礎看護学実習Ⅰの実習指導を行う。他、病院実務経験を経た8名の教員がそれぞれ実習指導を行う</p> <p>②「この授業とディプロマポリシーとの関連」→「◎-2, ○-1, ○-3」</p>
	<p>[実習病院]</p> <p>綾部市立病院 亀岡市立病院 草津総合病院 明治国際医療大学附属病院 明治国際医療大学附属鍼灸センター 明治国際医療大学附属病院総合リハビリテーションセンター 市立大津市民病院</p>
	<p>[実習方法]</p> <p>様々な治療の場と看護活動の見学, 及び指導のもとに可能な援助の体験を行う</p>
	<p>授業とディプロマポリシーとの関連</p> <p>◎-2, ○-1, ○-5</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	必修
担当教員			
池本 敬博			
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ウォーキング・ジョギングを中心に陸上競技の歩く・走る・跳ぶ・投げるを通して、自己の健康管理と体力向上、運動の知識を学ぶことができるようになる。 ウォーキングが習慣化すると、ほとんどの生活習慣病が予防・改善できることを学べる。 生活習慣病の予防と改善のための健康運動の基礎を理解できるようになる。体力測定方法を学べる。 地域住民との合同健康ウォーキングを通して、コミュニケーション方法を学べる機会になる。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス ウォーキング・ジョギングを中心に陸上競技を通して、心肺機能の向上から生活習慣病の予防と改善のための運動実践と体力測定方法を体験理解できる。</p> <p>2回目 ウォーキング1 健康ウォーキング理論 屋外ウォーキング1 (グラウンド周回) ウォーキングの目的・効果・強度・頻度・注意事項・フォーム・スピードを体験理解できる。</p> <p>3回目 ウォーキング2 屋外ウォーキング2 (コースA) 持久力向上を目的とした心肺持久力機能の向上を体験理解できる</p> <p>4回目 ウォーキング3 屋外ウォーキング3 (コースB) 持久力向上を目的とした心肺持久力機能の向上を体験理解できる</p> <p>5回目 体力測定 体力測定の方法1 体力測定(握力・体前屈)を通して、その実施方法を体験理解できる。</p> <p>6回目 体力測定 体力測定の方法2 体力測定(反復横跳び・上体おこし)を用いて、その実施方法を体験理解できる。</p> <p>7回目 陸上競技(競歩) 屋内で100mウォーキングタイム測定1 ウォーキングタイム測定により、自己の歩行スピードを体験理解できる</p> <p>8回目 陸上競技(跳躍) 屋内で立幅跳び測定1 立幅跳び測定により、自己の脚筋力・瞬発力を体験理解できる</p> <p>9回目 陸上競技(投擲) 屋内で砲丸投げ測定1 室内メデイションボール砲丸投測定により、自己の投擲力・筋力を体験理解できる</p> <p>10回目 陸上競技(ハードル) ミニハードル走から巧緻性向上と、自己の歩行・ランニングスピード向上を体験理解できる。</p> <p>11回目 陸上競技(競歩) 屋外陸上競技場で100mウォーキングタイムを測定2 歩行スピードの向上が生活習慣病予防・健康づくりの指標となることを体験理解できる。</p> <p>12回目 陸上競技(跳躍) 屋内で立幅跳び測定2 脚筋力・瞬発力向上が生活習慣病予防・健康づくりの指標となることを体験理解できる。</p> <p>13回目 陸上競技(投擲) 屋内で砲丸投げ測定2 全身筋力・投擲力向上が生活習慣病予防・健康づくりの指標となることを理解体験理解できる</p> <p>14回目 健康ウォーキング実践 地域住民との合同健康ウォーキング(校内コース) 地域住民との交流を通して、ウォーミングアップ方法・グループディスカッション・コミュニケーション方法を体験理解できる。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	講義後に柔軟やストレッチを行うこと。 各実技タイトルを事前学習(予習30分)し、実技で学修した内容をまとめて下さい(復習30分)。
教科書	指定しない
参考書	指定しない
成績評価	授業回数の5分の4以上の出席(欠席は2回までとする)。 授業の取り組み姿勢と態度、パフォーマンス・スキル、コミュニケーション・スキル、服装・シューズなどを加味して総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 池本 敬博 研究室 : 体育館・教員室

	メールアドレス : iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	健康運動指導士として医療機関における運動療法教室5,000回と外部運藤指導・講演2,000回の実務経験をもとに、健康運動実践について実技指導を行う。 服装は運動に適した服装、室内シューズ。
	この授業のディプロマポリシーは○-1 ◎-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	1	選択必修
担当教員			
西尾 庄平			
添付ファイル			

授業目標	<p>〔授業概要〕</p> <p>生涯を通じて健康維持増進を図ることへの関心が高まって以来久しいが、それを楽しく実践でき、しかも長続きさせられる手段の一つとして、ネット競技型スポーツ活動は有効である。ネット競技型スポーツの特徴は、ネットを挟んで自分たちの陣地をチームで攻防する。これは、チームの結団が求められ、攻めの技を発揮する時も、単なる技比べだけではなく、同時に相手チームの動きを洞察する能力が求められる。本時では、「バドミントン・バレーボール」をとりあげる。この授業は、先ずルール把握と基本技術を習得し仲間づくりを兼ねる。その後は、主にゲーム形式を中心として展開し、戦術を練るグループコミュニケーション能力や応用技術を習得する。本時の受講生は、「基礎体力の維持増進を一生涯工夫する能力と、それを実践する運動習慣を身に付けた人」と言われるようになることを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1講 ガイダンス 〔到達目標〕 体育館に集合し諸注意および授業の進め方について理解できる。 予習：シラバスに目を通しておく（35分） 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p> <p>第2講 バドミントン（1）基本・基礎技術の練習 〔到達目標〕 グリップと構え、基本ストロークの動作を実践し理解できる。 予習：図書館の資料やインターネットの動画サイトでプレーや動きの全体を見ておく ルールおよび授業内で行う動作等の練習方法を調べておく（35分） 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p> <p>第3講 バドミントン（2）基本・基礎技術の練習 〔到達目標〕 サーブとスマッシュの動作を実践し理解できる。 予習：授業内で行う動作等の練習方法を調べておく（35分） 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p> <p>第4講 バドミントン（3）基本・基礎技術の練習 〔到達目標〕 プッシュとハイクリアの動作を実践し理解できる。 予習：授業内で行う動作等の練習方法を調べておく（35分） 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p> <p>第5講 バドミントン（4）簡易ゲーム 〔到達目標〕 ダブルス試合における戦術を理解できる。またダブルスの簡易ゲームを実践する。 予習：配布資料を見てルールならびに審判法について調べておく またダブルスの戦術・戦略を調べておく（35分） 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p> <p>第6講 バドミントン（5）応用技術とゲーム 〔到達目標〕 正規ルールが理解できる。またゲームを実践する（半面シングルスでゲーム進行のルールを覚える） 予習：シングルの戦術・戦略の動き方を調べておく（35分） 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p> <p>第7講 バドミントン（6）応用技術とゲーム 〔到達目標〕 正規ルールが理解できる。また、ゲームを実践する（ダブルスでのゲーム進行のルールを覚える） 予習：ダブルスの戦術・戦略におけるペアの動き方を調べておく（35分） 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p> <p>第8講 バドミントン（7）ゲーム 〔到達目標〕 ダブルスゲームを実践する。 予習：ダブルスの戦術・戦略におけるペアの動き方を調べておく（35分） 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p> <p>第9講 バレーボール（1）基本・基礎技術の練習 〔到達目標〕 正確なフォームでのパスの動作を実践し理解できる。 予習：図書館の資料やインターネットの動画サイトでプレーや動きの全体を見ておく ルールおよび授業内で行う動作等の練習方法を調べておく（35分） 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく（35分）</p> <p>第10講 バレーボール（2）基本・基礎技術の練習 〔到達目標〕 パス、レシーブ、サーブの動作を実践し理解できる。 予習：授業内で行う動作等の練習方法を調べておく（35分）</p>

	<p>復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく (35分)</p> <p>第11講 バレーボール(3) 基本・基礎技術の練習 [到達目標] レシーブ、トス、アタックの三段攻撃の動作を実践し理解できる。 予習：授業内で行う動作等の練習方法を調べておく (35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく (35分)</p> <p>第12講 バレーボール(4) 簡易ゲーム [到達目標] 試合における戦術を理解できる。また簡易ゲームを実践する。 予習：戦術を調べておく (35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく (35分)</p> <p>第13講 バレーボール(5) 応用技術とゲーム [到達目標] 正規ルールが理解できる。またゲームを実践する。(コミュニケーション能力や応用技術を習得する) 予習：インターネットの動画サイトでプレーや動きの全体を見て戦術を調べておく ルールならびに審判法を確認しておく (35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく (35分)</p> <p>第14講 バレーボール(6) ゲーム [到達目標] ゲームを実践する。 予習：インターネットの動画サイトでプレーや動きの全体を見て戦術を調べておく (35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく (35分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	資料を集め、バドミントンとバレーボールの自分のルールブックを作成する。 就こうとする職業の専門的視点から見た、「高齢者向け体力づくりトレーニングメニュー」を作成する。
教科書	必要に応じて適宜資料等を配布します。
参考書	必要に応じて適宜資料等を配布します。
成績評価	運動実践(運動実践の状況、事前の自己調整等含む) 40% 技能(到達度、進歩度合等) 30% 理解(技術・ルール等) 20% 態度(積極性・協調性・授業時の学習態度等) 10% の割合で点数を配分し、合計点により総合評価する
担当教員の基本情報	担当教員名 : 西尾庄平 メールアドレス : s_nishio@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : メールで受け付ける
備考	服装は、運動に適した服装、屋内シューズ。 水分補給は、水筒・ペットボトルなどを持参し、小まめな水分補給で自己管理。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5, ○-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	選択
担当教員			
池本 敬博			
添付ファイル			

授業目標	医療現場で行われている生活習慣病予防と改善のための運動療法を体験理解し、健康づくりのための楽しい運動を的確に判断できるようになる。また、医療人として集団運動指導ができる技術とコミュニケーション能力が向上する。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス 医療現場で行われている生活習慣病予防と改善、病態別運動療法、ロコモティブシンドローム、転倒予防、介護予防、認知症予防のための運動療法を体験理解できる。また、健康づくりのための楽しい運動習慣確立を目指す集団指導テクニックについて体験理解できる。毎回、共通運動種目又は体操を体験できる。</p> <p>2回目 運動療法1 幼児期から高齢期までの健康運動、生活習慣病の予防と改善、病態別、ロコモティブシンドローム、転倒予防、介護予防、認知症予防運動などの運動療法を体験理解できる。</p> <p>3回目 運動療法2 ウォーキング1 理論と屋外実践(コースA) 生活習慣病予防と改善のための健康ウォーキングを体験理解できる。</p> <p>4回目 運動療法3 ボール運動1 布ボール、軽量ハンドボール、2kgメディシンボールを使い、筋力・巧緻性向上運動を体験理解できる。</p> <p>5回目 運動療法4 ボール運動2 バッティング系(ノックと野球)から、筋力・巧緻性向上運動を体験理解できる。</p> <p>6回目 運動療法5 手作り用具使用1 シート・ウォーキングから、健康づくりのための集団運動を体験理解できる。転倒予防・認知症予防運動を体験理解できる。 集団バドミントン1から、健康づくりのための楽しい運動を体験理解できる。</p> <p>7回目 運動療法6 手作り用具使用2 スクエアシートから、転倒予防・認知症予防運動を体験理解できる。 集団バドミントン2から、健康づくりのための楽しい運動を体験理解できる。</p> <p>8回目 運動療法7 集団運動1 輪投げから、集団運動と筋力・バランス運動を体験理解できる。 集団バドミントン3から、健康づくりのための楽しい運動を体験理解できる。</p> <p>9回目 運動療法8 集団運動2 ドッジビーから、楽しい集団運動を体験理解できる。 集団ソフトバレーボール1から、健康づくりのための楽しい運動を体験理解できる。</p> <p>10回目 運動療法9 集団運動3 集団ソフトバレーボールゲーム2から、楽しい集団ゲームを体験理解できる。 「どうすれば楽しくチームワークが向上するか」をテーマとしたグループワークを体験できる。</p> <p>11回目 運動療法10 集団運動4 集団ソフトバレーボールゲーム3から、楽しい集団ゲームを体験理解できる。 「どうすれば楽しくチームワークが向上するか」をテーマとしたグループワークを体験できる。</p> <p>12回目 運動療法11 集団運動5 ミニハードル走から、リズムとバランス運動を体験理解できる。 集団バドミントンから、健康づくりのための楽しい運動を体験理解できる。</p> <p>13回目 運動療法12 集団運動6 パターゴルフから、健康づくりのための楽しい運動を体験理解できる。 集団バドミントンから、楽しい集団運動を体験理解できる。</p> <p>14回目 運動療法13 集団球技のまとめ 集団バドミントン、ソフトバレーボール・卓球から、健康づくりのための楽しい集団運動を体験理解できる。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)に	講義前後に柔軟やストレッチを行うこと。 各実技タイトルを事前学習(予習30分)し、実技で学修した内容をまとめて下さい(復習30分)。

ついて	
教科書	指定しない
参考書	指定しない
成績評価	授業回数の5分の4以上の出席(欠席は2回までとする)。 授業の取り組み姿勢と態度、パフォーマンス・スキル、コミュニケーション・スキル、服装・シューズなどを加味して総合評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名:池本 敬博 研究室:体育館・教員室 メールアドレス:iketurn@meiji-u.ac.jp オフィスアワー:随時
備考	健康運動指導士として医療機関における運動療法教室5,000回と外部運藤指導・講演2,000回の実務経験をもとに、健康運動実践について実技指導を行う。 服装は運動に適した服装、室内シューズ。
	この授業のディプロマポリシーは○-4 ◎-5

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
山谷 真			
配当学科：看護	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	各人権の意義や統治機構に関する基本原理を理解する。憲法問題につき興味関心を持ち、法的な思考に慣れる。		
授業計画	第1講	日本国憲法入門 [到達目標] 法律との違いを意識しながら憲法の意義を説明できる。	
	第2講	[備考] 幸福追求権・平等権 [到達目標] 憲法第13条・第14条の意義を説明できる。憲法第13条・第14条に関連する判例を指摘できる。	
	第3講	[備考] 自由権1 [到達目標] 憲法第20条・第21条等の意義をそれぞれ説明できる。憲法第20条・第21条に関連する判例を指摘できる。	
	第4講	[備考] 自由権2 [到達目標] 憲法第22条・第31条等の意義をそれぞれ説明できる。憲法22条等に関連する判例を指摘できる。	
	第5講	[備考] 社会権 [到達目標] 憲法25条の意義を説明できる。憲法25条に関連する判例を指摘できる。	
	第6講	[備考] 請求権・新しい人権 [到達目標] 請求権や新しい人権の意義を説明できる。新しい人権に関連する判例を指摘できる。	
	第7講	[備考] 参政権 [到達目標] 参政権の意義を説明できる。日本の選挙制度を説明できる。	
	第8講	[備考] 国会 [到達目標] 国会の権能や衆議院と参議院の違いを説明できる。いわゆる衆議院の優越の意義やそれがどのような場合に認められるかを指摘できる。	
	第9講	[備考] 内閣 [到達目標] 内閣の組織や権能について説明できる。	
	第10講	[備考] 裁判所 [到達目標] 裁判所の組織や権能について説明できる。	
	第11講	[備考] 地方自治 [到達目標] 「地方自治の本旨」や地方公共団体の仕組み（首長と議会の関係など）につき説明できる。	
	第12講	[備考] 天皇・平和主義その他 [到達目標] 日本国憲法における天皇の地位を説明できる。憲法9条の意義について説明できる。	
	第13講	[備考] 医療をめぐる法律関係 [到達目標] 民事法・刑事法の基礎をふまえて、医療事故等が発生した場合の法律関係につき説明できる。	

	<p>[備考] 第14講 これまでの振り返り（評価含む） [到達目標] これまでの学習を振り返り、各自の習得状況を確認する。</p> <p>[備考]</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>既習事項の確認や指示された問題（特に公務員試験問題）の演習を行う。</p> <p>教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し（予習30分）し、講義で学修した内容をまとめて下さい（復習30分）。</p>
教科書	プリントを使用する。
参考書	<p>芦部 信喜（高橋 和之補訂）『憲法 第七版』（岩波書店）。</p> <p>その他講義において指示するもの。</p>
成績評価	<p>最終試験 50%・レポート（毎回終了時に提出するシート含む） 30%</p> <p>授業態度など平常点 20%</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 山谷真 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後</p>
備考	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-2</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
中村 雄一			
配当学科：看護	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語としての手話を学び、自己紹介酢や挨拶から簡単な日常会話ができるようになる。 ・ 聴覚障害者が置かれてきた社会背景を学び、時代の福祉観と人権観を考える。 ・ 医療分野に従事する職業者の基礎的な姿勢としての、手話を含む様々なコミュニケーション障害への対応姿勢を学ぶことにより、人権感覚を身につける。
授業計画	<p>第1講 「手話」って何?…手話言語を身近に感じてみよう。 自己紹介の手話単語を習得しよう① [到達目標] ・日本で最初の手話サークルが医療現場から生まれてきたことなどを知り、手話言語について身近に感じるとともに、名前・数字・家族・趣味などの自己紹介に使われる基本の手話単語を習得する。</p> <p>第2講 [備考] ・社会福祉法人全国手話研修センターのHP(手話検定ページ)を見ておく。 手話表現の種類を知ろう。 自己紹介の手話単語を習得しよう② [到達目標] ・ろう者の使う手話や中途失聴者、盲ろう者のコミュニケーション手段など、様々な種類の手話があることを知るとともに、自己紹介に関わる手話単語を習得する。</p> <p>第3講 [備考] 手話教育の歴史を知ろう。 自己紹介の手話単語を習得しよう③ [到達目標] ・聴覚障害児教育の歴史を知るとともに、問いかけの手話表現を習得する。</p> <p>第4講 [備考] 「聴覚障害」について理解しよう。 自己紹介の手話単語を習得しよう④ [到達目標] ・きこえのしくみを理解し、障害に対応した補聴器等の活用を知るとともに、手話での時間の表現を習得する。</p> <p>第5講 [備考] 日本の障害福祉施策を知ろう① 自己紹介の手話単語を習得しよう? [到達目標] ・古事記(国生みの物語)から日本独特の障害者観を知るとともに、1日・1週間・1月の出来事に関する手話表現を習得する。</p> <p>第6講 [備考] ・日本文化に根付く障害者観について、みんなでディスカッションします。 日本の障害福祉施策を知ろう② 自己紹介の手話単語を習得しよう⑥ [到達目標] ・戦前・戦中・戦後の障害福祉施策を知るとともに、自己紹介のまとめとして手話での会話を楽しむ。</p> <p>第7講 [備考] 第3講での教育の歴史も含めて、みんなでディスカッションします。 日本の障害福祉施策を知ろう③ 日常会話の手話単語を習得しよう① [到達目標] ・国際障害者年以降の「障害」のとらえ方を知るとともに、医療に関する手話単語を習得する。</p> <p>第8講 [備考] 日本の障害福祉施策を知ろう④ 日常会話の手話単語を習得しよう② [到達目標] ・国連障害者の権利条約で謳われた「手話は言語である」ことの意義を知るとともに、日常会話の手話単語の語彙数を増やす。</p> <p>第9講 [備考] ・権利条約第2条を確認しておく。 日本の障害福祉施策を知ろう? 豊かな手話表現を身につけよう① [到達目標] ・日本の手話通訳派遣制度を知るとともに、手話歌を通じて魅力ある手話表現力を高める。</p> <p>第10講 [備考] 日本の障害福祉施策を知ろう⑥ 豊かな手話表現を身に着けよう② [到達目標] ・優生保護法下でのろう者の状況を知るとともに、手話歌を通じて魅力ある手話表現力を高める。</p> <p>第11講 [備考] 優生保護法下での「医療倫理」のあり方、医療現場での「インフォームドコンセント」のあり方について、みんなでディスカッションします。 日本の障害福祉施策を知ろう⑦ 豊かな手話表現を身に着けよう③ [到達目標] ・ろう者の人権宣言といわれる「3.3声明」から、ろう者の人権を考えるとともに、手話歌を通じて魅力ある手話表現力を高める。</p> <p>第12講 [備考] ・京都府立聾学校での「写生大会ボイコット事件」について、調べておく。 日本の障害福祉施策を知ろう⑧ 豊かな手話表現を身につけよう?</p>

	<p>[到達目標] 災害時の情報保障を考えるとともに、手話歌を通じて魅力ある手話表現力を高める。</p> <p>[備考] 第13講 まとめ① 手話での会話を楽しもう。 手話歌を楽しもう。 [到達目標] ・これまで学んだ手話単語を使って、簡単な会話を楽しんでみるとともに、手話歌を楽しんでみる。</p> <p>[備考] 第14講 まとめ② 手話での会話を楽しもう。 手話歌を楽しもう。 [到達目標] これまで学んだ授業を通じて、「手話」に関する思いや意見を確認するとともに、より豊かな手話表現技術と読み取り技術を確認する。</p> <p>[備考] ・レポートの提出及び実技試験を実施します。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	●全国手話検定試験5級及び4級の出題範囲の手話単語について、自習をする。
教科書	●特に定めない。必要な資料は毎時配布する。
参考書	●社会福祉法人全国手研修センターのHP
成績評価	<p>●出席及び授業時の取り組み姿勢の評価 30%</p> <p>●授業内パフォーマンス課題 30%</p> <p>●まとめ(試験)における確認評価 40%</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 中村雄一</p> <p>研究室 : 6号館1階非常勤講師室</p> <p>メールアドレス : npo_morohoshi.juku@yahoo.co.jp</p> <p>オフィスアワー : 授業終了後</p>
備考	<p>授業とディプロマポリシーとの関連</p> <p>◎-5, ○-4</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修選択
担当教員			
河合 裕子			
添付ファイル			

授業目標	<p>医学では様々な治療が行われ、優れた治療法を求めて治療効果の判定が常に行われている。このとき、治療効果の優劣を判断する手法が「統計処理」である。そこで、この授業では表計算ソフトを用いて統計の基本を学修し、統計学的に解釈できる能力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療情報を独力で収集し整理できる能力を培うことで、コンピュータを利用した「データ処理」を身につけ実践できることを目指す。 ・医療情報の解析に必要な統計学用語を理解し、表計算ソフトを用いて統計処理を実施することで医療統計の基本的概念を身につける。 ・医療情報の収集と取り扱いの注意点、医療システムについて学修し、理解を深める。
授業計画	<p>第1講 統計学の入門 [到達目標] 表計算ソフトをスムーズに扱うことができる 統計に用いる用語と考え方を理解する 記述統計と推計統計の違いを理解する 仮説検定の概念を理解する [備考] 課題提出あり</p> <p>第2講 統計処理①：さまざまな評価スケールと数値尺度 [到達目標] 数字の性質を理解し、尺度水準を用いた分類ができる パラメトリック・ノンパラメトリックの違いを説明できる 適切な統計手法を選択できる [備考] 課題提出あり</p> <p>第3講 統計処理②：定量的なデータの処理 [到達目標] パラメトリックな手法のうち、2群のデータを想定した統計手法とその特徴を理解する 表計算ソフトを用いて、対応のある t 検定および対応のない t 検定が行える 統計的な有意差とは何かを理解し、判別することができる [備考] 課題提出あり</p> <p>第4講 統計処理③：定量的でないデータの処理 [到達目標] 聞き取り調査などに代表される定量的でないデータを数値化する方法とその意味を理解する ノンパラメトリックな手法として、2群のデータを想定した統計手法とその特徴を理解する 表計算ソフトを用いて、χ^2 (カイ2乗) 検定を行える [備考] 課題提出あり</p> <p>第5講 データの収集と統計処理の実践 [到達目標] 統計学的な違いとは何かを念頭に、課題を設定することができる 学修した統計手法を実際に収集したデータに適用できる [備考] 課題提出あり</p> <p>第6講 復習と演習 [到達目標] 統計用語について説明できる 「グラフと表、数値」読み方と使い方が適切に行える データに即した統計手法を選択することができる PCおよびソフトウェア操作の基本的な操作をスムーズに行い、独力でデータの統計的解析を実施できる [備考] 課題提出あり</p> <p>第7講 到達度テスト／医療システムと個人情報保護 [到達目標] 独力でデータの統計的解析が実施できる 個人情報保護について復習し、悪意のあるプログラムとパスワードの重要性について説明できる 病院内の医療情報と電子カルテについて、医療情報システムのメリット・デメリットおよび個人情報保護の仕組みについて説明できる [備考] 表計算および統計の到達度テストを実施する</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・予習：講義に使用するHPを参考にして各講義で必要となる用語や操作手順をまとめておくこと。（130分程度） ・復習：講義内容および理解に時間を要した操作についてファイル等にまとめ、次回以降の躰き解消に努める

	<p>とともに、講義開始時に実施する確認テストに解答できるようにしておくこと。(130分程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義をやむを得ず欠席した場合は、必ず欠席した講義内容を確認して演習問題を解答できるようにしておくこと。 ・webブラウザのブックマークやリンクの活用、フォルダを利用したファイル整理など、必要な情報は各自でまとめ、併せてコンピュータスキルの獲得に努めること。
教科書	特に指定しない
参考書	活用事例でわかる!統計リテラシー (noa出版) 医療・保健学のためのやさしい統計学 (金原出版)
成績評価	課題 10%、到達度テスト 90%
担当教員の基本情報	<p>担当教員の基本情報</p> <p>担当教員名 : ○ 河合 裕子 研究室 : 病院1階 メディカルMR センター メールアドレス : kawai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:20-18:20</p> <p>担当教員名 : 梅田 雅宏 研究室 : 病院1階 メディカルMR センター メールアドレス : ume@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:20-18:20</p> <p>担当教員名 : 村瀬 智一 研究室 : 病院1階 メディカルMR センター メールアドレス : murase@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日13:00-13:50</p>
備考	<p>講義の資料は学内ホームページを参照のこと。 https://sites.google.com/a/mst.meiji-u.ac.jp/medinfo02/medinfo_k2020 課題の提出およびフィードバックにはGoogle Classroomを利用する。 https://classroom.google.com</p> <p>「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-1, ○-3</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修選択
担当教員			
戸田一男 梶川拓馬 大永慶子			
授業形態：講義・演習	グループワーク	コミュニケーションカードを使用	
添付ファイル			

授業目標	医療コミュニケーション学では、実際の医療現場におけるコミュニケーションの重要性を理解し、適切で効果的なコミュニケーション技法を習得する。 医療に携わるものとして、医療人としての倫理問題を念頭に入れながら、現代医学を理解する。
授業計画	<p>第1回 コミュニケーションとは [到達目標] ワークショップを通じて ・アイスブレイキング。 ・良いコミュニケーションがもたらす効果が説明できる。</p> <p>第2回 医療コミュニケーションについて [到達目標] ワークショップを通じて ・医療コミュニケーションとは何かが理解できる。 ・医療コミュニケーションの目的が理解できる。</p> <p>第3回 医療コミュニケーションの基本 [到達目標] ワークショップを通じて ・カルテの記載方法と初診患者に必要な情報が理解でき説明できる。 (主訴、現病歴、既往歴、社会歴、個人歴、現症)</p> <p>第4回 面接技法 [到達目標] ・ロールプレイを通じて面接技法が習得できる。 (質問法、傾聴、共感、態度) ・看護師に必要な臨床能力が理解・説明できる。</p> <p>第5回 医療コミュニケーション場面に求められる態度・姿勢 [到達目標] ワークショップを通じて ・医療コミュニケーションを行う時の態度、姿勢、位置を理解する。 ・問診と医療コミュニケーションの違いを理解する。</p> <p>第6回 医療コミュニケーションの実践 [到達目標] ロールプレイを通じて医療コミュニケーションができる。 (模擬症例：風邪(咳、微熱)、腰痛(慢性)、頭痛(片頭痛))</p> <p>第7回 まとめ及び筆記試験 [到達目標] ・1回～6回の授業で学修した内容について振り返り理解を深めることができる。 ・筆記試験(記述形式)。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	各講義に関連する内容について事前学習し、講義で学修した内容をまとめてください。合わせて1時間程度。
教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
成績評価	筆記試験50%・提出課題・授業参加態度50%とする。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：戸田一男 研究室：10号館8階807研究室 メールアドレス：k_toda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時(精神看護学実習のため病院出張以外)</p> <p>担当教員名：梶川拓馬 研究室：10号館7階713研究室 メールアドレス：t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時(精神看護学実習のため病院出張以外)</p>
備考	戸田教員：精神科領域での多岐にわたる豊富な臨床経験をもとに医療コミュニケーション学についての講義を行う。 梶川教員：精神科領域での臨床経験をもとに医療コミュニケーション学についての講義を行う。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎—5、○—2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
木村 啓作			
添付ファイル			

授業目標	東洋医学は西洋医学とは異なり、人体の捉え方が異なる。東洋医学は人体と自然界との関わり合いを特に重要視し、術者の経験側に基づいた医学である。本科目では、東洋医学の基礎理論と、人体の構造や機能・症状等を理解する。また、代表的な経穴（ツボ）を自身またはペアにて押し合い、その効果を実感する。さらに、東洋医学のエビデンスについても触れ、身近な医療であることを理解する。 将来、東洋医学的な視点から看護臨床を携われるようになることが目標である。
授業計画	<p>1 回目 ガイダンス、東洋医学の特徴 [到達目標] 東洋医学の特徴について理解し、説明することができる。 [備考] 東洋医学の沿革、人体の見方、治療、現状について学ぶ。</p> <p>2 回目 東洋医学的コミュニケーション [到達目標] 医療面接のプロセスを理解する、また、コミュニケーション方法を理解し、説明できる [備考] オープンクエッション・クローズド・クエッションや患者理解のための情報収集方法を覚える。</p> <p>3 回目 養生訓 [到達目標] 養生訓の特徴を理解し、説明できる [備考] 貝原益軒の日常（生活、食事、睡眠、身体の捉え方）に耳を傾ける。</p> <p>4 回目 経穴について [到達目標] 経穴の概念と気・血・水との関連性を理解し、説明できる。 [備考] 臨床で使用される代表的な経穴を覚える。</p> <p>5 回目 東洋医学的に身体を診る 1 [到達目標] 四診法（望・聞・問・切）を理解し、説明できる。 [備考] 特に、望・聞における症候を覚える。</p> <p>6 回目 東洋医学的に身体を診る 2 [到達目標] 四診法（望・聞・問・切）を理解し、説明できる。 [備考] 特に、問・切における症候を覚える。</p> <p>7 回目 中間評価 [到達目標] 第1から第6回目までの内容を理解し、説明できる。 [備考] 第1から第6回目までの重要ポイントをフィードバックし、理解を深める。</p> <p>8 回目 東洋医学的に身体を診る 3 [到達目標] 学説（陰陽学説、五行学説、蔵象学説）と弁証（八綱、気血津液、臟腑）を説明できる。 [備考] 学説と弁証の重要ポイントを覚える。</p> <p>9 回目 東洋医学的に身体を診る 4 [到達目標] 経絡の概念と五蔵（肝・心・脾・肺・腎）の病因と病機を理解し、説明できる。 [備考] 正系十二経の経絡を覚える。</p> <p>10 回目 東洋医学のまとめと実践一 [到達目標] 本学における東洋医学の予防や実践方法について理解する。</p> <p>11 回目 ツボ（経穴）療法の実践 [到達目標] 実際にツボが触知できるようになる。 [備考] 特に重要経穴を覚える。 [備考] 9～11回に学習した内容について小テスト（10分）を行い解説を行う。聞診（声診、五音、五声）の方法、東洋医学的な基本的問診事項を覚える。[到達目標] 切診について理解し、説明できる。 [備考] 切診（反応、腹診、切経、経穴診、脈診）の方法を覚える。</p> <p>12 回目 まとめ1 東洋医学における学説、生理と病理、四診、経穴の復習を行い、看護領域での東洋医学の実践を考える。授業内にてレポートを作成する。</p> <p>13 回目 まとめ2 第1～11回目までの内容、特に重要ポイントをフィードバックする。</p> <p>14 回目 期末評価 重要ポイントを30分間フィードバックし、期末評価を実施</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義の前日までに配布プリントの該当箇所を読み、概要を理解する。復習は授業日のうちに行うことが望ましい。なお、復習は授業計画の備考欄にある内容を覚える。
教科書	授業配布プリントをテキストとする。
参考書	「新版 東洋医学概論」公益社団法人東洋療法学校協会編（医道の日本社） 価格5,200円 「鍼灸学基礎編」日中共同編集（東洋学術出版社） 「養生訓」（講談社）

成績評価	評価方法：中間評価と期末評価、提出レポートを総合して評価する。 評価割合：中間評価は30%、期末評価は40%、講義のレポートは30%の割合とする。
担当教員の基本情報	担当教員名：木村 啓作 研究室：病院2階鍼灸学系教員室 メールアドレス：k_kimura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日 15時40-16時40分
備考	1. 実務経験 担当者は鍼灸センター、京都駅前鍼灸院、統合医療センター勤務。ポルトガルクリニック土屋、SLバンフィカ、バンフィカフットボールキャンパス、フィギュアスケーターおよびトレイルランナートレーナーとして実務経験があり、実務内容にも基づきこの科目を進める。 2. ディプロマポリシーとの関連 ◎-1 3. 本講義ではアクティブラーニングを実施しない

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修選択
担当教員			
坂梨 秀地			
添付ファイル			

授業目標	<p>本授業では、傷病者に単に処置を実施できるようになるだけではなく、その処置が必要かどうかの判断、及び傷病の理解を深められることを目標とする。そのための具体的な目標として、以下の3つを上げる。</p> <p>①救急医療の中の看護師に求められる役割を理解し、救急看護学を学ぶ。</p> <p>②インホスピタルおよびプレホスピタルでの救急医療体制について理解する。</p> <p>③救急患者の観察、処置、判断を理解する。</p>
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション・救急看護の概念・救急看護の対象の理解</p> <p>【目標】 救急看護の定義と役割について理解し、救急医療体制について習得する。 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p2～61 (予習) 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p2～61を熟読 (所用時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p> <p>第2講 救急看護体制と看護の展開</p> <p>【目標】 初期・二次・三次医療機関における対応と災害時における対応について習得する 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p64～91 (予習) 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p64～91を熟読 (所用時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p> <p>第3講 救急患者の観察とアセスメント①</p> <p>【目標】 救急時における観察アセスメントについて習得する 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p96～135 (予習) 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p96～135を熟読 (所用時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p> <p>第4講 救急患者の観察とアセスメント②</p> <p>【目標】 救急時における観察アセスメントについて習得する 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p135～156 (予習) 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p135～156を熟読 (所用時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p> <p>第5講 主要病態に対する救急処置と看護～心停止～</p> <p>【目標】 心停止の病態について理解し1次救命処置と2次救命処置について実践できるようにする 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p160～176 (予習) 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p160～176を熟読 (所用時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p> <p>第6講 主要病態に対する救急処置と看護～実践①BLS～</p> <p>【目標】 心停止の病態について理解し1次救命処置と2次救命処置について実践できるようにする 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p160～176 (予習) 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p160～176を熟読 (所用時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p> <p>第7講 主要病態に対する救急処置と看護～実践②ALS～</p> <p>【目標】 心停止の病態について理解し1次救命処置と2次救命処置について実践できるようにする 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p160～176 (予習) 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p160～176を熟読 (所用時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p> <p>第8講 主要病態に対する救急処置と看護～意識障害・呼吸障害・ショック、循環・急性腹症②～</p> <p>【目標】 主要病態について理解と鑑別について習得する 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p176～205 (予習) 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p176～205を熟読 (所用時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p> <p>第9講 主要病態に対する救急処置と看護～意識障害・呼吸障害・ショック、循環・急性腹症②～</p> <p>【目標】 主要病態について理解と鑑別について習得する 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p176～205 (予習) 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p176～205を熟読 (所用時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p> <p>第10講 主要病態に対する救急処置と看護～泌尿、生殖器・体液、代謝異常体温異常①～</p> <p>【目標】 主要病態について理解と鑑別について習得する 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p206～229</p>

	<p>(予習) 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p206～229を熟読 (所用時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p> <p>第11講 主要病態に対する救急処置と看護～泌尿、生殖器・体液、代謝異常体温異常②～ 【目標】 主要病態について理解と鑑別について習得する 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p206～229 (予習) 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p206～229を熟読 (所用時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p> <p>第12講 主要病態に対する救急処置と看護～外傷・熱傷・中毒・溺水～ 【目標】 収容病態について理解と鑑別について習得する 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p229～266 (予習) 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p229～266を熟読 (所用時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p> <p>第13講 救急時の患者技術～搬送法、止血法、その他応急手当～ 【目標】 主要病態について理解と鑑別について習得する 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p286～295 (予習) 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p286～295を熟読 (所用時間30分) (復習) 授業で学んだことをレポートにまとめる (所要時間30分)</p> <p>第14講 まとめ・筆記試験 [到達目標] 一時救命処置である心肺蘇生法、およびBVMの使い方を再確認する。</p> <p>(予習) 別巻 救急看護学「心肺停止状態への対応」160～170ページまで読んでおくこと。 (復習) 急変時の対応ができるように整理する。</p> <p>第15講 知識の確認・まとめ 【目標】 総まとめ 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p2～295 (予習) 系統看護学講座 救急看護学 (医学書院) p2～295を熟読 (所用時間30分)</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し(予習30分)し、講義で学修した内容をまとめて下さい(復習30分)。 参考書をもとに自主学習
教科書	救急看護学 教科書の改定に伴い、指定ページの変更あり。
参考書	応急手当標準テキスト (東京法令出版) AHA ACLS AHA BLS MCLS JPTEC
成績評価	講義演習の3/5以上の出席が定期試験受験の要件。 筆記試験60%以上の到達であることが成績評価の対象となる。 その他授業態度等を総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 坂梨秀地 研究室 : 6号館2階 研究室 メールアドレス : s_sakanashi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義中に指示
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5, ○-4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修選択
担当教員			
林 知也 岡田 薫			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>授業概要：この授業では、生理学Ⅰと生理学Ⅱで学んだ正常な状態での生体機能について、復習を中心としながら、疾患を学ぶ臨床系の各授業の理解を進めるための応用力を高めることを目的とする。</p> <p>到達目標：生体の恒常性維持に必要な内分泌器官の働き、身体機能の調節・統合・制御に必要な神経系の機能、身体運動や姿勢の維持と内臓の運動に必要な筋収縮、外界や身体内部の情報を得るための感覚器の機能、生体の基本構成要素である細胞の働き、ガスや栄養素を全身に運搬する血液・循環機能、換気とガス交換の仕組み、生体を構成する物質やエネルギー源となる物質を得るための消化吸収、体液の恒常性維持に必要な腎機能、体温を一定に保つための体温調節機能等について、理解をして説明することができる。</p>
授業計画	<p>第1回：岡田 内分泌 (1) 【到達目標】 総論、視床下部、下垂体、甲状腺、副甲状腺ホルモンについて説明できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 あらかじめ課題について調べ、授業内でフィードバックする。 【備考】 自主学习：教科書p. 260-278を熟読する。</p> <p>第2回：岡田 内分泌 (2) 【到達目標】 膵臓、副腎、性ホルモンについて説明できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 あらかじめ課題について調べ、授業内でフィードバックする。 【備考】 自主学习：教科書p. 278-294, 493-512を熟読する。</p> <p>第3回：岡田 神経系 (1) 【到達目標】 神経系の基本について説明できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 あらかじめ課題について調べ、授業内でフィードバックする。 【備考】 自主学习：教科書p. 23-24, 375-384を熟読する。</p> <p>第4回：岡田 神経系 (2) 【到達目標】 自律神経および感覚神経とその伝導路について説明できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 あらかじめ課題について調べ、授業内でフィードバックする。 【備考】 自主学习：教科書p. 252-260, 421-424, 446-450を熟読する。</p> <p>第5回：岡田 神経系 (3) 【到達目標】 運動神経および錐体路、錐体外路系について説明できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 あらかじめ課題について調べ、授業内でフィードバックする。 【備考】 自主学习：教科書p. 359-371, 385-388, 390-420を熟読する。</p> <p>第6回：岡田 神経系 (4) 【到達目標】 中枢神経のはたらきについて説明できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 あらかじめ課題について調べ、授業内でフィードバックする。 【備考】 自主学习：教科書p. 388-399, 409-419を熟読する。</p> <p>第7回：岡田 感覚器 【到達目標】 視覚、味覚、嗅覚、聴覚、平衡感覚について説明できる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 あらかじめ課題について調べ、授業内でフィードバックする。 【備考】 自主学习：教科書p. 425-446を熟読する。</p> <p>第1回：林 細胞生理と分子生理 【到達目標】 細胞の機能、物質移動について説明ができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 事前に提示された課題について調べ、授業内でフィードバックする。 【備考】 教科書p. 30-42, 541を熟読する。</p> <p>第2回：林 体液と血液 【到達目標】 体液と血液の区分、およびそれらの機能について説明ができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 事前に提示された課題について調べ、授業内でフィードバックする。 【備考】 教科書p. 59-62, 141-150, 152-165を熟読する。</p> <p>第3回：林 循環1 【到達目標】 心臓の特徴とその機能について説明ができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 事前に提示された課題について調べ、授業内でフィードバックする。 【備考】 教科書p. 168-170, 175-193を熟読する。</p> <p>第4回：林 循環2 【到達目標】 血圧、血管系の機能と循環器系の調節について説明ができる。 【授業形態】 アクティブラーニング有 事前に提示された課題について調べ、授業内でフィードバックする。 【備考】 教科書p. 206-221を熟読する。</p>

	<p>第5回:林 呼吸 【到達目標】肺による換気とガス交換の機能, および呼吸の調節について説明ができる。 【授業形態】アクティブラーニング有 事前に提示された課題について調べ, 授業内でフィードバックする。 【備考】教科書p. 120-137を熟読する。</p> <p>第6回:林 消化と吸収 【到達目標】各消化管における消化と吸収の特徴, および肝臓の機能について説明ができる。 【授業形態】アクティブラーニング有 事前に提示された課題について調べ, 授業内でフィードバックする。 【備考】教科書p. 65-66, 71-72, 74-76, 78-82, 84-90, 94-95, 100-102を熟読する。</p> <p>第7回:林 腎機能と体液の調節 体温 【到達目標】腎臓における尿生成の特徴, 排尿, 酸塩基平衡の維持, 体温とその調節について説明ができる。 【授業形態】アクティブラーニング有 事前に提示された課題について調べ, 授業内でフィードバックする。 【備考】教科書p. 232-244, 246-248, 250-252, 258-260, 484-490を熟読する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各講義項目の分野に関して, 事前学習として教科書の関連ページを熟読すること。(予習35分) 各講義後, 配布プリントと教科書にて授業内容を確認する。理解できない部分は参考書等にて理解できるようにし, それでも分からない部分は質問にて理解できるようにする。(復習35分)
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 「解剖生理学」第10版, 坂井建雄・岡田隆夫 著, 医学書院
参考書	※必要に応じて, 自分に合うと思えるものを選ぶこと。 「はじめの一步のイラスト生理学(改訂第2版)」 照井直人 編(羊土社) 「マンガでわかる基礎生理学」田中 越郎 監修(オーム社) 「カラーイラストで学ぶ 集中講義 生理学 改訂2版」 岡田隆夫 編集(メジカルビュー社) 「やさしい生理学(改訂第6版)」 彼末一之・能勢博 編集(南江堂) 「生理学テキスト(第8版)」 大地陸男 著(文光堂)
成績評価	筆記試験(50%), および事前に提示した内容に従って作成したレポート(50%)にて評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 岡田 薫 研究室 : 5号館3F生理学教室 オフィスアワー : 月曜日17:30~18:30 メールアドレス : k_okada@meiji-u.ac.jp 担当教員名 : 林 知也 研究室 : 8号館4F林知教授室 オフィスアワー : 月曜日17:30~18:30
備考	この授業とディプロマポリシーとの関連: ◎-1, ○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
浅沼 博司			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	健康から疾病に至る変化のプロセス、疾病がもたらす身体内部の変化について学ぶ。疾病の診断に必要な様々な検査（放射線検査・内視鏡検査・生理機能検査・MR・CT・PET・組織診・細胞診）・治療（内科的・外科的・放射線・等）・麻酔について学ぶ。
授業計画	<p>1回目 病態（足立講師） 「看護のための臨床病態学」の以下の項目を熟読しておくこと 免疫(p.530), アレルギー・自己免疫(p.531-534), 炎症(p.534-537), 感染(p.578-584), 代謝(p.272-277), 高次脳機能・意識障害(p.433-436)</p> <p>免疫、アレルギー・自己免疫、炎症、感染、代謝、高次脳機能・意識障害の病態について、その概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング無</p> <p>2回目 症状①身体の不調の捉え方（症状・兆候・症候）（浅沼教授） 「看護のための臨床病態学」の以下の項目を熟読しておくこと 呼吸器の症候（咳、痰、血痰、咯血、呼吸困難）、循環器の症候（胸痛・胸部圧迫感、動悸、呼吸困難、浮腫、ショック）、消化管の症候（胸やけ、腹痛、悪心・嘔吐、下痢、便秘、吐血、下血） 呼吸器の症候（咳、痰、血痰、咯血、呼吸困難）、循環器の症候（胸痛・胸部圧迫感、動悸、呼吸困難、浮腫、ショック）、消化管の症候（胸やけ、腹痛、悪心・嘔吐、下痢、便秘、吐血、下血）について、概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング無</p> <p>3回目 症状②身体の不調の捉え方（症状・兆候・症候）（浅沼教授） 「看護のための臨床病態学」の以下の項目を熟読しておくこと 肝/胆/脾の症候（腹痛、黄疸、悪心・嘔吐、肝・脾腫、胆嚢腫大、腹水、浮腫、肝性脳症、皮膚症状）、栄養/代謝の症候（口渇、多飲、多尿、体重減少、体重増加、肥満、意識障害、昏睡、冷汗、皮膚粘膜症状、易骨折性） 肝/胆/脾の症候（腹痛、黄疸、悪心・嘔吐、肝・脾腫、胆嚢腫大、腹水、浮腫、肝性脳症、皮膚症状）、栄養/代謝の症候（口渇、多飲、多尿、体重減少、体重増加、肥満、意識障害、昏睡、冷汗、皮膚粘膜症状、易骨折性）について、概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング無</p> <p>4回目 症状③身体の不調の捉え方（症状・兆候・症候）（浅沼教授） 「看護のための臨床病態学」の以下の項目を熟読しておくこと 内分泌の症候（低身長、高身長、肥満、やせ、顔貌変化、女性化乳房、乳汁分泌、血圧変動、多尿、二次性徴遅延、無月経）、腎臓の症候（尿の色・量、排尿回数異常、尿の排泄異常、浮腫、高血圧）、血液の症候（貧血、易感染性、発熱、出血傾向、リンパ節腫脹、脾腫）、感染症の症候（発熱、発疹、髄膜刺激徴候） 内分泌の症候（低身長、高身長、肥満、やせ、顔貌変化、女性化乳房、乳汁分泌、血圧変動、多尿、二次性徴遅延、無月経）、腎臓の症候（尿の色・量、排尿回数異常、尿の排泄異常、浮腫、高血圧）、血液の症候（貧血、易感染性、発熱、出血傾向、リンパ節腫脹、脾腫）、感染症の症候（発熱、発疹、髄膜刺激徴候）について、概要を説明できる。 アクティブ・ラーニング無</p> <p>5回目 内科的治療（浅沼教授） 各種疾患の内科的治療について概説する アクティブ・ラーニング無</p> <p>6回目 臨床放射線医学①（北村先生） 医用X線の性質と種類、単純X線検査の読影の基本、CT・エコー・MRIの基本的性質とその違いを説明することができる。（時間外学習の指示など）医用X線の性質と種類、単純X線検査の読影の基本、CT・エコー・MRIの基本的性質とその違いを「臨床検査」教科書で調べる。※臨床放射線医学（医学書院）を持参。</p> <p>7回目 臨床放射線医学②（北村先生） 放射線治療の原理と種類、放射線治療の適応疾患、放射線治療の副作用を説明することができる。（時間外学習の指示など）放射線治療の原理と種類、放射線治療の適応疾患、放射線治療の副作用を教科書「臨床放射線医学」で調べる。※臨床放射線医学（医学書院）を持参。</p> <p>8回目 臨床検査の基礎 生理学検査と検体検査（臨床検査：医学書院） 臨床検査の意義と目的、検体の取り扱い方、臨床検査データの読み方を理解する。心電図・呼吸機能などの生理学的検査を理解する。 系統看護学講座（医学書院）別巻 臨床検査を熟読し、講義の際に持参すること。</p> <p>9回目 病理検査（細胞診、病理組織検査、剖検診断 等）（後藤講師） 病理検査の種類（細胞診、病理組織検査、剖検診断 等）とそれぞれの特徴、検体採取時の注意や検体の取扱い方法など、病理検査により何がわかるかについて説明できる。講義前に臨床検査（医学書院）の第9章病理検査の項を読んで予習しておくこと。※臨床検査（医学書院）を持参</p>

	<p>10回目 外科的治療① 外科学概論と創傷 外科的基本手技を学ぶ（糸井啓教授） 「内科的治療」に対比して「外科的治療」を学ぶ。外科概論と歴史、外科的診断法、損傷と創傷について学ぶ。外科的基本手技、基本技術について学ぶ。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論（2-13, 34-51, 205-207, 235, 63-71, 144-160） 外科的基本手技、創傷処置を復習する。 ※臨床外科看護総論（医学書院）を持参</p> <p>11回目 外科的治療② 炎症・外科的感染症、消毒と滅菌（神山教授） 炎症の原因・症状、外科的感染症の治療、消毒法の実際、無菌法、外科的処置について学ぶ。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論（13-33, 144-160, 286-304） ※臨床外科看護総論（医学書院）を持参</p> <p>12回目 外科的治療③ 外科的栄養管理、輸血法、腫瘍の診断と治療（糸井啓教授） 外科領域の栄養管理：輸液・経腸栄養の実際について学ぶ。血液型、輸血について学ぶ。腫瘍の検査法と治療法（手術療法、化学療法、放射線療法）について学ぶ。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論（54-63, 109-136, 169-182, 317-318） ※臨床外科看護総論（医学書院）を持参</p> <p>13回目 外科的治療④ 周術期管理と合併症の予防（糸井啓教授） 周術期の管理、術前・術中の管理と合併症の予防、特に集中治療における管理、高齢者術後の管理と合併症の予防について学ぶ。最新の内視鏡手術、鏡視下手術の特徴とその術後管理について理解する。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論（161-169, 202-409） 臨床外科看護各論（176-177） ※臨床外科看護総論・各論（医学書院）を持参</p> <p>14回目 麻酔 概論 悪性高熱 意識消失時の気道確保と人工呼吸、全身管理に必要な生体監視装置（モニター）、各種麻酔法（全身麻酔、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、局所浸潤麻酔、伝達麻酔）の鎮痛メカニズム 授業時間外学習の指示等：酸素と二酸化炭素の生体での役割、心電図について予習しておく。痛みの感覚の伝達経路について予習しておく。各種の麻酔方法とメカニズムについて、鎮痛法について復習する。</p> <p>15回目 まとめ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書を熟読すること。各講義のタイトルに関連するページを事前学習し（予習90分）、講義で学修した内容をまとめて下さい（復習90分）。配布するプリントを精読すること。理解できないところがあれば、下記の参考書で該当するところを調べる。それでも、解決できなければ、講義の前後に、担当教員に質問して下さい。
教科書	看護のための臨床病態学 改訂3版（南山堂） 系統看護学講座 別巻 臨床検査（医学書院） 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学（医学書院） 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論（医学書院） 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論（医学書院）
参考書	内科系 1) わかりやすい内科学（文光堂）第4版 2) Step 内科学（全6巻、分冊別に購入可能。海馬書房） 3) カラー版 内科学 第9版（西村書店） 外科系 「標準外科学」第14版 島山勝義監修（医学書院） 「標準麻酔科学」第6版 弓削孟文監修（医学書院） 「国民衛生の動向2018/2019」（厚生労働統計協会） 病理検査 「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学」大橋健一他著（医学書院） 「新訂版クイックマスター病理学」第2版 堤寛著（サイオ出版）
成績評価	最終講義の時間に筆記試験（100点満点）で評価する。 私語は厳に慎むこと。
担当教員の基本情報	<p>◎担当教員名：浅沼博司 教授室：病院2階 メールアドレス：h_asanuma@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火曜午後</p> <p>（外科学） 担当教員名：糸井啓純 研究室：附属病院2階 メールアドレス：hitoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日17：00-18：00</p> <p>担当教員名：神山 順 研究室：附属病院2階 メールアドレス：jkami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日17：00-18：00</p> <p>（麻酔科学） 担当教員名：柴崎 雅志 研究室：京都府立医科大学 麻酔科学 麻酔科教室</p> <p>（放射線医学） 担当教員：北村 真（放射線技師長）</p> <p>（臨床検査） 担当教員：後藤 渉子（病理学 講師） 研究室：附属病院2階病理部</p>

	メールアドレス : s_goto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月一金曜日14:00-17:00 担当教員: 松岡 利昌 (臨床検査技師長)
備考	大阪大学医学部附属病院(循環器内科学教室)、近畿大学医学部附属病院(救急医学教室)、京都府立医科大学附属病院(循環器・腎臓病内科学教室)での勤務を経て、現在、明治国際医療大学附属病院に勤務し、各病院で内科および循環器内科の診療・教育・研究に従事。その実務経験をもとに「疾病治療総論」について授業をすすめる。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
苗村 建慈			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>呼吸器、循環器、血液・造血器の疾患について、主な疾患の病院・病態、診断、治療と予後について学ぶ。</p> <p>1) 呼吸器疾患：上気道炎と気管支炎、細菌性肺炎、肺結核。間質性肺炎。気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患 (COPD)。肺癌。肺動脈塞栓症、肺水腫 (ARDSなど)。2) 循環器疾患：心不全、虚血性心疾患 (狭心症・心筋梗塞)、心臓弁膜症、高血圧症、動脈疾患先天性心疾患、腎不全。3) 血液・造血器の疾患：貧血症の特徴、次いで、鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血、溶血性貧血。白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫。特発性血小板減少性紫斑病、アレルギー性紫斑病、血友病、播種性血管内凝固症候群 (DIC)。</p> <p>外科系においては、胸部外科疾患について、その治療と管理について学ぶ。肺では肺がんを中心に、気胸や胸部外傷に関する外科治療とその管理について、心臓・血管外科においては、弁膜疾患、冠動脈疾患の心臓手術と動脈瘤、末梢動脈・静脈疾患の血管外科の手術について、外科治療と管理を理解する。</p>
授業計画	<p>1回目 呼吸器疾患① (苗村教授) 呼吸器疾患の症状、診断法 (理学所所見、X線検査。気管支鏡検査。細菌検査、細胞診・組織診。呼吸機能検査) について学ぶ。</p> <p>2回目 呼吸器疾患② (苗村教授) 上気道炎・急性気管支炎、細菌性肺炎、肺結核の各疾患について、病因・病態、症状、検査所見、診断法、治療法・予後について学ぶ。</p> <p>3回目 呼吸器疾患③ (苗村教授) 間質性肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の各疾患について、病因・病態、症状、検査所見、診断法、治療法・予後について学ぶ。</p> <p>4回目 呼吸器疾患④ (苗村教授) 肺癌、肺動脈塞栓症・肺水腫 (ARDSなど) ・肺性心の各疾患について、病因・病態、症状、検査所見、診断法、治療法・予後について学ぶ。</p> <p>5回目 循環器疾患① (浅沼教授) 1. 高血圧の定義と成因について説明でき、症状、検査所見、診断及び治療法の理解し、説明できる。 2. 心不全について、病因、症状、検査所見、診断及び治療法について理解し、説明できる。 アクティブ・ラーニング無</p> <p>6回目 循環器疾患② (浅沼教授) 1. 狭心症と心筋梗塞の病因・病態、症状、検査所見、診断及び治療法について理解し、説明できる。 2. 心臓弁膜症 (僧帽弁疾患、大動脈弁疾患) について成因、血行動態、及び、症状、検査所見、診断及び治療法について理解し説明できる。 アクティブ・ラーニング無</p> <p>7回目 循環器疾患③ (浅沼教授) 1. 不整脈の病態、血行動態及び症状、検査所見、診断、治療法について理解し、説明できる。 2. 動脈疾患 (大動脈瘤、大動脈解離) について成因、及び、症状、検査所見、診断及び治療法について理解し説明できる。 アクティブ・ラーニング無</p> <p>8回目 循環器疾患④ (浅沼教授) 1. 先天性心疾患 (ASD、VSD、ファロー四徴症) の病態、血行動態及び症状、検査所見、診断、治療法について理解し、説明できる。 2. 腎不全の概念について理解し、分類、症状、検査所見、診断、治療法について理解し、説明できる。 アクティブ・ラーニング無</p> <p>9回目 胸部外科①呼吸器疾患 (糸井啓教授) 胸部外科：良性・悪性の呼吸器疾患、胸部外傷に対する外科的治療について理解する。また、呼吸管理について、理解する 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論 (101-109) 臨床外科看護各論 (8-62) ならびに系統看護学講座成人看護学 2 (呼吸器疾患患者の看護) ※臨床外科看護各論 (医学書院) を持参</p> <p>10回目 胸部外科②循環器疾患 (神山教授) 心臓・血管外科の外科治療における弁膜疾患、冠動脈疾患、動脈瘤、末梢動脈静脈疾患の外科治療と管理 (集中治療) を理解する。 授業時間外学習の指示等：臨床外科看護総論 (356-380) 臨床外科看護各論 (84-170) 系統看護学講座成人看護学 2 循環器疾患患者の看護 ※臨床外科看護各論 (医学書院) を持参</p> <p>11回目 血液・造血器疾患① (苗村教授) 貧血症の特徴、次いで、鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血の各疾患について、病因・病態、症状、検査所見、診断法、治療法・予後について学ぶ。</p> <p>12回目 血液・造血器疾患② (苗村教授) 再生不良性貧血、溶血性貧血の各疾患について、病因・病態、症状、検査所見、診断法、治療法・予後について学ぶ。</p> <p>13回目 血液・造血器疾患③ (苗村教授)</p>

	<p>白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫の各疾患について、病因・病態、症状、検査所見、診断法、治療法・予後について学ぶ。</p> <p>14回目 血液・造血器疾患④（苗村教授）</p> <p>止血・凝固異常を示す疾患：特発性血小板減少性紫斑病、アレルギー性紫斑病、血友病、播種性血管内凝固症候群（DIC）の各疾患について、病因・病態、症状、検査所見、診断法、治療法・予後について学ぶ。</p> <p>15回目 まとめ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書または参考書を読み、予習しておくこと。授業で配布するプリントを、必ず精読すること。理解できないところがあれば、下記の教科書や参考書で該当するところを調べる。それでも、解決できなければ、講義の前後に、担当教員に質問して下さい。
教科書	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器（医学書院）</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器（医学書院）</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4] 血液・造血器（医学書院）</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論（医学書院）</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論（医学書院）</p>
参考書	<p>内科系 看護のための臨床病態学 改訂3版（南山堂）</p> <p>外科系 「標準外科学」第14版 畠山勝義監修（医学書院）</p>
成績評価	<p>1) 定期試験により評価する。</p> <p>2) 出席率が低い場合は、受験資格は認めない。</p> <p>3) 再・追試験は、実施する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 苗村 建慈 研究室 : 病院2階教授室 メールアドレス : k_namura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日16:30-17:00</p> <p>担当教員名 : 浅沼 博司 研究室 : 病院2階教授室 メールアドレス : h_asanuma@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜午後</p> <p>担当教員名 : 糸井啓純 研究室 : 附属病院2階教授室 メールアドレス : hitoi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p> <p>担当教員名 : 神山 順 研究室 : 附属病院2階医局 メールアドレス : jkami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日17:00-18:00</p>
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
深田 雄志			
配当学部：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	GIO（一般目標）：「消化器」「代謝・内分泌」分野の、看護師として必要な代表的疾患について、それぞれのリスク因子・症状・病態生理・診断（検査を含む）・治療（薬物療法・手術療法ほか）および予後について説明できる。 SBO（個別目標）：勉強すべき範囲は厚生労働省の示す「看護師国家試験出題基準」がインターネットなどで閲覧できるので参考にする。講師は、大切な事項は繰り返し登場するよう協力するので、学生は繰り返したことが理解できていないと感じたときは、教科書や講師を使い、理解を確実にする。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション・疾病治療論の学び方 消化器・代謝・内分泌疾患について疾病治療論で学ぶべきことを説明できる</p> <p>2回目 消化器疾患概論 消化器疾患の患者の症状（腹痛・下痢・便秘・嘔吐・下血など）から、鑑別する複数の疾患が抽出できる</p> <p>3回目 消化管疾患（非腫瘍性） 非腫瘍性の消化管疾患（胃・十二指腸潰瘍、虫垂炎、炎症性腸疾患、イレウスなど）について、典型的な臨床像（リスク因子・症状・病態生理・治療）を説明できる</p> <p>4回目 消化器疾患（腫瘍性） 腫瘍性の消化器疾患（食道がん・胃がん・大腸がん・肝がん・膵がん）について、典型的な臨床像（リスク因子・症状・病態生理・治療・術前術後管理）を説明できる</p> <p>5回目 消化器疾患（小児疾患） 消化器の小児疾患（腸重積・先天性胆道閉鎖症・幽門狭窄症・腹壁破裂・鎖肛・ヒュルシュスブルグ病・食道離断）について、典型的な臨床像（リスク因子・症状・病態生理・治療・術前術後管理）を説明できる</p> <p>6回目 消化器疾患（小児疾患） 消化器の小児疾患（腸重積・先天性胆道閉鎖症・幽門狭窄症・腹壁破裂・鎖肛・ヒュルシュスブルグ病・食道離断）について、典型的な臨床像（リスク因子・症状・病態生理・治療・術前術後管理）を説明できる</p> <p>7回目 消化器疾患・応用演習 6講までに取り上げなかった消化器疾患を含め、選択肢問題を使い、疾患名から臨床像またはその逆が特定できる</p> <p>8回目 肝硬変・肝胆膵疾患 肝硬変を中心とした疾患（ウイルス性肝炎・門脈圧亢進症・食道静脈瘤など）とその他の肝胆膵疾患（胆石症・急性膵炎など）について、典型的な臨床像（リスク因子・症状・病態生理・治療）を説明できる</p> <p>9回目 糖尿病 糖尿病（1型・2型糖尿病、神経障害、網膜症、腎症）について、典型的な臨床像（リスク因子・症状・病態生理・治療）を説明できる</p> <p>10回目 代謝・内分泌疾患 糖尿病以外の代謝・内分泌疾患（脂質異常症、高尿酸血症、汎下垂体機能低下症、甲状腺機能亢進症、副甲状腺機能低下症、クッシング症候群）について、典型的な臨床像（リスク因子・症状・病態生理・治療）を説明できる</p> <p>11回目 代謝・内分泌・肝胆膵疾患・応用演習 10講までに取り上げなかった代謝・内分泌・肝胆膵疾患を含め、選択肢問題を使い、疾患名から臨床像またはその逆が特定できる</p> <p>定期試験 定期試験</p> <p>第12講 定期試験のふりかえり 定期試験をふりかえり、自身の達成が不十分だった部分を認識し、説明ができる</p> <p>第13講 課題（消化器・代謝・内分泌） 自身の達成が不十分だった部分に対して自ら課題を選択し、レポートの形式で記述・表現ができる</p> <p>第14講 乳腺・内分泌外科（神山先生）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	内科系については、講義で配布されるプリントについては、よく読んで下さい。また、下記の参考書を、消化器疾患、代謝・内分泌疾患の学習に役立ててください。講義、プリント、参考書でよく分からないところや調べたいことがあれば、詳しく書かれている下記の成人看護学のテキスト（[5] 消化器、[6] 内分泌・代謝）で調べてみて下さい。
教科書	「看護のための臨床病態学 改定3版」（南山堂）

	<p>【神山・乳腺外科分野】 「臨床外科看護各論」(医学書院) p26-37, p63-80, p444-454</p>
参考書	<p>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器」(医学書院) 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝」(医学書院) 「病気がみえる vol.1 消化器」(医療情報科学研究所) 「病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌」(医療情報科学研究所) 「なぜ? どうして? 2020-2021 ③消化器/肝胆膵/循環器」(メディックメディア) 「なぜ? どうして? 2020-2021 ④内分泌・代謝/腎・泌尿器」(メディックメディア)</p> <p>【神山・乳腺外科分野】 「標準外科学」第14版 畠山勝義監修(医学書院) 「標準麻酔科学」第6版 弓削孟文監修(医学書院) 「国民衛生の動向2017/2018」(厚生労働統計協会)</p>
成績評価	<p>定期試験70%・レポート30%で評価します。再試験時の評価については、必要な時期に示します。</p> <p>【神山・乳腺外科分野】 定期試験、出席状況、授業態度、レポートなどから総合的に評価する。 追・再試験は、試験あるいはレポートとする。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 深田 雄志 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : 質問・問合せはMellyを使ってください オフィスアワー : 授業の際に示す</p>
備考	<p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-2</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
樋口 敏宏			
添付ファイル			

授業目標	脳・神経・運動器の主な疾患と治療について学ぶ。主な疾患の病態、診断、治療（薬物療法・手術療法・食事療法）および予後について学ぶ。脳腫瘍・脳梗塞・脳出血・神経系の疾患・骨折・骨肉腫など
授業計画	<p>1回目 脳①（樋口教授） 神経解剖、生理の学習、神経症候学、神経診断学を理解する。</p> <p>2回目 脳②（樋口教授） 脳腫瘍 病態と症状、診断と治療を理解する 脳血管障害 くも膜下出血、脳出血、脳梗塞の病態と症状、診断と治療を理解する。</p> <p>3回目 脳③（頭部外傷・小児）（樋口教授） 頭部外傷 骨折、脳震盪、頭蓋内出血 水頭症 小頭症 キアリー奇形 脳性麻痺 二分脊椎 病態と症状、診断と治療を理解する</p> <p>4回目 神経①（樋口教授） 髄膜炎・脳炎 病態と症状、診断と治療を理解する</p> <p>5回目 神経②（樋口教授） アルツハイマー病・筋疾患 病態と症状、診断と治療を理解する</p> <p>6回目 神経③（樋口教授） パーキンソン病・重症筋無力症・筋ジストロフィー症 ギランバレー症候群 病態と症状、診断と治療を理解する</p> <p>7回目 整形①（糸井恵教授） 運動器の機能と解剖・骨粗鬆症 p11-36, p121-123 整形外科・リハビリテーションの紹介 画像診断 p139-146</p> <p>8回目 整形②（糸井恵教授） 骨体幹および脊髄の外傷と疾患 （腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄など） p69-87</p> <p>9回目 整形③（糸井恵教授） 関節疾患（変形性関節症）小児疾患p96-99 関節リウマチp115-120</p> <p>10回目 整形④（小藤准教授） 骨軟部腫瘍p124-132 上肢の外傷と疾患 ギブス障害・フォルクマン拘縮 ガングリオン 圧迫性神経障害（手根管症候群など） p47-69</p> <p>11回目 整形⑤（乾助教） 下肢の外傷と疾患（大腿骨頸部・転子部骨折、人工骨頭置換術など）、 スポーツ疾患 p88-114</p> <p>12回目 リハビリ①（木村講師） 脳血管疾患に対するリハビリテーション 脳血管疾患患者が呈する障害、評価、アプローチについて理解する。脳血管障害者の日常生活動作能力の向上と社会復帰のためのケアについて理解する。</p> <p>13回目 リハビリ②（木村講師） 整形外科疾患に対するリハビリテーション 高齢者に頻発する大腿骨近位部骨折後の障害、評価、アプローチについて理解する。大腿骨近位部骨折後の日常生活動作能力の向上と社会復帰のためのケアについて理解する。</p> <p>14回目 リハビリ③（木村講師） 呼吸・嚥下障害に対するリハビリテーション 呼吸・嚥下に関わる障害、評価、アプローチについて理解する。</p> <p>15回目 まとめ（評価含む）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	1教科書、参考書および授業用プリントを予習、復習それぞれ45分程度ずつ行う。
教科書	ナースに役立つ整形外科とリハビリテーション（金芳堂） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 脳・神経 成人看護学 7（医学書院）
参考書	看護のための臨床病態学（南山堂）

成績評価	定期試験、出席により評価する
担当教員の基本情報	1担当教員名 : 樋口敏宏 研究室 : 病院1階MRセンター メールアドレス : higuchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日、17-18時
備考	樋口敏宏：本学附属病院に勤務し、診療・教育・研究に従事、その実務経験をもとに授業を進める。
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
深田 雄志			
配当学部：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>GIO（一般目標）：「アレルギー」「膠原病」「感染症」「救急」分野の、看護師として必要な代表的疾患について、それぞれの病態生理・診断（検査を含む）・治療（薬物療法・手術療法ほか）および予後について説明できる。</p> <p>SBO（個別目標）：勉強すべき範囲は厚生労働省の示す「看護師国家試験出題基準」がインターネットなどで閲覧できるので参考にします。講師は、大切な事項は繰り返し登場するよう協力するので、学生は繰り返したことが理解できていないと感じたときは、教科書や講師を使い、理解を確実にします。</p>
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション 免疫 アレルギーと自己免疫 炎症と発熱・疼痛 これから学ぶ主要疾患</p> <p>第2講 アレルギーの主要疾患 花粉症（アレルギー性鼻炎） 蕁麻疹 接触皮膚炎 アナフィラキシーショック</p> <p>第3講 アレルギー(2) 気管支喘息 アトピー性皮膚炎 アレルギー性結膜炎</p> <p>第4講 アレルギー(3) 食物アレルギー 化学物質過敏症 シックハウス症候群 アレルギー性紫斑病</p> <p>第5講 膠原病の主要疾患 関節リウマチ 全身性エリテマトーデス シェーグレン症候群</p> <p>第6講 膠原病(2) 多発性筋炎 全身性強皮症 血管炎症候群 ベーチェット病</p> <p>第7講 感染症概論 感染の原因（細菌・ウイルス・カビ・原虫） 感染症法と届出 感染経路別予防法</p> <p>第8講 敗血症・性感染症 敗血症 敗血症性ショック 梅毒 淋病 HIV HBV</p> <p>第9講 食中毒 サルモネラ ブドウ球菌 大腸菌 0-157 ボツリヌス</p> <p>第10講 呼吸器感染症 インフルエンザ 新型インフルエンザ 急性咽頭炎 結核</p> <p>第11講 ウイルス感染症 麻疹 風疹 流行性耳下腺炎 水痘／帯状発疹 ノロ ロタ 百日咳 RSウイルス</p> <p>第12講 救急(1) 熱傷 気道熱傷</p> <p>第13講 救急(2) 薬物中毒 誤飲</p> <p>第14講 救急(3) 熱中症 水中毒 溺水 虐待</p> <p>第15講 まとめ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>定期試験後にレポートを課題しますので、定期試験とレポートの時期（6月下旬から7月ごろ）は時間外学習ができるように、時間の確保を必ずお願いします。</p> <p>講義は、「基礎」「重要」となる部分をなるべく絞って、繰り返すことを心がけています。ですので、特別な予習・復習は必要ありません。ただ、解剖学・生理学・生化学などが大きく理解不足だった学生は、ついてくるのが難しい可能性もあるので、予習・復習の仕方を相談にきて、2年生を脱落しないように努めてください。また、優秀でより先・より上を勉強したい学生は、追加の学習の案内をしますので、教員に尋ねてください。</p>
教科書	「看護のための臨床病態学 改定3版」 南山堂
参考書	<p>おすすめのものとその理由を示します。他に良書があれば講師に教えてください。</p> <p>「なぜ？ どうして？ 2020-2021 ⑤免疫／血液／感染症／呼吸器」（メディックメディア） ：看護学生とネコナースの会話形式で、とにかくブログや絵本のように読みやすい参考書です。記憶がストーリーだと定着しやすい人向きです。1冊あたり安いので。講師のイチオシです。</p> <p>「病気がみえる 第4版」（メディックメディア） ：中学高校の「資料集」のようなビジュアルで疾患や臓器のことを解説しているので、視覚で記憶する人向きの参考書です。</p>

	「わかる！身につく！病原体・感染・免疫」（南山堂） 「系統看護学講座 別巻 救急看護学」（医学書院） ：他教科の教科書が分かりやすい場面もあるので案内します。ぜひ活用しましょう。
成績評価	レポート30%・定期試験70%で評価します。再試験時の評価については、必要な時期に示します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 深田 雄志 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : 質問・問合せはMellyを使ってください オフィスアワー : 授業の際に示す
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
深田 雄志			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>GI0 (一般目標)：「腎・泌尿器」「感覚器(眼・耳鼻咽喉・口腔・皮膚)」分野の、看護師として必要な代表的疾患について、それぞれの病態生理・診断(検査を含む)・治療(薬物療法・手術療法ほか)および予後について説明できる。</p> <p>SBO(個別目標)：勉強すべき範囲は厚生労働省の示す「看護師国家試験出題基準」がインターネットなどで閲覧できるので参考にすること。講師は、大切な事項は繰り返し登場するよう協力するので、学生は繰り返したことが理解できていないと感じたときは、教科書や講師を使い、理解を確実にする。</p>
授業計画	<p>第1講 オリエンテーション 感覚器(視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚)障害と生活への影響</p> <p>第2講 眼の主要疾患 斜視 麦粒腫 眼の感染症 白内障 緑内障 網膜剥離</p> <p>第3講 視覚障害と生命・生活への影響(1) 網膜色素変性症</p> <p>第4講 視覚障害と生命・生活への影響(2) 近視 遠視 斜視 中途視覚障害者</p> <p>第5講 目の診断と治療 眼底検査 眼底光凝固療法 網膜剥離の治療 眼内レンズ挿入術</p> <p>第6講 耳の主要疾患 突発性難聴 Meniere<メニエール>病 中耳炎 聴力検査 鼓室形成術</p> <p>第7講 鼻の主要疾患 副鼻腔炎 鼻茸 鼻中隔湾曲症 鼻炎 経鼻的内視鏡検査</p> <p>第8講 口腔の主要疾患 歯・歯周・下顎骨の疾患 両性・悪性腫瘍</p> <p>第9講 咽頭・頭頸部の主要疾患と味覚検査 咽頭がん 喉頭がん 味覚検査</p> <p>第10講 皮膚の主要疾患 イボ? ほくろ 湿疹 ニキビ? 皮膚か?ん 全身性疾患 色素異常症 皮膚の感染症 物理化学的皮膚障害</p> <p>第11講 皮膚の主要症候 発疹 掻痒 老化 触覚障害と生活への影響</p> <p>第12講 皮膚疾患の診断と治療</p> <p>第13講 腎・泌尿器の主要疾患 腎・尿路結石 腎癌 膀胱癌 前立腺肥大</p> <p>第14講 腎・泌尿器の主要症候 蓄尿・排尿障害と生命・生活への影響</p> <p>第15講 腎・泌尿器の検査と治療 尿流動態検査 残尿測定 膀胱鏡 膀胱切除術 前立腺切除術 ホルモン療法</p> <p>第16講 まとめ</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>定期試験後にレポートを課題しますので、定期試験とレポートの時期(6月下旬から7月ごろ)は時間外学習ができるように、時間の確保を必ずお願いします。</p> <p>講義は、「基礎」「重要」となる部分をなるべく絞って、繰り返すことを心がけています。ですので、特別な予習・復習は必要ありません。ただ、解剖学・生理学・生化学などが大きく理解不足だった学生は、ついてくのが難しい可能性もあるので、予習・復習の仕方を相談にきて、2年生を脱落しないように努めてください。また、優秀でより先・より上を勉強したい学生は、追加の学習の案内をしますので、教員に尋ねてください。</p>
教科書	「看護のための臨床病態学 改定3版」(南山堂)
参考書	<p>おすすめのものとその理由を示します。他に良書があれば講師に教えてください。</p> <p>「なぜ? どうして? 2020-2021 ⑤免疫/血液/感染症/呼吸器」(メディックメディア) :看護学生とネコナースの会話形式で、とにかくブログや絵本のように読みやすい参考書です。記憶がストーリーだと定着しやすい人向きです。1冊あたり安いので、講師のイチオシです。</p> <p>「病気がみえる 第4版」(メディックメディア)</p>

	<p>: 中学高校の「資料集」のようなビジュアルで疾患や臓器のことを解説しているので、視覚で記憶する人向きの参考書です。</p> <p>「わかる！身につく！病原体・感染・免疫」(南山堂) 「系統看護学講座 別巻 救急看護学」(医学書院) : 他教科の教科書が分かりやすい場面もあるので案内します。ぜひ活用しましょう。</p>
成績評価	レポート30%・定期試験70%で評価します。再試験時の評価については、必要な時期に示します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 深田 雄志 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : yuh@art-hospital.com オフィスアワー : 授業の際に示す
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
竹内義博（小児） 梅本愛子（精神） 柴田真理子（精神）			
添付ファイル			

授業目標	<p>1. 小児疾患の特色、主な疾患と治療について学ぶ。 主な疾患の病態、診断、治療（薬物療法・手術療法・食事療法）および予後について学ぶ。 小児感染症・先天異常・小児がん・気管支系・内分泌系の疾患について学ぶ。</p> <p>2. 精神疾患の特色、主な疾患と治療について学ぶ。 人格障害・うつ病・認知機能障害・について学ぶ。</p>
授業計画	<p>第1回 小児疾患の特色（竹内先生） 先天異常について理解する。 出生に関連した異常を理解する。 呼吸窮迫症候群 胎便吸引症候群 ミオパチー 染色体異常の代表的な疾患及び合併症を理解する。ダウン症候群と心奇形 マスクリーニング検査で発見する疾患と治療を理解する。</p> <p>第2回 代謝・内分泌について（竹内先生） 代謝・内分泌異常を呈する疾患について理解する。 ①下垂体疾患 ②甲状腺疾患 ③副甲状腺疾患 ④副腎疾患 ⑤性腺の異常 上記の代表的な疾患と治療を理解する。</p> <p>第3回 神経系に影響を及ぼす疾患（竹内先生） 小児特有の感染症の病態、診断、治療を理解する。 脳神経学的な症状を示す小児の疾患と病態と治療について理解する けいれん症状をと意識障害を引き起こし重篤となりやすい疾患について理解する。</p> <p>第4回 循環器に影響を与える疾患（竹内先生） 小児の代表的な心・腎疾患の病態と治療について理解する。 ①ネフローゼ症候群 ②糸球体腎炎 ③HUS ④ファロー四徴症 ⑤川崎病</p> <p>第5回 小児がん・感染症（竹内先生） 小児に多い疾患について学ぶ。 病態と治療、予後について理解する。 ①ALL ②脳腫瘍 ③神経芽腫</p> <p>第6回 精神疾患①（梅本先生） 統合失調症 人格障害 うつ病 主な疾患の病態、診断、治療を理解する 治療的環境 治療的関わり 精神科リハビリテーション 薬物療法 服薬管理</p> <p>第7回 精神疾患②（柴田先生） 神経症 摂食障害 被虐待児 主な疾患の病態、診断、治療を理解する 治療的環境 治療的関わり 精神科リハビリテーション 薬物療法 服薬管理</p> <p>第8回</p> <p>まとめ</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）について	教科書を読み事前に予習しておく事
教科書	<p>1回目～5回目 系統看護学講座 「小児臨床看護各論」 小児看護学② 医学書院</p> <p>6回目～7回目 系統看護学講座 「精神看護の基礎」 精神看護学①（医学書院）</p>
参考書	ナースの小児科学 中外医学社
成績評価	評価は試験90%、授業出席10%
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 竹内義博（非常勤講師） 所属 : 滋賀医大 小児科教室</p> <p>担当教員名 : 梅本愛子（非常勤講師） 所属 : 大阪精神医療センター</p> <p>担当教員名 : 柴田真理子（非常勤講師） 所属 : 大阪精神医療センター</p>
備考	D Pとの関連 ◎-1 ○-2.3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
竹内孝治 石原安信			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	薬物療法学(=薬物治療学)総論と、各臓器の疾患で臨床応用されている薬物を中心に、薬物の薬理作用と主な副作用および臨床使用上の注意点について講義します。 薬物療法学は、薬と生体の相互作用の結果起こる生体機能の変化を調べ、各臓器の生理・疾患を説明した後で、薬物がなぜ疾患を治療できるのか解説していきます。 授業の到達目標は、臨床で汎用されている薬物を中心に、これらの薬物の薬理作用、作用機序、主な副作用に関する基本的な知識を習得することです。
授業計画	<p>第1講 総論・薬理学の概念、末梢神経系作用薬：、自律神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬 [到達目標] 薬理学の概念を説明できる。末梢神経に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第2講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 中枢神経系作用薬 1:麻酔薬、鎮痛薬、催眠薬、抗不安薬、気分障害治療薬、抗精神病薬 [到達目標] 中枢神経に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第3講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 中枢神経系作用薬 2:パーキンソン治療薬、抗てんかん薬、アルツハイマー病治療薬 [到達目標] 中枢神経に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第4講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 心臓・血管作用薬:高血圧、心不全、狭心症、不整脈の治療薬 [到達目標] 心臓・血管に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第5講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 ホルモン・内分泌系作用薬:糖尿病治療薬、抗甲状腺薬、骨粗鬆症治療薬、生殖器系作用薬 [到達目標] ホルモン・生殖器系に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第6講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 抗炎症薬・呼吸器系作用薬:抗アレルギー薬、気管支喘息治療薬、消化器系作用薬:胃潰瘍治療薬、腸疾患治療薬 [到達目標] 炎症の機序とその治療に使われる薬の作用・副作用を説明できる。呼吸器、消化器に作用する薬の作用・機序・副作用を説明できる。</p> <p>第7講 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。 抗感染症薬・抗悪性腫瘍薬 [到達目標] 感染症・悪性腫瘍の発症機序とその治療に使われる薬の作用・副作用・作用メカニズムを説明できる。 [備考] 教科書付属の整理ノートを使って復習し、確認問題を解けるようにする。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	次回の講義範囲の教科書を読んで予習しておくこと。また各回の講義終了ごとに、教科書付属の整理ノートのポイントを読み、確認問題を解くことにより復習をすること。
教科書	教材(テキスト) 『わかりやすい薬理学』安原 一・小口勝司 編集スーペール・ヒロカワ 随時、プリントを配布する。
参考書	『はじめての一步 イラスト薬理学』石井 邦雄 著 羊土社 授業中に適宜指示する。
成績評価	期末試験(80%)、授業態度(20%)により総合的に評価する。 追再試験は試験当日欠席者及び不合格者に対して筆記試験形式で行う。
担当教員の基本情報	分からないことかあれば、講義中でも終了後でも構わないので、積極的に質問して欲しい。
備考	担当教員名 :竹内孝治 研究室 :京都消化器疾患リサーチセンター メールアドレス:takeuchi@mb.kyoto-phu.co.jp

	オフィスアワー:随時 担当教員名 :石原安信 研究室 : メールアドレス: オフィスアワー:随時
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択必修
担当教員			
戸田一男 田中さやか (非常勤講師)			
授業形態：講義・演習	グループワーク	コミュニケーションカードを使用	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> 相手の思い、考え、期待などを理解するとともに、専門職として必要な情報提供や説明を行い、共同でケアを提供していくための合意と人間関係を築いていくための態度や能力を考慮することができる。 人間関係についての理解を深め、よりよい関係をつくっていくためのさまざまな視点やスキルを知り、どのようにケアの実践にいかしていくことができるかを考えることができる。
授業計画	<p>第1回6/9 人間関係の中の自己と他者、対人関係と役割 [到達目標] ・人間関係を構成する自己と他者について、私たちが自分自身についての理解や意識をどのようにもち、他者をどのようにとらえているのかを理解することができる。 ・他者との関係形成や、それを維持または崩壊させようとする気持ちについて知ることができる。</p> <p>第2回6/16 態度と対人行動、集団と個人 [到達目標] ・他者に対する態度や行動について理解することができる。 ・私たちがより大きな単位の人間関係、すなわち集団の中におかれたとき、どのような影響を受け、どのように行動するのかを考慮することができる。</p> <p>第3回6/23 人間関係をつくる理論と技法 [到達目標] ・人間関係を形成するための、最も基本的な手段の1つがコミュニケーションであることを理解できる。 ・人間と人間、あるいは人間と社会との間の相互関係という複雑な現象を知ることができる。</p> <p>第4回6/25 カウンセリングの実際① [到達目標] カウンセリング（心理臨床）に関する理論と実践について知ることができる。</p> <p>第5回6/30 代表的な対人関係の理論と技法 [到達目標] ・コーチングの理論とスキルを理解することができる。 ・アサーションにの理論とスキルを理解することができる。</p> <p>第6回7/9 カウンセリングの実際② [到達目標] カウンセリングの考え方を看護ケアにどのように生かしていくか考えることができる。</p> <p>第7回未定 まとめ及び試験 [到達目標] ・1回～6回の主な内容を整理することができる。 ・試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>①教科書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し、講義で学修した内容をまとめてください。合わせて1時間程度。</p> <p>②自己学習により講義内容の理解を深め、知識を広げるため、適宜課題を課す。（各講義で提示する）</p>
教科書	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論（医学書院）
参考書	特になし
成績評価	定期試験および提出課題、授業への参加によって評価する。（定期試験70%、レポート・小テスト・受講態度30%）
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：戸田一男 研究室：10号館8階807研究室 メールアドレス：k_toda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（精神看護学実習のため病院出張以外）</p> <p>担当教員名：梶川拓馬 研究室：10号館7階713研究室 メールアドレス：t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（精神看護学実習のため病院出張以外）</p> <p>担当教員名：田中さやか（大阪精神医療センター）</p>
備考	<p>戸田教員：精神科領域での多岐にわたる豊富な臨床経験をもとに講義を行う。</p> <p>梶川教員：精神科領域での臨床経験をもとに講義を行う。</p> <p>田中さやか：臨床現場での実際のカウンセリングについて講義を行う。（大阪精神医療センターこころの科学リサーチセンター 研究・研修支援室）</p>
	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎—2、○—1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
扇田 千代 大山由紀子 深田貴江子 他			
添付ファイル			

授業目標	<p>1) ヘルスアセスメントの意義及び必要性を説明できる。</p> <p>2) 人間を身体的・心理的・社会側面的にとらえる重要性を説明できる。</p> <p>3) 身体的情報を得るための基本的技術を用い、フィジカルアセスメントが実施できる。</p> <p>4) 身体的・心理的・社会的に統合している対象者のヘルスアセスメントを行う上で、個人情報保護を念頭に置いた倫理的配慮、礼節、態度を順守できる。</p> <p>5) 救命器救急処置 (BLSを含む) が実施できる。</p>
授業計画	<p>第1回 概論・感染防止技術</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護実践と看護技術のつながりについて熟考することができる。 感染予防の意義を理解し、様々な感染予防行動を原理・原則に沿って実行できる。 感染予防の為の組織づくりと感染発症時の対応の基本知識を習得する。 <p>【授業形態】 講義+対話</p> <p>第2回 概論・感染防止技術</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 清潔・汚染区域でのガウンテクニックが実施できる。 原理原則に基づいた無菌操作が実施できる。 <p>【授業形態】 デモンストレーション+演習</p> <p>第3・4回 創傷管理技術</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 皮膚の構造と機能、創傷の治癒過程を述べることができる。 創傷を管理する知識と技術を理解し、実践できる。 <p>【授業形態】 講義+デモンストレーション+演習+対話</p> <p>第5回 与薬技術</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 与薬 (薬物療法) ・輸血について、目的・用途・方法を理解する。 与薬・輸血の為の法的根拠を述べることができる。 与薬・輸血を受ける患者への看護援助技術に必要な知識・技術・態度を習得する。 <p>【授業形態】 講義+対話</p> <p>第6・7回 与薬技術</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全・安楽に採血モデルに静脈血採血が実施できる。 医師の指示に基づいた、筋肉内注射の準備が実施できる。 モデル人形に安全かつ正確に筋肉内注射 (上腕・臀部) が実施できる。 <p>【授業形態】 デモンストレーション+演習</p> <p>第8・9回 症状・生体機能管理技術</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 検査・治療の意義及び検査・治療における看護者の役割を述べるができる。 検査・治療の種類と実施時の注意点を理解できる。 検査・治療実施時の介助方法および検体の採取方法を習得する。 ME機器の取り扱いとモニタリング方法を取得する。 <p>【授業形態】 講義+演習+対話</p> <p>第10・11回 呼吸循環を楽にする技術</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 呼吸の生理的メカニズムを理解し、呼吸困難を軽減する援助方法を学習する。 呼吸に関するニーズをアセスメントし、適切な援助方法を理解する。 効果的効率的なケアの方法を習得する。 実施したケアを評価する方法を学習する。 <p>【授業形態】 講義++演習+対話</p> <p>第12・13回 診察・検査・処置の介助技術</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 診察・検査・治療の意義及び検査・治療における看護者の役割を述べるができる。 診察・検査・治療の種類と実施時の注意点を理解できる。 診察・検査・治療実施時の介助方法を習得する。 <p>【授業形態】 講義+演習+対話</p> <p>第14・15回 排泄の援助</p>

	<p>【到達目標】 ・人間の排泄（排尿・排便に関するメカニズム、意義）を理解し、患者が健康的な生活を送る為に必要な援助方法を習得する。</p> <p>【授業形態】 講義+演習+対話 危篤・終末時における技術</p> <p>【到達目標】 ・自己の死に対する考え方、受け止め方を見つめることにより、人にとっての生と死を考えた上でかけとする。 ・死を迎える患者と家族の様々なニーズを知り、危篤・終末時における援助を理解する。 ・終末を迎えた後の故人、遺族への援助について理解する。</p> <p>【授業形態】 講義+演習+対話 健康学習支援</p> <p>【到達目標】 ・看護における健康学習支援の目的を理解し、効果的なアプローチ方法を学習する。 ・カウンセリングの定義及びプロセスを理解できる。 ・看護におけるカウンセリングの意義を理解できる。 ・看護に活用できるカウンセリングの種類と特徴を理解できる。 ・看護に活用されるカウンセリング技法と実施時の留意点を理解できる。</p> <p>【授業形態】 講義+演習+対話 救命救急処置技術（BLS含む）</p> <p>【到達目標】 ・患者の生命の安全を確保するために、救命の連鎖の重要性を理解し、一時救命処置（BLS）に関する知識と技術を習得する。</p> <p>【授業形態】 講義+演習+対話</p> <p>第24～27回 看護技術総復習</p> <p>【到達目標】 ・学んだ看護援助が理解・実施でき、他者に意義・目的を含んだプレゼンテーションを行うことができる。</p> <p>【授業形態】 プレゼンテーション</p> <p>第28回 筆記試験</p> <p>【到達目標】 ・基礎看護援助論Ⅲで学んだことのまとめができる ・筆記試験において60点以上を取得できる</p> <p>【授業形態】 筆記試験</p>		
授業時間外の学習（準備学習等）について	・この科目は、治療的看護技術の習得となるため、解剖学・生理学・薬理学・免疫学の知識の復習をして講義に臨むこと。 ・各技術は、感染や与薬といった一つ一つの技術が患者の生命を脅かしかねないため、自己学習をしっかり行い確実な技術をマスターすること。 ・各技術は、事例に基づく援助計画が実施できるような演習を行うため、看護過程論の知識を連動させること。 ・技術の自己学習（練習）のために、実習室は9:30～18:00まで使用可能。希望者は申請の上、自主的に練習すること。 ・事前学習、事後学習課題は講義内で指示する。レポート等は、必ず期限を守って提出すること。提出物はすべて成績評価の対象とする。		
教科書	1) 「ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術」 メディカ出版 2) 「看護が見える①基礎看護技術」 メディックメディア 3) 「看護が見える②基礎看護技術」 メディックメディア		
参考書	「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」 医学書院		
成績評価	講義演習の3/5以上の出席が定期試験受験の要件であり、また技術試験、筆記試験共に60%以上の到達であることが成績評価の対象となる。その他提出されたレポート等を総合的に評価する。		
担当教員の基本情報	担当教員名 : 扇田 千代 研究室 : 10号館7階711研究室 メールアドレス : c_oogida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時	担当教員名 : 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :	担当教員名 : 深田 実江子 研究室 : 10号館8階802研究室 メールアドレス : m_fukata@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 授業後に相談のこと
備考	②「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-2 ○-5 ○-1		

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
大山 由紀子			
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 看護過程の概念、系統的思考プロセス、看護過程の展開、看護診断について学ぶ</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護過程の概念が理解できる 2) 系統的思考プロセスの各段階とその相互関係について理解できる 3) 演習を通して看護過程の展開方法について具体的に理解し、実施できる 4) 看護診断について概要が理解できる
授業計画	<p>1回目 導入／オリエンテーション 看護過程概論</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護過程を学ぶにあたってその意義がわかる ・看護過程の変遷について理解する ・看護過程とは何かがわかる ・看護過程と問題解決技法 看護過程とクリティカルシンキング <p>【授業形態】 課題学習</p> <p>2回目 看護過程 概論</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護過程の概要・構造（各段階）がわかる ・看護過程と代表的な看護理論の関連がわかる ・ゴードン ヘンダーソン オレム ロイ <p>【授業形態】 課題学習</p> <p>3回目 アセスメント</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントとは何かがわかる ・情報収集の方法と情報の種類が理解できる ・S情報／O情報がわかる ・情報収集の枠組み 看護理論との関係 ・情報源 情報収集の技術 <p>【授業形態】 オンライン授業</p> <p>4回目 アセスメント</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の分析と解釈について理解できる ・情報の分析と整理 推論 ・焦点アセスメントの理解ができる ・仮の看護問題の特定 <p>【授業形態】 オンライン授業</p> <p>5回目 アセスメント</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連図とは何かが理解できる ・関連図を描くことができる ・看護問題の優先順位が理解できる <p>【授業形態】 オンライン授業</p> <p>6回目 計画</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護計画の構成の理解と立案方法がわかる ・看護目標の設定について理解できる ・観察計画 (OP) ケア計画 (TP) 教育計画 (EP) ・長期目標と短期目標 <p>【授業形態】 オンライン授業</p> <p>7回目 計画</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的に個別的な計画とは何かがわかる <p>【授業形態】 オンライン授業</p> <p>8回目 実施／評価</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画の実施及び評価について理解できる ・実施及び評価の方法がわかる ・看護記録について理解できる ・看護記録の法的規定 目的と意義看護記録の構成要素 記載基準 <p>【授業形態】 講義形式＋演習</p> <p>9回目 看護診断</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護診断の概要が理解できる ・NANDA-Iについて理解できる

	<ul style="list-style-type: none"> ・看護診断とは 看護診断の発展 ・看護診断の構造の理解 (NANDA-I) 構成要素
10回目	<p>看護診断</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護診断の定義と分類が理解できる ・NANDA-I 分類法Ⅱ領域と類について理解できる <p>【授業形態】 講義</p>
11回目	<p>事例展開</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を提示するので看護過程の各段階について展開することができる (アセスメント) <p>【授業形態】 講義形式+演習</p>
12回目	<p>事例展開</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を提示するので看護過程の各段階について展開することができる (アセスメント) <p>【授業形態】 講義形式+演習</p>
13回目	<p>事例展開</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例をもとにした看護過程展開の内容を発表することができる (関連図 問題の明確化) <p>【授業形態】 講義形式+発表会</p>
14回目	<p>事例展開</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例をもとにした看護過程展開の内容することができる (計画立案) <p>【授業形態】 講義形式+発表会</p>
15回目	<p>筆記試験</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護過程論で学んだことのまとめができる ・筆記試験で60点以上を取得できる <p>【授業形態】 筆記試験</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	看護過程は看護師として必要な基本的な思考過程を学ぶ科目である。したがって、看護過程を理解できないと、看護師としてはもとよりそれ以前に基礎看護学実習において看護を展開することができないことになる。各自が積極的に授業に参加し看護過程をしっかり理解することがとても重要となる。看護過程を十分理解するために事例展開を行うので、適宜レポートの提出を求める。
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②」メジカルフレンド 2) 「NANDA-I看護診断 定義と分類」医学書院 3) 「疾患別 看護過程の展開」学研 4) 「看護過程に沿った 対症看護 病態生理と看護のポイント」学研
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1) 「はじめて学ぶ看護過程」医学書院 2) 「看護過程展開ガイド」任和子 照林社 3) 「看護学生のためのプチナース・ブックス 自分で描ける 病態関連図」山岸節子編集 照林社 4) 「エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図」阿部俊子監修 中央法規 5) 「エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図」阿部俊子監修 中央法規 6) 「看護学生のための疾患別看護過程 (1, 2巻)」メジカルフレンド社
成績評価	講義への出席が3/5以上であることを要件とし、出席状況やレポートの提出状況と内容を20%、筆記試験を80%で評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 大山由紀子</p> <p>研究室 : 10号館 8階 803研究室</p> <p>メールアドレス : y_ooyama@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 講義後に相談すること</p>
備考	病院での実務経験をもとに看護過程論の授業と演習を行う
	この授業とDPとの関連 「◎-2」「○-4」

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
扇田千代 大山由紀子 深田實江子			
添付ファイル			

授業目標	<p>1) ヘルスアセスメントの意義及び必要性を説明できる。</p> <p>2) 人間を身体的・心理的・社会側面的にとらえる重要性を説明できる。</p> <p>3) 身体的情報を得るための基本的技術を用い、フィジカルアセスメントが実施できる。</p> <p>4) 身体的・心理的・社会的に統合している対象者のヘルスアセスメントを行う上で、個人情報保護を念頭に置いた倫理的配慮、礼節、態度を順守できる。</p>
授業計画	<p>第1回 ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントの概念</p> <p> 【到達目標】</p> <p> ・フィジカルアセスメントを学習する意義が理解できる。</p> <p> ・看護過程の一領域であることを意識する。</p> <p> ・人間を身体・心理・社会的存在としてとらえる重要性を認識する。</p> <p> 【授業形態】 講義+対話</p> <p>第2回 呼吸系のヘルスアセスメント</p> <p> 【到達目標】</p> <p> ・呼吸器系の構造と機能について説明出来る。</p> <p> ・呼吸器系のアセスメントが的確に実施できる。</p> <p> ・呼吸器系のアセスメント結果を記録できる。</p> <p> ・患者に分かりやすい言葉で説明するには、どのように工夫すればよいか考えることができる。</p> <p> 【授業形態】 講義+対話</p> <p>第3回 呼吸系のヘルスアセスメント</p> <p> 【到達目標】</p> <p> ・呼吸器系のフィジカルイグザミネーションを実施・習得できる。</p> <p> 【授業形態】 演習+対話</p> <p>第4回 循環器系のヘルスアセスメント</p> <p> 【到達目標】</p> <p> ・心・血管系のアセスメントの視点を説明できる。</p> <p> ・心・血管系のアセスメントが的確に実施できる。</p> <p> ・心・血管系のアセスメント結果を記録できる。</p> <p> ・患者に分かりやすい言葉で説明するには、どのように工夫すればよいか考えることができる。</p> <p> 【授業形態】 講義+対話</p> <p>第5回 循環器系のヘルスアセスメント</p> <p> 【到達目標】</p> <p> ・心・血管系のフィジカルイグザミネーションを実施・習得できる。</p> <p> 【授業形態】 演習+対話</p> <p>第6回 消化器系のヘルスアセスメント</p> <p> 【到達目標】</p> <p> ・腹部臓器の解剖生理が理解できる</p> <p> ・腹部のアセスメントが、問診→視診→聴診→打診→触診を通して系統立てて行える。</p> <p> ・腹部のアセスメント内容（所見）を記録できる。</p> <p> ・患者に分かりやすい言葉で説明するには、どのように工夫すればよいか考えることができる。</p> <p> 【授業形態】 講義+対話</p> <p>第7回 消化器系のヘルスアセスメント</p> <p> 【到達目標】</p> <p> ・腹部のフィジカルイグザミネーションを実施・習得できる。</p> <p> 【授業形態】 演習+対話</p> <p>第8回 脳神経系のヘルスアセスメント</p> <p> 【到達目標】</p> <p> ・神経系の名称・構造および機能を理解できる。</p> <p> ・脳神経のアセスメントの意味を理解できる。</p> <p> ・反射及び小脳運動のアセスメントが実施できる。</p> <p> ・感覚のアセスメントが実施できる。</p> <p> ・神経系のアセスメントの結果を記録できる。</p> <p> ・患者に分かりやすい言葉で説明するには、どのように工夫すればよいか考えることができる。</p>

	<p>第9回 【授業形態】 講義+対話 脳神経系のヘルスアセスメント 【到達目標】 ・脳神経系のフィジカルイグザミネーションを実施・習得できる。</p> <p>第10回 【授業形態】 演習+対話 感覚器系のヘルスアセスメント 【到達目標】 ・鼻・耳・口腔/咽頭の構造と機能について説明できる。 ・鼻・耳・口腔/咽頭のアセスメントを的確に実施できる。 ・鼻・耳・口腔/咽頭のアセスメント結果を記録できる。 ・患者に分かりやすい言葉で説明するには、どのように工夫すればよいか考えることができる。</p> <p>第11回 【授業形態】 講義+対話 筋・骨格系のヘルスアセスメント 【到達目標】 ・筋・骨格系の解剖生理が理解できる。 ・関節の機能や可動域及び筋力を系統的にアセスメントできる。 ・筋・骨格系のアセスメント内容（所見）を記録できる。 ・患者に分かりやすい言葉で説明するには、どのように工夫すればよいか考えることができる。</p> <p>第12回 【授業形態】 講義+対話 感覚器系・筋・骨格系のヘルスアセスメント 【到達目標】 ・視覚・聴覚・皮膚知覚・筋・骨格系（関節可動域）のフィジカルイグザミネーションを実施・習得できる。</p> <p>第13回 【授業形態】 演習+対話 乳房・腋下のヘルスアセスメント 【到達目標】 ・乳房・腋下の構造と機能について説明できる。 ・乳房・腋下のアセスメントを実施できる。 ・乳房・腋下のアセスメント所見を記録できる。 ・乳房自己検診法について指導できる。 ・患者に分かりやすい言葉で説明するには、どのように工夫すればよいか考えることができる。</p> <p>第14回 【授業形態】 講義+対話 まとめ+試験 【到達目標】 ・ヘルスアセスメントⅡで学んだことのまとめができる ・筆記試験で60点以上を取得できる 【授業形態】 講義+筆記試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>・ヘルスアセスメントⅠ、人体の機能と構造・生理学等の基礎知識がないと全身を系統的にアセスメントすることができないので、事前学習として必要な知識を予習して授業に臨むこと。特に人体の部位と名称、その機能が分からないと演習が実施できないため、十分に学習しておくこと。 ・技術の自己学習（練習）のために、実習室は9:30～18:00まで使用可能。希望者は申請の上、自主的に練習すること。 ・事前学習、事後学習課題は講義内で指示する。 レポート等は、必ず期限を守って提出すること。提出物はすべて成績評価の対象とする。</p>
教科書	<p>1) 「ナースング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術」 メディカ出版 2) 「看護がみえる①基礎看護技術」 メディックメディア 3) 「看護がみえる②臨床看護技術」 メディックメディア</p>
参考書	<p>1) 「看護技術プラクティス」学研 2) 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院</p>
成績評価	<p>講義演習の3/5以上の出席が定期試験受験の要件であり、また筆記試験60%以上の到達であることが成績評価の対象となる。その他提出されたレポート等を総合的に評価する。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 扇田 千代 研究室 : 10号館 7階 711研究室 メールアドレス : c_oogida@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 大山 由紀子 研究室 : 10号館 8階 803研究室 メールアドレス : y_ooyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー :</p> <p>担当教員名 : 深田 実江子 研究室 : 10号館 7階 706研究室 メールアドレス : m_fukata@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	<p>②「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-2, ○-1, ○-5</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
梅田智恵子 小谷浩美 瀬見井千砂			
添付ファイル			

授業目標	急性期、特に周手術期にある対象の手術前から回復に至る過程を科学的根拠に基づき理解し、必要な知識と経過に応じた基本的な看護について理解することができる。
授業計画	<p>1回 急性期・周手術期の概要 [到達目標]急性期（特に周手術期）の看護の特徴と役割が理解できる [授業形態]教科書および配布PPTにて自己学習の上、課題レポートを作成しメールで提出 [備考]急性期（周手術期）にある患者の特徴とその援助について事前学習が重要。解剖・生理学は熟知しておくこと。レポート課題「術前カレンダー」を出します。</p> <p>2回 手術前の看護 [到達目標]手術に向けての準備と援助方法が理解できる [授業形態]mallyで配信した学習資料に沿って知識の組み立てをし、術前カレンダーを作成 [備考]ポイント：各種検査、術前オリエンテーション、手術前日・手術当日の援助 術前カレンダーは郵送にて提出。</p> <p>3回 生命危機状態にある患者の看護 [到達目標]救急・ICU看護の特徴と役割について理解できる [授業形態]教科書、配布資料PPTを基に、web(mally)にて質疑応答 [備考]救急現場の特徴と救急看護の役割、ICUの特徴とICU看護の役割、ICUに入室する対象、せん妄について自己学習しておくこと</p> <p>4回 手術中看護手 [到達目標]手術室看護師の役割が理解できる [授業形態]遠隔授業（zoom） [備考]手術室の環境と特徴、全身麻酔、手術室看護師（機械出し、外回り）の役割について自己学習してくる。</p> <p>5回 手術直後の看護 [到達目標]手術直後の患者の受け入れ方法、観察の視点、アセスメントについて理解できる [授業形態]遠隔授業（zoom）事前課題はweb(classroom)にて提出指導 [備考]術後ベッド、手術侵襲に伴う生体反応、帰室直後の観察方法、アセスメントの視点、援助について自己学習しておくこと</p> <p>6回 手術後の看護 [到達目標]手術後1日目からの観察の視点と看護について理解できる [授業形態]遠隔授業（zoom） [備考]手術後の観察の方法とアセスメントの視点、術後回復促進のための援助について自己学習しておくこと</p> <p>7回 手術回復過程にある患者の看護 [到達目標]回復過程にある患者の特徴と術後の継続看護の役割が理解できる [授業形態]遠隔授業（zoom） [備考]術後回復期にある患者の特徴、退院に向けての関わり、社会復帰に必要な社会資源・社会保障制度について自己学習をしておくこと</p> <p>8回 テスト（60分）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	術前カレンダーは課題として授業時間外の学習となる。講義内容が多いため、予習をしておかないと講義スピードについていけない。予習復習を兼ね、教科書を自分でまとめるワークが必要。解剖生理は確認したうえで、講義に臨むこと。
教科書	1) 臨床外科看護総論 青木照明他 医学書院 2) 周手術期看護論 雄西智恵美他 ヌーヴェルヒロカワ 3) 救急看護学 山勢博彰 医学書院 4) パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護 I（急性期・周手術期）（第2版）井上智子 照林社
参考書	1) 講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護1 外来/病棟における術前看護 竹内登美子編著 医歯薬出版株式会社
成績評価	出席状況は大学学生便覧に準ずる レポート10%、課題の提出状況や遠隔授業の態度10%、筆記試験80%として総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 梅田智恵子 研究室 : 10号館8階 研究室805 メールアドレス : c_umeda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日15:00-16:00</p> <p>担当教員名 : 小谷浩美 研究室 : 10号館7階 研究室703 メールアドレス : h_odani@meiji-u.ac.jp</p>

	<p>オフィスアワー : 講義中に指示</p> <p>担当教員名 : 瀬見井千砂</p> <p>研究室 : 10号館6階北研究室</p> <p>メールアドレス : c_semii@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 講義中に指示</p>
備考	<p>梅田智恵子 : 複数の急性期病棟 (消化器乳腺一般外科・HCU・泌尿器。整形外科) のトータル実務経験8年あり。</p> <p>小谷浩美 : 各急性期病棟 (消化器乳腺一般外科、HCU、泌尿器科、整形外科、産婦人科・小児科) 心臓・血管カテーテル検査室・手術室・放射線科・麻酔科・内視鏡室 でトータル実務経験35年、</p> <p>瀬見井千砂 : 急性期病棟 (消化器乳腺泌尿器一般外科) 5年の実務経験あり</p>
	<p>この授業とディプロマポリシーとの関連</p> <p>◎ー1、○ー4、5</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
梅田智恵子 小谷浩美 瀬見井千砂			
添付ファイル			

授業目標	既習の知識をふまえて、麻酔や手術、突然の発症による生体侵襲が心身に及ぼす影響について学ぶ。また、生体侵襲による心身に及ぼす影響を予防するために必要な知識・技術・態度について学ぶ。そして、症状別、疾患別など対象の病態・状態に応じた看護について学ぶ。 1) 周手術期または生命危機にある対象の系統的なアセスメントについて学ぶ 2) 術後機能障害が対象のセルフケア能力に及ぼす影響についてアセスメントすることができる 3) 看護過程を通して、周手術期または生命危機にある対象の看護を考えることができる 4) 看護過程を通して対象に応じた看護実践について考えることができる 5) 周手術期に必要な看護技術が習得できる
授業計画	<p>1回 術後合併症と看護① [到達目標]術後合併症の原因と発生機序をふまえたアセスメントの視点、予防等を理解できる。 [授業形態]プレゼンテーション・講義 [備考]術後合併症については、夏季休暇前に課題提示。</p> <p>2回 術後合併症と看護② [到達目標]術後合併症発症時の看護について理解できる。早期離床の目的・方法が理解できる。 [授業形態]講義・グループワーク [備考]早期離床の目的方法について復習。術後カレンダーの作成。</p> <p>3回 周手術期の患者の看護①：消化器系（1） [到達目標]消化器系の手術を受ける患者の特徴と看護を理解できる。 [授業形態]講義 [備考]消化器系の解剖・生理、胃がんの原因、症状、診断、治療について自己学習。</p> <p>4回 周手術期の患者の看護②：消化器系（2） [到達目標]腹腔鏡下手術を受ける患者の看護を理解できる。 腹腔鏡下胆嚢摘出術後患者の関連図がイメージできる。 [授業形態]講義・プレゼンテーション [備考]胆道系の解剖・生理、胆石の原因、症状、診断、治療について自己学習。</p> <p>5回 急性期看護に必要な看護技術①：観察項目 [到達目標]生命危機状態にある患者の観察・看護技術が習得できる。 [授業形態]演習 [備考]看服用（看護制服・結髪・ナースシューズ） 術後合併症・術後カレンダーを再度見直し、観察ができる状態まで自己学習。</p> <p>6回 急性期看護に必要な看護技術②：早期離床 [到達目標]早期離床に必要な看護技術が習得できる。 [授業形態]演習 [備考]看服用（看護制服・結髪・ナースシューズ） 急性期看護援助論Ⅰの復習は自己学習。</p> <p>7回 看護過程の展開① [到達目標]事例に応じた情報の整理と分析ができる。 [授業形態]講義+グループワーク+プレゼンテーション [備考]「疾患の理解」、「情報整理シート」、「情報の整理と分析」を自己学習として講義内容を復習し、課題作成する。</p> <p>8回 周手術期患者の看護⑥：腎・泌尿器系 [到達目標]腎・泌尿器系の手術を受ける患者の特徴と看護について理解できる。 [授業形態]講義 [備考]腎・泌尿器系の機能と解剖、腎がん・膀胱がん・前立腺肥大症の原因、症状、診断、治療について自己学習。</p> <p>9回 周手術期の患者の看護③：乳腺 [到達目標]乳腺系の手術を受ける患者の特徴と看護について理解できる。 [授業形態]課題解決型講義 [備考]乳腺系の解剖・生理、乳がんの原因、症状、診断、治療について自己学習。</p> <p>10回 周手術期患者の看護⑤：運動器系 [到達目標]運動器系の手術を受ける患者の特徴と看護について理解できる。 [授業形態]講義 [備考]運動器系の機能と解剖、大腿骨頸部・転子部骨折の原因、症状、診断、治療について自己学習。</p> <p>11回 周手術期の患者の看護④：呼吸器系 [到達目標]呼吸器系の手術を受ける患者の特徴と看護について理解できる。 [授業形態]課題解決型講義 [備考]呼吸器系の解剖・整理、肺がんの原因、症状、診断、治療について自己学習</p> <p>12回 重症患者の看護：呼吸器系・循環器系 [到達目標]呼吸器系・循環器系の重症患者の看護について理解できる。 [授業形態]講義 [備考]呼吸不全の原因、症状、診断、治療、人工呼吸器について自己学習。</p>

	<p>循環器系の解剖・整理、虚血性心疾患の原因、症状、診断、治療について自己学習。</p> <p>13回 看護過程の展開② [到達目標]事例に応じた関連図を作成でき、問題点が抽出できる。 [授業形態]講義+グループワーク+プレゼンテーション [備考]「関連図・問題点」を自己学習として講義内容を復習し、課題作成する。</p> <p>14回 看護過程の展開③ [到達目標]事例に応じた看護計画が立案でき、実践評価が理解できる。 [授業形態]講義+グループワーク+プレゼンテーション [備考]「看護計画」を自己学習として講義内容を復習し、課題作成に結び付ける。</p> <p>15回 (60分) テスト</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	術後合併症・術後カレンダー・看護過程の展開は課題として授業時間外の学習となる。講義の量が多いため、予習をしておかないと講義スピードについていけない為、予習復習を兼ね、自分でまとめる。
教科書	1) 周手術期看護論 雄西智恵美他 ノーベルヒロカワ 2) 臨床外科看護総論・各論 北島政樹 医学書院 3) 系統看護学講座 成人看護2呼吸器・3循環器・5消化器・8腎泌尿器・10運動器 浅野浩一郎他 医学書院
参考書	パーフェクト臨床実習ガイドⅠ急性期・周手術期 井上智子編集 照林社 NANDA-I看護診断 原書第11版 定義と分類 2018-2020 医学書院 これなら使える看護介入 厳選47NANDA-I看護診断への看護介入 第2版 編集 江川隆子 医学書院
成績評価	出席状況は大学学生便覧に準ずる。 レポート20%、筆記試験80%として総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 梅田智恵子 研究室 : 10号館8階 研究室805 メールアドレス : c_umeda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日15:00-16:00</p> <p>担当教員名 : 小谷浩美 研究室 : 10号館7階 研究室703 メールアドレス : h_odani@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義中に指示</p> <p>担当教員名 : 瀬見井千砂 研究室 : 10号館6階北研究室 メールアドレス : c_semii@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義中に指示</p>
備考	梅田智恵子:急性期病棟(消化器乳腺一般外科・HCU・泌尿器科・整形外科)の実務経験あり 小谷浩美:急性期病棟(消化器乳腺一般外科・HCU・泌尿器科・整形外科)手術室、カテ室の実務経験あり 瀬見井千砂:急性期病棟(消化器・乳腺・泌尿器・整形・一般外科)実務経験あり
	この授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
仲口 路子			
添付ファイル			

授業目標	1) 慢性に経過する健康障害の特徴および健康障害が生活に与える影響について説明できる。 2) 慢性に経過する健康障害をもつ成人期の患者とその家族が健康障害を受容し対処していくための看護援助の方法について説明できる。
授業計画	<p>第1回 (100)</p> <p>〔授業概要〕 慢性期看護とはなんだろう/その特徴を理解する：その1</p> <p>〔到達目標〕 授業ガイダンス（進め方の説明/注意事項/評価について）</p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性期看護の特徴 <ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患の捉え方 慢性疾患の種類と捉え方 慢性疾患の動向と社会の変化 慢性疾患における治療の特徴 <ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患における治療の考え方 慢性疾患における治療法とその特徴 慢性疾患を有する人を取りまく療養環境の特徴 <ol style="list-style-type: none"> 療養環境の変化と看護師の役割拡大 病院・地域・在宅との連携 医療費の問題 <p>〔授業形態〕 講義とグループワーク・発表</p> <p>〔備考〕 前半50分は講義、後半40分は慢性期看護を展開するにあたって糖尿病の患者を例に、必要な患者支援の方法をグループで討議し発表します。討議した内容と発表内容は発表後に提出してください。最後10分はコミュニケーションペーパーを記載し提出します。</p> <p>【予習しておくこと】教科書を参照し「症状マネジメント」「セルフモニタリング」「アドボカシー」「コンプライアンス」「アドヒアランス」を調べ、ノートにまとめてくる。</p> <p>【復習すること】予習内容に追加記載をする。</p> <p>第2回 (100)</p> <p>〔授業概要〕 慢性期看護とはなんだろう/その特徴を理解する：その2</p> <p>〔到達目標〕 前回の学びの復習（コミュニケーションペーパーへの返答）</p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患を有する人に対する看護の役割 <ol style="list-style-type: none"> 意思決定を支える援助 病気の受け入れ過程を支える援助 セルフマネジメントを促すための継続的支援 人権擁護と倫理的課題へのかかわり 慢性疾患を有する人にかかわる専門職とチーム医療 <ol style="list-style-type: none"> チーム医療とは チーム医療の実践 <p>〔授業形態〕 講義とまとめの発表</p> <p>〔備考〕 最初70分は講義。その後20分間で学生の代表者数名に今回のまとめを発表してもらい、質疑応答の時間も取ります。最後10分はコミュニケーションペーパーを記載し提出します。</p> <p>【予習しておくこと】 ・教科書 p 2から p 39までを読み、要点をおさえる。</p> <p>【復習すること】 ・教科書 p 39の練習問題をノートに写して調べる。</p> <p>第3回 (100)</p> <p>〔授業概要〕 慢性疾患を有する人とその家族を理解する：その1</p> <p>〔到達目標〕 前回の学びの復習（コミュニケーションペーパーへの返答）</p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患を有する人の身体的特徴 <ol style="list-style-type: none"> 加齢に伴う身体機能の変化 慢性疾患や治療が及ぼす身体機能への影響 成人期における加齢や治療が及ぼす影響 慢性疾患を有する人の心理的特徴 <ol style="list-style-type: none"> 成人の発達課題

- B 心理過程の特徴
- C 自己概念への特徴

〔授業形態〕 講義とグループワーク・発表

〔備考〕 最初70分は講義。その後20分間で学生の代表者数名に今回のまとめを発表してもらい、質疑応答の時間も取ります。最後10分はコミュニケーションペーパーを記載し提出します。

【予習してくること】

- ・教科書 p 42から p 59までを読み要点をおさえる。

【復習すること】

- ・「危機理論」について調べてノートにまとめる。

〔授業概要〕 慢性疾患を有する人とその家族を理解する：その2

〔到達目標〕 前回の学びの復習（コミュニケーションペーパーへの返答）

危機理論についてグループワークをして発表する。

1. 慢性疾患を有する人の生活および社会的特徴

- A 役割とは
- B 役割の変化
- C 治療とセクシュアリティ

2. 慢性疾患を有する人を支える家族の特徴

- A 患者と家族をとりまく問題
- B 家族に必要なケア

〔授業形態〕 ミニテスト・講義とグループワーク・発表

〔備考〕 最初10分：確認テスト。次の10分はGW。その後20分間で発表会。発表内容は発表後に提出してください。その後50分程度講義。最後10分はコミュニケーションペーパーを記載し提出します。

【予習してくること】

- ・教科書 p 60から p 68までを読み要点をおさえる。

【復習すること】

- ・ p 69の練習問題をノートに写して回答する。

〔授業概要〕 慢性疾患を有する人とその家族への援助・支援の基本を理解する：その1

〔到達目標〕 前回の学びの復習（コミュニケーションペーパーへの返答）

1. 主な理論・概念

- A セルフケア
- B セルフマネジメント
- C 自己効力感
- D 健康信念
- E トランスセオレティカルモデル
- F アドヒアランス
- G 病みの軌跡

2. 治療・療養を促進する支援

- A セルフマネジメント能力を高める支援
- B 成人患者への教育的アプローチ
- C 相談技術

〔授業形態〕 ミニテスト・講義とグループワーク・発表

〔備考〕 最初10分：確認テスト。次の60分は講義。その後20分間で、理論をノートに整理します。最後10分はコミュニケーションペーパーを記載し提出します。

【予習してくること】

教科書 p 71から p 93までを読んでくる。

【復習すること】

ノートにそれぞれの理論の要点を整理する。

〔授業概要〕 慢性疾患を有する人とその家族への援助・支援の基本を理解する：その2

〔到達目標〕 前回の学びの復習（コミュニケーションペーパーへの返答）

1. 社会資源の活用

- A 社会保証制度について
- B 保健医療福祉制度
- C 事例でみる難病者の社会資源の活用
- D サポートグループやセルフヘルプグループ

〔授業形態〕 ミニテスト・講義とグループワーク・発表

〔備考〕 最初10分：確認テスト。次の60分は講義。その後20分間で学生の代表者数名に今回のまとめを発表してもらい、質疑応答の時間も取ります。最後10分はコミュニケーションペーパーを記載し提出します。

第4回
(100)

第5回
(100)

第6回
(100)

<p>第7回 (75)</p> <p>講義外 (60)</p>	<p>【予習してくること】 教科書 p 111から p 127までを読んでくる。</p> <p>【復習すること】 慢性期看護援助論 I の学びを整理する。 〔授業概要〕 脳梗塞の患者をアセスメントしてみよう</p> <p>〔到達目標〕 ① 前回の学びの復習（コミュニケーションペーパーへの返答） ② これまでの学びを活かし、脳梗塞患者にどのような看護援助が必要か、アセスメントする。</p> <p>〔授業形態〕 ミニテスト・講義とグループワーク・発表</p> <p>〔備考〕 最初30分はメモを取りながらDVDを視聴する。その後20分間グループワークを行い、どんな看護が必要かをアセスメントします。その後20分でグループごとに発表し、質疑応答を行う。討議した内容と発表内容は発表後に提出してください。</p> <p>【予習してくること】 脳梗塞について調べてくる。</p> <p>【復習すること】 慢性期看護援助論 I で学んだ要点を整理し確認する。 知識の整理とまとめ</p> <p>〔到達目標〕 慢性期看護援助論 I での学びの到達を確認する。 〔備考〕 終講筆記試験</p>
<p>授業時間外の学習 (準備学習等) について</p>	<p>「授業計画」を参照して下さい。</p>
<p>教科書</p>	<p>①成人看護学 慢性期看護—病気とともに生活する人を支える— 鈴木久美編集 南江堂 ②ナースキャンパス 年間購読 (4月～3月) 学研</p> <p>※いずれも援助論Ⅱでも使います。</p>
<p>参考書</p>	<p>適宜紹介します。</p>
<p>成績評価</p>	<p>必要な出席日数があること。 コミュニケーションカードと提出物、確認テスト、筆記試験（終講試験）で評価します。</p>
<p>担当教員の基本情報</p>	<p>担当教員名 : 仲口 路子 研究室 : 10号館（看護学部棟）8階808 メールアドレス : nakaguchi@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名 : 伊賀 さくら 研究室 : 10号館（看護学部棟）7階774 メールアドレス : s_iga@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名 : 清水 徳子 研究室 : 10号館（看護学部棟） メールアドレス : n_shimizu@meiji-u.ac.jp</p>
<p>備考</p>	<p>◎-1 ○-2</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
仲口 路子			
添付ファイル			

授業目標	<p>1) 慢性に経過する健康障害をもつ成人期の患者とその家族が、健康障害を受容し対処していくための看護援助の方法について理解する。</p> <p>2) 慢性病をもつ成人期の患者にふさわしい看護援助法について演習や事例を通して学ぶ</p> <p>3) 慢性に経過する健康障害をもつ成人期の患者の日常生活を維持・支援するための看護活動や継続看護の必要性・方法を理解する。</p>
授業計画	<p>1回 (100) 【授業概要】 授業ガイダンス／インスリン療法を受ける患者の理解と看護 【到達目標】 ① 授業ガイダンス (進め方の説明/注意事項/評価について) ② 代謝機能障害 (糖尿病) とインスリン療法・看護を理解できる。</p> <p>【授業形態】 講義とグループワーク・発表</p> <p>【備考】 前半の50分は講義、その後15分でグループで問題を2問ずつ作成し、グループから出題して、全員で解答を確認して知識を整理します (25分)。発表 (出題) 内容は発表後に提出してください。最後10分はコミュニケーションペーパーを記載し提出します。</p> <p>【予習してくること】 シラバスをよく読んで来ること。 南江堂の教科書 p 106～p 114, p 307～p 318を読んでおく。</p> <p>【復習すること】 出題された内容をノートに整理しておく。</p> <p>2回 (100) 【授業概要】 ステロイド療法を受ける患者の理解と看護 【到達目標】 ① 前回の学びの復習 (コミュニケーションペーパーへの返答) ② ステロイド療法を受ける対象やその治療・看護を理解する。</p> <p>【授業形態】 ミニテスト・講義とグループワーク・発表</p> <p>【備考】 最初10分は確認テスト。次に50分講義。その後10分間でグループで問題を2問ずつ作成し、グループから出題して、全員で解答を確認して知識を整理します (20分)。発表 (出題) 内容は発表後に提出してください。最後10分はコミュニケーションペーパーを記載し提出します。</p> <p>【予習してくること】 南江堂の教科書 p 133～p 141, p 294～p 306, p 378～p 397を読んでおく。</p> <p>【復習すること】 出題された内容をノートに整理しておく。</p> <p>3回 (100) 【授業概要】 ペースメーカー装着／循環器系疾患の患者の理解と看護 【到達目標】 ① 前回の学びの復習 (コミュニケーションペーパーへの返答) ② ペースメーカーを装着している対象や循環器系疾患の患者の治療・看護を理解する。</p> <p>【授業形態】 ミニテスト・講義とグループワーク・発表</p> <p>【備考】 最初10分は確認テスト。次に50分講義。その後10分間でグループで問題を2問ずつ作成し、グループから出題して、全員で解答を確認して知識を整理します (20分)。発表 (出題) 内容は発表後に提出してください。最後10分はコミュニケーションペーパーを記載し提出します。</p> <p>【予習してくること】 南江堂の教科書 p 125～p 132, p 223～p 261を読んでおく。</p> <p>【復習すること】 出題された内容をノートに整理しておく。</p> <p>4回 (100) 【授業概要】 IVRを受ける患者／脳神経系疾患の患者の理解と看護 【到達目標】 ① 前回の学びの復習 (コミュニケーションペーパーへの返答) ② IVRを受ける対象や脳神経系疾患の患者の治療・看護を理解する。</p> <p>【授業形態】 ミニテスト・講義とグループワーク・発表</p> <p>【備考】 最初10分は確認テスト。次に50分講義。その後10分間でグループで問題を2問ずつ作成し、グループから出題して、全員で解答を確認して知識を整理します (20分)。発表 (出題) 内容は発表後に提出してください。最後10分はコミュニケーションペーパーを記載し提出します。</p> <p>【予習してくること】 南江堂の教科書 p 189～p 197, p 398～p 404を読んでおく。</p> <p>【復習すること】 出題された内容をノートに整理しておく。</p> <p>5回 (100) 【授業概要】 化学療法を受ける患者／がん患者の理解と看護① 【到達目標】 ① 前回の学びの復習 (コミュニケーションペーパーへの返答)</p>

	<p>② がん化学療法を受ける対象や治療・看護を理解する。</p> <p>〔授業形態〕 ミニテスト・講義とグループワーク・発表</p> <p>〔備考〕 最初10分は確認テスト。次に50分講義。その後10分間でグループで問題を2問ずつ作成し、グループから出題して、全員で解答を確認して知識を整理します(20分)。発表(出題)内容は発表後に提出してください。最後10分はコミュニケーションペーパーを記載し提出します。</p> <p>【予習してくること】 南江堂の教科書 p 149～p 162, p 287～293, p 360～367を読んでおく。</p> <p>【復習すること】 出題された内容をノートに整理しておく。</p> <p>〔授業概要〕 放射線療法を受ける患者／がん患者の理解と看護②</p> <p>〔到達目標〕 ① 前回の学びの復習(コミュニケーションペーパーへの返答) ② 放射線療法を受ける対象や治療・看護を理解する。</p> <p>〔授業形態〕 ミニテスト・講義とグループワーク・発表</p> <p>〔備考〕 最初10分は確認テスト。次に50分講義。その後10分間でグループで問題を2問ずつ作成し、グループから出題して、全員で解答を確認して知識を整理します(20分)。発表(出題)内容は発表後に提出してください。最後10分はコミュニケーションペーパーを記載し提出します。</p> <p>【予習してくること】 南江堂の教科書 p 163～p 171, p 215～p 221を読んでおく。</p> <p>【復習すること】 出題された内容をノートに整理しておく。</p> <p>〔授業概要〕 内分泌療法・造血幹細胞移植を受ける患者／がん患者の理解と看護②</p> <p>〔到達目標〕 ① 前回の学びの復習(コミュニケーションペーパーへの返答) ② 内分泌療法を受ける対象や治療・看護を理解する。 ③ 造血幹細胞移植を受ける対象や治療・看護を理解する。</p> <p>〔授業形態〕 ミニテスト・講義とグループワーク・発表</p> <p>〔備考〕 最初10分は確認テスト。次に50分講義。その後10分間でグループで問題を2問ずつ作成し、グループから出題して、全員で解答を確認して知識を整理します(20分)。発表(出題)内容は発表後に提出してください。最後10分はコミュニケーションペーパーを記載し提出します。</p> <p>【予習してくること】 南江堂の教科書 p 182～p 188を読んでおく。</p> <p>【復習すること】 出題された内容をノートに整理しておく。</p> <p>〔授業概要〕 COPDの患者の看護と喫煙</p> <p>到達目標 ① 前回の学びの復習(コミュニケーションペーパーへの返答) ② COPDを持つ対象や治療・看護を理解する。 ③ 喫煙について討議する。</p> <p>〔授業形態〕 ミニテスト・講義とディベート</p> <p>〔備考〕 最初10分は確認テスト。次に30分講義。その後50分間でディベートを行います。発表内容(準備した資料等)は発表後に提出してください。ディベート終了後のまとめを行い、最後10分はコミュニケーションペーパーを記載し提出します。</p> <p>【予習してくること】 南江堂の教科書 p 200～p 214を読んでおく。 禁煙チームと喫煙チームに分かれてディベートを行うので準備をしておく。</p> <p>【復習すること】 重要事項をノートに整理しておく。</p> <p>〔授業概要〕 事例展開</p> <p>〔到達目標〕 ① 事例の展開方法を理解する。 ② 事例展開を行う。</p> <p>〔授業形態〕 講義とグループワーク・発表</p> <p>〔備考〕 事例により看護過程の展開 [アセスメント(情報の整理/解釈と分析・看護診断・看護計画の立案まで)]を行う。個人ワークを基本とする。グループで相談しても良い。</p> <p>〔時間配分〕 : 10分 前回のコミュニケーションペーパーへのお返事。 60分 個人(グループ)ワークを行う。(適宜指導を受ける。) 20分 本日の進捗についてグループ単位で報告 10分 コミュニケーションペーパーを記載し提出する。</p> <p>〔授業概要〕 事例展開</p> <p>〔到達目標〕 ① 事例展開を行う ② 必要時、書籍等の検索を行う。</p> <p>〔授業形態〕 グループワーク・発表</p> <p>〔備考〕 事例により看護過程の展開 [アセスメント(情報の整理/解釈と分析・看護診断・看護計画の立案まで)]を行う。個人ワークを基本とする。グループで相談しても良い。</p> <p>〔時間配分〕 : 10分 前回のコミュニケーションペーパーへのお返事。 60分 個人(グループ)ワークを行う。(適宜指導を受ける。) 20分 本日の進捗についてグループ単位で報告し、質疑応答を行う。</p>
6回 (100)	
7回 (100)	
8回 (100)	
9回 (100)	
10回 (100)	

	<p>10分 コミュニケーションペーパーを記載し提出する。</p> <p>11回 (100) [授業概要] 事例展開</p> <p>[到達目標] ① 事例展開を行う ② 必要時, 書籍等の検索を行う。</p> <p>[授業形態] グループワーク・発表</p> <p>[備考] 事例により看護過程の展開 [アセスメント (情報の整理/解釈と分析・看護診断・看護計画の立案まで)] を行う。個人ワークを基本とする。グループで相談しても良い。</p> <p>[時間配分] : 10分 前回のコミュニケーションペーパーへのお返事。 60分 個人 (グループ) ワークを行う。(適宜指導を受ける。) 20分 本日の進捗についてグループ単位で報告し, 質疑応答を行う。 10分 コミュニケーションペーパーを記載し提出する。</p> <p>12回 (100) [授業概要] 事例展開</p> <p>[到達目標] ① 事例展開を行う ② 必要時, 書籍等の検索を行う。</p> <p>[授業形態] グループワーク・発表</p> <p>[備考] 事例により看護過程の展開 [アセスメント (情報の整理/解釈と分析・看護診断・看護計画の立案まで)] を行う。個人ワークを基本とする。グループで相談しても良い。</p> <p>[時間配分] : 10分 前回のコミュニケーションペーパーへのお返事。 60分 個人 (グループ) ワークを行う。(適宜指導を受ける。) 20分 本日の進捗についてグループ単位で報告し, 質疑応答を行う。 10分 コミュニケーションペーパーを記載し提出する。</p> <p>13回 (100) [授業概要] 事例展開</p> <p>[到達目標] ① 事例展開を行う ② 必要時, 書籍等の検索を行う。</p> <p>[授業形態] グループワーク・発表</p> <p>[備考] 事例により看護過程の展開 [アセスメント (情報の整理/解釈と分析・看護診断・看護計画の立案まで)] を行う。個人ワークを基本とする。グループで相談しても良い。</p> <p>[時間配分] : 10分 前回のコミュニケーションペーパーへのお返事。 60分 個人 (グループ) ワークを行う。(適宜指導を受ける。) 20分 本日の進捗についてグループ単位で報告し, 質疑応答を行う。 10分 コミュニケーションペーパーを記載し提出する。</p> <p>14回 (50) [授業概要] 事例による看護展開の発表会 [到達目標] 事例による看護展開を発表し, 知識の共有ができる。</p> <p>[授業形態] グループワーク・発表</p> <p>[備考] 発表する学生は当日ビンゴマシーンにより決定する。指名によらず自ら発表した学生と, 出来栄え点が高かった学生には5点加点する。</p> <p>講義外 (60) 知識の整理とまとめ</p> <p>[到達目標] 慢性期看護援助論Ⅱでの学びの到達を確認する。 [備考] 終講筆記試験</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	「授業計画」を参照して下さい。
教科書	成人看護学 慢性期看護—病気とともに生活する人を支える— 鈴木久美編集 南江堂 ナースィングキャンパス年間購読 (4月~3月) 学研 (慢性期看護援助論Ⅰの参考書に指定済)
参考書	看護過程の解体新書 石川ふみよ著 学研 2000円 NANDA-1 看護診断 定義と分類 2018-2020 医学書院 3000円
成績評価	コミュニケーションカードの提出, 事例展開のレポートおよびグループ演習参加状況 (50%), 筆記試験試験 (50%) で評価します。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 仲口 路子 研究室 : 10号館 (看護学部棟) 8階808 メールアドレス : nakaguchi@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名 : 伊賀 さくら 研究室 : 10号館 (看護学部棟) 7階774 メールアドレス : s_iga@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名 : 清水 徳子 研究室 : 10号館 (看護学部棟) メールアドレス : n_shimizu@meiji-u.ac.jp</p>

備考	◎-1 ○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
栗山 真由美			
添付ファイル			

授業目標	加齢に伴う特徴を理解するとともに、老年期に特徴的な疾病や病態を説明することができる 高齢者に特有な日常生活機能の障害と看護援助を通して、自立支援に必要な知識、援助方法を述べるこができる			
授業計画	第1回	高齢者看護の基本となる概念・知識 [到達目標] ①老年看護学概論に関する理解度の確認 ②老年期に起こる変化と高齢者の多様性に対応する看護の重要性を述べるこができる [授業形態] ZOOM講義・振り返りテストおよび理解度テスト (準備) シラバスに目を通しておくこと (予習) 教科書「高齢者の健康と障害」P.140-178を読んでおく (定期試験をもとにミニテストを実施) (復習) 課題：関連するレポート作成 Google classroom活用	第2回	高齢者の生活を支える看護/食生活を支える看護 [到達目標] ①加齢に伴って生じる食生活の変化に対するアセスメントと健康的な生活のためのセルフケア支援方法を述べるこができる [授業形態] ZOOM講義。一部個々の自宅にて演習 振り返りテストおよび理解度テスト (予習) 教科書「高齢者看護の実践」P.12-36を読んでおく (復習) 課題：関連するレポート作成 Google classroom活用
	第3回	高齢者の生活を支える看護/排泄を支える看護 [到達目標] ①加齢に伴って起こりやすい排泄の機能に関する障害のアセスメントとセルフケア支援方法を述べるこができる [授業形態] ZOOM講義 振り返りテストおよび理解度テスト (予習) 教科書「高齢者看護の実践」P.37-56を読んでおく (復習) 課題：関連するレポート作成 Google classroom活用	第4回	高齢者の生活を支える看護/活動と休息を支える看護 [到達目標] ①高齢者の活動と休息の特徴を理解し、アセスメントと支援方法を述べるこができる [授業形態] 講義形式 (予習) 教科書「高齢者看護の実践」P.82-115を読んでおく (復習) 課題：関連するレポート作成 Google classroom活用
	第5回	高齢者の生活を支える看護/歩行・移動を支える看護 [到達目標] ①ADLに直結する歩行・移動のアセスメントとセルフケア支援方法を述べるこができる [授業形態] 講義形式 一部運動指導演習 (予習) 教科書「高齢者看護の実践」P.116-144を読んでおく (復習) 課題：関連するレポート作成 Google classroom活用	第6回	高齢者の生活を支える看護/呼吸・循環機能障害を支える看護 [到達目標] ①高齢者に特有の呼吸・循環機能障害やその障害が生活に与える影響を述べるこができる [授業形態] 講義形式 一部呼吸指導演習 (予習) 教科書「高齢者看護の実践」P.145-174を読んでおく (復習) 課題：関連するレポート作成 Google classroom活用
	第7回	高齢者の生活を支える看護/高齢者のコミュニケーション障害と看護 [到達目標] ①コミュニケーション能力の変化による生活への影響とそのアセスメント、セルフケア支援方法を述べるこができる ②これまで7回の授業のまとめを行い高齢者の日常生活機能の障害や高齢者に多い疾患について述べるこができる [授業形態] 講義形式 一部コミュニケーション方法演習 (予習) 教科書「高齢者健康と障害」P.246-290 P.200-213を読んでおく (復習) 関連する国家試験のレポート作成	講義外 (最終試験)	知識の整理とまとめ (60分) 【到達目標】

	老年看護援助論 I での学びの到達度を確認する
授業時間外の学習 (準備学習等)について	(予習・復習の徹底) 予習：授業予定の範囲の教科書を読んで授業に臨むこと。事前課題を課すことがある。60分程度 復習：新しいキーワードや十分理解できなかった内容は復習し次の講義に備えること。課題は授業の進行をふまえてその都度指示する 60分程度
教科書	「老年看護学-①高齢者健康と障害-」堀内ふき著 (メディカ出版) 第4版2019 「老年看護学-②高齢者看護の実践」堀内ふき著 (メディカ出版) 第5版2019
参考書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子ほか著 (医学書院) 2019 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態 疾患論」佐々木英忠ほか著 (医学書院) 2019
成績評価	定期試験50% 課題レポートおよび授業中に実施する振り返りテスト、理解度テスト50% Google Form 課題レポートおよび提出物等の期限が守られない場合減点とする ☆老年看護学概論で配布したルーパーファイル (ポートフォリオ) を活用するため、指示された方法でまとめておくこと (紛失等は減点対象となる) 再試験は1回のみとする 欠席3回以上で定期試験を受けることができない
担当教員の基本情報	担当教員名 : 栗山 真由美 研究室 : 10号館8階研究室 メールアドレス : ma_kuriyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (メールにて約束をとること)
備考	☆授業開始までに着席しておくこと 総合病院にて地域医療連携、高齢者への運動指導・栄養管理等の経験を踏まえて講義を行う ◎-2 ○-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
栗山 真由美 東孝至 福田美紀代			
添付ファイル			

授業目標	加齢に伴う特徴を理解するとともに、健康障害を示す病態、症状や徴候、経過、治療法などを学び、高齢者およびその家族を対象とした看護援助の方法、援助技術について看護過程を展開することができる。 老年看護援助論Ⅰをふまえ老年看護援助論Ⅱでは高齢者の持てる力「強み」にも着眼し、演習を中心にそのひとらしく生活することを支える看護過程を展開することができる
授業計画	<p>第1回 「老年看護援助論Ⅱ」の位置づけ・高齢者看護実習の基本 [到達目標] ①老年看護過程の特徴、アセスメント、看護過程の展開のポイントを述べることができる</p> <p>(準備) シラバスに目を通しておくこと、老年看護援助論Ⅰの講義資料およびルーパーファイル(ポートフォリオ)に目を通しておくこと</p> <p>【予習】教科書「高齢者看護の実践」P.296-300 「ウエルネスの視点に基づく老年看護過程」P.42-46 事例Eさんを読んでおく</p> <p>[授業形態]講義 ミニテスト</p> <p>第2回 認知症・うつ病・せん妄の看護① [到達目標] ①認知症・高齢者におけるうつ病・高齢者におけるせん妄の要因と特徴を述べるができる ②認知症高齢者・認知症におけるうつ病、せん妄のアセスメントと看護を理解し、援助方法を述べるができる</p> <p>【予習】教科書「高齢者看護の実践」P.202-240 を読んでおく 【復習】講義に関連した国家試験課題レポート</p> <p>[授業形態]講義 映像視聴 グループワーク 発表</p> <p>第3回 認知症・うつ病・せん妄の看護② [到達目標] ①認知症高齢者とのコミュニケーションの基本、アプローチの仕方を述べるができる ②認知症高齢者の人権と権利擁護について制度を含めて理解し、述べることができる</p> <p>【予習】教科書「高齢者看護の実践」P.202-240 を読んでおく 【復習】講義に関連した国家試験課題レポート</p> <p>[授業形態]講義 映像視聴 グループワーク(ライフヒストリー記録演習) 発表</p> <p>第4回 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護① [到達目標] ①高齢者の摂食・嚥下に関する必要な知識を習得し、実践で役立つ嚥下障害や口腔ケア技術を修得する</p> <p>【予習】教科書「高齢者看護の実践」P.12-36 P.63-68 を読んでおく 【復習】講義に関連した国家試験課題レポート</p> <p>[授業形態]講義 映像視聴</p> <p>第5回 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護② [到達目標] ①高齢者の摂食・嚥下に関する必要な知識を習得し、実践で役立つ嚥下障害や口腔ケア技術を修得する ②看護過程を展開することができる</p> <p>【予習】教科書「高齢者看護の実践」P.12-36 P.63-68 を読んでおく 【復習】講義に関連した国家試験課題レポート</p> <p>[授業形態]演習 グループワーク 発表</p> <p>第6回 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護③ [到達目標] ①高齢者の排泄・清潔、衣生活に必要な知識を習得し、実践で役立つ排泄・清潔、衣生活技術を修得する</p>

第7回	<p>【予習】教科書「高齢者看護の実践」P.37-56 P.57-82 を読んでおく 【復習】講義に関連した国家試験課題レポート</p> <p>[授業形態]講義 映像視聴 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護④</p> <p>[到達目標] ①高齢者の排泄・清潔、衣生活に必要な知識を習得し、実践で役立つ排泄・清潔、衣生活技術を修得する ②看護過程を展開することができる</p>
第8回	<p>【予習】教科書「高齢者看護の実践」P.37-56 P.57-82 を読んでおく 【復習】講義に関連した国家試験課題レポート</p> <p>[授業形態]演習 グループワーク 発表 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護⑤</p> <p>[到達目標] ①高齢者によく見られる骨折、変形性膝関節症、骨粗鬆症の特徴と看護を理解し、実践で役立つ転倒予防や移動の技術を修得する</p>
第9回	<p>【予習】教科書「高齢者看護の実践」P.116-144 を読んでおく 【復習】講義に関連した国家試験課題レポート</p> <p>[授業形態]講義 映像視聴 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護⑥</p> <p>[到達目標] ①高齢者によく見られる骨折、変形性膝関節症、骨粗鬆症に特徴と看護を理解し、実践で役立つ転倒予防や移動の技術を修得する ②看護過程を展開することができる</p>
第10回	<p>【予習】教科書「高齢者看護の実践」P.116-144 を読んでおく 【復習】講義に関連した国家試験課題レポート</p> <p>[授業形態]演習 グループワーク 発表 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護⑦</p> <p>[到達目標] ①薬物療法を受ける高齢者の看護について理解し看護について述べる事ができる ②看護過程を展開することができる</p>
第11回	<p>【予習】教科書「高齢者看護の実践」P.242-247 を読んでおく 【復習】講義に関連した国家試験課題レポート</p> <p>[授業形態]講義 映像視聴 演習 高齢者のリスクマネジメント</p> <p>[到達目標] ①高齢者のリスクマネジメントの基本的な考え方を理解し、高齢者特有（転倒・誤嚥・栄養障害等）のリスクマネジメントについて述べる事ができる ②治療を受ける（入院・退院・検査等）高齢者の看護について述べる事ができる ③看護過程を展開することができる</p>
第12回	<p>【予習】教科書「高齢者看護の実践」P.247-284 「高齢者の健康と障害」P.221-225 を読んでおく 【復習】講義に関連した国家試験課題レポート</p> <p>[授業形態]講義 映像視聴 演習 高齢者の看護における倫理的課題（終末期看護も含める）</p> <p>[到達目標] ①高齢者に起こりやすい倫理的課題の背景と行動制限や終末期に起こりやすい症状と看護を述べることができる ②高齢者の看取りとその家族、スタッフへのケアについて述べる事ができる</p>
第13回	<p>【予習】教科書「高齢者看護の実践」P.286-294 を読んでおく 【復習】講義に関連した国家試験課題レポート</p> <p>[授業形態]講義 映像視聴 新聞記事を活用したグループワーク 発表 高齢看護の看護過程①</p> <p>[到達目標] ①看護上の問題とニーズの明確化、全体像の描写、看護の方向性が理解でき述べられる（事例Dさん）</p>
第14回	<p>【予習】教科書「高齢者看護の実践」P.328-335 を読んでおく 第1回～12回までの講義資料に目を通しておく、また講義資料や課題レポートをまとめておく（ルーパーファイル（ポートフォリオ）にまとめる）</p> <p>[授業形態]事例Eさん グループワーク 発表 高齢看護の看護過程②</p> <p>[到達目標] ①看護上の問題とニーズの明確化、全体像の描写、看護の方向性が理解でき述べられる（事例Dさん）</p>

	<p>ん)</p> <p>【予習】教科書「高齢者看護の実践」P.328-335 を読んでおく 第1回～12回までの講義資料に目を通しておく、また講義資料や課題レポートをまとめておく（ルーパーファイル（ポートフォリオ）にまとめる）</p> <p>[授業形態]事例Eさん グループワーク 発表</p> <p>講義外（終講試験） 知識の整理とまとめ</p> <p>【到達目標】 老年看護援助論Ⅱでの学びの到達度を確認する</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>（予習と復習の徹底）</p> <p>予習：授業予定の範囲の教科書を読んで授業に臨むこと。事前課題を課すことがある。60分程度</p> <p>復習：新しいキーワードや十分理解できなかった内容は復習し次の講義に備えること。課題は授業の進行をふまえてその都度指示する 60分程度</p>
教科書	<p>「老年看護学(2)高齢者看護の実践 ナーシング・グラフィカ」堀内 ふきほか著（メディカ出版）2019</p> <p>「老年看護学(1)高齢者の健康と障害 ナーシング・グラフィカ」北川公子ほか著（メディカ出版）2019</p> <p>「ウェルネスの視点にもとづく老年看護過程」生活機能に焦点をあてたアセスメント 奥宮暁子編著（医歯薬出版）2019</p>
参考書	<p>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子ほか著（医学書院）2019</p> <p>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論」北川公子ほか著（医学書院）2019</p> <p>「生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図」山田律子ほか（医学書院）2016</p>
成績評価	<p>定期試験80% 課題レポートおよび提出物等20%</p> <p>課題レポートおよび提出物等の期限が守られない場合減点とする</p> <p>☆老年看護学概論で配布したルーパーファイル（ポートフォリオ）を活用するため、指示通り、まとめておくこと（紛失等にて減点対象となる）</p> <p>再試験は1回のみとする</p> <p>欠席5回以上で定期試験を受けることができない</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 栗山 真由美 研究室 : 10号館8階研究室 メールアドレス : ma_kuriyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時（メールにて約束をとること）</p> <p>担当教員名 : 東孝至 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー : 随時（メールにて約束をとること）</p> <p>担当教員名 : 福田美紀代 研究室 : 10号館6階共同研究室 メールアドレス : m_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時（メールにて約束をとること）</p>
備考	<p>☆授業開始までに着席しておくこと</p> <p>総合病院にて地域医療連携、高齢者への運動指導・栄養管理等の経験を踏まえて講義を行う</p> <p>◎-2 ○-4</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
河原照子 松岡みどり			
添付ファイル			

授業目標	<p><概要> 治療に重点が置かれる段階を終えた病気や外傷の後遺症を持つ人に対して、医療チームのメンバーが連携しつつ、様々な側面から指導や訓練、ケアを提供することによって機能の回復、社会復帰を目指す、というリハビリテーションの意味を理解し、その中で看護が担う役割、機能について学ぶ。</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの概念と障害を持つ人に対する基本理念を理解する。 2. リハビリテーション看護の定義と各健康段階におけるリハビリテーション看護を理解する。 3. 障害を持つ人の生活と心理について理解する。 4. リハビリテーションを必要とする人のADLと援助の基本を理解する。 5. 安静に伴う廃用症候群、誤用・過用症候群の病態について理解する。 6. 廃用症候群を含む二次的障害の予防方法の実際を体験的に理解する。 7. リハビリテーションセラピストの役割と看護チームとの連携について考える。 8. 障害を持つ人の人生の質と支援について考える。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 リハビリテーションの概念、障害者に関する法律、ICF、ノーマライゼーション等について [到達目標] リハビリテーションの概念と対象、リハビリテーションの基本理念を述べることができる。 ICFの理念について理解できる。 [授業形態] 課題提示による自己学習 メール等による学習内容の追加指導 2 リハビリテーション看護の定義、対象、役割機能、各健康段階(回復過程)とリハビリテーション看護のあり方について [到達目標] リハビリテーション看護について述べるができる。 [授業形態] 課題提示による自己学習 メール等による学習内容の追加指導 3 リハビリテーションの概念・リハビリテーション看護の定義 [到達目標] リハビリテーションの概念と、リハビリテーション看護の本質が分かる。 [授業形態] ZOOMによる遠隔講義授業(第1回・第2回の復習授業) メール等による学習内容の追加指導 4 コーン、フィングの障害の受容過程について [到達目標] 障害を持つ人の心理と障害の受容過程を述べるができる。 [授業形態] ZOOMによる遠隔講義授業・振り返り・復習プリントの実施 5 障害を持った人の事例(DVD鑑賞) [到達目標] 事例を通して障害を持つ人の心理について述べるができる。 [授業形態] ZOOMを使つての症例のDVD鑑賞 [備考] DVD鑑賞後、まとめレポート提出 6 ADLの概念、分類、評価について [到達目標] リハビリテーションを必要とする人のADLについて基本的内容を述べるができる。 また、その評価方法について述べるができる。 [授業形態] ZOOMによる遠隔講義授業・小テスト・復習プリントによる振り返り 7 ADLの主な評価法と自立に向けての援助の基本 [到達目標] ADLの援助の基本について述べるができる。 [授業形態] ZOOMによる遠隔講義遠隔授業・小テスト・復習プリントによる振り返り 8 廃用症候群について [到達目標] 安静に伴う廃用症候群やその他の二次的障害の病態と予防の必要性を述べるができる。 [授業形態] ZOOMによる遠隔講義授業・小テスト・復習プリントによる振り返り 9 障害を持つ人の日常生活体験(演習) [到達目標] 障害者体験を通して、障害を持つ人が日常生活で体験していることを述べるができる。 [授業形態] 演習・グループワーク [備考]

	<p>クラスを3班に分けて演習する。演習はグループに分かれて障害者体験をする。 演習後体験レポート課題</p> <p>10 廃用症候群予防の基本的看護について [到達目標] 廃用症候群を予防する基本的看護について述べるができる。 [授業形態] 講義・小テスト・復習プリントによる振り返り</p> <p>11 関節可動域訓練、筋力増強訓練、ポジショニング、座位訓練等の実践について① [到達目標] 関節可動域訓練、筋力増強訓練、ポジショニング、座位訓練の基本的な方法について、演習を行い、実施することができる。 [講義形態] グループ演習 [備考] 事前レポート課題：演習内容についての手順書等作成</p> <p>12 関節可動域訓練、筋力増強訓練、ポジショニング、座位訓練等の実践について② [到達目標] 廃用症候群を予防する基本的援助方法のポイントがわかり実践することができる。 [講義形態] グループ演習 [備考] 演習後、グループごとの発表 体験後の個人課題による振り返り</p> <p>13 理学療法、作業療法、言語聴覚療法の基本的な内容と看護との連携 [到達目標] リハビリテーション療法とセラピストの役割について理解し、リハビリテーション医療チームの連携について考えることができる。 [授業形態] 講義・小テスト・復習プリントによる振り返り</p> <p>14 障害を持つ人の生活行為・社会参加への援助と社会資源の整備・活用について [到達目標] 障害を持つ人の人生の質と支援について考えることができる。 [授業形態] 講義・小テスト</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<ul style="list-style-type: none"> ・配布プリント、教科書の対応部分を精読し、わからない部分があれば調べ、それでもわからない場合は質問して解決すること。 ・演習授業等の前には、事前及び事後レポートを課す。レポートは評価点数となるため、そのつもりで取り組むこと。 ・復習として授業後、資料、テキストの内容を自分なりにノートにまとめなおす(各回70分)。 ・講義をやむなく欠席した場合は、必ず講義内容を確認し、授業資料を入手し学習を行い、その後、小テストを実施しておくこと。
教科書	系統看護学講座『リハビリテーション看護』武田宜子他著 医学書院
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤『リハビリテーション看護』奥宮暁子編(メディカ出版) 2. 成人看護学『リハビリテーション看護論』第3版 中西純子他編集(ヌーベルヒロカワ) 3. ナーシングセレクション⑩『リハビリテーション看護』奥野暁子監修(学研)
成績評価	筆記試験80%、課題レポート20% 合計100%(100点)とし、60点以上を合格とする。 再試験は1回のみの実施とする。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 河原照子 研究室 : 10号館8階 研究室804 メールアドレス : t_kawara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 特に指定なし 事前にメール連絡のこと 備考 : 病院での看護師経験や在宅看護業務の実務経験をもとにリハビリテーション看護について授業を進める。</p> <p>担当教員名 : 松岡みどり 研究室 : 10号館 7階 研究室702 メールアドレス : m_matsuoka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 特に指定なし 事前にメール連絡のこと 備考 : 病院での看護師実務経験をもとにリハビリテーション看護について授業をすすめる。</p>
備考	開始時間には着席をしておいてください。 なお、30分以上の遅刻は欠席とみなします。
	この授業とディプロマポリシーとの関係：◎-2、○-1.4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
河原照子 松岡みどり			
添付ファイル			

授業目標	<p><概要> 主な症候や症状、また主な疾患に対するリハビリテーション看護の方法について理解するとともに、臨床で多く出会う事例を通して看護過程の展開を学ぶ。</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感覚機能に障害をもつ人のリハビリテーション看護が理解できる。 2. 循環器に障害をもつ人のリハビリテーション看護が理解できる。 3. 運動障害がある人のリハビリテーション看護が理解できる。 4. 呼吸器に障害をもつ人のリハビリテーション看護が理解できる。 5. 骨折による治療を受けた患者のリハビリテーション看護が理解できる。 6. 神経・筋疾患患者のリハビリテーション看護が理解できる。 7. 脳卒中患者のリハビリテーション看護が理解できる。 8. 高次脳機能障害をもつ人のリハビリテーション看護が理解できる。 9. 失語症がある人のある人のリハビリテーション看護が理解できる。 10. リハビリテーションを必要とする患者事例の看護過程が展開できる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 感覚障害（視覚障害・聴覚障害）を持つ人のリハビリテーション看護 [到達目標] 視覚障害・聴覚障害の原因、分類が理解でき、障害をもつ患者のリハビリテーション看護がわかる。 [授業形態] 講義 2 循環器に障害をもつ人のリハビリテーション看護 [到達目標] 虚血性心疾患患者のリハビリテーション看護学理解できる。 [授業形態] 講義・小テスト・振り返り 3 関節リウマチ患者のリハビリテーション看護 [到達目標] 関節リウマチ患者へのリハビリテーション看護学理解できる。 [授業形態] 講義・小テスト・振り返り 4 呼吸器に障害をもつ人のリハビリテーション看護 [到達目標] 呼吸障害の種類、その特徴について理解できる。 慢性閉塞性肺疾患の病態や患者のリハビリテーション看護が理解できる。 [授業形態] 講義・小テスト・振り返り 5 大腿骨頸部骨折を負った人のリハビリテーション看護 [到達目標] 大腿骨頸部骨折の病態・治療がわかり、患者のリハビリテーション看護が理解できる。 [授業形態] 講義・DVD動画・小テスト・振り返り 6 パーキンソン病患者のリハビリテーション看護 [到達目標] パーキンソン病患者のリハビリテーション看護が理解できる。 [授業形態] 講義・小テスト・振り返り 7 脊椎損傷を負った人のリハビリテーション看護 [到達目標] 脊椎損傷での起こりうる障害がわかり、その患者のリハビリテーション看護が理解できる。 [授業形態] 講義・DVD動画・小テスト・振り返り 8 脳卒中患者のリハビリテーション看護 [到達目標] 脳卒中についてわかり、そのリハビリテーション看護について理解できる。 [授業形態] 講義・DVD動画・小テスト・振り返り 9 失語症・高次脳障害をもつ人のリハビリテーション看護 [到達目標] 失語症の分類と障害部位、リハビリテーション看護について理解できる。 高次脳障害の内容がわかり、それぞれの障害についてのリハビリテーション看護が理解できる。 [授業形態] 講義・DVD動画・小テスト・振り返り

	<p>10 嚥下障害のある人のリハビリテーション看護 ・ 演習オリエンテーションおよび内容の事例の理解</p> <p>[到達目標] 嚥下障害についてわかり、そのリハビリテーション看護について理解できる。 事例について理解でき、必要な知識が分かり、自ら学習に取り組むことができる。</p> <p>[授業形態] 講義</p> <p>[備考] 講義後、演習のすすめ方、事例紹介、事前課題の連絡</p> <p>11 事例を通して看護過程展開(演習1)</p> <p>[到達目標] リハビリテーションを必要とする患者の看護過程の展開ができる。 必要な情報をまとめ、アセスメントを実施することができる。</p> <p>[授業形態] 講義・演習</p> <p>12 事例を通して看護過程展開(演習2)</p> <p>[到達目標] リハビリテーションを必要とする患者の看護過程の展開ができる。 アセスメントについて、発表することができる。 アセスメントされた内容に沿って、関連図を書くことができ、看護の問題点を導きだすことができる。</p> <p>[授業形態] 発表・講義・演習</p> <p>13 事例を通して看護過程展開(演習4)</p> <p>[到達目標] リハビリテーションを必要とする患者の看護過程の展開ができる。 看護展開図(関連図)および看護問題についての発表ができる。 看護問題点について、目標および看護計画を立案することができる。</p> <p>[授業形態] 発表・講義・演習</p> <p>14 看護過程発表(演習4)</p> <p>[到達目標] リハビリテーションを必要とする患者の看護過程の発表ができる。 個性のある看護計画について発表することができる。 他者の発表を聴き、自分の看護過程見直しに活かすことができる。</p> <p>[授業形態] 発表・講義・振り返り</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>・前半1～9回目の授業においては、教科書や参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前に学習し分からないことは解決できるようにしておく(予習35分)。また、講義後は復習課題を実施する(復習35分)。</p> <p>・後半10～14回目の演習授業においては事例を使った看護過程展開を行う。事前課題の実施および看護過程記録の実施を必要とする(計350分)。</p>
教科書	系統看護学講座 別巻『リハビリテーション看護』武田宜子他著(医学書院)
参考書	<p>1. ナーシング・グラフィカ 成人看護学⑤『リハビリテーション看護』奥宮暁子編(メディカ出版)</p> <p>2. 成人看護学『リハビリテーション看護論』第3版 中西純子他編集(ヌーベルヒロカワ)</p> <p>3. ナーシングセレクション⑩『リハビリテーション看護』奥野暁子監修(学研)</p> <p>4. 『リハビリテーション ビジュアルブック』落合慈之監修(学研)</p> <p>5. 「QOL向上につなげるベッドサイドリハビリテーション実践ガイド」稲川利光編(学研)</p>
成績評価	筆記試験70%、演習事前課題15% 看護過程課題15% 合計100%(100点満点とし、60点以上を合格とする)なお、採点については、レポート等の期限が守られない場合は減点を行う。また、看護過程課題については、単位認定とは別に評価を設け、一定のラインに到達していない者は、到達するまで補講を行う。再試験の実施は、1回のみとする。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 河原照子 研究室 : 10号館8階 研究室804 メールアドレス : t_kawara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 特に指定なし 事前にメール連絡を入れること 備考 : 病院での看護師経験や、在宅看護における実務経験をもとにリハビリテーション看護について授業をすすめる。</p> <p>担当教員名 : 松岡みどり 研究室 : 10号館7階 研究室702 メールアドレス : m_matsuoka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 特に指定なし 備考 : 病院での看護師としての実務経験をもとに、リハビリテーション看護について授業をすすめる。</p>
備考	時間開始までに、着席をしておいてください。また、30分以上の遅刻は欠席、30分以上を残しての早退は欠席とみなします。5回以上の欠席は、試験を失うため、欠席の無いようにすること。
	この授業とディプロマポリシーとの関係: ◎-2、○-1.4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
浅井佳士 竹内義博 山下八重子 加瀬由香里			
添付ファイル			

授業目標	病気や入院による子どもと家族への影響を知り、苦痛やストレス緩和の支援を理解する。 成長発達段階での援助での支援の違いを理解する。 小児特有の症状の理解と観察ポイント、その看護を理解する。 小児特有の疾患の観察ポイントを理解する。 治療による身体への影響を理解する。
授業計画	<p>第1回 健康障害を持つ子どもと・家族への看護① 「到達目標」 子どもが病気になること、入院することの影響を理解する。子どもと病気・入院環境について理解し述べるができる。 1. 子どもの病気や入院が子どもと家族に与える影響について理解する 2. 入院治療を必要とする小児の疾患とストレスを理解する [授業形態] 講義形式</p> <p>第2回 健康障害を持つ子どもと・家族への看護② 「到達目標」 子どもが病気になること、入院することの影響を理解する。子どもと病気・入院環境について理解し述べるができる 3. 子どもの入院環境と安全安楽の確保について理解する ・プリパレーション、ディストラクション、遊びについて理解する ・発達に応じた説明や遊び、遊ばせ方の理解をする [授業形態] 講義形式</p> <p>第3回 健康障害を持つ子どもと・家族への看護③ 「到達目標」 在宅における子どもと家族の看護を理解するとともに、在宅での療養の問題点を理解し述べることができる ・外来での子どもと家族の看護、看護師の役割を理解する ・診察介助・検査介助・隔離・保護者への援助がわかる [授業形態] 講義形式</p> <p>第4回 健康障害を持つ子どもと・家族への看護④ 「到達目標」 慢性疾患を持つ子どもとその家族への看護と、周手術期の子どもとその家族への看護を理解し述べる事ができる ・在宅酸素療法・気管切開児のケア・インスリン自己注射・発達障害児 等の看護を理解する ・手術を受ける子どもの看護を理解する [授業形態] 講義形式</p> <p>第5回 健康障害を持つ子どもと・家族への看護⑤ 「到達目標」 終末期の子どもとその家族への看護を理解し述べる事ができる ・がんの末期の状態や疼痛コントロール等を理解する [授業形態] 講義形式</p> <p>第6回 小児に特有な症状とその看護 「到達目標」 発熱、脱水、嘔吐、下痢、熱傷、ショック、痛み等の症状を示す子どもとその家族の看護について理解し、述べることのできる [授業形態] 講義形式</p> <p>第7回 障害を持つ子どもの看護 「到達目標」 身体障害・発達障害の子どもとその家族の看護を理解し述べる事ができる [授業形態] 講義形式 [備考] レポート課題の提示</p> <p>第8回 子どもの虐待とその看護 「到達目標」 子どもの虐待について現状と虐待の背景にあるものを学び虐待について学び、考えることができる [授業形態] 講義形式</p> <p>第9回 感染症の子どもへの看護 「到達目標」 感染症の原因、及び特有の症状について理解し、子どもとその家族の看護について述べる事ができる ・麻疹・水痘・ムンプス・風疹 等 [授業形態] 講義形式</p> <p>第10・11回 消化器疾患（竹内先生） 「到達目標」 消化器疾患の理解と治療を理解し述べる事ができる。</p>

<p>第12・13回</p> <p>第14回</p> <p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消化器疾患の発症機序・分類・病態変化など疾患の概念 ・ 消化器疾患における症状・診断・治療を学ぶことで疾患の特徴および治療上の注意点 <p>[授業形態] 講義形式</p> <p>小児特有の疾患と看護の理解</p> <p>[到達目標]</p> <p>小児特有の疾患と看護が理解でき、看護問題を挙げることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 循環器に影響を与える疾患と看護の理解 (先天性心疾患・ネフローゼ 等) ・ 人工肛門のケアが必要な子どもの看護 (鎖肛・ヒュルシュ 等) ・ 実習でよく受け持つ疾患の看護 (川崎病、喘息、紫斑病 等) <p>[授業形態] 演習</p> <p>[備考]</p> <p>疾患の理解と治療とその影響、検査値、使用薬剤の影響について各自で調べておくこと。</p> <p>前回の授業の事例の看護問題の発表</p> <p>[到達目標]</p> <p>グループワークでの発表を通じて、疾患の理解と治療と看護を理解できる</p> <p>[授業形態] 全体討議</p> <p>試験他</p> <p>筆記試験 80点</p> <p>レポート点 20点</p> <p>授講参加度を合わせて総合的に評価する</p>
<p>授業時間外の学習 (準備学習等)について</p>	<p>(予習・復習の徹底)</p> <p>予習：予定講義範囲の教科書を読んで授業に臨む(60分の予習)。分らない言葉は事前に調べて言葉の理解をしておく。疾患は疾病治療論の教科書であらかじめ調べておくこと。(医学書院の小児臨床看護総論)</p> <p>復習：授業後は、学習内容を教科書を再度読んで確認し理解を深める(60分程度)。</p>
<p>教科書</p>	<p>系統看護学講座 小児臨床看護総論 奈良間美徳編 (医学書院)</p> <p>ナーシング・グラフィカ 小児の発達と看護 中野綾美編 (MCメディカ)</p> <p>ナーシング・グラフィカ 小児看護技術 中野綾美編 (MCメディカ)</p> <p>ナーシング・グラフィカ 小児の疾患と看護 中野綾美編 (MCメディカ)</p>
<p>参考書</p>	<p>適宜紹介</p>
<p>成績評価</p>	<p>試験 80点 レポート20点</p> <p>*但し授業態度が悪い学生は減点する。</p>
<p>担当教員の基本情報</p>	<p>担当教員名 : 浅井佳士 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : k_asai@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名 : 山下八重子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : y_yamashita@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名 : 加瀬由香里 研究室 : 10号館6階 メールアドレス : y_kase@meiji-u.ac.jp</p>
<p>備考</p>	<p>以下の臨床経験も踏まえて講義を行う</p> <p>山下八重子：総合病院での小児看護経験</p> <p>浅井佳士：障害児施設での小児看護経験</p> <p>加瀬由香里：総合病院での小児看護経験</p>
	<p>この授業のDPとの関連 「◎-2」 「○-4」</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
浅井佳士 山下八重子 加瀬由香里			
添付ファイル			

授業目標	種々の疾患の事例を通して小児の発達段階をふまえた看護過程の展開を学び、健康障害を持ち子どもと家族への看護を知る。子どもとその家族を総合的に捕らえるために関連図を作成し、事例のアセスメントから看護計画立案までの看護課程の展開までの過程を理解し関連図の作成できる。さまざまな事例を通して小児看護師の役割について理解する。また、演習を通して小児看護に必要な基本的看護技術を学び実施できる。		
授業計画	第1回	小児のフィジカルアセスメント 「到達目標」 小児のフィジカルアセスメントの特徴と重要性について理解できる。フィジカルアセスメントの方法を理解しおける事ができる。子どもの全身の評価の方法を理解しおける事ができる。 [授業形態] 講義形式	
	第2・3回	小児看護に必要な看護技術の修得① 「到達目標」 小児のバイタルサイン測定・身体計測・身体発育評価の実施演習を通して計測が正確にできる成長発達段階での標準的な数値を理解する [授業形態] 講義+演習	
	第4・5回	小児看護に必要な看護技術の修得② 「到達目標」 輸液管理・子どもの蘇生の実際を演習で学び実施方法を理解し演習で実施できる ・輸液管理（輸液ポンプの操作・点滴の固定・滴下数・観察） ・吸引 [授業形態] 講義+演習	
	6・7回	バイタルサイン測定実技試験 「到達目標」 バイタルサイン測定試験に合格する(測定ができる) ・その他の時間は・DVD・これまでに習った知識の確認(ミニテスト) [授業形態] 試験+演習(試験を受ける時間以外の課題を行う)	
	8・9回	事例展開を通して小児看護を学ぶ 事例1 「到達目標」 情報収集・アセスメント・関連図・計画立案について理解できる ・入院治療を受ける子どもとその家族のアセスメントを行い、必要な看護を展開する方法を学ぶ。 ・疾患と治療、検査を理解するとともに、成長発達段階に応じた看護計画を立案することができる。 [授業形態] 講義形式+グループワーク [備考]	
	10・11回	事例展開を通して小児看護を学ぶ 事例2 「到達目標」 情報収集・アセスメント・関連図・計画立案ができる ・疾患を持つ子どもとその家族のアセスメントを行い、必要な看護を展開する方法を学ぶ。 ・疾患と治療、検査を理解するとともに、成長発達段階に応じた看護計画を立案することができる。 [授業形態] グループワーク+個人ワーク [備考]	
	12・13・14	事例展開を通して小児看護を学ぶ 事例3 「到達目標」 情報収集・アセスメント・関連図・計画立案ができる ・入院治療を受ける子どもとその家族のアセスメントを行い、必要な看護を展開する方法を学ぶ。 ・疾患と治療、検査を理解するとともに、成長発達段階に応じた看護計画を立案することができる。 [授業形態] 講義形式+グループワーク [備考]	
	評価	事例の疾患と治療・検査については勿論、行っているケアについて実施方法や注意事項なども調べて学習すること。年齢に応じた看護計画を立案すること。	
		試験(60分) 80点 試験受験資格 ・バイタルサイン合格者 ・レポート課題・関連図(20点)の提出者	

授業時間外の学習 (準備学習等)について	(予習復習の徹底) 1) 予定されている授業の内容について小児臨床看護各論を読んで授業に臨む。 指示された事項については必ず予習をして授業に臨むこと。予習 (30分以上) 2) 復習として配布資料を熟読し内容を理解する。復習 (30分以上) 事前学習として、これまでに小児看護学概論で学んだ小児の発達について復習しておくこと。 3) 提示された課題を文献や教科書を活用し提出締め切りを守り提出する。 4) 実技演習は白衣で身だしなみを整え、5分前には演習室に揃っていること。
教科書	系統看護学講座 小児臨床看護各論 奈良間美穂編 (医学書院) ナーシング・グラフィカ 小児看護学 ①②③ (メディカ出版)
参考書	適宜紹介
成績評価	試験80% 課題20% 但し、課題提出・バイタルサイン実技両方がクリアしていなければ、試験は受験不可。 演習等の受講態度が悪い場合は、退室を命じる(欠席扱い)、または減点とする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 浅井佳士 研究室 : 10号館7階 メールアドレス k_asai@meiji-u.ac.jp 担当教員名 : 山下八重子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス y_yamashita@meiji-u.ac.jp 担当教員名 : 加瀬由香里 研究室 : 10号館6階 メールアドレス y_kase@meiji-u.ac.jp
備考	臨床経験を踏まえて教育を行う 浅井 佳士: 障害児施設での小児看護経験 山下八重子: 総合病院での小児看護経験 加瀬由香里: 総合病院での小児看護経験
	この授業のDPとの関連 「◎—2」 「○—4・5」

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
坪倉浩美 岡本留美			
添付ファイル			

授業目標	<p><授業概要></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周産期女性の身体的・心理的・社会的特徴や胎児・新生児の成長過程や、その女性を取り巻く家族を含めた看護や保健指導について学習する 2. 妊婦・産婦・褥婦・胎児・新生児・家族の健康上の諸課題への理解を深め、看護実践に活用できる知識を修得する。 <p><授業目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マタニティサイクルにおける特有な生理的变化を学び、それらに対する看護援助方法について理解できる。 2. 周産期におこる諸問題について病態、臨床症状、看護援助方法について理解できる。 2. 夫（パートナー）・家族の健康課題を理解し、看護援助方法について理解できる。
授業計画	<p>第1回 妊娠の生理 担当者：岡本留美 【授業目標】 妊娠期の身体的・心理的・社会的特性について理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第2回 妊婦と家族のアセスメントと援助方法 担当者：岡本留美 【授業目標】 妊婦と家族のアセスメントとその援助方法について理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第3回 ハイリスク妊娠 担当者：岡本留美 【授業目標】 ハイリスク妊娠について理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第4回 ハイリスク妊娠とその援助方法 担当者：岡本留美 【授業目標】 ハイリスク妊娠とその援助方法について理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用 分娩DVD視聴（レポート提出）</p> <p>第5回 妊娠期の振り返り（小テスト） 出産の理解 担当者：岡本留美 【授業目標】 出産のDVD視聴し、出産の理解を深める 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第6回 分娩期における看護産婦への看護 担当者：岡本留美 【授業目標】 分娩の生理と分娩進行に伴う産婦・胎児の変化について理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第7回 産婦とその家族のアセスメント 担当者：岡本留美 【授業目標】 褥婦の身体的・心理的・社会的変化について理解できる。 産婦と家族のアセスメントと援助方法について理解できる。 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第8回 ハイリスク分娩 担当者：岡本留美 【授業目標】 異常分娩とその援助方法について理解できる。 【授業形態】 中間試験 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第9回 産褥期のアセスメント 担当者：岡本留美 【授業目標】 褥婦と家族のアセスメントについて理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第10回 褥婦と家族の看護 担当者：岡本留美 【授業目標】 褥婦と家族への援助方法について理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第11回 産褥の異常 担当者：坪倉浩美 【授業目標】 産褥の異常とその援助方法について理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第12回 新生児の看護（1） 担当者：坪倉浩美 【授業目標】 新生児の生理を理解することができる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第13回 新生児の看護（2） 担当者：坪倉浩美 【授業目標】 新生児のアセスメントと援助方法について理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第14回 新生児の看護（3） 担当者：坪倉浩美 【授業目標】 新生児の異常とその援助方法について理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書・参考書などで各講義のタイトルに関連する箇所を予習を行い（60分程度）、講義後は、教科書、配布プリントを精読し、不明部分は調べ学修した内容をまとめて（60分程度）、授業内容の理解が深められるようにして下さい。
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 森恵美ら著 医学書院 2. ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護技術 編集横尾京子他 メディカ出版 3. 根拠がわかる 母性看護過程 事例で学ぶウエルネス志向型ケア計画 編集中村幸代 南江堂

参考書	1. 病気が見える⑩ 産科 メディックメディア 2. ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程 太田躁編著 医歯薬出版 3. ウイメンズヘルスナーシング 周産期ナーシング 編集村本淳子他 NOUVELLE HIROKAWA
成績評価	定期試験（中間テスト含む）90%、レポート10% ＊中間試験の試験範囲（妊娠期・分娩期） 定期試験の試験範囲（産褥期・新生児期）
担当教員の基本情報	坪倉浩美 研究室：10号館8階研究室 メールアドレス：h_tubokura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー 随時（事前に連絡をください） 岡本 留美： 外部講師 メールアドレス：r_okamoto@meiji-u.ac.jp
備考	坪倉浩美、岡本留美 病院で助産師として勤務。その実務経験をもとに「母性看護学援助論 I について授業を進める。
	この授業のDPとの関連 ◎—2、○—4・5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
坪倉浩美 岡本留美 辻本紀子 山田智子 福田セーニャ			
添付ファイル			

授業目標	<p><授業概要></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦・褥婦・新生児に必要な基本的な母性看護援助技術を修得する。 2. 妊婦・褥婦・新生児の事例をもとに、ウェルネスの看護診断で看護過程を展開する。 <p><授業目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護を実践するために必要な知識と技術を修得することができる。 2. 事例をもとに対象者をウェルネスの視点でとらえ、看護過程を展開することができる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、妊娠期・産褥期の演習項目の説明 担当教員：坪倉浩美 辻本紀子 山田智子 演習方法が理解できる 妊娠期・産褥期の演習項目の目的、目標、注意点、手順を理解することができる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第2回 妊娠期の技術演習 担当教員：母性教員全員 レオポルド触診法、腹囲・子宮底測定、NST装着に必要な技術が修得できる 【授業形態】演習</p> <p>第3回 産褥期の技術演習、新生児の演習項目の説明 担当教員：母性教員全員 子宮底、授乳方法、児の抱き方に必要な技術が修得できる 新生児期の演習項目の目的、目標、注意点、手順を理解することができる 【授業形態】演習</p> <p>第4回 新生児期の技術演習1 担当教員：母性教員全員 沐浴、ドライケアに必要な技術が修得できる 【授業形態】演習</p> <p>第5回 新生児期の技術演習2 担当教員：母性教員全員 寝衣・おむつ交換、バイタルサイン測定に必要な技術が修得できる 【授業形態】演習</p> <p>第6回 ウェルネスの看護過程の展開 担当教員：坪倉浩美 ウェルネスの看護過程の展開について理解することができる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第7回 妊娠期の看護過程の展開 担当教員：坪倉浩美 妊娠期の診断に必要な知識を学び、看護過程の展開を理解することができる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第8回 産褥期の看護過程の展開 担当教員：坪倉浩美 産褥期の診断に必要な知識を学び、看護過程の展開を理解することができる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第9回 新生児期の看護過程の展開 担当教員：坪倉浩美 新生児期の診断に必要な知識を学び、看護過程の展開を理解することができる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第10回 低出生体重児の看護 担当教員：岡本留美 低出生体重児の看護看護を理解する。 保育器内における看護に実際を理解する。 【授業形態】講義</p> <p>第11回 低出生体重児の看護看護 担当教員：岡本留美 低出生体重児のアセスメントと看護過程の展開が理解できる。 【授業形態】講義</p> <p>第12回 帝王切開を受けた褥婦の看護 担当教員：岡本留美 帝王切開を受けた褥婦の看護を理解できる。 【授業形態】講義</p> <p>第13回 帝王切開を受けた褥婦の看護 担当教員：岡本留美 帝王切開を受けた褥婦のアセスメントと看護過程の展開が理解できる。 【授業形態】講義</p> <p>第14回 分娩時異常出血の褥婦の看護 担当教員：岡本留美 分娩時に起こる異常について理解できる。 分娩時異常出血の褥婦の看護過程の展開の理解できる。 【授業形態】講義</p> <p>試験 60分</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書をもとに、各授業のタイトルに関連するページを事前学習(予習35分)し、授業で学修した内容を整理してまとめて下さい(復習35分)。

教科書	母性看護援助論Ⅰと同じ教科書 1. 系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学② 森恵美他 医学書院
参考書	1. ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 太田操 医歯薬出版株式会社 2. 写真で分かる母性看護技術 平澤美恵子他 インターメディカ 3. 病気が見える vol.10 産科 メディックメディア出版 4. 母性看護実習プレブック 村本淳子・町浦美智子 医歯薬出版株式会社
成績評価	定期筆記試験60% 課題提出：40%
担当教員の基本情報	坪倉浩美 研究室：10号館8階研究室 メールアドレス：h_tubokura@meiji-u.ac.jp 随時（事前に連絡をください） 岡本 留美 外部講師 メールアドレス：r_okamoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー 随時（事前に連絡をください） 辻本紀子 研究室：10号館7階研究室 メールアドレス：n_tujimoto@meiji-u.ac.jp 随時（事前に連絡をください） 山田智子 研究室：10号館6階研究室 メールアドレス：t_yamada@meiji-u.ac.jp 随時（事前に連絡をください） 福田セーニャ 研究室：10号館6階研究室 メールアドレス：s_fukuda@meiji-u.ac.jp 随時（事前に連絡をください）
備考	坪倉浩美、岡本留美、辻本紀子、山田智子、福田セーニャ 病院で助産師として勤務。その実務経験をもとに「母性看護学援助論Ⅱ」について授業を進める。
	D Pとの関連 ◎-2 ○-4.5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
坪倉浩美 後藤幸恵			
添付ファイル			

授業目標	<p><授業概要> 助産学の基盤となる知識や理論を学修し、助産師に期待される役割を理解・探求し、考察する。</p> <p><授業目標> 1. 助産学に基本概念を理解し、助産師の役割と責務を遂行するための知識を修得する。 2. 助産の歴史の変遷、国内外の社会動向や可譜代について学習し、助産師としての将来展望を考察できる。 3. 助産師としての自己のあり方を考え、助産観を深めることができる。</p>
授業計画	<p>第1講 助産の概念、助産の歴史 【授業目標】助産の概念、助産の歴史と文化が理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第2講 助産師の定義と業務、助産学を構成する理論、助産師と倫理 【授業目標】助産師の定義・業務・責務・今後の展望が理解できる 助産学を構成する理論、倫理が理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第3講 母子保健の動向、助産の歴史と文化 【授業目標】母子保健の歴史、動向と諸制度が理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第4講 リプロダクションに関する解剖・生理 【授業目標】母性の身体的特徴が理解できる 生殖生理に関する機能・機序・生理が理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第5講 性行動と機能、遺伝と遺伝性疾患、生殖補助医療 【授業目標】性の行動と機能が理解できる 遺伝性疾患が理解できる 生殖補助医療の実際、問題点が理解できる 【授業形態】グループワーク</p> <p>第6講 母子と免疫、母子と感染 【授業目標】母体・胎児・新生児の免疫学的特性が理解できる 母子感染が理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第7講 性感染症と健康教育 【授業目標】性感染症（ウイルス感染症・クラミジア感染症・淋菌感染症・梅毒・真菌症・原虫症・寄生虫症）が理解できる 健康教育の定義、展開が理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第8講 ライフサイクル各期における主な疾患、リプロダクションに関する検査 【授業目標】小児期・思春期・成熟期・更年期・老年期における主な疾患が理解できる リプロダクションに関する検査が理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第9講 指導案の作成方法 母子と栄養 【授業目標】課題；妊娠期と授乳期の栄養指導案 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第10講 栄養指導実施 【授業目標】立案した計画に基づいて栄養指導が実施できる 【授業形態】演習</p> <p>第11講 指導案の作成方法 家族計画 【授業目標】課題；家族計画指導案 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第12講 家族計画指導実施 【授業目標】立案した計画に基づいて家族計画指導が実施できる 【授業形態】演習</p> <p>第13講 ライフサイクルとメンタルヘルス、親子関係、家族と社会 【授業目標】思春期・青年期・成人期・老年期のメンタルヘルスが理解できる 親子関係をめぐる問題が理解できる 家族と社会について理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第14講 リプロダクティブライツの課題、地域子育て支援・在日外国人の母子保健、助産師の役割を統合 【授業目標】リプロダクティブライツの課題が理解できる 地域子育て支援・在日外国人の母子保健が理解できる 助産師の役割を統合できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書をもとに、各授業のタイトルに関連するページを事前学習（60分程度）し、授業で学修した内容を整理してまとめて下さい（60分程度）。
教科書	助産学講座1 基礎助産学1 助産学概論 医学書院 助産学講座4 基礎助産学4 母子の心理・社会学 医学書院
参考書	助産学講座2 基礎助産学2 母子の基礎科学 医学書院 助産学講座3 基礎助産学3 母子の健康科学 医学書院 助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 医学書院
成績評価	定期試験70% レポート30%
担当教員の基本情報	坪倉浩美 研究室：10号館8階 メールアドレス h_tubokura@meiji-u.ac.jp 後藤幸恵 外部講師
備考	坪倉浩美：助産師として病院に勤務。その実務経験をもとに「基礎助産学」について授業を進める。
	D Pとの関連 ◎-1 ○-3.4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
梶川琢馬 大永慶子 戸田一男			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義・対話	グループワーク
添付ファイル			

授業目標	精神疾患がもたらす様々な症状や生活上の困難について学び、精神に「障害」を持つ人への援助のあり方について学ぶことができる。
授業計画	<p>1回目 「精神疾患」という経験 [到達目標] 「精神疾患」を持つ人の生活体験について学習し、説明することができる。</p> <p>2回目 精神症状の理解と看護（1） [到達目標] 思考の障害・感情の障害・意欲の障害について学習し、必要となる看護について考えを述べる ことができる。</p> <p>3回目 精神症状の理解と看護（2） [到達目標] 知覚の障害・意識の障害・記憶の障害等について学習し、必要なかわりについて考えを述べる ことができる。</p> <p>4回目 疾患の理解と看護（統合失調症①） [到達目標] 統合失調症の病理性について述べる ことができる。 統合失調症患者に必要なかわりについて、考えを述べる ことができる。</p> <p>5回目 疾患の理解と看護（統合失調症②） [到達目標] 統合失調症を抱えて生活する個人の思いに焦点をあてて考える ことができる。 個別的なかわりが必要であることについて説明する ことができる。</p> <p>6回目 疾患の理解と看護（気分障害①） [到達目標] 気分障害の病理性について述べる ことができる。 気分障害のある患者に必要なかわりについて、考えを述べる ことができる。</p> <p>7回目 疾患の理解と看護（気分障害②） [到達目標] 気分障害をもつ個人の思いに焦点をあてて考える ことができる。 気分障害をもつ個人に必要なかわりについて説明する ことができる。</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）に ついて	①教科書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し、講義で学修した内容をまとめてください。合わせて1時間程度。 ②自己学習により講義内容の理解を深め、知識を広げるため、適宜課題を課す。 （各講義で提示する）
教科書	系統看護学講座 「精神看護の基礎」 精神看護学①（医学書院）
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験および提出課題、主体的な授業参加度によって評価する。 （定期試験70%、レポート・小テスト・受講態度30%）
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：戸田一男 研究室：10号館8階807研究室 メールアドレス：k_toda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（精神看護学実習のため病院出張以外）</p> <p>担当教員名：梶川拓馬 研究室：10号館7階713研究室 メールアドレス：t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（精神看護学実習のため病院出張以外）</p> <p>担当教員名：大永慶子 研究室：10号館6階 南側共同研究室 メールアドレス：k_oonaga@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（精神看護学実習のため病院出張以外）</p>
備考	戸田教員：精神科領域での多岐にわたる豊富な臨床経験をもとに精神科看護および精神看護についての講義を行う。 梶川教員：精神科領域での臨床経験をもとに精神科看護および精神看護についての講義を行う 大永教員：精神科領域での臨床経験をもとに精神科看護および精神看護についての講義を行う。
	ディプロマポリシーとの関連 ◎ー2（思考・判断） ○ー1（知識・理解）

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
梶川拓馬 大永慶子 戸田一男			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義・対話	グループワーク
添付ファイル			

授業目標	精神障がい者に必要な援助とその技術について理解し、精神科看護における看護師の役割について具体的に述べる事が出来る。 精神看護における治療的関係について講義を通じて理解し、学生自身の考えを具体的に述べる事が出来る。
授業計画	<p>1回目 精神科ケアの前提と原則 [到達目標] 精神科ケアの前提・原則について学習し、精神科看護の重要性について説明することができる。</p> <p>2回目 精神科の治療的環境 [到達目標] 物理的環境と人的環境がヒトにもたらす影響について学習し、理解することができる。 精神科病棟の特徴について学習し、治療との関係性について説明することができる。</p> <p>3回目 自己理解の重要性 [到達目標] 自己をケアの道具としてとらえることの重要性について説明することができる。 価値観や自己概念について考えた内容を講義中の発表を通して、他者に伝えることができる。 コミュニケーションに必要な「自分を知ること」の重要性について述べる事が出来る。</p> <p>4回目 患者-看護師関係のアセスメント（1）プロセスレコードの理解 [到達目標] プロセスレコードを書く目的と必要性について説明することができる。 プロセスレコードの適切な記述方法を習得することができる。</p> <p>5回目 患者-看護師関係のアセスメント（2）プロセスレコードの実践 [到達目標] 適切な記述方法に基づいてプロセスレコードを記載することができる。 日常会話を題材として、学生自身の言動を振り返ることができる。 プロセスレコードを通して、学生自身の傾向について気づくことができる。</p> <p>6回目 精神科における疾患・症状の理解 [到達目標] 精神疾患による症状が日常生活にもたらす影響を患者の立場に立って考えることができる。</p> <p>7回目 コミュニケーション技法 [到達目標] 精神科看護におけるコミュニケーションの重要性について学習し、説明することができる。 患者-看護師関係にコミュニケーションがどのような効果をもたらすのか、学生自身の意見を述べる事が出来る。</p> <p>8回目 身体のケア [到達目標] 精神科における身体ケア（薬物の副作用や身体合併などのケア）にはどのようなものがあるのかを学習し、具体的に説明することができる。</p> <p>9回目 精神科におけるリハビリテーション [到達目標] 精神科におけるリハビリテーションの目的と意義について理解することができる。 リハビリテーションの種類と、それぞれの目的について説明することができる。</p> <p>10回目 セルフケア理論とは [到達目標] セルフケアの定義と、精神科におけるオレム-アンダーウッド理論の必要性を理解することができる。 精神科看護において、セルフケアに着目する重要性について学生自身の言葉で述べる事が出来る。</p> <p>11回目 統合失調症患者の看護展開演習（1） [到達目標] 臨床事例に基づいたペーパーペーシエントを基に、SOAP形式で情報を整理することができる。</p> <p>12回目 統合失調症患者の看護展開演習（2）アセスメント① [到達目標] 臨床事例に基づいたペーパーペーシエントを基に、看護展開のための情報を分かりやすく分類することができる。</p> <p>13回目 統合失調症患者の看護展開演習（3）アセスメント② [到達目標] 臨床事例に基づいたペーパーペーシエントを基に整理された患者情報を、セルフケアの観点からアセスメントして必要な看護援助を見出すことができる。 ストレンクスモデルを用いて、患者の強みや能力に着目することができる。</p> <p>14回目 統合失調症患者の看護展開演習（4）ケアプラン [到達目標] 臨床事例に基づいたペーパーペーシエントを基に精神科看護・精神看護のケアプランのについて</p>

	構築することができる。 ケアプランおよび根拠について学生自身の言葉で説明することができる。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習(予習35分)し、講義で学修した内容をまとめ(復習35分)てください。
教科書	系統看護学講座「精神看護の基礎」精神看護学①(医学書院) 系統看護学講座「精神看護の展開」精神看護学②(医学書院) 「精神看護学」学生-患者のストーリーで綴る実習展開 田中美恵子 編著(医歯薬出版)
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験および提出課題、主体的な授業参加度によって評価する。 (定期試験70%, レポート・小テスト・受講態度30%)
担当教員の基本情報	担当教員名 : 戸田一男 研究室 : 10号館8階807研究室 メールアドレス : k_toda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時(精神看護学実習のため病院出張以外) 担当教員名 : 梶川拓馬 研究室 : 10号館7階713研究室 メールアドレス : t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時(精神看護学実習のため病院出張以外) 担当教員名 : 大永慶子 研究室 : 10号館6階 南側共同研究室 メールアドレス : k_oonaga@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時(精神看護学実習のため病院出張以外)
備考	戸田教員: 精神科領域での多岐にわたる豊富な臨床経験をもとに精神科看護および精神看護についての講義を行う。 梶川教員: 精神科領域での臨床経験をもとに精神科看護および精神看護についての講義を行う 大永教員: 精神科領域での臨床経験をもとに精神科看護および精神看護についての講義を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> 臨床事例に基づいたペーパーペーシェントを活用して、患者像を明確にするアセスメント能力を養う。 個人で作成したアセスメント情報を、3~4人毎のグループとして情報を共有し、情報交換とケアプラン作成の意見交換を実施する。 ホワイトボードや映写機を使用してグループ毎に発表を行い、学生全体が様々な視点からアセスメントの在り様を知ることが出来るようにする。 また、グループ毎のケアプランおよびその根拠の発表を行い、多角的な視点から看護援助を考えることが出来るように指導する。
	ディプロマポリシーとの関連 ◎ー2(思考・判断) ○ー5(技能・表現)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	1	必修
担当教員			
田中 小百合			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	講義形態：講義	ディスカッションあり
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 在宅看護の変遷やその社会背景をはじめ、在宅療養者とその家族特性を理解し、在宅看護の目的・基本的な理念、地域包括ケアシステムの基本、関係機関・職種との連携の必要性、社会資源を学ぶ。</p> <p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の在宅看護の変遷とその社会的背景について説明できる。 ・在宅看護の目的と基本理念について理解できる。 ・在宅看護の対象者の特性を理解できる。 ・在宅ケアを支える制度や社会資源を説明できる。 ・在宅ケアにおけるケアマネジメントや関係機関・関係職種間の連携を理解できる。 ・訪問看護における看護職の役割が理解できる。
授業計画	<p>1回目 在宅看護の目的と特性、日本の在宅看護の変遷と社会背景 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護がイメージできる (DVD鑑賞後、ディスカッション) ・在宅看護の目的や特徴と課題について記述できる ・施設内看護との相違が説明できる ・日本の在宅看護教育のはじめが理解できる ・在宅看護の社会背景が説明できる <p>2回目 在宅看護の対象者 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養の成立条件が理解できる ・在宅療養者の権利保障が理解できる ・在宅療養を支える家族の介護負担について説明できる <p>3・4回目 在宅看護に関する制度 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療保険制度、介護保険制度のしくみが説明できる <p>5・6回目 在宅ケアのマネジメントと関係機関・関係職種間の連携 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養を支える多職種と、その連携・協働が説明できる ・居宅介護支援事業所、介護支援専門員について説明できる ・地域包括ケアシステムの概要、地域包括支援センターの機能が説明できる <p>7回目 訪問看護 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護と、訪問看護における看護職の役割を説明できる ・継続看護の視点から捉えることができる <p>8回目 試験</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	教科書を熟読してくること。 教科書のページ番号を記載したレジメを配布する。資料も前もって配布するので、それらを参考に予習 (130分)、復習 (130分) を行うこと。知識の整理のためにレジメの空欄を活用するとよい。 教科書にある「メディカAR」も自己学習に利用する。
教科書	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア 第6版、臺有桂、他編 (メディカ出版)
参考書	厚生労働省HP (医療保険、介護・高齢者福祉) https://www.mhlw.go.jp/index.html
成績評価	定期試験にて評価する
担当教員の基本情報	10号館810研究室 メールアドレス：sayutana@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時
備考	病院に勤務。その実務経験をもとに「訪問看護」について授業をすすめる。
	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎ー1 ○ー2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
玉井公子 佐藤裕見子 村上久恵			
添付ファイル			

授業目標	公衆衛生看護の理念、目標、歴史、倫理を理解し、その対象となる個人、家族、グループ、組織、地域全体の特徴とそのアプローチの方法について説明できる。また、看護活動の場と機能を考えることができる。社会環境の変化に伴う健康課題及び人々の健康に影響する背景とその要因について考えることができる。また、公衆衛生看護の展開における個人・家族、集団・グループへのアプローチについて理解できる。		
授業計画	1回	公衆衛生看護の理念 [到達目標] 公衆衛生看護の定義と基本概念について理解し、対象集団全体の健康増進と疾病予防を目指すこと、対象者の健康問題を構造的に考えることができる。 [授業形態]講義、グループディスカッション]	
	2回	公衆衛生看護の基盤となる概念 [到達目標] 公衆衛生看護は住民の暮らしと健康を守る公共的な活動であり、公衆衛生看護を支える概念として、基本的人権、権利擁護、エンパワメントが重要であることを説明できる。 [授業形態]講義、グループディスカッション]	
	3回	公衆衛生看護の対象の特徴 [到達目標] 公衆衛生看護の対象としての個人の特徴、ケアの最小単位の家族及び集団の機能、セルフヘルプグループ、地区組織活動について考えることができる。 [授業形態]講義、グループディスカッション]	
	4回	公衆衛生看護の場（1） [到達目標] 行政・施設、在宅における保健師の活動を考えることができる。 [授業形態]講義、グループディスカッション]	
	5回	公衆衛生看護の場（2） [到達目標] 産業保健及び学校保健における保健師の活動を考えることができる。 [授業形態]講義、グループディスカッション]	
	6回	公衆衛生看護活動の展開（1） [到達目標] 医療モデルと生活モデル、予防、ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ等公衆衛生看護の理論について説明できる。 [授業形態]講義、グループディスカッション]	
	7回	公衆衛生看護活動の展開（2） [到達目標] 保健師の行う個別・家族・集団へのアプローチ方法について説明できる。 [授業形態]講義 中間テスト	
	8回	社会情勢の変化と健康問題（1） [到達目標] 健康の社会的決定要因、健康格差など社会環境や生活環境の変化による健康問題との関連について理解する。[授業形態]講義、ディスカッション]	
	9回	社会情勢の変化と健康問題（2） [到達目標] 健康の社会的決定要因、健康課題解決の資源について学習する。 健康の社会的決定要因、生活構造について理解する。 [授業形態]講義、ディスカッション]	
	10回	住民への相談活動の実際 [到達目標] 様々な健康問題に対する相談活動について考えることができる。認知症予防活動、介護予防、支援者に対する支援ネットワークについて考えることができる。 [授業形態]講義、ディスカッション]	
	11回	公衆衛生看護管理・健康危機管理 [到達目標] [到達目標] 公衆衛生看護管理の目的、組織と管理、人材育成、の仕組みを学習する。健康被害を少なくするためには、平常時からの準備が重要であり、適切な対応のためには公衆衛生の視点について考えることができる。 [授業形態]講義、ディスカッション]	
	12回	公衆衛生看護活動の歴史 [到達目標] 日本における公衆衛生看護の歴史について考えることができる。 [授業形態]講義、ディスカッション]	

	<p>1 3 回 公衆衛生看護における保健師の倫理 [到達目標] 基本的人権を踏まえ、マイノリティへの支援及び自己決定への支援、保健師の責務について考えることができる。 [授業形態]講義、ディスカッション</p> <p>1 4 回 公衆衛生看護の特性 [到達目標] 公衆衛生看護における事業化、施策化の意義、ケアシステムの構築について考えることができる。</p> <p>評価：期末テスト</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>授業内容を確認するために出された課題をまとめて、期限までに提出する。毎回ではないが、授業開始時に確認テストを行う(10分か15分程度)。次回の学習内容について事前に調べる等、必要に応じて授業内でインフォメーションする。事前課題、実習評価の内容、実習記録、実習への取り組み態度など総合的に評価する。</p> <p>【予習・復習・課題を含めて15時間の学習を要する】</p>
教科書	標準保健師講座1「公衆衛生看護学概論」標 美奈子 他(医学書院)
参考書	「国民衛生の動向2018/2019」(財団法人 厚生統計協会編集・発行)
成績評価	出席状況、授業態度、レポート、ミニテスト、筆記試験等により総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員 : 佐藤 裕見子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : y-sato@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 火曜日午後</p> <p>担当教員名 : 玉井 公子 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : k_tamai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 村上久恵 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : h_murakami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時</p>
備考	<p>行政機関における実務経験を授業に活かしつつ、市町村等行政機関における実際の保健医療福祉の現状を学生が主体的に調べディスカッションすることで、保健医療福祉行政の目的や保健師の役割を実践的に理解できる教育を目指します。</p> <p>②「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-3、○-4</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	必修
担当教員			
大山由紀子 深田實江子 扇田千代			
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 看護の対象を理解し、看護過程の展開ができる基礎的能力を養う</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 指導のもとに受け持ち患者を総合的に理解し、看護過程の展開ができる 2) 患者と患者をとりまく人々と良い関係を築き、看護学生としてふさわしい行動をとることができる 3) 実習経験を通して看護について考え、看護専門職者をめざす自己の課題を明確にできる
授業計画	<p>1日目 病院・病棟オリエンテーション、受持ち患者把握（アセスメント）</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 病院オリエンテーション、病棟オリエンテーションを受け、施設の概要が把握できる。 2) 受け持ち患者の情報収集ができる 3) 援助場面の見学ができる <p>【授業形態】 実習</p> <p>2日目 受持ち患者把握（アセスメント）</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 受け持ち患者の情報収集／分析・解釈ができる 2) 援助場面の見学ができる <p>【授業形態】 実習</p> <p>3日目 受持ち患者把握（アセスメント）</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者を多方面から把握し、アセスメントができる 2) 援助場面の見学・実施ができる <p>【授業形態】 実習</p> <p>4日目 学内実習</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 全体像把握ができる 2) アセスメント（情報収集／分析・解釈）の関連を全体像にまとめることができる 3) 看護上の問題点の抽出ができる <p>【授業形態】 学内実習</p> <p>5日目 受持ち患者把握（アセスメント）／中間カンファレンス</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 関連図をもとに看護上の問題およびその原因を明確化することができる 3) 問題点の中から日常生活の援助を視点においた看護計画を立案することができる 4) 中間評価をもとに、後半の課題がわかる <p>【授業形態】 実習</p> <p>6日目 看護計画の確認と実施</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護計画の確認と実施／評価ができる 2) 立案した計画が実現可能かを指導者に確認・助言・指導を受け、計画を修正することができる 3) 立案した計画に基づいて指導者と共に援助を実施し評価することができる <p>【授業形態】 実習</p> <p>7日目 看護計画の実施・評価・修正</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護計画の確認と実施／評価ができる 2) 必要時計画を修正しながら立案した計画に基づいて指導者と共に援助を実施し評価することができる <p>【授業形態】 実習</p> <p>8日目 看護計画の実施・評価・修正</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護計画の確認と実施／評価ができる 2) 必要時計画を修正しながら立案した計画に基づいて指導者と共に援助を実施し評価することができる <p>【授業形態】 実習</p> <p>9日目 看護計画の実施・評価・修正／最終カンファレンス</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護計画の確認と実施／評価ができる 2) 必要時計画を修正しながら立案した計画に基づいて指導者と共に援助を実施し評価することができる 3) 基礎看護学実習Ⅱで学んだことについてまとめる 4) 個別指導を受け、自己の課題が明確化できる <p>【授業形態】 実習</p>

	10日目 学内でのまとめ 【到達目標】 基礎看護学実習Ⅱでの学びをグループで共有し、テーマに沿って発表することができる 【授業形態】学内実習
授業時間外の学習 (準備学習等)について	1, 2年生での学習内容をすべて復習して実習に臨む 日常生活の援助技術は確実に実践できるよう技術習得して臨む
教科書	「看護学生のための臨地実習ナビ」照林社 実習オリエンテーションで実習要項を配布する
参考書	1) 「看護学概論」「看護基礎理論」「基礎看護援助論Ⅰ, Ⅱ」「ヘルスアセスメントⅠ, Ⅱ」「看護過程論」 で学習したテキスト・資料、および紹介した文献 2) 「看護学生クイックノート」照林社
成績評価	1) 実習時間の5分の4以上の出席がなければ評価の対象とはならない 2) 実習目標達成度を実習評価表, 実習記録により総合的に評価する
担当教員の基本情報	担当教員名 : 大山 由紀子 研究室 : 10号館 8階 803研究室 メールアドレス : y_ooyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 担当教員名 : 深田 實江子 研究室 : 10号館 7階 研究室 メールアドレス : m_fukata@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 担当教員名 : 扇田 千代 研究室 : 10号館 7階 711研究室 メールアドレス : オフィスアワー : 担当教員名 : 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :
備考	実習オリエンテーション, 実習期間については教育日程を参照のこと。 各教員が、各々の病院での臨床経験をもとに実習指導を行う
	[実習病院] 綾部市立病院 京都市立病院 京都中部総合医療センター 草津総合病院 明治国際医療大学附属病院 洛西シミズ病院 市立大津市民病院
	[実習方法] 成人期～老年期にある患者を1名受け持ち、看護師・教員の指導のもとに看護過程を展開する。
	この授業とDPとの関連 「◎-4」「○-5」

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択
担当教員			
中才 幸樹			
添付ファイル			

授業目標	陸上競技は「走る・跳ぶ・投げる」が基礎となっている運動である。 ウォーミングアップ・ストレッチ・ミニハードル・ラダートレーニング・新体力測定・基本動作・ドリル・自重トレーニング等を実践し、知識や技術を習得させ計測につなげさせる。 またスポーツと身体の動きづくりに対する認識を深める事を目標とする。
授業計画	<p>1 ガイダンス 健康スポーツ実習Ⅲの狙い・評価方法・履修にあたっての諸注意等を説明し、理解させる。 予習：シラバスに目を通しておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>2 ウォーミングアップ 毎実習行なうウォーミングアップの流れを理解させる。 ジョグ・スタティックストレッチを中心に筋温と心温をを上昇させ血流を促し身体の機能を向上させる。 身体的にも精神的にも良い準備である事、目的である事を実践し体験させる。 予習：ウォーミングアップについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>3 動的ストレッチ 動的ストレッチ（ダイナミック）の重要性・故障やケガ予防・パフォーマンス向上に繋がる利点を体験させ学習させる。 スポーツ特有の動きづくりを実習し利点（関節可動域・ストレッチ・柔軟性・筋肉と神経のパイプ・バランス・協調運動などetc）がある事を理解させ実践させる。 予習：動的ストレッチについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>4 ミニハードル・ラダートレーニング ミニハードル・ラダートレーニングを使用し、色々な動作を説明し実践・体験させる。 規制させた中での正確な動きや速いパフォーマンスは、アジリティのレベルを上げさせるもの、賢い身体づくりであると説明し実践・体験させる。 予習：ミニハードル・ラダートレーニングについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>5 新体力テスト1 文部科学省・体力・運動能力調査から導入された「新体力テスト」（握力・上体起こし・反復横とび・20mシャトルラン・立ち幅とび）を行い、得点表および総合評価と比較をさせ自らの体力・運動能力の現状を把握させる。 予習：新体力テストについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>6 新体力テスト2 文部科学省・体力・運動能力調査から導入された「新体力テスト」（50m走・ボール投げ）を行い、得点表および総合評価と比較をさせ自らの体力・運動能力の現状を把握させる。 予習：新体力テストについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>7 自重トレーニング（体幹） 自分の体重（自重）を負荷に利用した筋肉トレーニングを解説・実施させる。器具を使わなくても（意識・回数・インターバル）効率良く体力向上に繋げさせる。 予習：体幹の自重トレーニングについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>8 自重トレーニング（全身） 自分の体重（自重）を負荷に利用した筋肉トレーニングを解説・実施させる。器具を使わなくても（意識・回数・インターバル）効率良く体力向上に繋げさせる。 予習：全身の自重トレーニングについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>9 短距離（基本・ドリル） 短距離走で行われている色々な基本動作・ドリルを説明し実践させる。 予習：短距離の基本・ドリルについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>10 100m走（計測） 前実習で行なったウォーミングアップ・動的ストレッチ・基本・ドリル等を意識させ、故障やケガが無いよう十分理解させ記録向上に繋がるよう実践させる。 予習：100m走について、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p> <p>11 跳躍（基本・ドリル） 跳躍競技で行われている色々な基本動作・ドリルを説明し実践させる。 予習：跳躍の基本・ドリルについて、調べておく。(35分) 復習：授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)</p>

	12	走り幅跳 (計測) 前実習で行なったウォーミングアップ・動的ストレッチ・基本・ドリル等を意識させ、故障やケガが無いよう十分理解させ記録向上に繋がるよう実践させる。 予習:走り幅跳について、調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)
	13	投擲 (基本・ドリル) 投擲競技で行われている色々な基本動作・ドリルを説明し実践させる。 予習:投擲の基本・ドリルについて、調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)
	14	ボール投 (計測) 前実習で行なったウォーミングアップ・動的ストレッチ・基本・ドリル等を意識させ、故障やケガが無いよう十分理解させ記録向上に繋がるよう実践させる。 予習:ボール投について、調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)
	15	リレー種目 短距離で行われている色々な基本動作・ドリルを説明し実践させ、リレー種目についてルール・注意点を説明し実践させる。予習:動的リレーについて、調べておく。(35分) 復習:授業で経験したこと、ポイントを書いておく。(35分)
授業時間外の学習 (準備学習等)について	授業後、水分補給・ストレッチ・アフターケアをしっかりと行う。	
教科書	指定しない	
参考書	指定しない	
成績評価	授業態度50% 実技評価30% 授業の貢献度20%	
担当教員の基本情報	担当教員名 : 中才 幸樹 研究室 : 体育館・教員室 メールアドレス : k_nakasai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時	
備考	DP「◎-4」「○-5」	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
松田 哲			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	この授業では、グローバル化が進む現代国際社会において、「子どもがどのような状況におかれているのか」を考えていきたい。具体的には、貧困や戦争が「子どもの安全（生命・健康）」にとってどのような脅威となっているのか、それらの脅威に対処するために何ができるのかを講義していくこととする。それらを理解することを通じて、社会の在り方が子どもの安全にどのような影響を及ぼしているのかを説明できるようになること、安全が脅かされている子どもを医療従事者としてどのように救うことができるのかを考えられるようになることが、この授業の到達目標である。
授業計画	<p>1 子どもの現状 [到達目標] 子どものおかれている現状を理解する。 [備考]（授業時間外学習の指示等） 教科書のデータ・コラムを読んでくること。</p> <p>2 貧困と子ども（1） [到達目標] 児童労働の問題点について理解する。 [備考]（授業時間外学習の指示等） 教科書の1章を読んでくること。</p> <p>3 貧困と子ども（2） [到達目標] ストリート・チルドレンの問題点について理解する。 [備考]（授業時間外学習の指示等） 教科書の2章を読んでくること。</p> <p>4 戦争と子ども（1） [到達目標] 戦争がもたらす子どもに対する肉体的・心理的ダメージについて理解する。 [備考]（授業時間外学習の指示等） 教科書の7章を読んでくること。</p> <p>5 戦争と子ども（2） [到達目標] 子ども兵士の問題点について理解する。 [備考]（授業時間外学習の指示等） 教科書の6章を読んでくること。</p> <p>6 子どもを守る（1） [到達目標] 「子どもを守る国際レジーム」について、「子どもの権利条約」の意義とともに理解する。 [備考]（授業時間外学習の指示等） 教科書の10章、12章1を読んでくること。</p> <p>7 子どもの現状：再考 [到達目標] 子どもを守る活動をしている医療NGOが直面する問題について理解する。 [備考]（授業時間外学習の指示等） 教科書のコラム7と8を読んでくること。</p> <p>8 まとめ [備考]（授業時間外学習の指示等） これまでのレジメを復習しておくこと。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書をよく読んでおくこと。コメントカードの提出を4回ほど求めるので、提出が求められた場合には自宅で執筆してくること。なお、この授業は医学・看護学ではなく社会科学であるので、新聞やニュース等を通じて社会の動きを日頃からフォローしておくことが望ましい。
教科書	「国際関係のなかの子どもたち」 初瀬龍平・松田哲・戸田真紀子編著（晃洋書房）
参考書	授業中に紹介する。
成績評価	評価方法と評価割合（試験60%、コメントカードの提出40%）。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 松田 哲（非常勤講師） 研究室 : 非常勤講師 メールアドレス : オフィスアワー : 授業後
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-2, ○-4

--	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択
担当教員			
和辻 直			
添付ファイル			

授業目標	最近、医療では伝統医学の再評価がなされ、活用されはじめています。心身の状態を包括的に把握できる東洋医学を医療実践に生かすことができるように、基本的な東洋医学の診断・治療学について学習することが目的である。到達目標は、基本的な東洋医学の診察法・病証・治療の概要を理解して、基本的な知識を説明できるようにする。
授業計画	<p>1回目 ガイダンス、東洋医学の身体観、気の医学 【到達目標】 東洋医学の身体観を学び、心と体の関係を簡単に説明できる。 【授業形態】 講義と演習：AL（心と体の関係）を話合う。 【備考】 東洋医学の身体観の特徴、心と体の関係を理解し、記載できる。 予習：1年次の東洋医学の基礎理論を読む。 復習：東洋医学の身体観を学び、心と体の関係をまとめる。</p> <p>2回目 気・血・津液、臓腑と経絡について 【到達目標】 気・血・津液、臓腑の働きを学び、概略が説明できる。 【授業形態】 講義と演習：AL（東洋医学の気と血、臓腑の働き）を話合う。 【備考】 気・血・津液、臓腑の働きを理解し、その主な概略を記載できる。 復習：配布プリントを読んでまとめる。</p> <p>3回目 東洋医学の診察1（望診、舌診） 【到達目標】 望診（眼、鼻、口、髪、爪）や舌診の概要が説明できる。 【授業形態】 講義と演習：AL（望診所見と東洋医学の判断との関係を話合う） 【備考】 望診（眼、鼻、口、髪、爪）や舌診を理解し、その主な概略を記載できる。 復習：配布プリントを読んで、望診の内容をまとめる。</p> <p>4回目 東洋医学の診察2（問診、聞診） 【到達目標】 東洋医学の問診（声診）、問診の概要を説明できる。 【授業形態】 講義と演習：AL（東洋医学の視点で体調について話合う） 【備考】 東洋医学の問診（声診）、問診を理解し、その主な概略を記載できる。 復習：配布プリントを読んで、問診・問診の内容をまとめる。</p> <p>5回目 東洋医学の診察3（舌診、切穴） 【到達目標】 舌診や切穴（つぼの診察）を体験し、その診察の概要を説明できる。 【授業形態】 講義と演習：AL（演習で、互いに舌を診てみたり、手足のつぼに触れてみる） 【備考】 舌診や切穴を理解し、その主な概略を記載できる。 復習：配布プリントを読んで、舌診、切穴の内容をまとめる。</p> <p>6回目 東洋医学の診察4（脈診、小括） 【到達目標】 脈診の正常な脈、六祖脈の概要を説明できる。 【授業形態】 講義と演習：AL（脈（触れる所、速さ、力の強さなど）に触れてみる） 【備考】 脈診の正常な脈、六祖脈の概要を理解し、その主な概略を記載できる。 復習：配布プリントを読んで、脈診の内容をまとめる。</p> <p>7回目 東洋医学の診断1（八綱の弁証） 【到達目標】 基本的な病証を理解でき、その概略を説明できる。 【授業形態】 講義と演習：AL（グループに分かれ、東洋医学の基本の病証と症状を区分する） 【備考】 基本的な病証を理解し、その主な概略を記載できる。 復習：配布プリントを読んで、八綱の弁証をまとめる。</p> <p>8回目 東洋医学の診断2（気血津液の証） 【到達目標】 気・血・津液病証を理解でき、その概略を説明できる。 【授業形態】 講義と演習：AL（グループに分かれ、気・血・津液の病証と症状を区分する） 【備考】 気・血・津液病証を理解し、その主な概略を記載できる。 復習：配布プリントを読んで、気血津液の証をまとめる。</p> <p>9回目 東洋医学の診断3（臓腑の証） 【到達目標】 臓腑の証を理解でき、臓腑の主症状を説明できる。 【授業形態】 講義と演習：AL（グループに分かれ、臓腑の病証と主症状を区分する） 【備考】 臓腑の証を理解し、その主な概略を記載できる。 復習：配布プリントを読んで、臓腑の証をまとめる。</p> <p>10回目 鍼灸・按摩について 【到達目標】 鍼・灸を理解し、鍼灸治療の応用を知ることができる。 【授業形態】 講義と演習：AL（鍼・灸治療の課題を行う） 【備考】 鍼・灸を理解し、その主な概略を記載できる。 復習：配布プリントを読んで、鍼灸治療の種類をまとめる。</p> <p>11回目 漢方薬について 【到達目標】 生薬や漢方薬の概括を知ることができる。 【授業形態】 講義と演習：AL（漢方薬の課題を行う） 【備考】 生薬や漢方薬の概括を理解し、その主な概略を記載できる。 復習：配布プリントを読んで、漢方薬の種類をまとめる。</p> <p>12回目 東洋医学の治療学のとめ 【到達目標】 東洋医学の治療学（漢方薬、鍼灸、按摩、気功、養生）の概括を説明できる。</p>

	<p>【授業形態】講義と演習：AL（東洋医学の治療についての課題を行う）</p> <p>【備考】東洋医学の治療学を理解し、その主な概略を記載できる。</p> <p>復習：配布プリントを読んで、東洋医学の治療の種類をまとめる。</p> <p>13回目 総括1：東洋医学の診断・治療学</p> <p>【到達目標】東洋医学の診断・治療学（特に診察と病因など）の要点を説明できる。</p> <p>【授業形態】講義・演習（課題を行う）</p> <p>【備考】東洋医学の診断・治療学の要点を理解し、その主な概略を記載できる。</p> <p>復習：これまでの配布プリントを読んで、東洋医学診断・治療学の要点を整理し、まとめる。</p> <p>14回目 東洋医学の診断・治療学の評価と解説</p> <p>【到達目標】東洋医学の診断・治療学（特に病証と治療）の要点を記載できる。</p> <p>【授業形態】筆記試験を行い、その後、解説を行う。</p> <p>【備考】東洋医学の診断・治療学の要点を理解し、その主な概略を記載できる。</p> <p>また東洋医学の診断・治療学の要点を読んで、その内容の正誤が判断できる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	授業内に配られたプリントの復習を行う。わからない部分があれば調べ、それでもわからなければ担当教員に質問したりして解決すること。
教科書	「徹底図解 東洋医学のしくみ」兵頭 明監修 新星出版社 授業内の配布プリント
参考書	「図解 よくわかる東洋医学のしくみ」関口善太監修 ナツメ社 「東洋医学概論」東洋療法学校協会（医道の日本社）
成績評価	1. 授業回数の5分の3以上出席した者に対して評価を行う。 2. 評価割合は筆記試験80%、小テスト10%、授業態度の評価10%等を総合して行う。
担当教員の基本情報	担当教員名：和辻 直 研究室：はり・きゅう学講座（鍼灸センター2階） メールアドレス：t_watsuji@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（火曜日を除く）
備考	附属鍼灸センターで鍼灸診療の実務を行っている。また京都駅前鍼灸院、附属統合医療センターにて鍼灸診療の実務経験がある。在宅訪問鍼灸にも従事していた。 アクティブラーニング：自らの舌や爪の状態をみたり、脈や手足の経穴（つぼ）を触れ、身体の状態を知る。 DP：◎-5、○-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
和辻 直			
添付ファイル			

授業目標	<p>近年、欧米において補完・代替医療(CAM)から統合医療として注目されており、日本においても漸くその機運が高まりつつあるのが現状である。本科目では、医療人として、現代医療にどのように貢献していくのか、また統合医療においてどのような役割を担うことができるのかを考え、今後の方向性について考えることを目的としている。また日本には東洋医学、東アジア伝統医学（鍼灸・漢方）があり、伝統医学の代表的な1つである。この伝統医学も統合医療の一部分を成しており、その内容について理解する必要がある。</p> <p>本科目では統合医療について正しく理解するために、補完医療や代替医療の違いを学習する。また統合医療に活用されている治療法（鍼灸治療、アロマセラピー、ヨガなど）を学習する。</p>
授業計画	<p>1回目 統合医療とは？（講義） 統合医学を学ぶことの意味、目的を理解する。統合医学とは何かを理解する。補完医療、代替医療、統合医療との相違を理解し、説明できる。また伝統医学と近代医学、東洋医学と西洋医学の統合について考える。</p> <p>2回目 世界の統合医療と日本の統合医療（講義） 世界における統合医療と日本における統合医療の現状を理解し、違いを知ることができる。</p> <p>3回目 世界の統合医療（あるいは世界の鍼灸治療） 各国の統合医療の現状を紹介し、現状を理解することができる。また世界の鍼灸を紹介し、その特徴を知ることができる。</p> <p>4回目 統合医療の実際1（発表） アロマセラピーやハーブ、温泉療法、森林浴など、自然療法に分類される統合医療について概要を学ぶと共に、各項目ごとは発表してもらう。調べた内容をレポートで提出する。</p> <p>5回目 統合医療の実際2（発表） 太極拳・ヨガ・気功・ホメオパシーなど、運動系やその他に分類される統合医療について概要を学ぶと共に、各項目ごとは発表してもらう。調べた内容をレポートで提出する。</p> <p>6回目 統合医療と養生1（講義＋アクティブラーニング） 統合医療を用いた予防医学である養生について、その概要（考え方・身体を知る・身体の原理など）を学ぶ</p> <p>7回目 統合医療と養生2（講義＋アクティブラーニング） 統合医療を用いた予防法である養生について、その詳細（緩める・温める・整えるなど）について学ぶ</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>プリント配布をします。 また、参加型の講義を実施しますので、能動的に取り組んで下さい。</p>
教科書	プリント教材
参考書	「統合医療」 今西二郎 Kinpodo
成績評価	<p>受動的な講義形式と、学生自らが調査・発表・討論を行う講義の2つからなる。 出席日数は、3/5以上を受験資格とする。 成績はレポートと出席で評価し、60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優とする。 なお、レポート評価（70%）、出席および平常評価（30%）とする。</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 和辻 直 研究室 : 鍼灸センター2F 教授室 メールアドレス : t_watsuji@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時（鍼灸センター診療のため、月・金曜日以外）</p>
備考	<p>附属鍼灸センターで鍼灸診療の実務を行っている。また明治国際医療大学附属病院、京都駅前鍼灸院、附属統合医療センターにて鍼灸診療の実務経験がある。在宅訪問鍼灸にも従事していた。 DP:◎-3、○-4</p>
	アクティブラーニング：レポート提出ならびに発表を行う。そのレポートの課題について討論する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
山下八重子 戸田一男 扇田千代			
添付ファイル			

授業目標	<p>対象者に安全な医療を提供するために医療安全に関する知識を学び、安全対策を講じることが出来る。チーム医療として多職種との協働の中で安全をマネジメントできる基礎知識を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療事故の特性について理解する 2. 患者安全の対策の実際を知り、安全行動がとれる 3. 事故発生時の対応について知る 4. 看護師の法的責任について理解する 5. 感染予防対策について理解する
授業計画	<p>第1回 医療安全と法的規制 (山下) 「到達目標」 医療安全の意味と法的規制を理解する <ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ医療安全を学ぶのかを理解する 2. 看護業務の変遷と医療安全について理解する 3. 看護行為における行政処分について理解する [授業形態]講義形式</p> <p>第2回 医療の質とその評価 (山下) 「到達目標」 医療の質とは何か、その評価について理解する <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全の取り組みについて理解する 2. 医療事故の定義について知る 3. 医療の質の評価についてを理解し、看護職として自己が関ることも理解する [授業形態]講義形式</p> <p>第3回 医療事故の発生のメカニズムとリスクマネジメント(戸田) 「到達目標」 医療事故の発生にメカニズムとリスクマネジメントについて理解する <ol style="list-style-type: none"> 1. ヒューマンエラーについて理解する 2. 医療事故の初期対応を知る 3. 医療事故原因分析の方法を知る [授業形態]講義形式</p> <p>第4回 医療事故と安全対策(戸田) 「到達目標」 医療事故と安全対策について理解し述べる事ができる <ol style="list-style-type: none"> 1. 多彩な医療事故を知る 2. 労働形態に伴う身体への影響を理解する 3. 患者や同僚および第三者からの暴力について知る 4. 紛争防止について知る [授業形態]講義形式</p> <p>第5回 医療事故防止対策(戸田) 「到達目標」 具体的な医療事故防止対策について学び実施することができる <ol style="list-style-type: none"> 1. KYT(危険予知訓練)の実際を体験する 2. 実習における事故防止対策とSNS等の問題点を学ぶ [授業形態]講義形式+グループワーク</p> <p>第6回 医療安全対策としての感染防止対策(扇田) 「到達目標」 医療安全対策としての感染防止対策を理解するとともに感染防止の行動がとれる <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染による患者への影響を理解するとともに感染防止対策について学ぶ 2. 労働者として病原体に暴露されるリスクを理解し、暴露予防ができる知識を学ぶ 3. 経路別感染予防対策を理解する [授業形態]講義形式</p> <p>第7回 在宅看護におけるリスク管理(山下) 「到達目標」 在宅看護におけるリスク管理について理解する <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の特徴と事故について理解する 2. 看護師の責任範囲とリスクについて理解する 3. 事故防止対策を考えることができる [授業形態]講義形式+グループワーク</p> <p>評価 試験(60分) 筆記試験 60% レポート点40% 授業参加度を合わせて評価する</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>(予習・復習は必須) 予習は授業予定のページを読んで講義に出席する (60分) 復習は講義内容をしっかり復習する (60分) 授業に関する連絡はメリーにて通知する</p>

教科書	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全
参考書	適宜通知
成績評価	試験60% レポート40% 授業参加度を合わせて評価する
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：山下八重子 研究室：10号館8階研究室 メールアドレス： y_yamashita@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名：戸田一男 研究室：10号館8階研究室 メールアドレス： k_toda@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名：扇田千代 研究室：10号館7階研究室 メールアドレス： c_ogita@meiji-u.ac.jp</p>
備考	<p>臨床での経験を踏まえて講義する 山下八重子 総合病院での医療安全管理者の経験 戸田一男 精神病院での医療安全管理者の経験 扇田千代 総合病院での感染制御室専従の経験</p>
	D P との関連 ◎-1 ○-2・4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択
担当教員			
深田 雄志			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>GIO（一般目標）：「保健統計学」は医療分野におけるデータサイエンスで、「疫学」はそのデータがない場合に自分たちの手で作り出したり、他人が作り出したデータを正しく読み解く技術です。この科目では、それらの結果に基づいて、保健師として集団へアセスメントできたり、自分たちのチームへ専門的なアドバイスができる力があることを目標にします。</p> <p>SBO（個別目標）：勉強すべき範囲は厚生労働省の示す「保健師国家試験出題基準」がインターネットなどで閲覧できるので参考にしてください。また講師は、大切な事項は繰り返し登場するよう協力します。受講される皆さんは、繰り返したことが理解できていないと感じたときには、テキストや講師を上手に活用して、理解を確実にしてください。</p>
授業計画	<p>第1回 疫学総論 【到達目標】 歴史的な疫学事例を通して、疫学の原理を考える。</p> <p>第2回 人口統計の基礎 【到達目標】 人口統計の意義、主な人口統計指標の分母と分子について理解する。平均余命の計算方法を理解する。</p> <p>第3回 集団の健康状態の把握 【到達目標】 有病率、罹患率、死亡率、致命率、RMR、PMIの理解ができ、計算ができる。</p> <p>第4回 疫学的研究方法 【到達目標】 観察研究・介入研究などの疫学手法を理解する。</p> <p>第5回 因果関係、交絡因子 【到達目標】 妥当性・因果関係の立証と交絡因子について理解する。</p> <p>第6回 疾病の予防とスクリーニング 【到達目標】 疾病予防の3段階、スクリーニング検査の評価について理解する。</p> <p>第7回 生活習慣病の疫学 【到達目標】 喫煙・飲酒・栄養・運動等の生活習慣と疾病発生状況の関連を理解する。</p> <p>第8回 がんの疫学</p> <p>第9回 循環器疾患の疫学</p> <p>第10回 感染症の疫学</p> <p>第11回 栄養の疫学</p> <p>第12回 ライフコース疫学 【到達目標】 妊娠期から小児期、思春期、成人期にわたる人生の流れを通じて、健康や疾病に関する疫学について考える。</p> <p>第13回 統計で利用するグラフ 【到達目標】 ヒストグラムと散布図を作成することができる。</p> <p>第14回 疫学で利用する統計学的手法 【到達目標】 一般的に疫学で利用する統計学について理解する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>定期試験後にレポートを課題しますので、定期試験とレポートの時期（6月下旬から7月ごろ）は時間外学習ができるように、時間の確保を必ずお願いします。</p> <p>講義は、「基礎」「重要」となる部分をなるべく絞って、繰り返すことを心がけています。少人数の講義で、高校で統計学や幾何学が苦手だった学生でも、理解できるように丁寧に行います。ですので、特別な予習・復習は必要ありません。</p> <p>また、優秀で実務・大学院レベルの勉強に興味を持った学生は、追加の学習の案内をしますので、教員に尋ねてください。</p>
教科書	<p>「標準保健師講座・別巻2 疫学・保健統計学」（医学書院） 「公衆衛生がみえる 2020-2021」</p>
参考書	<p>おすすめのものとその理由を示します。他に良書があれば講師に教えてください。</p>

成績評価	定期試験70%・レポート30%で評価します。再試験時の評価については、必要な時期に示します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 深田 雄志 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 メールアドレス : 質問・問合せはMellyを使ってください オフィスアワー : 授業の際に示す
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1, ○-2・3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
今西 康裕			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>教育目標は、学生が「家族」について理解し、今日の家族の抱える諸課題を整理して、それらを乗り越える適切な方策とはどのようなものかを思索できるようになることである。指導方法としては、まず、家族の基本的な形態や機能を確認し、またそれらを時代・国際比較すること等により、家族の多様性を説明する。その上で、現代の日本社会における家族の形態や機能の特徴をあらためて教示するとともに、日本の家族が抱えている諸課題とその解決策について考察を加える。</p>
授業計画	<p>第1回 [授業概要] これからの本講義についてのガイダンス [到達目標] これからの本講義の概要・概略を理解する。 [備考] 家族について、どのような学びを展開していきたいか、各自希望を表明できるように準備しておく。</p> <p>第2回 家族とは何か [到達目標] 家族について、その本質や概要を理解する。 [備考] 例えば、家族という社会集団を他の集団と比較し、家族の持つ独自性や特徴・特質を整理しておく。</p> <p>第3回 家族の機能 [到達目標] 家族の有する様々な機能について理解する。 [備考] 自らの家族を例に、家族集団がその成員に果たす多様な役割について考察を深め、その結果を整理しておく。</p> <p>第4回 家族の多様性 [到達目標] 家族は、地域（国）によって時代によって多様であることを理解する。 [備考] 他国の、あるいは他の時代の家族について、聞き取りや文書などの資料をもとに理解を深めておく。</p> <p>第5回 現代の家族形態としての核家族 [到達目標] 現代の核家族化の背景やその必然性について理解する。 [備考] 資料等をあらかじめ熟読し、核家族とはどのような家族形態か、また核家族化の進行の事由について確認しておく。</p> <p>第6回 現代人の恋愛観・家族観 [到達目標] 現代を生きる人々の家族観やその前提ともいえるべき恋愛観について探る。 [備考] 各自の恋愛観・家族観について、口頭あるいは文書での報告が可能なように考えや思い、意見等をまとめておく。</p> <p>第7回 現代家族をめぐる諸問題 [到達目標] 幼児虐待やDVなど、現代家族をめぐる諸問題の背景や原因等について正しく理解する。 [備考] 書物や新聞記事等にあたり、現代の家族にかかわる諸問題について見識を広げ、これらに関する私見が述べられるようにしておく。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>新聞等の「家族」に関する連載やコラム等に興味・関心をもち、それらに目を通しておくようにしてほしい。また、それらについての意見や感想をまさに家族で話し合う機会をもつことが望ましい。</p>
教科書	特になし
参考書	必要に応じて講義の中で適宜紹介する。
成績評価	受講姿勢や日々の提出物（小コメント等）等の平常点40%、試験点60%で総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：今西 康裕（非常勤講師） 研究室：6号館1階非常勤講師室 オフィスアワー：講義終了後</p>
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-2, ○-3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
田中 小百合			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	講義形態：講義	グループワークあり
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 家族内に健康問題が発生したとき、家族員が交互にどのように影響し合うのかを理解し、家族内の健康問題に対処する力を引き出し、支援するのに必要な家族看護学の理論と方法論を学習する。</p> <p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の発達・健康問題に応じた援助および家族看護に関する諸理論が理解できる ・健康な家族についての考え方がわかる ・家族を形成する家族形態は時代とともに変化していることが理解できる ・事例を通して家族看護過程の展開の仕方がわかる
授業計画	<p>1回目 家族とは 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族の定義、さまざまな家族の見方がわかる <p>2～3回目 家族看護学における対象を理解する方法 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族周期論的アプローチ、家族システム論的アプローチが理解できる ・ジェノグラムとエコマップが書くことができる ・看護の対象としての家族を捉えることができる <p>4回目 健康な家族についての考え方 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2重ABC-Xモデル、円環モデルが理解できる ・家族の構造的側面（価値体系、役割構造、勢力構造、家族コミュニケーション構造）から捉えることができる <p>5回目 家族を取り巻く社会的・文化的背景 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの家族の変遷と現代日本の家族の現状が説明できる <p>6回目 家族看護課程の展開 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を通して家族看護過程の展開方法がわかる <p>7回目 家族とのパートナーシップ ・セルフケア概念の家族看護への適応が理解できる ・家族とのパートナーシップの必要性を理解できる</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書のペ3ページ以降に、勉強してほしい項目を列挙したので、教科書中心に勉強してください。Word、もしくはレポート用紙に記入すること。以下の宛先に添付送信してください。WordをPDF化したり、写真撮影したものでOKです。なお、写真の場合はピンボケ、端が切れているものは評価できないので、しっかり確認後に送信すること。ピンボケなどしていても再提出は求めません。ありのままを評価します。わからないことはmellyに返信ください。
教科書	家族看護学 19の臨床場面と8つの実践例から考える 改訂第2版 山崎あけみ他編（南江堂）
参考書	講義時に紹介する
成績評価	試験を実施する。 コロナが収束しない場合、自己学習の提出物のみで評価することになる可能性が大のため、評価に耐えうるものを提出すること。当然、期限を守ってください。未提出の場合は不可になります。
担当教員の基本情報	10号館810研究室 メールアドレス：sayutana@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時
備考	病院に勤務。その実務経験をもとに「家族看護」について授業をすすめる。
	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-1、○-2、4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
佐藤裕見子 玉井公子			
添付ファイル			

授業目標	公衆衛生学は、環境衛生、伝染病予防、衛生教育、疾病の早期診断と治療、地域社会における健康の維持に必要なかつ十分な社会機構の開発などにより、疾病予防、生命延長、身体的および精神健康を図る科学と技術である。基礎医学と臨床医学を両端として、医学の真ん中に位置している公衆衛生学を体系的に学習する。
授業計画	<p>1回目 佐藤 公衆衛生を学にあたって、公衆衛生とは何か</p> <p>【到達目標】 看護学生がなぜ公衆衛生を学ぶ必要があるのか理解する。公衆衛生とは何かを理解する。</p> <p>[授業形態：講義およびグループディスカッション]</p> <p>2回目 佐藤 公衆衛生の活動対象、公衆衛生の仕組み</p> <p>【到達目標】 看護職が公衆衛生を学ぶ意義と公的責任、社会集団と個人のQOLのかかわり、社会集団の味方について理解する。公衆衛生の仕組み、法律、政策を学ぶ。[授業形態：講義およびグループディスカッション]</p> <p>3回目 佐藤 集団の健康をとらえるための手法、疫学</p> <p>【到達目標】 公衆衛生における感染症予防の基本を理解する。 循環器疾患の予防</p> <p>第4回 佐藤 環境保健</p> <p>【到達目標】 環境全般や生活環境の保全について理解する。</p> <p>第5回 玉井 地域保健</p> <p>【到達目標】 母子保健と成人保険、高齢者保健を理解する。 [授業形態：講義およびグループディスカッション]</p> <p>第6回 玉井 難病、感染症対策</p> <p>【到達目標】 難病の支援システム、感染症対策を理解する。</p> <p>[授業形態：講義およびグループディスカッション]</p> <p>第7回 玉井 学校保健、職場における健康</p> <p>【到達目標】 学校における健康、職場における健康について理解する。 [授業形態：講義およびグループディスカッション]</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>(1) 教科書のその日にやったところを読み返しておくこと。</p> <p>(2) 授業中に解いた問題を見直しておくこと。</p>
教科書	教科書 系統看護学講座 「公衆衛生」医学書院
参考書	国民衛星の動向2019]2020
成績評価	毎回の提出課題により評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：佐藤裕見子 研究室：10号館8階 メールアドレス：seko@kpu.ac.jp オフィスアワー：随時</p> <p>担当教員：玉井公子 研究室：10号館7階 オフィスアワー：随時 メールアドレス：</p>
備考	行政機関における実務経験を授業に活かしつつ、公衆衛生学について教授し、現状を学生が主体的に調べディスカッションすることで、公衆衛生の概要を理解できる教育を目指します。デプロマポリシーとの関連：◎ー① ○ー③

--	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
東 孝至			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	講義形態：講義、グループワーク	
添付ファイル			

授業目標	わが国の老年人口は増加し超高齢社会を迎えている。高齢期を迎える人々の老化を理解し、心身の変化やさまざまな高齢者施策について学びます。この授業では高齢者の実態と問題点、老化によっておこる心身の変化や症状、そして高齢者を支える法律やサービスについて学びます
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション・高齢者に関連する歴史的概観 【到達目標】 1) 高齢者が歩んできた歴史的変遷について説明できる。 2) 高齢者の主要な医療および福祉の制度を説明できる。 3) 地域包括ケアシステムについて理解できる。</p> <p>2回目 介護保険法 【到達目標】 1) 介護保険法についてその仕組みを説明できる。 2) 介護保険サービスを理解し、サービスの種別が説明できる。</p> <p>3回目 介護予防 【到達目標】 1) 介護予防について理解でき、介護予防サービスが説明できる。 2) 地域支援事業について理解できる。 3) 介護予防事業で対象となる疾患等について理解できる。</p> <p>4回目 認知症① 【到達目標】 1) 認知症疾患を理解でき、その違いを説明できる。 2) 認知症疾患を理解でき、治療について理解できる。</p> <p>5回目 認知症② 【到達目標】 1) 中核症状と周辺症状を理解し、説明できる。 2) 認知症ケアの概念を理解し説明できる。</p> <p>6回目 認知症③ 【到達目標】 1) 認知症者に対するアセスメント方法を理解し説明できる。</p> <p>7回目 認知症④ 【到達目標】 1) 事例について検討し認知症の対応を説明できる。</p> <p>8回目 まとめ 【到達目標】 1) これまでの高齢者施策や高齢者の特徴、そのケアについて理解を深める。 2) 授業内試験を行う。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	高齢者に関連するニュースや新聞等の記事から情報を得ながら予習をしてください。また配布したプリントを必ず確認して復習してください。わからない部分については事前に調べておき、なお不明な点は授業で質問して必ず解決するようにしてください。
教科書	教科書は指定しません。プリントを配布します。
参考書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態 疾患論」佐々木英忠ほか著 (医学書) 2018 「みえる認知症ケア ひもときシート “アシスト” BPSD改善ガイド」認知症介護研究・研修東京センター (中央法規出版) 2019
成績評価	授業中に実施する小テストを60%取得する。 出席基準を満たした者について筆記試験を行い、60点以上を合格とします。60点未満のものに対して再試験を行います
担当教員の基本情報	担当教員名：東 孝至 研究室：10号館7階研究室 Gmail：t_azuma@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時 (メールにて約束をとること)
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-2, ○-3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
東 孝至			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉の基礎的な知識と理念について学びます。そのなかで現代社会における社会福祉問題をとらえながら社会福祉を理解していきます。 ・社会福祉サービス考え方を学び、社会福祉各分野における協働の重要性について理解していきます。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション・社会福祉の基礎概念 [到達目標] 社会福祉に関わる基礎的な概念や理念を理解することができる。</p> <p>2回目 社会福祉と生活問題 [到達目標] 地域で起こる多様な生活問題を、社会福祉の視点から捉えられるようになる。</p> <p>3回目 社会福祉と貧困 [到達目標] 現代の貧困問題について、社会福祉や社会学分野における諸研究から歴史や概念を理解することができる。</p> <p>4回目 社会福祉とは [到達目標] 社会福祉を概観し、社会福祉として「自助・互助・共助・公助」を理解できる。また、社会福祉の基礎概念であるナショナルミニマムを理解し、今の社会における貧困について説明できる。</p> <p>5回目 ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョン [到達目標] 社会福祉の対象者が地域で生活するにあたって、福祉の概念を理解することができる。</p> <p>6回目 社会福祉を取り巻く状況 [到達目標] 社会福祉を取り巻く現状を、①少子社会、②現代家族の動向、③地域社会の変化について理解を深めることができる。</p> <p>7回目 講義のまとめと試験 [到達目標] 現代の社会福祉の課題について理解でき、「自立支援」について説明できる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	近年のグローバル経済の進展のなかでさまざまな社会問題、特に社会的サポートを必要とする人々のニーズは多岐にわたり社会福祉への期待が高まっています。本講座はその生活問題を抱えた人々へ如何にアプローチするかを命題としています。そのため授業は座学だけではなくグループワークやディスカッションを主体とすることで、いかなる職種とも協働できる力を身に着けることができるように期待します。
教科書	教科書は指定しません。
参考書	『よくわかる社会福祉【第11版】』山縣文治編（2016年、ミネルヴァ書房） 『初めての社会福祉論』三好禎之編（2015年、法律文化社）
成績評価	出席状況や授業への参加度（課題の提出、その評価）を考慮し、授業最終日に筆記試験を行います。 出席・授業への参加度：40% 筆記試験：60%
担当教員の基本情報	担当教員名：東 孝至 研究室：10号館7階7階研究室 メールアドレス： オフィスアワー：
備考	
	②-◎、③-○

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
戸田一男 梶川拓馬 福田文彦 大永慶子			
授業形態：講義・演習	グループワーク	コミュニケーションカードを使用	
添付ファイル			

授業目標	メンタルヘルスケア論では、「こころ」と「からだ」の健康を考える上で重要なストレスと健康について理解することを目的とする。 1. ストレスの概念を理解し、説明できる。 2. ストレスの心身に与える影響について理解し、説明できる。 3. ストレスコーピングについて理解し、説明できる。 4. ストレスに対する鍼灸師の役割について理解し、説明できる。
授業計画	1 ワークショップ：メンタルヘルスの意義 ワークショップを通じて ・学生の立場でメンタルヘルス（ケア）が説明できる。 2 ワークショップ：世界的な課題としてのメンタルヘルスとわが国の現状 ワークショップを通じて ・世界的な課題としてのメンタルヘルスが説明できる。 ・日本における自殺問題とメンタルヘルスについて説明できる。 3 ワークショップ：ストレスと健康の危機 ワークショップを通じて ・生体システムとしてのストレス反応が説明できる。 ・ストレスの社会文化的側面が説明できる。 4 ワークショップ：危機への対処（コーピング） ・ストレスコーピングの3つの戦略（戦略）について説明できる。 5 ワークショップ：学生自身がどのようにストレスと向き合うか ワークショップを通じて ・学生自身がどのようにストレスと向き合い、どのようなストレスコーピングが必要か考え、その根拠と共に説明することができる。 6 ワークショップ：鍼灸師ができるストレス対処方法、軽減方法 ワークショップを通じて ・鍼灸師ができる対処方法、軽減方法について説明できる。 7 まとめ及び試験 ・1回～6回の授業内容を振り返りまとめることができる。 ・試験
授業時間外の学習（準備学習等）について	①教科書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習し、講義で学修した内容をまとめてください。合わせて1時間程度。 ②自己学習により講義内容の理解を深め、知識を広げるため、適宜課題を課す。（各講義で提示する）
教科書	系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院
参考書	特に指定しないが、厚生労働省のホームページ等でメンタルヘルスに関する内容について調べておくこと。
成績評価	定期試験70%、授業内演習30%で評価する。 授業内評価とは、グループディスカッションへの参加度、発言度、総合討論での発表、発言度にて評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名：戸田一男 研究室：10号館8階807研究室 メールアドレス：k_toda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（精神看護学実習のため病院出張以外） 担当教員名：梶川拓馬 研究室：10号館7階713研究室 メールアドレス：t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（精神看護学実習のため病院出張以外） 担当教員名：福田文彦 研究室：附属鍼灸センター2F 臨床鍼灸学講座 メールアドレス：f_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時、メールによる事前予約可推奨
備考	戸田教員：精神科領域での多岐にわたる豊富な臨床経験をもとにメンタルヘルスについての講義を行う。 梶川教員：精神科領域での臨床経験をもとにメンタルヘルスについての講義を行う。 福田教員：鍼灸師としての豊富な臨床経験をもとにメンタルヘルスについての講義を行う。
	ディプロマポリシーとの関連 ◎ー2、○ー1、○ー5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択
担当教員			
佐藤 裕見子			
添付ファイル			

授業目標	地域住民の生活に関わる保健・医療・福祉行政・制度の変遷を学ぶことにより、現代社会の課題と今後の展望について理解できる。また、保健・医療・福祉のケアシステムの計画・実施・評価に関する概要及び生活の場で活かされる行政活動の実際を理解できる。 母子保健・老人保健・精神保健などの保健行政の変遷と今後の動向を考え、地域住民の生活に関わる総合的ケア活動について理解できる。
授業計画	<p>1 回 保健医療福祉行政が目指すもの、学ぶ上で根拠や公衆衛生の定義について [到達目標] 保健医療福祉行政を学ぶ上で基盤となる根拠や公衆衛生の定義及び世界の公衆衛生のトレンドを学び、公衆衛生が目指すものを述べる。 [授業形態：講義形式]</p> <p>2 回 近代公衆衛生の歴史を学び、その時々々の健康課題について考え、その理念について [到達目標] 公衆衛生の歴史を通じて公衆衛生の本質を理解する。先人の公衆衛生に対する考え方を知り、その理念を理解する。第二次大戦後の公衆衛生施策の発展を学び、現在の施策との連続性を理解し具体的に述べる。 [授業形態：講義形式、グループディスカッション]</p> <p>3 回 地域保健の基盤となる法律や制度と保健・医療・福祉の個別政策の具体的内容と経緯について [到達目標] 地域保健の基盤となる法律や制度及び日本の保健・医療・福祉に関する個別政策の具体的内容と経緯を理解し、少子高齢化社会における日本の保健・医療・福祉政策を相互に関連付けて理解し説明できる。 [授業形態：講義形式、グループディスカッション]</p> <p>4 回 国、都道府県、市区町村の行政の仕組みと役割、地域における保健師の役割と活動について [到達目標] 行政とは何か、保健行政の体系と役割、及び行政で働く保健師の業務や体制、保健師活動の方向性を理解する。行政における情報管理のあり方を理解し説明できる。 [授業形態：講義形式]</p> <p>5 回 国、都道府県、市区町村の財政の仕組み、予算編成と決算の意義について [到達目標] 国、都道府県、市区町村の財政の仕組み、予算編成と決算の意義を理解し、社会保障の給付と財源について理解できる。 [授業形態：講義形式]</p> <p>(小テスト)</p> <p>6 回 社会保障制度の概念・目的・制度体系、社会保障給付費について [到達目標] 社会保障制度の概念・目的・制度体系、社会保障給付費、医療提供施設について学び、社会保障の法規と行政体系について理會開始、今後の課題と改革の動向について理解できる。 [授業形態：講義形式]</p> <p>7 回 介護保険制度の概要、サービス内容について [到達目標] 介護保険制度は、高齢者の自立支援をめざし、ケアマネジメントの方式に基くサービスであること、保険じゃである市町村を中心として、都道府県・区に・医療保険じゃなど重層の日差エル仕組みであることを理解し説明できる。 [授業形態：講義形式]</p> <p>8 回 公的年金制度及び労働保険について [到達目標] 所得保障制度の中心となる公的年金制度、労働保険（雇用保険・労災保険）について理解し説明できる。 [授業形態：講義形式]</p> <p>9 回 高齢者福祉、障害者福祉について [到達目標] 生活保護・児童福祉・高齢者福祉・障害者福祉の沿革や概要について理解し説明できる。 [授業形態：講義形式]</p> <p>(小テスト)</p> <p>10 回 地域保健における公的機関と関係機関連携について [到達目標] 地域保健における都道府県と市町村の役割分担を理解し、保健所及び市町村保健センターの業務を学ぶ。また、市町村保健センターは住民のライフステージごとの関係機関が連携して活動していることを理解できる。[授業形態：講義形式]</p>

	<p>1 1 回 保健センターにおけるライフステージごとの事業について [到達目標] 自分の住んでいる地域の保健センターにおけるライフステージごとの事業を調べ、グループ毎にディスカッションすることで、法的根拠とつなげて理解する。また、事業実施における関係機関との連携についても調べて説明できる。 [授業形態：講義、グループディスカッション形式]</p> <p>1 2 回 地方公共団体の保健医療福祉計画について [到達目標] 自分の住んでいる市町村の保健医療福祉計画について調べ、グループ毎にディスカッションすることで、法的根拠とつなげて理解する。また、市町村ごとに共通する内容と違いについて理開始、地域特性について説明する。 [授業形態：講義、グループディスカッション形式]</p> <p>1 3 回 保健事業の立案プロセスと情報収集・分析、優先順位について [到達目標] 事例を用いて保健事業の立案について、情報収集・課題分析・優先順位・事業の企画をグループ演習を行い、発表する。 [授業形態：講義、グループディスカッション形式]</p> <p>1 4 回 地域保健の課題解決のためのプロセスと保健医療福祉行政における保健師の役割について [到達目標] 日本国憲法及びWHO健康の定義に基づき保健医療福祉行政がめざすものを確認し、人々の健康課題を解決するための保健師の役割をグループディスカッションを通して明らかにする。 [授業形態：講義、グループディスカッション形式]</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>保健医療福祉行政論は、保健師活動の基本となる学問のため、授業には関心を持ち積極的に参加する社会で起きている健康・医療・福祉問題に関心を持ち、情報収集する</p> <p>【予習・復習・課題を含めて1コマ70分の学習を要する】</p>
教科書	保健医療福祉行政論（医学書院） 公衆衛生が見える第3版（メディック・メディカ）
参考書	国民衛生の動向2019/2020（厚生労働省統計協会）
成績評価	中間試験/期末試験/小テスト60%、ディスカッション/レポート40%
担当教員の基本情報	担当教員：佐藤裕見子 研究室：10号館8階研究室 メールアドレス：y_sato@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時
備考	行政機関における実務経験を授業に活かしつつ、市町村等行政機関における実際の保健医療福祉の現状を学生が主体的に調べディスカッションすることで、保健医療福祉行政の目的や保健師の役割を実践的に理解できる教育を目指します。デプロマポリシーとの関連：◎ー① ○ー③

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
仲口 路子			
添付ファイル			

授業目標	<p>1. 終末期にある患者とその家族の身体的・精神的・社会的・霊的苦痛について理解する。</p> <p>2. 終末期にある患者の家族および遺族のニーズについて考察する。</p> <p>3. 終末期にある患者に対する看護援助の特徴を理解する。</p>
授業計画	<p>1回 (100) [授業概要] I 緩和・終末期ケア看護学序説 [到達目標] ① 授業ガイダンス (進め方の説明/注意事項/評価について) ② 終末期ケア, 緩和ケアの歴史と考え方, 死にまつわる文化について理解する。 ③ チーム医療の必要性について学ぶ。</p> <p>[授業形態] 講義と全体でのディスカッション</p> <p>[備考] 最初70分は講義。その後20分間で死にまつわる体験を共有する。10分間でコミュニケーションペーパーに記載する。</p> <p>【予習課題】教科書p2～p32を読んでおく。</p> <p>【復習課題】重要な用語についてノートにまとめる。</p> <p>2回 (100) [授業概要] 緩和・終末期ケアの倫理的課題 [到達目標] ① 前回のコミュニケーションペーパーへの返答 ② 緩和・終末期ケアの倫理的課題について理解する。 ③ 緩和ケアでのコミュニケーションと意思決定支援について学ぶ。</p> <p>[授業形態] 講義と全体でのディスカッション</p> <p>[備考] 最初70分は講義。その後20分間で緩和ケアをとりまく問題について話し合う。10分間でコミュニケーションペーパーに記載する。</p> <p>【予習課題】教科書p34～p64を読んでおく。</p> <p>【復習課題】重要な用語についてノートにまとめる。</p> <p>3回 (100) [授業概要] 現代における終末期ケアの課題 (グループワーク) [到達目標] ① 前回のコミュニケーションペーパーへの返答 ② グループワークの進め方が理解できる ③ これまでの学習や体験から, 終末期ケアの課題を考えることができる。</p> <p>[授業形態] 講義とグループワーク</p> <p>[備考] 各グループでテーマ (意志決定権, 全人的苦痛, 悲嘆, 予期悲嘆, QOL, インフォームドコンセント等) に対する現状, ケアの課題を探求する。パワーポイントを作成する。OSはWindowsを使用すること。</p> <p>4回 (100) [授業概要] 現代における終末期ケアの課題 (グループワーク) [到達目標] ① これまでの学習や体験から, 終末期ケアの課題を考えることができる。</p> <p>[授業形態] グループワーク</p> <p>[備考] 各グループでテーマに対する現状, ケアの課題を探求する。パワーポイントを作成する。OSはWindowsを使用すること。</p> <p>5回 (100) [授業概要] 現代における終末期ケアの課題 (グループ発表) [到達目標] これまでの学習や体験から, 終末期ケアの課題を考えることができる。</p> <p>[授業形態] グループワークと発表</p> <p>[備考] 各グループでテーマに対する現状, ケアの課題を発表する。パワーポイントで発表する。OSはWindowsを使用すること。</p> <p>6回 (100) [授業概要] 現代における終末期ケアの課題 (グループ発表) [到達目標] これまでの学習や体験から終末期ケアの課題を考えることができる。</p> <p>[授業形態] グループワークと発表</p> <p>[備考] 各グループでテーマに対する現状, ケアの課題を発表する。パワーポイントで発表する。OSはWindowsで作成すること。発表内容はメモ書きし, 相互評価を行う。</p> <p>7回 (75) [授業概要] まとめ [到達目標] 終末期看護援助論での学びを整理する。</p> <p>[授業形態] 講義ディスカッション</p>

	〔備考〕発表の内容や講義で説明した内容を振り返る。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	毎授業時、「授業計画」の〔備考〕を参照して下さい。
教科書	系統看護学講座 別巻 緩和ケア 恒藤暁 編集 医学書院
参考書	経過別成人看護学④ 終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア 田村恵子 編集 メジカルフレンド社 3000円
成績評価	グループワークの発表50%、最終レポート50%により総合的に評価します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 仲口 路子 研究室 : 10号館 (看護学部棟) 8階808 メールアドレス : nakaguchi@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日 午後 担当教員名 : 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー : 担当教員名 : 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :
備考	◎-1 ○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	3	選択
担当教員			
坪倉浩美 岡本留美			
配当学科：看護学科	時間数：45時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p><授業概要> 助産診断の基礎となる理論と技術を用いて、対象理解に必要な実践方法を学ぶ。 マタニティサイクルの助産診断に必要な基礎知識および科学的根拠に基づいた助産技術と助産援助について学ぶ。 マタニティサイクル各期において、正常な経過をたどるための保健指導および健康教育の基礎的知識・技術を学ぶとともに、プライマリ・ヘルスの観点から助産過程を展開し、その役割と責任遂行の基礎能力を養う。</p> <p><授業目標> 1. マタニティサイクルの助産実践に必要な知識と技術が修得できる。 2. 助産過程の概要を理解し事例を用いて助産過程の展開ができる。 3. 周産期のハイリスク状態にある対象の診断と援助が理解できる。 4. 対象の主体性を尊重し、継続に支援する助産師としての基本姿勢が修得できる。</p>		
授業計画	第1回	助産診断・技術学の概要 担当教員：岡本留美 援助診断の基本を理解する。 妊娠の生理、妊娠期の心理的・社会的変化。 【授業形態】講義	
	第2回	妊婦支援 担当教員：岡本留美 日常生活適応へのケア、親になる準備へのケアが理解できる 個人、集団への相談・教育活動の技術と実際 教育技術・相談技術を理解する。 【授業形態】講義	
	第3回	ハイリスク妊娠 担当教員：岡本留美 妊娠期の異常・ハイリスク妊娠について理解する 【授業形態】講義	
	第4回	妊婦のフィジカルアセスメント 担当教員：岡本留美 助産診断学、助産技術学の概要が理解できる レオポルド触診法、腹囲・子宮底測定、NST装着、ドップラー聴診 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用	
	第5回	妊娠期の助産診断 担当教員：岡本留美 妊娠期のフィジカルアセスメントが理解できる 事例による助産診断を行うことができる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用	
	第6回	妊娠中期の助産診断 担当教員：岡本留美 ハイリスク・異常妊婦のアセスメントと支援を理解できる 事例を用いて助産診断を理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用	
	第7回	妊娠後期の助産診断 担当教員：岡本留美 事例を用いて妊娠期の助産診断に必要な検査、妊娠期に用いる薬剤・妊娠期に行われる産科手術について理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用	
	第8回	妊娠後期のまとめ 担当教員：岡本留美 妊娠期で学んだ授業内容の理解を深めることができる 【授業形態】「グループワーク」	
	第9回	分娩期 担当教員：坪倉浩美 分娩の3要素、分娩が母体および胎児に及ぼす影響が理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用	
	第10回	分娩期の心理社会的変化 担当教員：坪倉浩美 産婦の心理、健康生活が理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用	
	第11回	分娩期の助産診断 担当教員：坪倉浩美 分娩期のフィジカルアセスメントが理解できる 事例による助産診断を行うことができる 【授業形態】「演習」	
	第12回	分娩期の異常・偶発疾患 担当教員：坪倉浩美 分娩の3要素の異常、分娩に伴う損傷・偶発疾患・合併症について理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用	
	第13回	分娩期の産科手術および産科的医療処置 担当教員：坪倉浩美 分娩期の産科手術、救急処置について理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用	
	第14・15回	産褥期の異常・偶発疾患、分娩期・産褥期の検査、使用する薬物 担当教員：坪倉浩美 産褥期におこる身体的、精神的問題を理解することができる	

	<p>分娩期・産褥期の検査、使用する薬物について理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用 まとめ 担当教員：坪倉浩美</p> <p>分娩期についての知識の理解を深める。 【授業形態】「グループワーク」</p> <p>第17回 新生児の生理適応 担当教員：岡本留美 新生児の生理について理解する。 【授業形態】講義</p> <p>第18回 出生後のケア 担当教員：岡本留美 出生後24時間以内のケアと失政後24時間以降のケアについて理解できる。 【授業形態】講義</p> <p>第19回 NICU とハイリスク新生児のケア 担当教員：岡本留美 ハイリスク新生児の状態についてアセスメントできる。 ケアについて考えられる。</p> <p>第19回 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用 新生児のフィジカルアセスメントと保育器内の看護 担当教員：岡本留美 事例を用いて患児の状態がアセスメントできる。 保育器の仕組みを理解している。 【授業形態】講義・演習</p> <p>第20・21回 女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する健康問題と援助 担当教員：坪倉浩美 思春期・成熟期・更年期・老年期女性への援助を理解する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書をもとに、各授業のタイトルに関連するページを事前学習（予習120分）し、授業で学修した内容を整理してまとめて下さい（復習120分）。
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 堀内成子編 医学書院 2. 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期 我部山キヨ子・武谷雄二編 医学書院 3. 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期 我部山キヨ子・武谷雄二編 医学書院 4. 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期 横尾京子編 5. 新生児蘇生法テキスト 第3版 細野茂春監修 メディカルビュー社 7. 図説 CTGテキスト 助産実践能力習熟段階〈クリニカルラダー〉レベル3 認証必須研修CTG対応テキスト 中井章人 メディカルビュー社 8. 実践 マタニティ診断 日本助産診断・実践研究会編 9. よくわかる母乳育児 編著：水野 克己他 へるす出版
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今日の助産 改訂第3版 北川真理子・内山和美編集 南江堂 2. 新生児学入門 第5版 仁志田 博司（編集） 医学書院 3. 母乳育児支援スタンダード 第2版 ラクテーションコンサルタント協会編集 医学書院 4. 母性の心理社会的側面と看護ケア 新道 幸恵他 医学書院 5. 助産師基礎教育テキスト5 分娩期の診断のケア 町浦 美智子 日本看護協会出版会 6. マタニティ診断ガイドブック 第5版 日本助産診断・実践研究会編 7. 写真で分かる助産技術 平澤美恵子・村上睦子編 インターメディカ 8. 助産師のためのフィジカルイグザミネーション 我部山キヨ子編 医学書院
成績評価	定期試験70% 実技試験30%
担当教員の基本情報	<p>坪倉浩美 研究室：10号館8階研究室 メールアドレス：t_tubokura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前に連絡をください）</p> <p>岡本 留美 外部講師 メールアドレス：r_okamoto@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（事前に連絡をください）</p> <p>後藤幸恵 外部講師</p>
備考	坪倉浩美 岡本留美 助産師として病院で勤務。その実務経験をもとに「助産診断・技術学Ⅰ」について授業を進める。
	DPとの関連 ◎-2 ○-3.5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	4	選択
担当教員			
坪倉浩美 後藤幸恵 辻本紀子 山田智子 福田セーニャ			
配当学科：看護学科	時間数：60時間	講義形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p><授業概要> 助産診断の基礎となる理論と技術を用いて、対象理解に必要な実践方法を学ぶ。 マタニティサイクルの助産診断に必要な基礎知識および科学的根拠に基づいた助産技術と助産援助について学ぶ。 マタニティサイクル各期において、正常な経過をたどるための保健指導および健康教育の基礎的知識・技術を学ぶとともに、プライマリ・ヘルスの観点から助産過程を展開し、その役割と責任遂行の基礎能力を養う。</p> <p><授業目標> 1. マタニティサイクルの助産実践に必要な知識と技術が修得できる。 2. 助産過程の概要を理解し事例を用いて助産過程の展開ができる。 3. 周産期のハイリスク状態にある対象の診断と援助が理解できる。 4. 対象の主体性を尊重し、継続に支援する助産師としての基本姿勢が修得できる。</p>
授業計画	<p>第1回 分娩介助法1 担当教員：坪倉浩美 【授業目標】 分娩介助の意義・原理が理解できる 【授業形態】 講義 DVD視聴 コミュニケーションカード使用</p> <p>第2回 分娩介助時の技術1 担当教員：坪倉浩美 【授業目標】 分娩介助時の技術の目的・方法が理解できる 【授業形態】 「演習」</p> <p>第3回 分娩介助時の技術2 担当教員：坪倉浩美 【授業目標】 分娩介助時の技術の目的・方法が理解できる 付属物の検査と計測が理解できる 【授業形態】 「演習」</p> <p>第4回 産婦の支援 担当教員：坪倉浩美 【授業目標】 産婦の基本支援が理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第5回 ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと支援 担当教員：坪倉浩美 【授業目標】 ハイリスク・異常分娩時のアセスメント、支援が理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第6回 分娩期のまとめ 担当教員：坪倉浩美 【授業目標】 分娩期のまとめにより、分娩期で学んだ授業内容の理解を深めることができる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第7回 産褥期の生理と心理的变化 担当教員：後藤幸恵 【授業目標】 産褥期の身体的変化、褥婦の心理社会的変化とその特徴が理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第8～10回 産褥期の助産診断 担当教員：後藤幸恵 【授業目標】 産褥期のフィジカルアセスメントが理解できる 事例を用いて産褥期の助産診断が理解できる 【授業形態】 「グループワーク」</p> <p>第11回 産婦の支援 担当教員：後藤幸恵 【授業目標】 退行性変化、日常生活適応の支援について理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第12回 乳房管理 担当教員：後藤幸恵 産褥期の乳房管理のための診断とケアが理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第13回 ハイリスク・異常褥婦のアセスメントと支援 担当教員：後藤幸恵 【授業目標】 ハイリスク・異常因子のアセスメントが理解できる ハイリスク・異常褥婦の支援が理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第14回 産褥期のまとめ 担当教員：後藤幸恵 産褥期のまとめにより、産褥期で学んだ授業内容の理解を深めることができる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第15回 新生児のケア 担当教員：坪倉浩美 新生児の適応生理、出生時のケア、出生後24時間以内・24時間以降のケア理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第16回 NICUとハイリスク新生児ケア 担当教員：坪倉浩美 ハイリスク新生児の基本とケアが理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第17回 新生児蘇生法 (NCP) 担当教員：坪倉浩美 新生児蘇生法アルゴリズムが理解できる 【授業形態】 講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第18回 乳幼児の発育と健康診査 担当教員：坪倉浩美</p>

	<p>乳幼児の健康診査に必要な技術、健康診査の実際が理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第19回 新生児のまとめ 担当教員：坪倉浩美 新生児のまとめにより、産褥期で学んだ授業内容の理解を深めることができる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第20回 健康教育とは 担当教員：山田智子 健康教育の定義・目的・目標が理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第21回 家族計画 担当教員：山田智子 家族計画の基礎知識、各種受胎調整法が理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p> <p>第22回 保健指導1 担当教員：辻本紀子 沐浴、退院指導の目的・目標が理解できる 沐浴、退院指導の指導案が立案できる 【授業形態】「グループワーク」</p> <p>第23回 保健指導2 担当教員：辻本紀子 沐浴、退院指導を指導案をもとに実施できる 【授業形態】「演習」</p> <p>第24回 健康教育（計画） 担当教員：辻本紀子 健康教育の指導案が立案できる 【授業形態】「グループワーク」</p> <p>第25～26回 健康教育（実施） 担当教員：辻本紀子 健康教育が実施できる 【授業形態】「演習」</p> <p>第27回 保健指導、健康教育の評価・総括 担当教員：辻本紀子 保健指導、健康教育の指導案作成・実践において課題が明確になり、助産実習に活用することができる 【授業形態】講義 コミュニケーションカード使用</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書・参考書をもとに、各授業のタイトルに関連するページを事前学習（予習60分程度）し、授業で学修した内容を整理してまとめて下さい（復習60分程度）。
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ 堀内成子編 医学書院 2. 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期 我部山キヨ子・武谷雄二編 医学書院 3. 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期 我部山キヨ子・武谷雄二編 医学書院 4. 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期 横尾京子編 5. 新生児蘇生法テキスト 第3版 細野茂春監修 メディカルビュー社 7. 図説 CTGテキスト 助産実践能力習熟段階〈クリニカルラダー〉レベル3 認証必須研修CTG対応テキスト 中井章人 メディカルビュー社 8. 実践 マタニティ診断 日本助産診断・実践研究会編 9. よくわかる母乳育児 編著：水野 克己他 へるす出版
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今日の助産 改訂第3版 北川真理子・内山和美編集 南江堂 2. 新生児学入門 第5版 仁志田 博司（編集） 医学書院 3. 母乳育児支援スタンダード 第2版 ラクテーションコンサルタント協会編集 医学書院 4. 母性の心理社会的側面と看護ケア 新道 幸恵他 医学書院 5. 助産師基礎教育テキスト5 分娩期の診断のケア 町浦 美智子 日本看護協会出版会 6. マタニティ診断ガイドブック 第5版 日本助産診断・実践研究会編 7. 写真で分かる助産技術 平澤美恵子・村上睦子編 インターメディカ 8. 助産師のためのフィジカルイグザミネーション 我部山キヨ子編 医学書院
成績評価	定期試験80% レポート20%
担当教員の基本情報	<p>坪倉浩美 研究室：10号館8階研究室 メールアドレス：h_tubokura@meiji-u.ac.jp</p> <p>後藤幸恵 外部講師</p> <p>辻本 紀子 研究室：10号館7階研究室 メールアドレス：n_tujimoto@meiji-u.ac.jp</p> <p>研究室：10号館6階研究室 山田智子 研究室：10号館6階研究室 メールアドレス：t_yamada@meiji-u.ac.jp</p> <p>福田セーニャ 研究室：10号館6階研究室 メールアドレス：20125072@mst.meiji-u.ac.jp</p>
備考	<p>坪倉浩美 助産師として病院に勤務。その実務経験をもとに「助産診断・技術学Ⅱ」について授業を進める。</p> <p>後藤幸恵 助産院を開業。その実務経験をもとに「助産診断・技術学Ⅱ」について授業を進める。</p>
	D P との関連 ◎-2 ○-3.5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
戸田一男 梶川拓馬 大永慶子			
授業形態：講義・演習	グループワーク	コミュニケーションカードを使用	
添付ファイル			

授業目標	精神（こころ）の健康問題を多面的に理解するための幅広い知識を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 精神保健の歴史 精神保健の歴史上の事件とそれに関連する法律について理解することができる。</p> <p>第2回 看護師のメンタルヘルス（1）共感と感情労働 共感とはどのようなものか、感情労働について理解を深め、学生自身の言葉で述べることができる。</p> <p>第3回 看護師のメンタルヘルス（2）と燃え尽き症候群 ワーカホリックや燃え尽き症候群について理解を深め、その概要について説明することができる。</p> <p>第4回 アディクション（1）摂食障害その他アディクション 摂食障害とは何かや、その他アディクションとよばれるものにどのようなものがあるかについて理解し、説明することができる。</p> <p>第5回 アディクション（2）アルコール依存症 耐性や離脱症状とはどのようなものであるのかを理解し、アルコール依存の治療について説明することができる。</p> <p>第6回 精神保健関連法規 精神保健関連の法律、特に精神保健福祉法の主な項目を述べることができる。</p> <p>第7回 地域精神保健 地域で精神障害者を支える社会資源・制度には何があるかを述べることができる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習（予習45分）し、講義で学修した内容をまとめてください（復習45分）。
教科書	系統看護学講座 「精神看護の基礎」 精神看護学①（医学書院） 系統看護学講座 「精神看護の展開」 精神看護学②（医学書院）
参考書	特に指定しない。
成績評価	定期試験および授業への参加態度によって評価する。 （試験70%、受講態度30%）
担当教員の基本情報	戸田教員：精神科領域での多岐にわたる豊富な臨床経験をもとに精神保健についての講義を行う。 梶川教員：精神科領域での臨床経験をもとに精神保健についての講義を行う。
備考	<p>担当教員名 : 戸田一男 研究室 : 10号館8階807研究室 メールアドレス : k_toda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時（精神看護学実習のため病院出張以外）</p> <p>担当教員名 : 梶川拓馬 研究室 : 10号館7階713研究室 メールアドレス : t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時（精神看護学実習のため病院出張以外）</p>
	ディプロマポリシーとの関連 ◎—2、○—1、○—3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
田中 小百合			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	講義形態：講義	グループワークあり
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 訪問看護ステーションの活動と家庭訪問・初回訪問に必要な知識、マナーを学び、在宅における日常生活援助における基本的なアセスメントや援助技術の具体的展開方法を学ぶ。</p> <p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護ステーションの活動について理解できる。 ・家庭訪問・初回訪問に必要な知識、マナーがわかる。 ・在宅における感染症対策が理解できる。 ・在宅における緊急時・災害時の対応が理解できる。 ・在宅における日常生活援助の方法と技術を理解できる。
授業計画	<p>1、2回目 訪問看護ステーション</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護ステーションの設置、管理、運営、従業者、対象者、サービス内容、利用料が説明できる ・訪問看護における介護保険と医療保険の調整について理解できる ・訪問看護で使用する書類・記録類について説明できる ・居宅介護サービス計画の記載内容が理解できる <p>3回目 在宅でのコミュニケーション・面接技術</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問の意義を理解し、手順、倫理と心構えについて説明できる ・初回訪問の目的と技術、配慮すべき点について説明できる ・さまざまな訪問時の場面を提示し、対応の仕方を考える（グループワーク） <p>4回目 在宅看護における危機管理</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護における感染症への対応の原則と看護のポイントが理解できる ・在宅看護において多くみられるインシデントについて理解し、家族への予防指導・看護師の予防対策が理解できる ・在宅におけるリスクマネジメントについて理解できる <p>5～7回目 在宅における食事援助／排泄援助／清潔援助／移動援助の技術</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食生活におけるアセスメントができる ・摂食嚥下障害を有する人へのアセスメントと支援の概要を説明できる ・食に関するリスク管理が説明できる ・食に関する在宅療養生活での社会資源が説明できる ・在宅療養の場における排泄のアセスメントおよびその支援について説明できる ・在宅における清潔の特徴やアセスメントを踏まえた清潔ケアが説明できる ・在宅における移動のアセスメントと安全で自立支援を目指した援助方法、補助用具の活用について説明できる <p>8回目 試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>教科書のページ番号を記載したレジメを配布する。資料も前もって配布するので、それらを参考に予習（35分）、復習（35分）を行うこと。知識の整理のためにレジメの空欄を活用するとよい。</p> <p>教科書にある「メディカAR」も自己学習に利用する。</p> <p>これまでに習った知識（例えば、看護展開の仕方、認知症看護など）を前提にして、授業を進行することが多い。忘れていた知識は各自で復習しておくこと。</p> <p>皆さん方には単位を取得し、実習で学び、国試合格という明確な目標があるので、それに向かって勉強できるように、配布資料に空欄を設けてあります。予習復習、試験勉強を兼ねて利用していただければと思います。</p>
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア（第6版）、臺有桂、他編（メディカ出版） ・在宅看護論、秋山正子他著（医学書院）
参考書	遠隔講義時に紹介する。
成績評価	援助論全体の内容をシャッフルしてⅠとⅡに分けて、50分ずつの試験を実施する予定ですが、今後の動向がわかりません。いずれにしてもしっかりと勉強しておいてください。
担当教員の基本情報	10号館810研究室 メールアドレス：sayutana@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時
備考	病院に勤務。その実務経験をもとに「訪問看護」について授業をすすめる。
	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎ー1、○ー2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
田中 小百合			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	講義形態：演習	看護展開の演習あり
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 在宅での医療的援助における基本的なアセスメントや援助技術、在宅看護の看護展開、障がい者関連の社会資源等について学ぶ。</p> <p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療管理を必要とする在宅療養者とその家族への看護が理解できる。 ・障がい者の在宅療養を支える制度と社会資源が理解できる ・対象特性に応じたアセスメント、看護展開ができる。
授業計画	<p>1～2回目 服薬管理、褥瘡管理</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅療養の場における薬物療法の特徴、必要な看護技術を理解し、説明できる ・在宅における褥瘡ケアの特徴、褥瘡の発生機序、アセスメント方法、基本的技術を理解し、説明できる <p>3～5回目 ストーマ管理／在宅経管栄養法／在宅中心静脈栄養法</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストーマの種類と特徴、処置の仕方を理解し、説明できる ・ストーマの異常やトラブルの対処方法を理解し、説明できる ・在宅における経管栄養法を理解し、説明できる ・胃瘻のしくみ、合併症、トラブル時の対処の仕方を理解し、説明できる ・輸液管理の目的や方法、種類を理解し、説明できる ・感染を予防するための観察項目を理解し、説明できる <p>6～7回目 在宅人工呼吸療法／在宅酸素療法</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気管切開下間欠的陽圧換気療法の療養者の管理と看護のポイントを理解し、説明できる ・非侵襲的陽圧換気療法を行う療養者の観察項目や、生じやすいトラブルの対処方法を理解し、説明できる ・在宅酸素療法の概要と、療養者の日常生活上の留意事項を理解し、説明できる <p>8～9回目 疼痛管理／在宅における終末期ケア</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疼痛アセスメントに基づいた薬物療法や副作用への対処、身体的苦痛の緩和方法を理解し、説明できる ・在宅におけるがん看護と家族へのケア、在宅緩和ケアのポイント、訪問看護師の役割を理解し、説明できる <p>10～12回目 障がい者の在宅療養を支える制度と社会資源</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅における精神疾患をもつ療養者の看護を理解し、説明できる ・在宅難病療養者を支える制度と社会資源を理解し、説明できる ・子どもの在宅療養を支える制度と社会資源を理解し、説明できる ・重症心身障がい者が理解できる：浅井先生 <p>13～14回目 在宅看護過程</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅看護における情報収集、アセスメント、実践、評価の仕方が理解できる ・事例をとおして在宅看護過程の展開ができる <p>15回目 試験</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>教科書のページ番号を記載したレジメを配布する。資料も前もって配布するので、それらを参考に予習（35分）、復習（35分）を行うこと。知識の整理のためにレジメの空欄を活用するとよい。</p> <p>教科書にある「メディカAR」も自己学習に利用する。</p> <p>これまでに習った知識（例えば、看護展開の仕方、認知症看護など）を前提にして、授業を進行することが多い。忘れていた知識は各自で復習しておくこと。</p> <p>皆さん方には単位を取得し、実習で学び、国試合格という明確な目標があるので、それに向かって勉強できるように、配布資料に空欄を設けてあります。予習復習、試験勉強を兼ねて利用していただければと思います。</p>
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア（第6版）、臺有桂、他編（メディカ出版） ・在宅看護論、秋山正子他著（医学書院）
参考書	遠隔講義時に紹介する。
成績評価	援助論全体の内容をシャッフルしてⅠとⅡに分けて、50分ずつの試験を実施する予定ですが、今後の動向がわかりません。いずれにしてもしっかりと勉強しておいてください。
担当教員の基本情報	10号館8階研究室 メールアドレス：sayutana@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時
備考	病院に勤務。その実務経験をもとに「訪問看護」について授業をすすめる。
	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎ー1、○ー2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
玉井 公子			
添付ファイル			

授業目標	地域を構成する人々の心身の健康、疾病・障害の予防・発生・回復、改善の過程のアセスメント及び健康課題の明確化について理解できる。 個人・家族が主体的に問題を解決できるよう、地域特性を踏まえた適切な支援技術の選択及び支援方法について理解できる。
授業計画	<p>1回 生活者としての個人及び家族、グループの対象理解と健康課題への支援方法について [到達目標] 対象の理解とアセスメントに基く健康支援、対象となる個人の健康と生活及び社会とを関連付けてアセスメントし、健康問題への支援について説明できる。 また、家族、グループや組織に対してはアセスメントにより家族及び組織の発展段階を判断して支援する方法を理解できる。 [授業形態：講義及びグループディスカッション]</p> <p>2回 生活習慣にかかる社会的背景を探り健康問題との関連性について [到達目標] 生活習慣にかかる社会的背景を探り健康問題との関連性について理解する [授業形態：講義及びグループディスカッション]</p> <p>3回（村上） 家庭訪問における保健指導の目的、機能、支援の実際について [到達目標] 家庭訪問における保健指導の目的、機能、支援の実際を説明できる。 [授業形態：講義及びグループディスカッション]</p> <p>4回（村上） 困難事例への家庭訪問の支援の実際を理解できる [到達目標] 対象者の生活実態や生活環境を把握することに加えて、家族の気持ちを聴いて問題をアセスメントし対応すること、また、家庭訪問を通して地域ケアの課題を見出し、問題提起を行う保健師の役割を理解できる。 [授業形態：講義及びグループディスカッション]</p> <p>5回 地域組織活動において活用できる理論・方法について [到達目標] 地域組織活動の展開と保健師の役割を理解できる。 [授業形態：講義及びグループディスカッション]</p> <p>6回 地域組織活動における当事者組織への支援について [到達目標] 住民の自立支援と地域組織活動の実際とその後の地域づくりへの発展を段階的に理解できる。 [授業形態：講義及びグループディスカッション]</p> <p>7回 地域ケアシステムの構築とネットワーク化について [到達目標] 地域ケアシステム概念及びシステムの発展過程、ネットワークの形成の実際を理解できる。 [授業形態：講義及びグループディスカッション]</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書及び参考書を用いて授業に関連する内容を予習を行うこと。指示された課題について期限内に提出する。 【予習・復習及び課題作成には4.5時間以上を取り組むことを目安とする】
教科書	「公衆衛生看護学概論」 標美奈子他、「公衆衛生看護技術」 中村裕美子他（医学書院）
参考書	「国民衛生の動向2018/2019」（財団法人 厚生統計協会編集・発行） 公衆衛生が見える3版（メディック・メディカ）
成績評価	毎回の提出課題（家庭訪問記録を含む）により評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 玉井公子 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : k-tamai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 担当教員名 : 村上久恵 研究室 : 10号館7階

	メールアドレス : h_murakami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	行政の実務経験の豊富な教員として、公衆衛生看護の対象者に対する健康な生活を支援するための実践的な技術や方法について教授する。
	②「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-3、○-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択
担当教員			
玉井 公子			
添付ファイル			

授業目標	<p>地域アセスメント（地域診断）に基き地域の健康課題を明確にする方法について理解ができる。 地区活動における地域組織の育成・支援にかかわる活動の展開方法について理解できる。 保健医療福祉における施策化と事業の計画、実践、評価の一連の地域保健活動過程を理解できる。 保健医療福祉におけるケアシステムの構築について理解できる。 健康危機管理及び公衆衛生看護管理について理解できる。</p>
授業計画	<p>1 回 地域保健活動の意義及び地区活動の定義について [到達目標] 地域保健活動は、地域への責任と公平性、健康なまちづくり、予防活動を理念としており、地域住民・組織の自立支援と行政との協働により支援していくことを理解できる。地区の定義について理解できる。 [授業形態：講義形式、グループディスカッション]</p> <p>2 回 地域診断の目的及びプロセスを理解できる [到達目標] 地域診断の理論として、「コミュニティー・アズ・パートモデル」を用いて、計画・実施・評価について理解する。 [授業形態：講義形式、グループディスカッション]</p> <p>3 回 地域診断における情報収集の具体的方法が理解できる [到達目標] ①地域診断における地域の情報収集の具体的方法を理解する。 ②地域の情報についてアセスメントができる。 [授業形態：講義形式、グループディスカッション]</p> <p>4 回 地域診断（演習）① [到達目標] 担当市町村を想定して、情報収集とアセスメントを実践する。 [授業形態：グループディスカッション]</p> <p>5 回 地域診断（演習）② [到達目標] 担当市町村を想定して、情報収集とアセスメントを実践する。 [授業形態：グループディスカッション]</p> <p>6 回 地域診断（演習）③ [到達目標] 担当市町村を想定して、情報収集とアセスメントを実践する。 [授業形態：グループディスカッション]</p> <p>7 回 地域診断（演習）④ [到達目標] 担当市町村を想定して、情報収集とアセスメントを実践する。 [授業形態：グループディスカッション]</p> <p>8 回 地域診断（演習）⑤ [到達目標] 担当市町村を想定して、情報収集とアセスメントを実践する。 [授業形態：グループディスカッション]</p> <p>9 回 地域保健活動・地区活動の目的と過程について [到達目標] 地域保健活動・地区活動の目的と過程が理解できる [授業形態：講義形式、グループディスカッション]</p> <p>10 回 事業化及び施策化の目的と過程について [到達目標] 事業計画の立案と実践・評価・（事業化）施策化について理解できる。 [授業形態：講義形式、グループディスカッション]</p> <p>11 回 地域ケアシステムの構築について [到達目標] 地域ケアシステム概念、発展過程、ケアの連続性と継続性、共通認識・合意形成、連携する関係者の役割が理解できあ。ネットワークの形成及びケアコーディネーションについて理解できる [授業形態：講義形式、グループディスカッション]</p> <p>12 回 地域包括ケアシステムについて [到達目標] 地域包括ケアは、各地域で住まい・生活支援・介護予防・医療を総合的に整備して、誰もが最期まで安全・安心に暮らせるシステムであることを理解できる。 地域包括ケアにおける保健師活動を理解できる。</p>

	<p>1 3回 [授業形態：講義形式、グループディスカッション] 感染症の集団発生時の保健活動について [到達目標] 感染症調査の基本、事前対策、発生時の対応、感染拡大防止について理解する。 [授業形態：講義形式、グループディスカッション]</p> <p>1 4回 公衆衛生看護管理について [到達目標] 公衆衛生看護管理の目的、構造、機能、専門的自律と人材育成について理解する。 [授業形態：講義形式] 期末試験</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	公衆衛生看護活動論Ⅱは、保健師活動の基本となる学問のため、授業には関心を持ち積極的に参加する。 【予習・復習・課題を含めて1コマ70分の学習を要する】
教科書	標準保健師講座1 「公衆衛生看護学概論」 標 美奈子 著者代表 (医学書院) 標準保健師講座2 「公衆衛生看護技術」 中村裕美子 編 (医学書院)
参考書	「国民衛生の動向2018/2019」 (財団法人 厚生統計協会編集・発行) 公衆衛生が見える3版 (メディック・メディカ)
成績評価	毎回の提出課題 (45%) 及び地域診断シート (55%) 課題の提出等により総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 玉井公子 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : k_tamai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 担当教員名 : 村上久恵 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : h_murakami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時
備考	行政における実務経験を有する教員が、公衆衛生看護活動の豊富な実践経験をもとに、具体的な事例紹介等を行いつつ教授する。
	②「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-1、○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択
担当教員			
大倉 和子			
添付ファイル			

授業目標	ライフサイクルの発展段階別、健康障害対象別の地域看護活動を理解し、個人及び家族、集団に対する支援の方法を具体的に説明することができる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護学の方法論の概要、母子保健活動について（1） [到達目標] ガイダンス・母子保健の動向、母性各期の健康課題、乳幼児期の健康課題について理解する。母子保健施策と地域の支援体制づくりを理解する。 ①健やか親子21に基づき思春期から乳幼児期の一貫した母子保健活動を説明することができる。 ②乳幼児健診やその他の事業内容を具体的に述べるができる。 [授業形式] 講義 宿題：児童虐待の新聞記事を読みその背景と課題を考える。（次回の授業日に提出） 2. 母子保健福祉活動について（2） [到達目標] 母子保健福祉活動における児童虐待の防止と支援について理解する。支援ニーズの高い親子の健康課題、児童虐待の予防について理解し、支援システムを具体的に説明することができる。 [授業形式] グループワークにより乳幼児健康診査等の機会にどのような支援をすることが子育て支援及び児童虐待予防につながるかを考える。 3. 成人保健福祉活動について（1） [到達目標] 成人保健福祉活動の動向、成人各期のライフサイクルに応じた保健活動を理解し、個人及び集団への支援方法を理解する。「国民衛生の動向」を活用して疾病構造を把握し、生活習慣病対策及び特定健康診査・特定保健指導の意義、関連する制度及び保健活動について説明することができる。心の健康づくりを考えることができる。 [授業形式] グループワークにより禁煙対策に関する事例を通して集団を対象とする保健活動の展開方法と課題を話し合う。 宿題：「食事バランスガイド」を用いて1週間の自らの食事内容を記録し食習慣を考察する。様式配布次回授業で提出 4. 高齢者保健福祉活動について [到達目標] 高齢者保健福祉活動の動向、及び高齢社会の健康課題、高齢者の特徴に応じた支援活動を理解する。 「国民衛生の動向」を活用して高齢者の健康課題を把握し、高齢者への保健活動の具体的な方法について述べるができる。 [授業形式] グループワークにより学生の食事バランスガイドの結果を応用して、事例を通して独居高齢者の食生活に対する支援を検討する。 宿題：地域包括ケアとはどのようなものか、背景、目指す方向、地域包括支援センターの役割についてテキストを熟読しノートにまとめておく。5回目の授業終了後に提出する。 5. 地域包括ケアに関する施策・事業について [到達目標] 介護予防及び地域包括ケアの施策や事業について具体的に説明することができる。地域包括支援センターにおける保健師の役割と活動の展開について具体的に述べることができる。 [授業形式] グループワークにより介護予防事業の事例から、包括支援センターの機能を確認する。 6. グループ支援、組織化、地域保健活動の展開について [到達目標] グループ支援と組織化から地域組織活動へと発展的に展開する保健活動の過程を理解する。グループ・組織の種類や支援技法について具体的に説明することができる。 [授業形式] グループワークによりすすくやぎっこの事例を通してグループ支援のあり方を考える。 宿題：在宅の認知症高齢者の新聞記事から、住み慣れた地域で暮らし続けるために必要な支援体制をレポートにまとめる。（45分） 7日目の授業開始時に提出する。 7. 精神保健福祉活動について [到達目標] 精神保健の動向、精神保健福祉活動の理念及び施策・制度の概要、精神障害者のための施策を生活支援に活用する具体的な方法を理解する。 [授業形式] グループワークにより事例を通して、精神障害者の就労支援に関連する課題について話し合う。 予習：障害者総合支援法の概要、主な内容をまとめておく。 小テスト（1～7回までの授業から） 8. 障害者（児）の保健福祉活動について [到達目標] 障害者（児）保健福祉活動の変遷、法制度・施策や事業の体系を理解する。障害者保健の理念、関係法令に基づく支援システムについて具体的に説明することができる。 予習：学校保健に係る法の概要、学校保健に携わる職種とその役割をまとめておく。（45分） 9. 学校保健活動について（1） [到達目標] 学校保健・学校看護の定義、学校保健における法制度とシステムについて理解する。学校保健の各発達段階別の健康課題を把握し支援方法を理解する。小テスト（8～10回の授業から） 予習：養護教諭の職務内容を調べておく。 10. 学校保健活動について（2）

	<p>[到達目標]学校保健、学校安全の組織の概要、学校保健活動における養護教諭の職務内容及び役割、連携について具体的に述べるができる。 予習：難病の定義、医療費助成制度の対象疾患とその主な助成内容を調べておく。(45分)</p> <p>11. 難病の保健福祉活動について [到達目標]難病施策の理念、難病対策の制度・事業を理解し、地域で生活する難病患者及び家族保健指導の方法を理解する。地域ケアシステムの構築に関連付けて考えることができる。 [授業形式]グループワークにより事例を通して、地域における難病患者と家族、地域への支援策を考察する。 予習：結核について、感染経路及び予防接種について調べておく。</p> <p>12. 健康危機管理（1） [到達目標]健康危機管理の概念とおもな要因について理解する。リスクアセスメント、事業継続計画、リスクコミュニケーションの概念について理解する。体制整備や情報集など健康危機管理の要素について、概略を理解する。</p> <p>13. 感染症集団発生時の保健活動（2） [到達目標]感染源や感染経路にいたる情報は患者や関係者が持っており、患者などとの信頼関係の構築が調査の基盤である。集団発生事例への対策の過程で、患者や関係者への周囲の差別や偏見が引き起こされないように十分配慮する。日常活動での地域情報の蓄積や関係機関のネットワークは、集団発生時の探知や迅速な調査につながる。</p> <p>14. 公衆衛生看護学の展開方法についての総括 [到達目標]ライフサイクル及び対象別の健康課題を理解し、公衆衛生看護活動の展開方法を理解する。 [授業形式]グループワークにより、公衆衛生看護の場や対象を俯瞰的に理解する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	教科書を熟読すること。 予習、復習、課題作成には4.5時間以上取り組むことを目安とする。
教科書	「標準保健師講座 対象別公衆衛生看護活動3」中谷芳美他著（医学書院）2019年改訂版 3,400円
参考書	「国民衛生の動向」（厚生労働統計協会）2018/2019年版 2,500円
成績評価	授業はやむを得ない場合を除き必ず出席する。欠席した場合は、当該授業の内容を自分で確認し、テキストや資料を基に学習する。
担当教員の基本情報	担当教員：大倉和子 メールアドレス：
備考	行政機関における実務経験を実習指導に活かしつつ、産業保健領域および市町村及び地域包括支援センターにおける地域保健活動に参加し、実践的に学ぶことで学生がグループ活動において主体的にディスカッションし学びを深め、保健師の活動や役割を深く理解できるよう指導する。 デプロマポリシーとの関連：◎ー1、○ー③

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
村上 久恵			
添付ファイル			

授業目標	健康教育の目的を理解し、その実践方法を学び、住民の健康づくりについて専門的知識を活用し具体的に考えることができる。健康レベルに応じた健康教育の方法を理解する。保健行動の変容に関する理論を学び、健康教育に活用することができる。対象に応じた健康教育の展開を理解し、模擬教育を行うことができる。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス、健康教育の理念・定義・目的・方法について [到達目標]健康教育の対象を保健医療の5段階から説明することができる。健康日本21及びヘルスプロモーションの考え方と関連付けて健康教育を考えることができる。ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチの目的とその方法を事例から説明できる。 課題にて提示し、記入後提出とする。 保健行動と行動変容理論について [到達目標]保健行動とは何か、行動変容の理論を理解し、個人・集団及び地区組織活動に位置付けて考えることができる。対象に応じた健康教育の展開を具体的に考えることができる。 [課題]メタボリックシンドロームの事例前回の宿題の事例を共有し、保健行動に影響する様々な要因について考察する。 健康教育保健行動理論について [到達目標]保健活動に活用できる理論（プリシード・プロシード・モデル等）について理解する。「健康への力」の理論を学び、保健行動に影響する要素を具体的に説明することができる。行動変容の理論を理解し、個人・集団及び地区組織活動に位置付けて考えることができる。対象に応じた健康教育の展開を具体的に考えることができる。 [課題]前回の宿題の事例を共有し、保健行動に影響する様々な要因について考察する。 健康教育の展開について（1） [到達目標]健康教育の技術、ICTの活用について理解し、具体的に説明することができる。健康教育の方法を選択し、企画・立案及び媒体を作成できる。 [課題]前回の課題をもとに、実際に行われている健康教育の様々な展開方法を共有し、メタボリックシンドローム予防の事例をプリシード・プロシードモデルにあてはめて考える。 健康教育の展開について（2） [到達目標]健康教育を展開するための具体的なプロセスを理解する。公衆衛生看護学実習を見据え、地域診断、健康課題の抽出、健康教育のテーマ設定、企画立案、実施評価の方法について考えることができる。 [課題]ロコモティブシンドローム予防の健康教育のための企画書・指導案・評価方法を考える。 健康教育のデモンストレーション [到達目標]健康教育を企画に基づいて実施することができる。 [授業形態]各個人でロコモティブシンドローム予防の健康教育を企画し、その内容を発表し、互いに評価を行う。 [課題]各個人の企画した内容について評価を行う。 健康教育論の総括 [到達目標]健康課題に基づいた健康教育の目的及び方法を踏まえて企画・立案・実施・評価について、実践することができる。 [授業形態]講義
授業時間外の学習（準備学習等）について	毎回、教科書の授業内容の該当ページを事前に読み、予習した上で授業に参加する。予習、復習、課題作成に4.5時間以上取り組むことを目安とする。
教科書	「標準保健師講座 公衆衛生看護技術2」中村裕美子他著（医学書院）改定版 3,200円
参考書	「標準保健師講座 公衆衛生看護学概論1」標 美奈子他著（医学書院）改定版 3,100円
成績評価	授業にはやむを得ない場合を除き必ず出席する。欠席した場合は、当該授業の内容を自分で確認し、テキストや資料をノートにまとめておく。提出物の提出期限は厳守すること。（遅れた場合は減点の対象とする）授業への参加態度（グループ学習の参加状況を含む）45%、レポート15%、筆記試験（小テスト含む）40%。
担当教員の基本情報	実務経験：行政に勤務し乳幼児から高齢者にわたる住民及び関係機関職員等を実施した保健活動の経験をもとに「健康教育論」の授業を行う。 研究室：10号館6階共同研究室 メールアドレス：h_murakami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：金曜日 16:00～17:00
備考	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎—②、○—③、○—④

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
佐藤 裕見子			
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・労働者の健康と作業能力の維持増進、安全と健康をもたらす作業環境及び作業の改善における保健師の役割を理解できる。 ・産業保健活動は、事業者と労働者が協力して産業保健の目的が達成できるように、産業保健専門職が行う支援活動であることを理解できる。また、その対象は、労働者のみならず、労働者が所属する組織から地域までを含む。 ・日本では、働く人々の健康保持・増進、快適な職場づくりを目的に、労働基準法や労働安全衛生法をはじめとする様々な法律に基づいて、産業保健活動が行われていることを理解できる。 ・産業構造の変化、少子高齢化、産業のグローバル化により、女性労働者、海外派遣労働者、外国人労働者の多様化が進み、そうした変化に対する健康支援対策が必要であることを理解できる。 ・産業保健活動は、従来の法令順守から、自主対応型に変化し、労働安全マネジメントシステムの導入が進められていることを理解できる。
授業計画	<p>1回 産業保健の基本(産業保健の目的、対象、産業保健の特徴)を理解できる。 【到達目標】産業保健活動は、事業者と労働者が協力して産業保健の目的が達成できるように、産業保健専門職が行う支援活動であることを理解できる。また、その対象は、労働者のみならず、労働者が所属する組織から地域までを含む。</p> <p>2回 産業保健の歴史、産業保健の構造の変化について理解できる。 【到達目標】産業構造の変化、少子高齢化、産業のグローバル化により、女性労働者、海外派遣労働者、外国人労働者の多様化が進み、そうした変化に対する健康支援対策が必要であることを理解できる。</p> <p>3回 産業保健制度とシステム、法律を理解できる。 【到達目標】日本では、働く人々の健康保持・増進、快適な職場づくりを目的に、労働基準法や労働安全衛生法をはじめとする様々な法律に基づいて、産業保健活動が行われていることを理解できる。また、従来の法令順守から、自主対応型に変化し、労働安全マネジメントシステムの導入が進められていることを理解できる。</p> <p>4回 産業保健を担う組織と労働衛生管理(3管理)を理解できる。 【到達目標】労働者の健康と作業能力の維持増進、安全と健康をもたらす作業環境及び作業の改善における保健師の役割を理解できる。</p> <p>5回 産業保健における健康課題への支援について理解できる。 【到達目標】産業保健活動は、事業者と労働者が協力して産業保健の目的が達成できるように、産業保健専門職が行う支援活動であることを理解できる。</p> <p>6回 産業保健における健康課題と対策、支援の実際/メンタルヘルスについて理解できる。 【到達目標】産業保健における健康課題で、特に喫緊の課題となっているメンタルヘルスへの対策が重要である。その背景には、経済のグローバル化や技術革新の進行、不安定な雇用形態などの背景があることを理解する。その中で産業保健専門職が行う支援活動であることを理解できる。</p> <p>7回 多様化する労働者及び雇用形態への支援、産業保健活動の展開について理會できる。 【到達目標】産業構造の変化、少子高齢化、産業のグローバル化により、女性労働者、海外派遣労働者、外国人労働者の多様化が進み、そうした変化に対する健康支援対策が必要であることを理解できる。</p>
授業時間外の学習(準備学習等)について	【予習・復習及び課題作成には4. 5時間以上取り組むことを目安とする】
教科書	対象別公衆衛生活動3版(医学書院) 中谷芳美他
参考書	「国民衛生の動向2018/2019」(財団法人 厚生統計協会編集・発行) 公衆衛生が見える3版(メディック・メディカ)
成績評価	出席状況、授業態度、レポート、ミニテスト、筆記試験等により総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員：佐藤裕見子 研究室：10号館8階研究室 メールアドレス：y_sato@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日 担当教員：内藤あけみ
備考	行政機関における実務経験を授業に活かしつつ、産業保健の実務経験豊富な産業保健師とのオムニバスによる実践的な教育を目指します。デプロマポリシーとの関連 ②-① ③

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期-前期	3-4	3	必修
担当教員			
梅田智恵子 小谷浩美 瀬見井千砂			
配当学科：看護学科	時間数：135時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	既習の知識、技術を基盤に、主として周手術期にある対象を総合的に理解し、治療に伴う回復過程や社会生活への適応に向けて主体的に取り組めるように援助する。また、危機的な状況にある対象や家族への看護について考えることができる。
授業計画	<p>1 手術を受ける対象の特徴および手術前、中、後の3つの医療環境を理解した上で、対象のニーズに応じた援助ができる。 〔到達目標〕 1) 障害されている臓器の構造・機能および病態生理について説明できる。 2) 手術を受ける対象および家族の心理的・社会的準備状況について理解できる。 3) 対象が受けている検査・治療について説明できる。 4) 麻酔・手術による侵襲と生体反応について説明できる。 5) 対象に起こりうる術後合併症のリスクを理解し、必要な援助を考えることができる。 6) 対象に必要な術後の観察項目を挙げ、アセスメントできる。 7) 対象に必要な術後の治療環境について理解できる。</p> <p>2 危機的な状況にある対象および家族または重要他者への援助方法について考えることができる。 〔到達目標〕 1) 手術室看護の目的・役割について考えることができる。 2) 手術室看護の治療環境について考えることができる。 3) ICU看護の目的・役割について考えることができる。 4) ICU看護の治療環境について考えることができる。</p> <p>3 対象の退院後の生活背景を把握し、回復状態に応じた日常生活への自立への援助ができる。 〔到達目標〕 1) 対象の身体的回復過程に応じた援助が実践できる。 2) 退院後の生活においても継続される健康問題を把握し、必要な教育・指導について考えることができる。</p> <p>4 治療に伴う機能障害や形態の変化を受容し、適応に向けての援助を考えることができる。 〔到達目標〕 1) 治療に伴う機能・形態の変化に応じた援助を考えることができる。 2) 治療に伴う機能・形態の変化による対象と家族の苦悩や不安を理解し、必要な援助を考えることができる。</p> <p>5 保健医療チームメンバー間の連携および社会資源の活用方法について理解できる。 〔到達目標〕 1) 保健医療チームメンバーと機能について理解できる。 2) 社会復帰に必要な制度・社会資源の活用方法について理解できる。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習施設へ行くまでに、事前課題（開腹胃全摘出術患者の看護過程の展開）にて、実習中に必要な知識を見直す。 ・実習開始前の週末に受け持ち患者情報が明確になるため、初めの学内日までに、入手情報から予測できる患者の病態生理や看護過程の知識を整理する。
教科書	急性期看護援助論Ⅰ・Ⅱで使用した教科書
参考書	事前に指示
成績評価	急性期看護学実習評価表に基づき行う
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：梅田智恵子 研究室：10号館8階 研究室805 メールアドレス：c_umeda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日15:00-16:00</p> <p>担当教員名：小谷浩美 研究室：10号館7階 研究室703 メールアドレス：h_odani@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：実習中に指示</p> <p>担当教員名：瀬見井千砂 研究室：10号館6階 北研究室 メールアドレス：c_semii@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：実習中に指示</p>
備考	<p>梅田智恵子：急性期病棟（消化器乳腺一般外科・HCU・泌尿器科・整形外科）の実務経験あり。</p> <p>小谷浩美：急性期病棟（消化器乳腺一般外科・HCU・泌尿器科・整形外科）、手術室、カテ室の実務経験あり</p> <p>瀬見井千砂：急性期病棟（消化器一般外科）の実務経験あり。</p>
	この授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-4、5

--	--

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期-前期	3-4	3	必修
担当教員			
仲口路子 伊賀さくら 清水徳子			
配当学科：看護学科	時間数：135時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>実習目的： 慢性的な健康課題を有するあるいは終末期にある人とその家族を対象とし、その対象者への看護実践をとおして、慢性期看護学の本質と看護方法について理解を深める。</p> <p>実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の健康生活を理解し、看護過程を活用して看護を実践するために必要な基本的知識・技術・態度を養う。 2. 対象者の健康生活を支援する保健医療福祉体制の実際と、その中での看護の役割・機能について理解を深める。 3. 慢性期看護学実習をとおして、看護者としての倫理観・看護観を養い、自己の課題を明らかにする。
授業計画	『臨地実習要項 慢性期看護学実習』を参照して下さい。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	『臨地実習要項 慢性期看護学実習』を参照して下さい。
教科書	『臨地実習要項 慢性期看護学実習』
参考書	看護学生のための臨地実習ナビ 本江朝美編集 照林社 2000円
成績評価	『臨地実習要項 慢性期看護学実習』を参照して下さい。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 仲口 路子 研究室 : 10号館(看護学部棟)8階808 メールアドレス : nakaguchi@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名 : 伊賀 さくら 研究室 : 10号館(看護学部棟)7階774 メールアドレス : s_iga@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名 : 清水 徳子 研究室 : 10号館(看護学部棟) メールアドレス : n_shimizu@meiji-u.ac.jp</p>
備考	◎-2 ○-3・4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期後期	3-4	2	必修
担当教員			
栗山真由美 東孝至 福田美紀代			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	高齢者の看護を行っている施設において要介護状態にある高齢者を受け持ち、老年看護援助論Ⅰ・Ⅱで学んだ高齢者の全体像の把握と日常生活の援助を必要とする機能のアセスメントと評価を行い、望ましい日常生活への援助するための看護計画を立案し実践する。また、高齢者に対するさまざまな社会資源の活用などについても実習を通して学びを深める。 各種介護保険制度の施設で働く看護師の役割や多職種連携についても理解を深める。
授業計画	詳細は、老年看護学実習要項を参照のこと。
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義で使用した教科書および資料、事前学習課題に積極的に取り組み、実習に臨むこと。 教員や指導者から指導された課題や毎日の実習記録は遅れず提出すること。 受け持ち利用者を通して実施されているケアや治療については調べ、記録し理解すること。
教科書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」北川公子ほか著（医学書院）2018 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態 疾患論」佐々木英忠ほか著（医学書院）2018 「ナーシンググラフィカ老年看護学② 高齢者看護の実践」堀内ふき他著（メディカ出版）2019 「ナーシンググラフィカ老年看護学① 高齢者の健康と障害」堀内ふき他著（メディカ出版）2019
参考書	適時紹介する。
成績評価	出席状況、実習への積極的姿勢 レポート（実習記録含む）の提出を総合的に評価する。 最終日にループリック評価表に即し、評価面接を行う。また看護師国家試験模試正答率60%以上必須とする。 詳細は、老年看護学実習要項を参照のこと。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 栗山 真由美 研究室 : 10号館8階研究室 メールアドレス : ma_kuriyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時（メールにて約束をとること） 担当教員名 : 東孝至 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー : 随時（メールにて約束をとること） 担当教員名 : 福田美紀代 研究室 : 10号館6階共同研究室 メールアドレス : m_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時（メールにて約束をとること）
備考	老年看護援助論Ⅰ・Ⅱで使用した講義資料および課題レポートも活用する。事前にまとめて準備しておく 総合病院にて地域医療連携、高齢者への運動指導・栄養管理等の経験を踏まえて実施指導を行う ◎-4 ○-2.5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期-前期	3-4	2	必修
担当教員			
河原照子 松岡みどり			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	[実習目的] 既習の知識、技術を基盤に、リハビリテーションを必要とする対象を総合的に理解し、その人らしい生活の再自立あるいは再構築に向けた援助について学ぶ。
授業計画	<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の機能障害・構造障害が理解できる。 2. 対象の障害の状態に合わせたリハビリテーションプログラムについて理解できる。 3. 対象のADLを評価し、自立を目指した日常生活の援助ができる。 4. 障害を負った対象および家族との信頼関係が構築できる。 5. 生活の再構築とQOL向上を目指し、対象及び家族と共に考えることができる。 6. リハビリテーション医療における看護の役割が理解できる。 7. リハビリテーションチームの連携・協働の必要性について理解できる。 8. 対象に応じた看護過程の展開ができる。 9. 学生としての節度を守り看護者としてふさわしい態度で、積極的に学習課題に取り組むことができる。 <p>[授業形態] 病棟実習・学内実習</p> <p>[備考] 実習のすすめ方等、詳細については、『臨地実習要項』参照</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	事前課題あり：事前課題は、基準点に達しないと実習への参加は認めることはできない。 実習直前のオリエンテーション時で渡される患者情報に沿っての事前学習を実施（オリ時に詳しく説明あり）。 実習中に課題が到達できない場合は、実習後に記録の再提出やレポートを課す場合がある。
教科書	リハビリテーション看護学概論・援助論で使用したもの。
参考書	自分の受け持つ患者の疾患や状況に応じたものを自分でチョイスする。 全領域で使用した手元の教科書や参考書を使用したり、図書館などで調達すること。
成績評価	事前課題、実習評価表の内容、実習記録、実習への取り組み姿勢などを総合的に評価する。 特に、実際の実習での患者への援助、それに関する学習内容の理解などを重要視する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：河原照子 研究室：10号館8階 研究室804 メールアドレス：t_kawara@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：特に指定なし 事前にメールで連絡のこと</p> <p>担当教員名：松岡みどり 研究室：10号館7階 研究室702 メールアドレス：m_matsuoka@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：実習中に指示</p>
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1. 担当教員2名、病院での看護師実務経験をもとにリハビリテーション看護について実習指導をすすめる。 2. この授業とディプロマポリシーとの関連：◎-4、○-2・5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期-前期	3-4	2	必修
担当教員			
山下八重子 浅井佳士 岩本美由紀 加瀬由香里			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	子どもを収容する施設において、受け持ち児を通して子どものとらえ方や基本的な小児看護技術の実践を学習する。 ・子どもを全人的にとらえ、子どもとその家族に対する看護について考えることができる。 ・小児各期における成長発達の特徴・発達課題を理解することができる。 ・子どもの健康問題とその家族の問題を理解し、援助の方法を考えることができる。
授業計画	実習90時間 小児看護学実習 ・2週間の実習の詳細は臨地実習要項を熟読して臨む。 ・体調管理を万全に行い予習を毎日欠かさず行い、記録の提出が遅れないようにすること。 ・記録は、日誌ではないので系統立てて簡潔に行い、文字は読みやすく丁寧に書くこと。 ・実習場では感染防止のためスタンダード・プリコーションを徹底すること。 ・各自評価表をチェックし、自己の理解を評価しつつ学修を進めること。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	1. 実習前に課題を提示するので、しっかり学習提出締め切りまでに提出すること。提出期限までに提出がない場合は実習には出れないことを認識しておく、但し病気等の本人の身体的な特別な理由がある場合は診断書を添えて申し出ること。 2. 小児看護概論・小児看護援助論Ⅰ・Ⅱの復習をしておくこと。 3. 関連図が苦手な学生は、教科書の事例など用いて書く練習をしておくこと。
教科書	小児看護概論・小児看護援助論Ⅰ・Ⅱ 出使用した教科書
参考書	看護診断：医学書院 子どもの病気の地図帳：講談社
成績評価	1. 出席日数が足りない場合は評価できない(特別な理由がある場合は、不足日数の実習を課す) 2. 実習内容が実習目的に到達していない場合は単位が得られない 3. 最終日の評価面接で患者理解と知識を問う。理解が・実習目標に到達していない場合は、単位が得られない
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山下八重子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : y_yamashita@meiji-u.ac.jp 担当教員名 : 浅井佳士 研究室 : 10号館7階 メールアドレス : k_asai@meiji-u.ac.jp 担当教員名 : 加瀬由香里 研究室 : 10号館6階 メールアドレス : y_kase@meiji-u.ac.jp
備考	臨床経験を踏まえて教育を行う 山下八重子：総合病院での小児看護経験 浅井佳士：障害児施設での小児看護経験 加瀬由香里：総合病院での小児看護経験
	D Pとの関連 ◎-4 ○-2.5

講義科目名称： 母性看護学実習

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期-前期	3-4	2	必修
担当教員			
坪倉浩美 辻本紀子 山田智子 福田セーニャ			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p><授業概要> 母性看護学では、出生後から思春期、成熟期、更年期、老年期の女性を対象に、発達課題の全般にわたって性と生殖に関する健康問題への援助を行うが、母性看護学実習では、特に周産期における妊婦・産婦・褥婦・新生児を対象とし、母性看護に特徴的な看護過程の展開と母性看護に特有の看護技術を実践（一部は見学）する。 また、実習を母性・父性、親性の概念や生命倫理に関して洞察する機会とし、理解を深める。</p> <p><授業目標> 1. 周産期にある対象の正常経過を理解し、個々に応じた看護を行う能力を養う。 2. リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念に基づいた対象の支援の現状と課題を知る。 3. 母性看護実践における保健医療福祉チームの重要性を知り、その中における看護の役割と責任を理解できる。 4. 新しい生命の誕生を通して生命の神秘・尊厳や自己の存在について考え、自己の母性・父性観を育てることができる。</p>
授業計画	<p>妊婦の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両親（母親）学級、妊婦健康診査の見学 両親（母親）学級、妊婦健康診査を受ける妊婦を通して、妊娠期の身体・心理・社会的特徴、胎児の発育、健康診査と保健指導の必要性、診察介助の方法について学ぶ <p>産婦の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩第Ⅰ期から第Ⅳ期の産婦に必要な看護 ・出生直後の新生児に必要な看護 <p>褥婦・新生児の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・褥婦の身体的・心理的・社会的な視点から健康を促進できる援助 ・ウェルネスの看護過程の展開 ・母子愛着形成と母乳栄養確立への看護 ・新生児胎外生活適応への看護
授業時間外の学習（準備学習等）について	実習オリエンテーション時に課題は提示する。 女性のライフサイクルと健康、および周産期の看護（妊娠期・分娩期・産褥・新生児）について知識と技術を復習しておいて下さい。
教科書	「母性看護概論」「母性看護援助論Ⅰ・Ⅱ」で使用した教科書
参考書	「母性看護概論」「母性看護援助論Ⅰ・Ⅱ」授業で紹介された文献および資料
成績評価	母性看護学実習評価表をもとに評価する。 実習態度、実習記録等を総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>坪倉浩美 研究室：10号館8階研究室 メールアドレス：h_tubokura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー 随時（事前に連絡をください）</p> <p>山田智子 研究室：10号館6階研究室 メールアドレス：t_yamada@meiji-u.ac.jp オフィスアワー 随時（事前に連絡をください）</p> <p>辻本 紀子 研究室：10号館7階研究室 メールアドレス：n_tujimoto@meiji-u.ac.jp</p> <p>福田セーニャ 研究室：10号館6階研究室 メールアドレス：s_fukuda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー 随時（事前に連絡をください）</p>
備考	坪倉浩美、辻本紀子、山田智子、福田セーニャ 助産師として病院に勤務。 その実務経験をもとに「母性看護学実習」において実習指導を行う。
	DPとの関連 ◎-4 ○-2・5

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期-前期	3-4	2	必修
担当教員			
戸田一男 梶川拓馬 大永慶子			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	精神に障害を持つ人を理解し、精神看護に必要な知識および技術を養う。 1. 精神に障害を持つ人を生活する人として理解できる。 2. 精神に障害を持つ人とのかかわりを通して、自分の対人関係のあり方について説明することができる。 3. 効果的なコミュニケーション技術について理解できる。 4. 精神に障害を持つ人を取り巻く環境における看護師の役割について考えることができる。 5. 保健・医療・福祉それぞれとの連携における看護師の役割について考えることができる。
授業計画	詳しくは実習要項を参照してください。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	・講義で学んだことをしっかりと復習しておく。 ・実習中に分からなかったこと、疑問に思ったことは、必ず担当教員に質問し、また文献等で確認して解決すること。
教科書	系統看護学講座 「精神看護の基礎」 精神看護学① (医学書院) 系統看護学講座 「精神看護の展開」 精神看護学② (医学書院) 「精神看護学」 学生-患者のストーリーで綴る実習展開 田中美恵子 編著 (医歯薬出版)
参考書	特に指定しない。
成績評価	実習記録・カンファレンス参加状況・出席・実習に取り組む姿勢などを総合的に、実習終了後に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 戸田一男 研究室 : 10号館8階807研究室 メールアドレス : k_toda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 実習病院にて適宜受け付ける。 担当教員名 : 梶川拓馬 研究室 : 10号館7階713研究室 メールアドレス : t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 実習病院にて適宜受け付ける。 担当教員名 : 大永慶子 研究室 : 10号館6階南共同研究室 メールアドレス : k_oonaga@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 随時 (精神看護学実習のため病院出張以外)
備考	戸田教員：精神科領域での多岐にわたる豊富な臨床経験をもとに「精神看護学実習」の指導にあたる。 梶川教員：精神科領域での臨床経験をもとに「精神看護学実習」の指導にあたる。 大永教員：精神科領域での臨床経験をもとに「精神看護学実習」の指導にあたる。
	ディプロマポリシーとの関連 ◎-4、○-2、○-5

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期-前期	3-4	2	必修
担当教員			
田中小百合 佐藤裕見子 玉井公子 大倉和子 村上久恵			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>【実習概要】 在宅療養者とその家族の健康上の問題を理解し、生活の場に応じた看護の役割について学ぶ、地域看護における訪問看護ステーションの役割を理解することを目的とした実習である。</p> <p>【実習目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 在宅療養者とその家族を対象に健康状態や生活状況を理解し、両者に対する援助の実際を学ぶことができる（看護過程の展開ができる）。 在宅療養者とその家族を「生活者」として捉え、価値観や自己決定を尊重した看護の実際を学ぶことができる。 継続看護における訪問看護ステーションの役割を理解できる。 対象者の健康問題の解決のために必要な社会資源の活用方法と連携・調整を理解できる。
授業計画	<p>1日目 学内実習 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習ガイダンスを通して、記録の書き方など実習の全体像が把握できる 明日の実習に対する目標、準備学習ができる 担当教員と顔合わせを行い、事前学習内容の評価を受け、明日以降の実習指導を受ける その他、必要物品等の準備ができる <p>2日目 施設実習 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> オリエンテーションを通して、訪問看護ステーションの概要、管理・運営、活動状況、訪問看護の特徴、役割、心得が理解できる 同行訪問ができる 空き時間に、事例の情報収集ができる <p>3日目 学内実習 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前日の記録内容について指導をうけ、修正できる。 看護展開用の事例の情報整理ができる 援助技術の実施準備等ができる <p>4・5日目 施設実習 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 同行訪問ができる 毎朝、実習記録を記入し提出ができる 空き時間に、事例の情報収集ができる <p>6日目 学内実習 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中間カンファレンスにおいて、学びの共有や困りごと、疑問等の解決ができる 看護展開の実施と記録の整理、明日の目標の立案ができる 最終カンファレンス用のレジメが作成できる 重症心身障害児（者）施設の実習準備ができる <p>7・8日目 施設実習 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 同行訪問ができる 最終カンファレンスにおいて、司会・書記役を遂行しながら、他学生と学びを共有でき、施設側に学びの報告ができる。 <p>9日目 重症心身障害児（者）施設見学・体験 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 心身に重度の障害を持つ人々とその家族を対象に健康状態や生活状況を理解し、援助の実際を学ぶことができる。 在宅支援の観点から、重症心身障害児（者）施設が地域でどのような役割を担っているのかを理解できる。 <p>10日目 学内実習 【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習のまとめとしてレポートが作成できる。 学生間の話し合い、教員との面接を通して学びを整理、深めることができる。 16：30までに記録物一式が提出できる 貸出物品の返却ができる
授業時間外の学習（準備学習等）について	実習準備として事前学習を提示する（詳細は3年次4月に別途配布する） 在宅看護の対象は、年齢、疾患、背景等さまざまであることから、これまで学習してきた疾患、基礎看護、小児看護、成人看護、老年看護、精神看護、リハビリ看護、福祉関係の復習を行っておくこと。
教科書	特に指定しない。在宅看護の教科書、その他関連領域の教科書以外に、必要な専門書を使用すること。
参考書	特に指定しないが、疾患等で必要な図書は図書館で借りる等して準備すること
成績評価	ルーブリック評価項目に基づき、実習目標の到達状況（60点）、実習生としての態度（30点）、記録物の表記

	内容（10点）で判定する。尚、ルーブリック評価項目は別途配布する。
担当教員の基本情報	田中小百合：10号館810 メールアドレス：sayutana@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：学内日 佐藤裕見子：10号館806 メールアドレス：y_sato@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：学内日 玉井公子：10号館707 メールアドレス：k_tamai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：学内日 大倉和子：10号館706 メールアドレス：k_ohkura@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：学内日 村上久恵：10号館6階 メールアドレス：h_murakami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：学内日
備考	詳細は3年次夏に配布予定の実習要項に記載する。必ず実習要綱を熟読の上、取り組むこと。
	田中小百合：病院に勤務。その実務経験をもとに「訪問看護」について実習をすすめる。 佐藤裕見子、玉井公子、大倉和子、村上久恵：保健師としての実務経験をもとに「訪問看護」について実習をすすめる。
	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎ー5、○ー2、4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期-前期	3-4	11	選択
担当教員			
坪倉浩美 辻本紀子 山田智子 福田セーニャ			
配当学科：看護学科	時間数：495時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p><授業概要> 正常分娩経過における助産診断・助産技術の基礎を身につける。併せて、妊娠・分娩・産褥・育児期の母親と胎児・新生児、およびその家族への、個別性を考慮した継続的な助産過程の展開についても学ぶ。また、助産管理の実際についても学ぶ。</p> <p><授業目標> 1. 基礎的知識・技術を通して、助産の対象の全体像が理解できる。 2. 妊産婦と胎児・新生児の健康状態を査定し計画・実施・評価ができる。 3. 助産過程に基づいた助産計画を立案し、分娩経過予測ができる。 4. 安全性・倫理性に基づいた分娩助産技術の実践ができる。</p>
授業計画	<p>1. 妊娠期実習 1) 産婦人科外来、助産師外来で実習を行う。 2) 対象者を決定し、助産診断を行う。 3) 外来での助産援助について理解する。</p> <p>2. 分娩期実習 1) 病棟で実習を行う。 2) 原則として正常分娩経過をたどる母児を受け持ち、分娩第Ⅰ期～第Ⅳ期において助産過程を展開する。 10例分娩助産終了時に少しの支援でできることを目標とする。</p> <p>3 産褥・新生児期実習 1) 原則として分娩期から退院までを継続して受け持つ。 2) 助産過程を展開する。 3) 助産診断から個別性のある保健指導を立案、実施する。 4) 実習期間であれば1か月健診に立ち会う。</p> <p>4 その他 1) 間接助産・出生直後ケア 2) 帝王切開後のケア 3) 母乳育児ケア 4) 集団教育（退院指導、母親学級・両親学級など） 5) 助産管理</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	必要な知識の学習はもとより、時間外を有効に使うて十分に技術練習を積み重ねておくこと。必要に応じ、課題学習・補習を行う。参考文献・参考資料は、自分たちでも積極的に集めて（または作成して）おくこと。
教科書	助産に関する授業で使用した教科書、配布資料、自己学習ノート等を活用する。
参考書	助産に関する授業で使用した参考書。
成績評価	実習内容、実習記録・レポート、ならびに実習態度などを総合的に評価する。実習終了後に実習評価表に基づき面接を行う。
担当教員の基本情報	<p>坪倉浩美 研究室：10号館8階研究室 メールアドレス：h_tubokura@meiji-u.ac.jp 随時（事前に連絡をください）</p> <p>辻本紀子 研究室：10号館7階研究室 メールアドレス：n_tujimoto@meiji-u.ac.jp 随時（事前に連絡をください）</p> <p>山田智子 研究室：10号館6階研究室 メールアドレス：t_yamada@meiji-u.ac.jp 随時（事前に連絡をください）</p> <p>福田セーニャ 研究室：10号館6階研究室 メールアドレス：s_fukuda@meiji-u.ac.jp 随時（事前に連絡をください）</p>
備考	<p>教員全員助産師として病院に勤務。 その実務経験をもとに「助産実習」について実習指導を行う。</p> <p>D Pとの関連 ◎-4 ○-2・5</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期-前期	3-4	1	選択
担当教員			
佐藤裕見子 玉井公子 大倉和子 村上久恵			
配当学科：看護学科	時間数：45時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p>産業保健実習を通して、従業員の健康の保持増進のための産業保健活動の実際と保健師の役割を学ぶ。地域包括支援センター実習を通して、地域で生活する高齢者に対してどのような包括的な介護支援を展開しているか理解し、保健師の役割を学ぶ。産業保健における保健活動の実際を見学し、従業員の健康を守り、向上させるための産業保健における保健師の役割を学ぶ。また、地域包括支援センターでは、地域で生活する高齢者に対してどのような支援を展開しているのかを学ぶ。</p> <p>【実習目標：産業保健実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 産業保健活動を支える安全衛生管理体制の実際を理解できる。 2. 就労者の健康課題を労働と職場環境などの特性と関連づけて理解できる。 3. 就労者の健康を増進し、働きやすくする快適職場づくりについて理解できる。 4. 産業保健師の専門的役割・他職種との連携について理解する。 <p>【実習目標：介護支援活動実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括支援センターにおける業務概要を理解する。 2. 他職種との連携協働について理解する。 3. 保健福祉分野における看護職の活動を理解する。
授業計画	実習要項参照
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>予習時間：8から15時間 事前学習として指示された課題をまとめて、期限までに提出する。実習終了後に学びのレポートを提出する。 具体的な内容については、別途指示する</p>
教科書	公衆衛生看護学概論、保健医療福祉行政論、対象別公衆衛生看護活動実習要項参照、公衆衛生看護技術
参考書	教科書のほか公衆衛生が見える第3版、国民衛生の動向2019/2020
成績評価	事前課題、実習態度、レポート等により総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：佐藤 裕見子 研究室：10号館8階 メールアドレス：y-sato@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日午後</p> <p>担当教員名：玉井公子 研究室：10号館7階、 メールアドレス：k_tamai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p> <p>担当教員名：大倉和子 研究室：10号館7階 メールアドレス： オフィスアワー：随時</p> <p>担当教員名：村上久恵 研究室：10号館6階 メールアドレス：h_murakami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p>
備考	<p>行政機関における実務経験を実習指導に活かしつつ、産業保健領域および市町村及び地域包括支援センターにおける地域保健活動に参加し、実践的に学ぶことで学生がグループ活動において主体的にディスカッションし学びを深め、保健師の活動や役割を深く理解できるよう指導する。デプロマポリシーとの関連：◎①⑤ ①④</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期-前期	3-4	4	必修
担当教員			
佐藤裕見子 玉井公子 村上久恵			
配当学科：看護学科	時間数：180時間	講義形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<p><公衆衛生看護学実習Ⅱ-1> 【実習目標】 地域診断に必要な情報を収集し健康と地域の関わり、地域保健医療福祉系における保健所および市町村の役割・機能およびその組織体系を理解できる。健康危機管理の組織的な管理体制やシステムの構築の必要性を理解できる。</p> <p><公衆衛生看護学実習Ⅱ-2> 【実習目標】 地域診断により健康課題を明らかにし、課題解決のための効果的保健事業の企画、実施、評価の過程、施策化の根拠とプロセスを理解できる。家庭訪問、健康教育を实践できる。また、セル不ヘルプグループの育成、ケアシステム作りを理解できる。健康危機管理の実際について理解できる。</p>
授業計画	実習要項参照
授業時間外の学習(準備学習等)について	<p>実習要項参照 事前学習として指示された課題をまとめて、期限までに提出する。実習終了後に学びのレポートを提出する。グループワークが中心なので、メンバーの意見や考えを尊重した上で建設的に話し合い、学びの促進に貢献すること</p>
教科書	公衆衛生看護学概論、保健医療福祉行政論、公衆衛生看護技術2、対象別公衆衛生看護活動
参考書	<p>授業で使用した参考書及びプリント 国民衛生の動向2018/2019、公衆衛生が見える第3版(医学書院) 母子保健マニュアル第7版(南山堂)、乳幼児健診の神経学的チェック法(南山堂)、結核の知識(医学書院)、ハイリスク児のフォローアップマニュアル(MEDICAL view)</p>
成績評価	事前課題、実習評価の内容、実習記録、実習への取り組み態度、実習報告書、実習報告会など総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：佐藤裕見子 研究室：10号館8階 メールアドレス：y-sato@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：火曜日午後</p> <p>担当教員名：玉井公子 研究室：10号館7階 メールアドレス：k_tamai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p> <p>担当教員名：大倉和子 研究室：10号館7階、 メールアドレス： オフィスアワー：随時</p> <p>担当教員名：担当教員名：村上久恵 研究室：10号館6階 メールアドレス：h_murakami@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時</p>
備考	<p>行政機関の実務経験を実習指導に活かしつつ、市町村及び保健所等行政機関における地域保健活動を実践的に学ぶことで、学生がグループ活動において主体的にディスカッションすることで、学びを深め保健師の活動や役割を実践的に理解できるよう指導する。デプロマポリシーとの関連：◎-⑤、○-④</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
仲口 路子			
添付ファイル			

授業目標	看護研究とは何か、および看護研究の方法について学ぶ。
授業計画	<p>1回 (100) 看護研究とはなんだろう／授業ガイダンス 〔授業概要〕 ① 授業ガイダンス（進め方の説明、注意事項、評価について） ② 看護研究とは何か（研究はおもしろい） ③ 看護研究の意義について考える（なぜ研究が大切なのか） ④ リサーチクエスチョンを立てる（リサーチクエスチョンってなんだろう） 〔授業形態〕 講義とディスカッション 〔備考〕 20分ずつ4つの授業概要についてディスカッションも交えてすすめる。その後質問や意見交換（10分）後、コミュニケーションペーパーを記載し、提出する。 【予習課題】 教科書 p 4～ p 43を読む。 【復習課題】 教科書 p 43のワークを行う。</p> <p>2回 (100) 看護研究における文献検討 〔授業概要〕 ① 前回のコミュニケーションペーパーへのお返事 ② 情報の検索の方法 ③ 文献レビューとその目的 ④ 文献の読み方（1文献を選択しクリティークする視点で文献を読み、文献の概要を説明する） 〔授業形態〕 講義とスマートフォンを用いた文献検索演習 〔備考〕 実際に文献を検索するので、スマートフォンを持っている学生は持参してください。 【予習課題】 教科書 p 46～ p 81を読む。 【復習課題】 文献（原著論文）を1つプリントアウトしてクリティークし、次回の講義時に持ってくる。</p> <p>3回 (100) 研究における倫理的配慮 〔授業概要〕 ① 前回のコミュニケーションペーパーへのお返事 ② 文献検索の結果と読み込んだ内容の発表 ③ 研究における倫理的配慮の原則 〔授業形態〕 発表と講義 〔備考〕 数名の学生を指名して発表していただく。 【予習課題】 教科書 p 84～ p 106を読む。 【復習課題】 研究倫理が大変重要である理由ノートにまとめる。</p> <p>4回 (100) 研究デザイン 〔授業概要〕 ① 前回のコミュニケーションペーパーへのお返事 ② 質的研究デザインと量的研究デザイン 〔授業形態〕 講義 〔備考〕 【予習課題】 教科書 p 108～ p 151を読む。 【復習課題】 自らの研究関心に基づき、どのようなデザインが望ましいかを考える。</p> <p>5回 (100) データの収集と分析 〔授業概要〕 ① 前回のコミュニケーションペーパーへのお返事 ② データの収集方法 ③ データ分析の方法 〔授業形態〕 講義 〔備考〕 【予習課題】 教科書 p 156～ p 245を読む。 【復習課題】 データに着目しながら自らの研究関心に基づき、文献検討を重ねる。</p>

	<p>6回 (100) 研究計画書の作成 [授業概要] ① 前回のコミュニケーションペーパーへのお返事 ② 研究計画書の書式と書き方 [授業形態] 講義 [備考]</p> <p>【予習課題】教科書 p 248～ p 264を読む。 【復習課題】文献検討を重ね、研究計画書を書く。</p> <p>7回 (75) 研究を伝える [授業概要] ① 前回のコミュニケーションペーパーへのお返事 ② 論文の構成 ③ 成果の発表の方法 [授業形態] 講義 [備考]</p> <p>【予習課題】教科書 p 266～ p 283を読む。 【復習課題】文献検討を重ね、研究計画書を完成させる。 【終講後の提出課題】自らの研究関心に基づき、テーマを設定して研究計画書を作成し、提出する。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等) について	<ul style="list-style-type: none"> ・自身が興味あるテーマについての資料を随時集めておくこと。 ・2年次前期必修科目「医療情報学」の復習をしておくこと。 ・指定された教科書を事前に読んでおくこと。
教科書	系統看護学講座 別巻 看護研究 坂下玲子他 医学書院 ※毎回持参してください
参考書	黒田裕子の看護研究 step by step 黒田裕子著 学研 質的研究の挑戦 舟島なをみ著 医学書院 パソコンで進めるやさしい看護研究 富田真佐子著 Ohmsha
成績評価	授業への参加度 (コミュニケーションペーパーを含む) (50%) と最終レポート (50%) で評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 仲口 路子 研究室 : 10号館 8階 808研究室 オフィスアワー : 原則として月曜日 4限目 (その他随時メールで連絡すること) メールアドレス : nakaguchi@meiji-u.ac.jp
備考	◎-1 ○-2

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
梅田智恵子			
添付ファイル			

授業目標	対象に質の高い看護を提供するために看護管理の重要性を理解し、チームメンバーおよび多職種との協働の中で看護をマネジメントできる基礎的知識を習得する。 専門職として看護をしくみとしてとらえより良い看護の提供を迫及できる力を身につける。		
授業計画	第1回	看護職が職場で果たす役割 「到達目標」 何のために看護管理を学ぶのかを理解し多様な職場で看護職が果たす役割について理解し述べる ことができる ・看護職の活動の変遷を知る [授業形態]講義形式	
	第2回	看護管理の基盤となる知識 「到達目標」 看護管理とは何かを理解し述べる ことができる ・組織とは、看護管理の目的、管理のプロセス、専門職とはについて理解する [授業形態]講義形式	
	第3回	看護師の仕事と管理 「到達目標」 看護職の職場で果たす役割のなかに患者への直接ケアでなく、管理という間接業務も重要であることを理解できる。 ・ケアの効果を上げるための管理 ・管理の内容 ・サービス提供システム [授業形態]講義形式	
	第4回	看護の質の評価 「到達目標」 看護の評価は看護の質で評価されることを理解できる ・サービスの特性と質の評価 ・看護管理と倫理 ・安全管理(事故防止・感染防止) [授業形態]講義形式	
	第5回	看護管理スキル 「到達目標」 看護管理は全ての看護師がその立場において行い、その立場の違いで求められるスキルがあり、その理論について知る ・セルフマネジメント ・コミュニケーション能力 ・リーダーシップ [授業形態]講義形式	
	第6回	看護職のキャリア 「到達目標」 看護職のキャリア形成について理解し自己の進路の参考にできる ・看護師教育体系 ・キャリア開発 ・社会の中の専門職として [授業形態]講義形式	
	第7回	看護を取りまく制度と経営 「到達目標」 看護をとりまく制度を知り、経営に関する知識を持つことができる ・医療福祉政策と診療報酬 ・医療、介護制度 ・経営的しをを持つことの意味 [授業形態]講義形式	
	評価	筆記試験80% レポート20% 授業参加度を総合して評価する	
授業時間外の学習 (準備学習等)について	(予習・復習の徹底) 予習として、受講前に授業予定の範囲を教科書で読み授業に臨む(約1時間程度) 復習として、授業内容の確認と理解をするために、分らなかった部分は教科書等で確認しておく(約1時間程度) (授業時間外学習) ・いくつかの近所の病院に行き、病院の雰囲気や応接、掲示板や標榜診療科などを見て比較してみよう。さらに、その病院をHPで検索し、掲載内容の違いを調べてみよう。自分が病気で受診した時、嬉しい対応や、嫌な対応の経験を書き出してみよう。 ・実習予定の病院の理念・機能評価・診療情報・医師数・相談室の案内などもHPで調べておこう。		

教科書	ナーシンググラフィカ 看護管理 MCメディカ その他 適宜紹介
参考書	適宜紹介
成績評価	出席状況は大学学生便覧に準ずる 試験80%レポート20%を合わせて評価する
担当教員の基本情報	担当教員名 : 梅田智恵子 研究室 : 10号館8階805研究室 メールアドレス : c umeda@meiji-u. ac. jp オフィスアワー : 事前連絡してください
備考	梅田智恵子 : 認定看護管理者 (CNA) 看護管理歴20年
	この授業とディプロマポリシーとの関連 ◎ー1、○ー2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
山下八重子 佐藤裕見子 戸田一男 中榎哲(ゲスト)			
添付ファイル			

授業目標	<p>日本に多発する自然災害をはじめとするさまざまな災害について学び、発生する看護問題についての基礎知識を得るとともに、災害発生時において看護職者として何ができるのか、日頃からどのような備えが必要かを考える事ができる。</p> <p>災害および災害看護に関する基礎的知識として、災害の歴史・定義・理論・法律を含む災害看護の全体像を理解する。 看護の専門知識を統合し、看護支援活動の実際や専門領域での災害看護の方法について学ぶ。 大規模災害時における看護師の役割を考えることが出来る。</p>		
授業計画	第1回 4/16	災害看護の歴史と定義 (山下)	<p>「到達目標」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害看護の歴史を知り、現在の災害看護について学ぶ ・災害看護の定義を理解する <p>[授業形態] 課題学習 (レポート提出：2枚程度・締め切り次回の講義日の13時まで)</p> <p>課題：心に残る近年の災害について、どのような災害であったか？どのような被害があったかをレポートしなさい。</p>
	第2回 4/23	災害サイクルと災害の種類を理解 (山下)	<p>「到達目標」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害サイクルについて理解する。 ・災害の種類と被災の特徴を学ぶ <p>[授業形態] 課題学習 (レポート提出)</p> <p>課題：教科書をよく読んで災害サイクルと災害の種類についてレポートしなさい。</p>
	第3回 4/30	災害対策基本法の要支援者の理解と災害時の看護者の役割 (山下)	<p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害の種類と要支援者を上げ、どのような支援が必要かをレポートしなさい。 ・地域連携や多職種連携の必要性と、要支援者の把握。 <p>[授業形態] 課題学習 (レポート提出)</p> <p>課題：教科書をよく読んで災害の種類と要支援者をすべて上げどのような支援が必要かをレポートしなさい。</p>
	第4回 5/ 7	災害時の対象別看護を理解する (山下)	<p>「到達目標」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各論として、災害時の要支援者・要配慮者について理解する ・妊婦・障害のある人・小児・高齢者・慢性疾患患者・外国人等災害弱者を知る ・災害時の要支援者への援助の実際を学ぶ <p>[授業形態] 課題学習 (レポート提出)</p> <p>課題：災害時の対象別看護についてレポートしなさい。</p>
	第5回 5/15	災害サイクルと災害時に必要な技術について理解する (中榎)	<p>「到達目標」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害に関する法律や制度を学び、情報伝達のしくみを理解する ・関係機関の連携と支援体制について理解する ・災害サイクルを理解し、各期に何が必要か理解する <p>[授業形態] 講義形式 (オンライン) + 感想文</p>
	第6回 5/15	病院や施設での災害看護の備えや訓練の実際を学ぶ (中榎)	<p>「到達目標」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初動体制 救援派遣 (DMAT) について学ぶ ・トリアージ・搬送・災害医療の知識と考え方を理解する ・災害への備え・訓練について知る <p>[授業形態] 講義形式 (オンライン) + 感想文</p>
	第7回	災害現場の実際と心のケアについて学ぶ (戸田)	<p>「到達目標」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救援活動の実際について学ぶ ・避難所での健康問題と心のケアを理解する <p>[授業形態] 講義形式 (オンライン) + レポート</p>
	フォロー	資料配布について	<p>課題学習については、まとめの資料を配布する。 オンライン授業は、事前に資料を配布するので、各自印刷して授業に臨む。</p>
	試験	筆記試験は50点配点とし、レポート等は50点配点とする。	<p>レポートの点数は、内容で判断する。 満点は50点とし、期限までに提出し、基準を満たしていれば最低30点の配点が得られる。</p>

授業時間外の学習 (準備学習等)について	(予習・復習の徹底) ・シラバスに沿って講義前に1時間程度予習をしておく(講義予定箇所の教科書) ・講義時に配布した資料などをもとに1時間程度復習して理解を深める (授業時間外学習) ・近年の災害の特徴や災害復興に関する番組などから情報を得ておく
教科書	南江堂 「災害看護」 医学書院 「災害看護・国際看護」 どちらでもよい。
参考書	適宜紹介する
成績評価	筆記試験50点 課題レポート50点
担当教員の基本情報	担当教員名 : 山下八重子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : y_yamashita@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 水曜日14:00~16:00 担当教員名 : 佐藤裕見子 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : y_sato@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 連絡して来てください 担当教員名 : 戸田一男 研究室 : 10号館8階 メールアドレス : k_toda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 金曜日14:00~16:00
備考	臨床経験30年以上のキャリアを踏まえて講義を行う 山下八重子 大阪の総合病院での看護管理キャリア 戸田一男 大阪の精神病院での看護管理キャリア 佐藤裕見子 京都の保健師としてキャリア 仲樹 哲 総合病院救急救命センター勤務 日本DMAT
	D Pとの関連 ◎-1 ○-3・4
	本授業は、前期の前半の授業のため、新型コロナウイルスパンデミックにより在宅学修が主になったことから、一部内容を変更した。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
佐藤裕見子 仲口路子 深田實江子 柿沼恵理子			
添付ファイル			

授業目標	補完代替療法から統合医療についての医療体系の変化のなかで、看護学の果たす役割と、新たに必要とされる専門的な知識・技術・態度について考察する。より統合的なケアの在り方（ホリスティック・ナーシング）を検討する中から、社会のニーズの変化と新たな看護技法の開発の可能性について探索する。
授業計画	<p>1回 補完代替療法から統合医療への流れ（現代医学から伝統医療を見直す）について [到達目標] 主流医学・補完代替療法・統合医療についての概念を調べ理解できる。 臨床におけるコンプリメンタリーセラピー（ホリスティック・ナーシングケア）の意義について [授業形態：講義及びグループディスカッション]</p> <p>2回 看護と補完代替療法（ホリスティック・ナーシング）について [到達目標] 看護の役割と補完代替療法（ホリスティック・ナーシング）との関連についての自分の意見を書き出すことができる。 臨床におけるコンプリメンタリーセラピー（ホリスティック・ナーシングケア）の意義について [授業形態：講義及びグループディスカッション]</p> <p>3回 セルフケアを支援する（リラクゼーション法・アロマ療法）について [到達目標] 精油とは、精油を用いることによる癒しの効果について考えをまとめる。 [授業形態：講義及びグループディスカッション]</p> <p>4回 手の技を活用する（タッチ・マッサージ）ことを学ぶ [到達目標] タッチなどの皮膚への接触刺激が人間に与える影響について考えをまとめ述べる。 [授業形態：講義及びグループディスカッション]</p> <p>5回 臨床におけるコンプリメンタリーセラピー（ホリスティック・ナーシングケア）の意義について [到達目標] 看護の臨床で使われている主な技術には、どのようなものがあるか、どのように適用されているか、調べてまとめる。自分の望む将来のコンプリメンタリーセラピー（ホリスティック・ナーシングケア）について述べる。</p> <p>6回 臨床におけるコンプリメンタリーセラピー（ホリスティック・ナーシングケア）の実践について [到達目標] 終末期や治らない疾患を持つ人に寄り添うことの意味、看護実践において何ができるか考えることができる。 [授業形態：講義及びグループディスカッション]</p> <p>7回 セルフケアを支援する（リラクゼーション法・筋弛緩法）について [到達目標] 健康を自分でコントロールするということ、その自己責任について考え述べる。 [授業形態：講義及びグループディスカッション]</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	「リラクゼーション入門法」及び参考書を用いて授業に関連する内容を予習を行うこと。指示された課題について期限内に提出する。 【予習・復習及び課題作成には4.5時間以上を取り組むことを目安とする】
教科書	「リラクゼーション法入門」 小板橋喜久代 荒川 唱子（日本看護協会出版社） ナーシングマッサージ 小板橋喜久代 河内香久子他（日本看護協会出版社）
参考書	「ケアの中の癒し」看護の科学社 看護のための最新医学講座（第33巻）中山書店 自分を守る患者学 渥美和彦 PHP出版 補完代替医療入門 上野恵一 岩波アクティブライブラリー
成績評価	出席状況・参加態度（5割）、レポート（5割）等により総合的に評価する。
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：佐藤裕見子 研究室：806号室 メールアドレス：y_sato@mst.meiji-u.ac.jp オフィスアワー：講義実施日、月曜日午前</p> <p>担当教員名：仲口路子 研究室：808号室 メールアドレス：nakaguchi@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名：深田實江子 研究室：802号室 メールアドレス：m-hukada@meiji-u.ac.jp</p> <p>担当教員名：柿沼恵理子 研究室：非常勤講師 メールアドレス：kakinuma1015@gmail.com オフィスアワー：講義実施日</p>

備考	実務経験豊かな教員のオムニバスにより、補完代替療法の理論と各療法を看護実践に活かせる具体的な内容で指導方法を伝授する。デプロマポリシー ③-⑤ ④-②

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
大山 由紀子			
添付ファイル			

授業目標	1) 看護教育について学び、看護者の教育的役割について理解する。 2) 臨床事例等を用いて、看護教育方法論を体験して学ぶ。 3) 看護師としての学習、キャリア開発について考える。
授業計画	1 教育とは、看護者の教育的役割 人間形成における教育の意義が認識できる。 生涯学習・教育と看護者の教育的役割について考えることができる。 2 看護教育とは、看護教育学の概要 看護教育の歴史、看護教育制度が理解できる。 看護専門職としての看護基礎教育・看護継教育の概要とキャリア形成の概要が理解できる。 3 看護学教育方法論 人の発達を理解する。 学習理論を理解する。 指導者の役割と姿勢、指導設計の方法を学ぶ。 4 看護教育評価論 教育評価の意義と特質について理解できる。 5 演習：看護教育のテーマ別学習① ディスカッション技法、PBLを理解する。 看護教育に関する自分の興味・関心、学びたいテーマ（シナリオ）について主体的なグループ学習ができる。 6 演習：看護教育のテーマ別学習② グループワーク・PBL 7 まとめ。看護教育のテーマ別学習③ グループワーク・PBL 発表会
授業時間外の学習 （準備学習等）について	1) 看護とは、人間形成での教育の意義についてまとめておくこと 2) 事前課題はその都度指示します。 3) 患者教育方法は事例演習を通して学びます。 4) 看護専門職をめざす自分にとって、看護教育学を選択して良かったと思えるように学習すること。
教科書	無し
参考書	「看護のための教育学」中井俊樹、小林忠資 編著（医学書院） 「看護教育学」第6版、杉森みど里、舟島なおみ著（医学書院） 「PBL 判断能力を高める主体的学習」ドナルドR・ウッズ 訳 新道幸恵 （医学書院）
成績評価	出席、提出物、参加姿勢、課題レポート、プレゼンテーション等、総合的に評価する。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 大山 由紀子 研究室 : 10号館 8階 803研究室 メールアドレス : y_ooyama@meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 適時対応します
備考	看護学校管理者の経験をもとに授業を行う
	この授業とDPとの関連 「◎-2」「○-4」

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	必修
担当教員			
山下八重子 戸田一男 仲口路子 他			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	講義形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	実習を目前のご時期に、これまで学んだ医療知識と看護の援助方法について、各領域ごとに再履修し実習に行かせるように知識と技術の確認を行う。苦手科目や理解の浅い部分を自覚し自己学習を促し理解を深め、実習に備えることができる。		
授業計画	リハビリ	嚥下機能障害をもつ人の看護援助① [到達目標] 嚥下機能についての障害について理解できる。 嚥下機能障害障害判定方法がわかる。 嚥下機能障害をもつ人への摂食援助および口腔ケアについて理解し、実施することができる。 [授業形態] 講義・DVD動画・演習	
	リハビリ	嚥下機能障害をもつ人の看護援助② [到達目標] 嚥下機能についての障害について理解できる。 嚥下機能障害障害判定方法がわかる。 嚥下機能障害をもつ人への摂食援助および口腔ケアについて理解し、実施することができる。 [授業形態] 講義・DVD動画・演習	
	母性	新生児の看護技術演習① 沐浴・ドライケア・バイタルサイン [到達目標] 目的、必要物品、実施方法（留意点・根拠・手順）について理解できる。 新生児の沐浴・ドライケア・バイタルサインを安全に実施することができる。 [授業形態]演習 演習・DVD視聴	
	母性	新生児の看護技術演習② 沐浴・ドライケア・バイタルサイン [到達目標] 目的、必要物品、実施方法（留意点・根拠・手順）について理解できる。 新生児の沐浴・ドライケア・バイタルサインを安全に実施することができる。 [授業形態]演習 演習・DVD視聴	
	小児	小児看護援助技術演習① [到達目標] 実習施設で行うケアとバイタルサインの測定が正確にできる。 成長発達の応じたコミュニケーションが取れる。 乳幼児期の清潔援助方法の知識と技術の確認をする。 [授業形態]演習	
	小児	小児看護援助技術演習② [到達目標] 患者情報の整理の仕方・アセスメントの方法・関連図の書き方の復習を行い、できる。 [授業形態]演習	
	急性	術後合併症の観察と看護過程の展開①：腹腔鏡下胆嚢摘出術を受けた患者の看護 [到達目標]対象に起こりうる術後合併症のリスクを理解し、必要な援助を考えることができる。 [授業形態]演習 [備考]術後合併症・術後カレンダー・腹腔鏡下胆嚢摘出術患者の看護過程の展開、以上3つの課題を持参。課題は赤ペンでコメントされたところは書き直しを青ペンで行っておくこと。紛失したものは新たに作成しなおし持参しないと、実習前演習に参加できない。	
	急性	術後合併症の観察と看護過程の展開②：腹腔鏡下胆嚢摘出術を受けた患者の看護 [到達目標]対象に必要な術後の観察項目を挙げ、アセスメントできる。 対象の身体的回復過程に応じた援助がシミュレーションできる。 [授業形態]演習 [備考]術後合併症・術後カレンダー・腹腔鏡下胆嚢摘出術患者の看護過程の展開、以上3つの課題を持参。課題は赤ペンでコメントされたところは書き直しを青ペンで行っておくこと。紛失したものは新たに作成しなおし持参しないと、実習前演習に参加できない。	
	慢性	バイタルサインの測定／生活援助技術 [到達目標]看護の基本的知識と技術の確認ができる。 [授業形態]演習 [備考]バイタルサインの測定や日常生活援助技術（事前課題で示している内容）について、各自の必要に応じて知識の確認と学内演習を行う。	
	慢性	バイタルサインの測定／生活援助技術 [到達目標]看護の基本的知識と技術の確認ができる。 [授業形態]演習	

	<p>[備考]バイタルサインの測定や日常生活援助技術（事前課題で示している内容）について、各自の必要に応じて知識の確認と学内演習を行う。</p> <p>高齢者の日常生活機能の障害や高齢者に多い疾患の理解</p> <p>[到達目標] 老年看護学で学んだ高齢者への援助について知識と技術の確認を行い、実習先で実施できるようにする</p> <p>[授業形態]小テスト 演習</p> <p>老年 老年看護過程の展開</p> <p>[到達目標] 老年看護学で学んだ高齢者の特徴をとらえ、生活援助のためのアセスメントができる</p> <p>[授業形態]グループワーク</p> <p>精神 精神疾患の症状・治療が理解できる</p> <p>[到達目標] 精神疾患（統合失調症・気分〔感情〕障害等）の症状・治療を理解し、精神看護学実習で活用できる</p> <p>[授業形態]小テスト 演習</p> <p>精神 患者 - 看護師関係、セルフケア理論、看護展開が理解できる</p> <p>[到達目標] 患者 - 看護師関係のアセスメント、セルフケア理論、看護展開を理解し、精神看護学実習で活用できる</p> <p>[授業形態]演習</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>（予習・復習の徹底）</p> <p>それぞれの領域のこれまでの演習資料・演習した資料・講義内容を復習して講義に臨む。</p> <p>苦手や理解が出来ていないところは実習でもっと困るので、しっかり理解を深めておいてください。</p> <p>演習もさらにやりたい場合は、領域の担当教員に連絡して調整して持ってください。</p>
教科書	各領域で使用している教科書
参考書	適宜紹介
成績評価	各領域ごとに評価し、総合的に判断する。 態度が望ましくない場合は減点する。
担当教員の基本情報	<p>母性看護</p> <p>小児看護</p> <p>急性期看護</p> <p>慢性期看護</p> <p>老年看護</p> <p>精神看護</p> <p>リハビリ看護</p> <p>上記の各科目の情報参照</p>
備考	DPとの関連 ◎-5 ○-2・4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	1	選択必修
担当教員			
田中 邦雄			
添付ファイル			

授業目標	<p>これまで技として継承されてきた、伝統的な代替補完医療のうち、主に漢方治療について学習する。具体的には、代替補完医療の実際、代替補完医療の看護への導入、活用について学習する。現代医学的なスタンダードの治療と漢方治療の違いやその適応について学ぶ。また、臨床において注意すべき点（副作用など）についても学ぶ。</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護におけるクリニカルパスに用いられる漢方薬について理解できる。 2. 各科の臨床現場において使用頻度の高い漢方薬について理解できる。
授業計画	<p>第1回 看護と漢方の接点をさぐる・急性上気道炎と体温調節のメカニズム</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 看護に必須の「検温」の重要性を考える ② ウイルスに対する生体の反応を現代医学的に考える ③ 何故、漢方薬がカゼ（急性上気道炎）や、インフルエンザに効果があるのか、そのメカニズムを理解する <p>第2回 消化器疾患に対する漢方薬</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 看護の標準化・最適化に用いられるクリニカルパスについて学び、そこで用いられる漢方薬について理解する ② 加齢に伴う身体的変化と便秘の関係について理解する ③ 臨床で用いられる2大下剤について知る <p>第3回 高齢者の特徴～不眠・不穏に対する漢方薬～</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 加齢に伴う「身体的」機能低下を学ぶ ② 加齢に伴う「精神的」機能低下と認知症の違いを知る ③ 睡眠障害の4つのパターンを知り、高齢者にはどのタイプが多いのかを学ぶ ④ 高齢者の不眠に対する薬物投与について学びその注意事項を理解する <p>第4回 採血や静脈路確保による神経障害の対応とポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 採血や静脈路確保による神経障害について、これまでどのような事例（裁判）があったのかについて知り、そこから得られた貴重な教訓を学ぶ ② 採血や静脈路確保による神経障害を起こさないための大原則を理解し、また起こってしまった場合の初期対応、看護記録のポイントについて学ぶ ③ 神経障害性疼痛に効果のある漢方薬について学ぶ <p>第5回 高齢者の特徴～腰下肢痛・頻尿に対する漢方薬～</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 高齢者の歩行、運動器の痛みを理解する ② 高齢者で特に注意すべき薬の副作用について学ぶ ③ 高齢者の転倒によって、その後どのような経過をたどることが多いかを知る ④ 過活動膀胱と尿失禁について理解する <p>第6回 呼吸器疾患における漢方薬の応用</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 高齢者に多い慢性の咳と痰の病態を理解する ② パルスオキシメータと酸素分圧の関係について理解し、その臨床応用の実際を学ぶ ③ 急性上気道炎後によくみられる慢性咳嗽に対する漢方薬について学ぶ <p>第7回 漢方薬の副作用</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 漢方薬による副作用：「頻度」の高いものを理解する ここで、アレルギー性鼻炎（花粉症）に使われる漢方薬についても解説する。 ② 漢方薬による副作用：「重症度」の高いものを理解する
授業時間外の学習（準備学習等）について	各講義のタイトルに関連するページを事前学習（予習130分）し、講義で学修した内容をまとめてください（復習130分）
教科書	各授業時に資料を配布する。
参考書	各授業時に資料を配布する。
成績評価	出席が6割に満たないものは期末試験の受験を認めない。期末試験により成績を評価する。
担当教員の基本情報	
備考	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-5、○-2・4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	選択
担当教員			
今西二郎 岸田聡子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>補完・代替医療の一つであり、医療分野で広く取り入れられてきているメディカル・アロマセラピーの基礎を理解する。アロマセラピーの概念、歴史、現状と課題、エッセンシャルオイルの性質、禁忌、作用機序などについて学習し、実践に必要とされるメディカル・アロマセラピーの基礎を身に着ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディカル・アロマセラピーの概念を理解すること ・メディカル・アロマセラピーで使用するエッセンシャルオイルの基本、注意事項、薬理作用などを理解すること ・メディカル・アロマセラピーの実践方法について学習すること ・メディカル・アロマセラピーの役割について考えること。
授業計画	<p>1回目 メディカル・アロマセラピー概論 [到達目標] アロマセラピーの定義、利用方法、現状などを把握すること</p> <p>[備考]</p> <p>2回目 メディカル・アロマセラピー概論 [到達目標] アロマセラピーの定義、歴史、芳香植物の分類と性状を理解する</p> <p>[備考]</p> <p>3回目 メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 第1章 エッセンシャルオイル1 [到達目標] アロマセラピーで使用するエッセンシャルオイルの薬理成分を理解する</p> <p>[備考]</p> <p>4回目 メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 第2章 エッセンシャルオイル2 [到達目標] エッセンシャルオイルの分析、品質管理、相互作用、注意事項を理解する</p> <p>[備考]</p> <p>5回目 メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 第2章 エッセンシャルオイル3 [到達目標] エッセンシャルオイル使用上の禁忌、保管、取り扱い方を理解する。各エッセンシャルオイルの特徴、性質を理解する。</p> <p>[備考]</p> <p>6回目 メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 第2章 エッセンシャルオイル4 [到達目標] 各エッセンシャルオイルの特徴、性質を理解する。</p> <p>[備考]</p> <p>7回目 メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 第2章 エッセンシャルオイル5 [到達目標] 各エッセンシャルオイルの特徴、性質を理解する。</p> <p>[備考]</p> <p>8回目 メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 第2章 エッセンシャルオイル6 [到達目標] 各エッセンシャルオイルの特徴、性質を理解する。</p> <p>[備考]</p> <p>9回目 メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編第2章 エッセンシャルオイル7 [到達目標] 各エッセンシャルオイルの特徴、性質を理解する。</p> <p>[備考]</p> <p>10回目 メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 第2章 キャリアオイル1</p>

	<p>[到達目標] キャリアオイルの性質、種類を理解する</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 第3章 キャリアオイル2</p> <p>[到達目標] キャリアオイルの性質、種類を理解する</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 第3章 エッセンシャルオイルの薬理作用</p> <p>[到達目標] エッセンシャルオイルの薬理作用機序を理解する</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 第4章 アロマセラピーの方法1</p> <p>[到達目標] アロマセラピーの実践方法を学習し、実際に行える知識を身に着ける。</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編 第5章 まとめ</p> <p>[到達目標] 基本的なアロマセラピーの知識が習得できたことを確認する</p> <p>[備考]</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>あらかじめシラバスに沿って、教科書を読んでおくこと。</p> <p>教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習（予習90分）し、講義で学修した内容をまとめて下さい（復習90分）。</p>
教科書	「統合医療評価認証機構メディカル・アロマセラピーテキスト第2版」 今西二郎、岸田聡子 著
参考書	1. 「アロマセラピー入門第2版」今西二郎、荒川唱子編（日本看護協会出版会）
成績評価	レポート80%、授業内演習20%
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○今西二郎 研究室 : 附属統合医療センター メールアドレス : imanishi-micro@nifty.com オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 岸田聡子 研究室 : メールアドレス :</p>
備考	毎回、症例提示を基にした、課題解決型学習やディベートなどを取り入れ、アクティブラーニングを行うことにより、講義内容の深化を図る。
	「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-5, ○-2・4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	1	選択
担当教員			
今西二郎 岸田聡子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	<p>メディカル・アロマセラピーの看護学への応用として、さまざまな疾患の治療・予防や、看護場面における実践例について知ること。 また、簡単な実技を通してオイルの扱いや香りに慣れ親しむことにより、本格的なマッサージ実技を行う前段階の技術を身に着けること。 メディカル・アロマセラピーについての研究法を理解し、代表的なメディカル・アロマセラピーに関する研究事例を取り上げ、評価する能力を身につける。</p>
授業計画	<p>1回目 メディカル・アロマセラピー実践にあたっての注意事項 [到達目標] メディカル・アロマセラピーに関連する法規や注意事項を理解する。 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）各論編p. 71-73 アロマセラピー入門（参考書1） p. 28-33を事前に読んでくること</p> <p>2回目 メディカル・アロマセラピーの実際1 [到達目標] 状況に応じたブレンドを考案し、芳香浴、吸入の実技を通して実際の正しい使用法を身に着けること。また実際の香りを確認すること。 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）実技編p. 1、2、6 アロマセラピー入門（参考書1） p. 77-79を事前に読んでくること</p> <p>3回目 メディカル・アロマセラピー各論1 [到達目標] 産婦人科、精神科、消化器、皮膚科領域などで用いられるアロマセラピーについて、その使用法や効果を理解し、症例を学習する。 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）各論編p. 10-32, 43-59を事前に読んでくること</p> <p>4回目 メディカル・アロマセラピーの実際2 [到達目標] 状況に応じたブレンドを考案し、湿布、沐浴など実際の正しい使用法を身に着けること。また実際の香りを確認すること。 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）実技編p. 3、4 アロマセラピー入門（参考書1） p. 80-82を事前に読んでくること</p> <p>5回目 メディカル・アロマセラピー各論2 [到達目標] 痛みに対して用いられるアロマセラピーについて、その使用法や効果を理解し、症例を学習する。 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）各論編p. 33-42を事前に読んでくること</p> <p>6回目 メディカル・アロマセラピーの実際3 [到達目標] 状況に応じたブレンドを考案し、ローションや軟膏作成など実際の正しい使用法を身に着けること。また実際の香りを確認すること。 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）実技編p. 7、8を事前に読んでくること</p> <p>7回目 メディカル・アロマセラピー各論3 [到達目標] 高齢者やがん患者に対して用いられるアロマセラピーについて、その使用法や効果を理解し、症例を学習する。 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）各論編p. 60-66を事前に読んでくること</p> <p>8回目 メディカル・アロマセラピーの実際4 [到達目標] 状況に応じたブレンドを考案し、ローションや軟膏作成など実際の正しい使用法を身に着けること。また実際の香りを確認すること。 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）実技編p. 7、8を事前に読んでくること</p>

	<p>9回目 メディカル・アロマセラピーの実際 5 [到達目標] 状況に応じたブレンドを考案し、セルフマッサージの実技を通して実際の正しい使用法を身に着けること。また実際の香りを確認すること。</p> <p>[備考]</p> <p>10回目 メディカル・アロマセラピーの実際 6 [到達目標] 状況に応じたブレンドを考案し、セルフマッサージの実技を通して実際の正しい使用法を身に着けること。また実際の香りを確認すること。</p> <p>[備考]</p> <p>11回目 メディカル・アロマセラピーの実際 [到達目標] さまざまな領域で用いられるアロマセラピーについて理解すること</p> <p>[備考]</p> <p>12回目 まとめ [到達目標] アロマセラピーの実際について、知識の習得の確認</p> <p>[備考]</p> <p>13回目 まとめ [到達目標] アロマセラピーの実際について、知識の習得の確認</p> <p>[備考]</p> <p>14回目 まとめ [到達目標] アロマセラピーの実際について、知識の習得の確認</p> <p>[備考]</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	<p>あらかじめシラバスに沿って、教科書を読んでおくこと。</p> <p>教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習（予習30分）し、講義で学修した内容をまとめて下さい（復習30分）。</p>
教科書	「統合医療評価認証機構メディカル・アロマセラピーテキスト第2版」 今西二郎、岸田聡子 著
参考書	1. 「アロマセラピー入門第2版」今西二郎、荒川唱子編（日本看護協会出版会）
成績評価	レポート80%、授業内演習20%
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○ 今西二郎 研究室 : 附属統合医療センター メールアドレス : imanishi-micro@nifty.com オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 岸田聡子 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :</p>
備考	<p>毎回、症例提示を基にした、課題解決型学習やディベートなどを取り入れ、アクティブラーニングを行うことにより、講義内容の深化を図る。</p> <p>「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」 : ◎-5, ○-2・4</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	2	選択
担当教員			
川村茂			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	本科目は、各関節における適切な固定・被覆包帯について学ぶ。 また、テーピング技術についても理解する		
授業計画	第1回	<p>包帯の基本、前腕の包帯①</p> <p>【内容・到達目標】 伸縮包帯と非伸縮包帯の違い、基本走行、前腕の包帯(被覆)に対する包帯の施行について理解する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】 包帯の基本、前腕の包帯に関して予習(45分間) 講義内容に関して復習(45分間)してすること。</p>	
	第2回	<p>アクティブラーニング：有</p> <p>前腕の包帯②、肘の包帯①</p> <p>【内容・到達目標】 前腕の包帯(被覆)、肘の包帯(被覆)に対する包帯の施行について理解する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】 前腕・肘の包帯に関して予習(45分間) 講義内容に関して復習(45分間)してすること。</p>	
	第3回	<p>アクティブラーニング：有</p> <p>肘の包帯②</p> <p>【内容・到達目標】 副材料の固定に対する包帯の施行について理解する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】 肘の包帯に関して予習(45分間) 講義内容に関して復習(45分間)してすること。</p>	
	第4回	<p>アクティブラーニング：有</p> <p>手の包帯①、指の包帯①</p> <p>【内容・到達目標】 被覆包帯の施行について理解する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】 手指の包帯に関して予習(45分間) 講義内容に関して復習(45分間)してすること。</p>	
	第5回	<p>アクティブラーニング：有</p> <p>手の包帯②、指の包帯②</p> <p>【内容・到達目標】 副材料の固定に対する包帯の施行について理解する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】 手指の包帯に関して予習(45分間) 講義内容に関して復習(45分間)してすること。</p>	
	第6回	<p>アクティブラーニング：有</p> <p>肩の包帯①</p> <p>【内容・到達目標】 三角巾の施行および肩関節の包帯について理解する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】 三角巾および肩関節の包帯に関して予習(45分間) 講義内容に関して復習(45分間)してすること。</p>	
	第7回	<p>アクティブラーニング：有</p> <p>肩の包帯②</p> <p>【内容・到達目標】 三角巾の施行および肩関節の包帯について理解する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】 三角巾および肩関節の包帯に関して予習(45分間)</p>	

	<p>講義内容に関して復習（45分間）してすること。</p> <p>アクティブラーニング：有 膝の包帯①、足の包帯① 【内容・到達目標】 膝関節・足関節の被覆・固定包帯の施行について理解する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】 膝・足の包帯に関して予習（45分間） 講義内容に関して復習（45分間）してすること。</p> <p>アクティブラーニング：有 テーピングの基本、足関節のテーピング① 【内容・到達目標】 テーピングの種類と効果、実施上の注意、足内反捻挫（非伸縮）に対するテーピングの施行について理解・実践する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】 テーピングに関して予習（45分間） 講義内容に関して復習（45分間）してすること。</p> <p>アクティブラーニング：有 足関節のテーピング② 【内容・到達目標】 足内反捻挫（非伸縮）、足内反捻挫（非伸縮、伸縮）に対するテーピングの施行について理解する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】 テーピングに関して予習（45分間） 講義内容に関して復習（45分間）してすること。</p> <p>アクティブラーニング：有 膝関節・肘関節・手関節・指のテーピング 【内容・到達目標】 内側側副靭帯、前十字靭帯損傷などに対するテーピングの施行について理解する。 肘側副靭帯損傷、手の捻挫、突き指などに対するテーピングの施行について理解する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】 テーピングに関して予習（45分間） 講義内容に関して復習（45分間）してすること。</p> <p>アクティブラーニング：有 キネシオテープを使ったテーピング① 【内容・到達目標】 鷲足炎・腸脛靭帯炎・下腿・膝などに対するキネシオテーピングについて理解する。 腰・頸・肩などに対するキネシオテーピングについて理解する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】 キネシオテーピングに関して予習（45分間） 講義内容に関して復習（45分間）してすること。</p> <p>アクティブラーニング：有 キネシオテープを使ったテーピング② 【内容・到達目標】 鷲足炎・腸脛靭帯炎・下腿・膝などに対するキネシオテーピングについて理解する。 腰・頸・肩などに対するキネシオテーピングについて理解する。</p> <p>【授業時間外学修の指示】 キネシオテーピングに関して予習（45分間） 講義内容に関して復習（45分間）してすること。</p> <p>アクティブラーニング：有 まとめ・総合復習 レポート作成の要点を指導 【授業概要】 いままで講義した内容の総括 講義内で学修した、テーピングや固定に関してレポートを作成する。また、レポート作成に関する注意事項・要点を説明する。レポート課題に関して学生どうしディスカッションを行う。</p> <p>アクティブラーニング：有</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	実技技術を修得するため、日々の自主練習は非常に重要である。授業時間内に学んだ内容の復習は必ず行うこと。
教科書	特に必要なし。 参考資料に関しては適時配付する。
参考書	社団法人全国柔道整復学校協会 監修 包帯固定学 THE TAPING 著：長尾淳彦 ニチバン株式会社
成績評価	出席基準を満たした者に対して評価を行う。 レポート課題での評価 = 100% 授業中に教授した実習内容に関し、それをまとめて卒後も臨床上役立つ資料として完成させる。 レポート作成の素材として画像が必要な場合には、授業中に写真撮影して、そのデータを使用してもよい。

担当教員の基本情報	単位認定者：川村茂（保健医療学部 柔道整復学科） e-mail: s_kawamura@meiji-u.ac.jp
備考	本科目におけるDPの位置づけ ①知識・理解 - ◎ ⑤技能・表現 - ○

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4	1	選択
担当教員			
坪倉浩美 岡本留美			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p><授業概要> 助産業務の管理・運用に必要な基本的概念、周産期システム、関係法規および母子保健施策について学び、助産業務に必要なマネジメント能力を身につける。また、母子保健衛生に関連する諸団体との連携や医療安全・インシデント・周産期医療訴訟などの事例を通したリスクマネジメントにより、安全で質の高い周産期ケアについて学修する。</p> <p><授業目標> 助産師の業務範囲と法的責任、助産業務管理に必要な知識と業務の基本が理解できる。 病産院や助産所における助産管理の実際を知り、保健医療チームにおける助産師の役割が理解できる。</p>
授業計画	<p>第1回 助産管理の基本 担当教員：坪倉浩美 助産管理の概念、医療経済が理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカードを使用</p> <p>第2回 関係法規 担当教員：岡本留美 医療に関する法律（保健師助産師看護師法、母子保健法、母体保護法他）が理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカードを使用</p> <p>第3回 周産期管理システムとリスクマネジメント1 担当教員：坪倉浩美 周産期管理システムが理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカードを使用</p> <p>第4回 周産期管理システムとリスクマネジメント2 担当教員：岡本留美 周産期の医療事故とリスクマネジメントが理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカードを使用</p> <p>第5回 病産院における助産業務管理1 担当教員：坪倉浩美 助産業務管理の過程、方法が理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカードを使用</p> <p>第6回 病産院における助産業務管理2 担当教員：坪倉浩美 産科棟、外来の助産管理が理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカードを使用</p> <p>第7回 助産所における助産業務管理 担当教員：坪倉浩美 助産所の管理に関する法規、管理・運営・経営が理解できる 【授業形態】講義 コミュニケーションカードを使用</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	教科書・参考書をもとに、各授業のタイトルに関連するページを事前学習（予習60分）し、授業で学修した内容を整理してまとめて下さい（復習60分）。
教科書	「助産学講座全10巻」助産管理 我部山キヨ子・竹谷雄二編（医学書院）
参考書	看護者の基本的責務 手島恵監修 日本看護協会出版会
成績評価	定期試験80% レポート20%
担当教員の基本情報	坪倉浩美 研究室：10号館8階研究室 オフィスアワー：随時（事前に連絡をください） 岡本留美 外部講師
備考	坪倉浩美、岡本留美 助産師として病院に勤務。その実務経験をもとに「助産管理」について授業を進める。
	DPとの関連性 ◎-2 ○-5・1

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	2	必修
担当教員			
大山由紀子 佐藤裕見子 仲口路子 梅田千恵子			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の健康問題が、統合医療的視点からどのように捉え、アセスメントされているのかを理解できる 2. 統合医療の視点からの介入（療法・ケア）の実際について理解できる 3. 統合医療の視点からの介入（療法・ケア）の評価、及びフィードバックの方法について理解できる 4. 医療チーム内での看護の役割と連携について理解することができる 5. チームのメンバー、リーダーの役割を理解し、メンバーとしての役割が果たせる 6. 看護に必要なマネジメント能力を理解する 7. 夜間における看護の実際を理解する
授業計画	<p>1日目 全体オリエンテーション 看護総合実習とは 看護総合実習の内容 各施設の説明</p> <p>2日目 チームメンバー、リーダーの役割を理解し、メンバーとしての役割が果たせる 実習施設全体オリエンテーション 部署別オリエンテーション メンバー業務 メンバーとともにふくすうかんじゃを受け持つ</p> <p>3日目 看護に必要なマネジメント能力を理解する 夜間における看護の実際を理解する 看護師長業務 病棟看護師長と行動を共にする 夜間の看護（メンバー業務） 準夜看護師とともに行動する</p> <p>4日目 チームメンバー、リーダーの役割を理解し、メンバーとしての役割が果たせる 夜間の看護（メンバー業務） 夜間の看護体制の見学 深夜から日勤への申し送り見学 リーダー業務 半日リーダーとともに行動する</p> <p>5日目 看護に必要なマネジメント能力を理解する 医療チーム内での看護の役割と連携について理解することができる 看護部長業務 シェドーイング 看護管理の実際について説明を受ける 他部門との連絡調整 医師への報告・連絡調整 チームへの連絡調整 病院内外の部門との連絡調整 NST回診 RST回診 褥瘡回診などの見学</p> <p>6日目 統合実習オリエンテーション 統合医療センターの概要を学ぶ。 統合医療センターの治療環境の特徴を理解する。</p> <p>7日目 対症の健康問題が統合医療の視点からどのように捉えアセスメントされているのか理解する 対象の健康問題について、治療、予防、健康増進、健康寿命の延伸の連続的な観点から捉え、その段階をアセスメントできる。 また、対象が全人的（身体、精神、社会的、スピリチュアル）に統合された存在として捉えることができる。</p> <p>8日目 統合医療の視点からの介入（療法・ケア）の実際について理解できる 施設の役割及び機能、その特色を理解できる。 できるだけ言葉をかけてコミュニケーションをとり、関係性を深めることができる。 対象との人間関係を大切にされたケア（コンプリメンタリセラピィーの活用）をとおして看護を実践できる。</p> <p>9日目 統合医療の視点からなされた介入（療法・ケア）の評価、及びフィードバックの方法について理解できる コンプリメンタリセラピィーの実践をとおして効果を評価できる。</p> <p>10日目 全体まとめ 実習での学びを振り返り思考の整理ができる 互いに学びを共有することで医療の中の統合医療の位置づけ、その考え方についての認知を深めるとともに総合看護の概念について理解できる</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	これまで学んだ「医療概論 1年前期」「東洋医学概論 1年後期」「東洋医学診断・治療学2年前期」「コンプリメンタリセラピィー援助論 3年前期」「看護管理 3年前期」などの教科書講義資料を活用し学習する
教科書	「医療概論」 「東洋医学概論」 「東洋医学診断・治療学」 「コンプリメンタリセラピィー援助論」 「看護管理」
参考書	専門科目のテキスト全て
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> 1) 実習時間の4/5以上の出席がなければ評価の対象とならない 2) 実習目標達成度を評価表、実習記録及び事後レポートにより評価する 事後レポート 「私の看護観」

<p>担当教員の基本情報</p>	<p>担当教員名：大山由紀子 研究室：10号館 8階 803研究室 メールアドレス：y_ooyama@meiji-u.ac.jp 担当教員名：戸田一男 研究室：10号館 8階 807研究室 メールアドレス：k_toda@meiji-u.ac.jp 担当教員名：仲口路子 研究室：10号館 8階 808研究室 メールアドレス： 担当教員名：梅田千恵子 研究室：10号館 8階 805研究室</p>
<p>備考</p>	<p>実習オリエンテーション、実習期間については教育日程参照のこと 各教員が、臨床経験をもとに指導を行う</p>
	<p>実習病院 明治国際医療大学付属病院 明治国際医療大学付属鍼灸センター 明治国際医療大学付属統合医療センター 老人福祉の園 はぎの里 綾部市立病院 亀岡市立病院 京丹後市立弥栄病院 京丹後市立久美浜病院 市立大津市民病院</p>
	<p>この授業とDPとの関連 「◎-④、○-②⑤</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択
担当教員			
佐藤裕見子 仲口路子 柿沼恵理子			
添付ファイル			

授業目標	<p>【1～7回】看護場面に適応できる看護介入技法として、ツボ療法、お灸療法などの補完代替療法の実際を学習し、実際に体験する。</p> <p>【9～14回】看護の臨床場面を想定しながら活用の方法を考えてみる。</p> <p>主な内容は、リラクゼーション法（呼吸法、筋弛緩法、自律訓練法）・マッサージ・その他を取り上げる。演習を通して学生相互にモデル学習して心地よさと安全性、指導上のポイントについて検討する。</p>
授業計画	<p>渡邊</p> <p>渡邊</p> <p>渡邊</p> <p>渡邊</p> <p>渡邊</p> <p>渡邊</p> <p>渡邊</p> <p>佐藤 ホリスティックナーシングに欠かせない取り組み [到達目標]ホリスティックナーシングを実践していく上での基本となる、「看護師自身のセルフケア」と「癒しの環境づくり」の重要性について検討する 事前学習課題①資料「補完代替療法 看護師のセルフケア」「癒しの環境づくり」について理解する。 [授業形態：講義]</p> <p>仲口 看護の臨床で欠かすことのできない安楽（Comfort）を促進するケアの必要性および重要性について [到達目標]事前学習課題③資料「マッサージ」を読んで、マッサージの特徴とその効果、適用となる対象やその状況についてレポートする</p> <p>仲口 触れるケアについて [到達目標]模擬患者を想定して、触れるケア（マッサージ）の実習（体験）をする。</p> <p>柿沼 [到達目標]終末期や術前の患者に対する寄り添うケアについては補完代替療法の効果が大きな意味を持つ。経絡・経穴を応用したケアリングの概念を理解し、安楽な状態を提供できる看護について理解を深める。 [授業形態：講義]</p> <p>柿沼 臨床の場における経絡・経穴を応用したケアリングの方法について実践的について [到達目標]終末期や術前の患者に対する寄り添うケアについて、経絡・経穴を応用したケアリングの実践により安楽な状態を提供できる看護の実際について体験し、安楽な看護の提供について体験し理解を深める。[授業形態：演習]</p> <p>柿沼 ケアにおける癒しの重要性 [到達目標]ホリスティックナーシングにおける「看護師自身のセルフケア」と「癒しの環境づくり」の重要性についてレポートする。 [授業形態：講義と演習]</p> <p>佐藤 セルフケアの実践（リラクゼーション） 到達目標]事前学習課題②「リラクゼーション法入門」を参考に、呼吸法と筋弛緩法を指導するためのマニュアル（文字・イラストを取り入れたオリジナルな小冊子）を作成する。 当日は、作成したマニュアルを使って、セルフケアの体験をするとともに、模擬患者を想定して指導する。 [授業形態：演習]</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>「リラクゼーション入門法」及び参考書を用いて授業に関連する内容を予習を行うこと。指示された課題について期限内に提出する。</p> <p>【予習・復習及び課題作成には4.5時間以上を取り組むことを目安とする】</p>
教科書	<p>「ケアの中の癒し」看護の科学社 看護のための最新医学講座（第33巻）中山書店 自分を守る患者学 渥美和彦 PHP出版 補完代替医療入門 上野恵一 岩波アクティブライブラリー</p>

参考書	「リラクゼーション法入門」 小坂橋喜久代 荒川 唱子 (日本看護協会出版社) ナーシングマッサージ 小坂橋喜久代 河内香久子他 (日本看護協会出版社)
成績評価	邊担当分(1~7) : 50点、佐藤・仲口・柿沼担当分(8~14) : 50点、合計100点。 課題レポート(授業終了時に指示する)のオムニバス形式で評価する。 60点以下の者は、追・再試験を実施する。 両者の評価を総合して、60点以上を可、70点以上を良、80点以上を優とする。 平常評価(出席カード:20%)、レポート評価(80%)とする。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 佐藤裕見子 研究室 : 806号室 メールアドレス : y_sato@mst.meiji-u.ac.jp オフィスアワー : 講義実施日、月曜日午前 担当教員名 : 仲口路子 研究室 : 808号室 メールアドレス : nakaguchi@meiji-u.ac.jp 担当教員名 : 柿沼恵理子 研究室 : 非常勤講師 メールアドレス : kakinuma1015@gmail.com オフィスアワー : 講義実施日
備考	鍼灸師としての経験や臨床現場での実践経験を有する看護師が、寄り添う看護に求められるコンプリメンタリセラピー(補完代替療法)の理論と実技を教授する。デプロマポリシーとの関連:◎-⑤、○-④

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択
担当教員			
大山由紀子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>【授業概要】 看護技術についての理解を深めるために、現代的リベラルアーツ（文理にとらわれず広く知識を身につけながら、創造的な発想を訓練する教育システム）という視点からの看護技術への接近/再考を試みる</p> <p>【到達目標】 1) 臨床で用いられる看護技術の意味を問い直し、科学的裏付けを明らかにするためのプロセスがわかる 2) これまでに学んだ看護技術を再度「ナースの技」として定直し、考究することができる 3) これからの看護技術とその課題について現代的課題を考察することができる</p>
授業計画	<p>1回目 導入／オリエンテーション [到達目標] ・オリエンテーション（授業概要とねらいの説明）を受けることができる ・看護技術についての理解を深めることができる ・臨地実習を終えて自己の看護技術の振り返りができる [授業形態] 講義形式</p> <p>2回目 日常生活援助技術 再考 [到達目標] ・日常生活を支える技術の変遷と今後の課題、展望、可能性について考察することができる [授業形態] 講義形式＋ディスカッション</p> <p>3回目 生命活動を支える技術 再考 [到達目標] ・診療にかかわる看護援助技術の現代的位置づけと課題について考察することができる [授業形態] 講義形式＋ディスカッション</p> <p>4回目 安楽 再考 [到達目標] ・安楽とはなにか、安楽を阻害する要因やより安楽を促進することについて考察することができる ・安楽/安寧と社会との関連を考究することができる [授業形態] 講義形式＋ディスカッション</p> <p>5回目 自立/自律 再考 [到達目標] ・看護技術における自立/自律とはなにかを考察することができる [授業形態] 講義形式＋ディスカッション</p> <p>6回目 ナースの技 再考 [エキスパート/ビギナー、専門看護師/ジェネラリスト] [到達目標] ・看護師の役割を看護技術の視点からその深まりについて考察することができる [授業形態] 講義形式＋ディスカッション</p> <p>7回目 まとめ・レポート課題発表 [到達目標] ・看護技術論で学んだこと、考えたことをまとめることができる ・レポート課題を発表することができる [授業形態] 講義形式＋発表会</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	講義内で課題を提示するので、期限を守って必ずレポートを提出すること なお、提出されたレポートはすべて成績評価の対象とする
教科書	適宜提示する
参考書	<p>1) 「看護の力」川嶋みどり著 岩波新書 2) 「ナイチンゲール 心に効く言葉」F. ナイチンゲール著 ハーパー保子訳 サンマーク出版 3) 「看護の挑戦 フロントランナーの仕事に学ぶ」北川隆吉監修 桐書院 4) 「看護師の臨床の『知』 看護職生涯発達学の視点から」佐藤紀子著 医学書院 5) 「その先の看護を変える気づき 学び続けるナースたち」柳田邦男、陣田泰子、佐藤紀子編集 医学書院 6) 「チーム医療と看護 専門性と主体性への問い」川嶋みどり著 看護の科学社 7) 「看護教育学」第6版 杉森みどり 舟島なをみ著 医学書院</p>
成績評価	<p>1) 授業への出席が全体の3/5以上であること 2) 出席状況、授業への参加度、レポートの提出と内容をふまえ、総合的に評価する</p>
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : 大山由紀子 研究室 : 10号館 8階 803研究室 メールアドレス : y_ooyama@meiji-u.ac.jp</p>

	オフィスアワー : 講義終了後に相談すること
備考	公立病院での実務経験及び看護学校管理者経験をもとに看護技術論の授業を行う
	この授業とDPとの関連 「◎-5」「○-3,4」

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択
担当教員			
仲口路子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	1) 緩和ケアの理念・歴史的変遷を理解する。 2) 日本における緩和ケアの現状と課題および看護実践について学ぶ。 3) 緩和ケアにおけるチーム医療および看護職の役割について学ぶ。
授業計画	<p>1回 (100) 〔授業概要〕 終末期の理解／緩和ケアとは 〔到達目標〕 1. 死の理解。死とは何かを考える。 2. 終末期と終末期医療を理解する。 〔授業形態〕 講義とディスカッション</p> <p>2回 (100) 〔授業概要〕 終末期にある患者・家族の理解 〔到達目標〕 1. 生活者としての患者を理解する。(終末期看護の対象の理解) 2. 患者や家族の体験を理解する。 〔授業形態〕 講義とディスカッション</p> <p>3回 (100) 〔授業概要〕 終末期医療の歴史／緩和ケアの歴史 〔到達目標〕 1. 日本と世界の歴史を理解する。 2. 終末期医療における倫理的課題について理解する。 〔授業形態〕 講義とディスカッション</p> <p>4回 (100) 〔授業概要〕 看護にできること・すべきこと 〔到達目標〕 1. 緩和ケアにおける看護職の役割が理解できる。 2. 全人的苦痛へのケアを考える。 〔授業形態〕 講義とディスカッション</p> <p>5回 (100) 〔授業概要〕 看護ケアのあり方と課題 [GW] 〔到達目標〕 1. 今後の緩和ケアのあり方について考察できる。 2. ホリスティックナーシングの視点から終末期看護を考究する。 〔授業形態〕 グループワーク</p> <p>6回 (100) 〔授業概要〕 看護ケアのあり方と課題 [GW] 〔到達目標〕 今後の緩和ケアのあり方について考察できる。 〔授業形態〕 グループワーク</p> <p>7回 (75) 〔授業概要〕 終末期ケアのあり方と課題 (まとめ) 〔到達目標〕 グループワークの成果を発表する。 〔授業形態〕 発表会 まとめ</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	1) 事前に教科書を熟読しておくこと。 2) 事前課題はその都度指示します。
教科書	経過別成人看護学④「終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア」田村恵子編集 メヂカルフレンド社 3000円
参考書	適宜紹介します。
成績評価	出席状況、レポートにて総合的に評価します。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 仲口 路子 研究室 : 10号館(看護学部棟)8階808 メールアドレス : nakaguchi@meiji-u.ac.jp
備考	授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5, ○-3, ○-4

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択
担当教員			
梅田智恵子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	クリティカルケア看護の特性と生命危機状態にある患者・家族の特徴を理解する 生命危機状態にある患者・家族に対する援助方法を理解する。 クリティカルケア看護における倫理的課題について考察する。
授業計画	<p>1回 クリティカルケア看護とは クリティカルな患者のアセスメント [到達目標]クリティカルケア看護の特性、クリティカルケアを必要とする患者・家族の特徴が理解できる。 救急看護の概念が理解できる。 クリティカルな患者のアセスメントができる。 [授業形態]講義 [備考]クリティカルケア看護学P2～P39、救急看護学P2～P50を読んでくること</p> <p>2回 クリティカルケア看護が必要な患者の主要病態の特徴とケア [到達目標]過大侵襲を受けた患者の生体反応・主要病態の特徴とケアが理解できる [授業形態]講義 [備考]クリティカルケア看護学P42～P111を読んでくること。</p> <p>3回 外科的侵襲が生体に与える影響 クリティカルケア看護に必要な看護技術 [到達目標]外科的侵襲が生体に与える影響が理解できる クリティカルケア看護に必要な看護技術の必要性やポイントがわかる。 [授業形態]講義+グループワーク [備考]クリティカルケア看護学P116～P202を読んでくること。</p> <p>4回 クリティカルケアの看護実践を支える枠組み [到達目標]クリティカルケアを必要とする患者の権利と擁護を考えることができる [授業形態]グループワーク [備考]クリティカルケア看護学P206～P221を読んでくること。</p> <p>5回 地域におけるクリティカルケアの実際：救急看護認定看護師 [到達目標]京都から離れた地域の救急看護の現状を学び、クリティカルケアを必要とする患者は地域に差なくいて、それに対応する看護師の役割を理解する。 [授業形態]講義 [備考]京丹後市のホームページから市民の生活状況を事前学習しておく。</p> <p>6回 地域におけるクリティカルケアの実際：集中ケア認定看護 [到達目標]京都から離れた地域にある病院のクリティカルケアの現状と看護師の役割を理解する。 [授業形態]講義 [備考]舞鶴市のホームページから市民の生活状況を事前学習しておく。</p> <p>7回 クリティカルケア看護の実践に必要なマネジメント [到達目標]クリティカルケア看護と看護管理、安全管理が理解できる [授業形態]グループワーク+プレゼンテーション [備考]クリティカルケア看護学P224～P234を読んでくること。</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	予習をしてくること レポート課題を3題出します。
教科書	1) クリティカルケア看護学 道又元裕他 医学書院 2) 救急看護学 山勢博彰他 医学書院
参考書	1) カラービジュアルで見てわかる！初めての救急看護 佐藤憲明編集 メディカ出版 2) カラービジュアルで見てわかる！初めてのICU看護 石井はるみ編著 メディカ出版 3) ファーストエイドすべての看護職のための緊急・応急処置 監修日本救急看護学会 へるす出版
成績評価	レポート3題で評価する。
担当教員の基本情報	担当教員：梅田智恵子 研究室：10号館8階805研究室 メールアドレス：c_umeda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：適宜（アポ後対応）
備考	梅田智恵子：救急看護8年の実務経験あり
	この授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-1、○-2、3

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択
担当教員			
東孝至			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に起こりやすい健康障害や症状を理解でき、生活への影響を説明できる。 ・健康障害や症状を抱える高齢者の生活を支える看護援助を説明できる。 ・高齢者の生活を支える社会資源の活用や多職種連携、および家族への支援について説明できる。 ・看護師国家試験に対応でき、高齢者に対する知識を説明できる。
授業計画	<p>1回目 オリエンテーション・高齢者の現状</p> <p>1) 統計データから高齢者の現状を理解できる。</p> <p>2) 高齢者に起こりやすい健康障害や症状を説明できる。</p> <p>2回目 老年症候群</p> <p>1) 老年症候群とは何か理解できる。</p> <p>2) 老年症候群に対する治療や看護を説明できる。</p> <p>3回目 認知症高齢者ケア</p> <p>1) 認知症関連制度および認知症の病態生理が理解できる。</p> <p>2) 認知症ケア技術が理解できる。</p> <p>4回目 介護保険法①介護保険法関連</p> <p>1) 介護保険法が説明でき、看護師の役割が説明できる。</p> <p>5回目 介護保険法②介護保険サービス</p> <p>1) 介護保険サービスが理解でき、看護師の役割が説明できる。</p> <p>6回目 エンドオブライフ・ケア</p> <p>1) ターミナル期における看護について説明できる。</p> <p>2) グリーフケアについて説明できる。</p> <p>7回目 講義のまとめと試験</p>
授業時間外の学習 (準備学習等)について	本講座は今までに修学してきた高齢者看護に関するものを復習して看護師国家試験に対応するものです。今までのテキストや配布物を熟読し、わからない点は図書館等で調べてください。
教科書	「老年看護学-①高齢者の健康と障害」堀内ふき著（メディカ出版） 「老年看護学-②高齢者看護の実践」堀内ふき著（メディカ出版）
参考書	授業の中で紹介します。
成績評価	出席基準を満たした者について筆記試験を行い、60点以上を合格とします。60点未満のものに対して再試験を行います。
担当教員の基本情報	担当教員名 : 東 孝至 研究室 : 10号館〇階講師室 メールアドレス :
備考	
	⑤ - ③、②④-①

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択
担当教員			
戸田一男 梶川拓馬 大永慶子			
授業形態：講義・演習	時間数：15時間	コミュニケーションカードを使用	
添付ファイル			

授業目標	これまでの講義や実習を通しての学び・考え・体験してきた自らの経験をふまえて看護における癒しとは何かを探究することができる。 看護に生かす代替療法を体験し、その種類と方法が理解できる。
授業計画	<p>1回目 「癒し」について [到達目標] 看護・医療場面に限らずに、日常生活の中にある「癒し」はどのようなものがあるのかを考え、人はなぜそれに癒されるのかを意見交換できる。(※グループ形式) 「癒し」について自身の考えを述べて、その根拠となる資料を収集してまとめることができる。</p> <p>2回目 「癒し」についてのグループディスカッション [到達目標] 1回目の講義でまとめたグループ資料を発表して、講義参加者全員で意見交換を行うことができる。(※グループ形式)</p> <p>3回目 「癒されること」について [到達目標] 学生自身の実習体験などをもとにして、学生が患者から「癒された」経験などについて分析し、考察することができる。</p> <p>4回目 「癒すこと」について [到達目標] 看護・医療に関係するあらゆる場面において、「癒し」とは何かを考えてまとめることができる。学生自身の実習体験などをもとにして、患者にとって何が「癒し」になるのか考察することができる。</p> <p>5回目 「癒し」に関連する映画を鑑賞する。 [到達目標] 精神障害をテーマとした映画を批判的に鑑賞する。映画から得られた精神障害のとらえ方についてディスカッションし、自分の考えを述べるができる。</p> <p>6回目 「癒し」に関連する資料作成 [到達目標] 「癒し」に関するパンフレットやコラージュ作りを通して、身体的・精神的効果について学ぶことができる。</p> <p>7回目 作成した「癒し」に関連する資料の発表、及び筆記試験 [到達目標] ・作成した「癒し」に関するパンフレットなどを発表し、意見交換を行うことができる。 ・筆記試験（論述形式）</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	実習経験を振り返り、特に患者様との人間関係において「癒し」を感じた場面について簡単にまとめておく。どのような内容のものでも良いので、「癒し」に関して書かれた書物を一冊は読んでおく。各講義のタイトルに関連した内容について事前学習し、講義で学修した内容をまとめておく。合わせて1時間程度。
教科書	なし 資料を配布する。
参考書	特に指定しない。
成績評価	論述形式の筆記試験および授業への参加状況によって総合的に評価する。 (筆記試験（論述形式）70%・出席状況及び講義に臨む姿勢30%)
担当教員の基本情報	<p>担当教員名：戸田一男 研究室：10号館8階807研究室 メールアドレス：k_toda@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（精神看護学実習のため病院出張以外）</p> <p>担当教員名：梶川拓馬 研究室：10号館7階713研究室 メールアドレス：t_kajikawa@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時（精神看護学実習のため病院出張以外）</p> <p>担当教員名： 研究室： メールアドレス： オフィスアワー：</p>
備考	<p>戸田教員：精神科領域での多岐にわたる豊富な臨床経験をもとに癒しの看護についての講義を行う。</p> <p>梶川教員：精神科領域での臨床経験をもとに精神科看護および癒しの看護についての講義を行う。</p> <p>大永教員：精神科領域での臨床経験をもとに精神科看護および癒しの看護についての講義を行う。</p> <p>授業とディプロマポリシーとの関連 ◎-5, ○-4</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択
担当教員			
佐藤裕見子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	ヘルスプロモーションの概念、変遷、ならびに公衆衛生看護における意義と展開方法について学習する。住民主体のヘルスプロモーション事例から、行政と関係機関、住民との協働による健康な地域づくりを目指すヘルスプロモーションの展開方法を理解する。
授業計画	<p>佐藤 1 健康政策とヘルスプロモーション [到達目標] ヘルスプロモーションの概念、変遷、国際的動向、健康日本21（目的・理念など総論を中心に）について理解し説明できる。 [授業形態：講義とディカッション]</p> <p>佐藤 2 ヘルスプロモーションの実際 [到達目標] ライフスタイル（たばこ、身体活動、食生活）の健康影響について、健康日本21の各論を例にとり、目標設定、目標達成度、今後の課題を中心に理解する。 [授業形態：講義とディカッション]</p> <p>佐藤 3 健康政策の具体的評価と応用 [到達目標] 科学的な評価の流れ、各種健康指標の意義、具体例への応用（新型インフルエンザなど、いくつかを取り上げる）を理解する。 [授業形態：講義とディカッション]</p> <p>佐藤 4 生活習慣病のリスクファクターと対策 [到達目標] 循環器疾患のリスクファクター、メタボリックシンドローム、特定健康診査・特定保健指導の問題点などを中心に学ぶ。 [授業形態：講義とディカッション]</p> <p>佐藤 5 住民主体のヘルスプロモーション① 到達目標 健康な地域づくりに向けたヘルスプロモーションの展開方法を事例を通して理解する。 [授業形態：講義とディカッション]</p> <p>佐藤 6 住民主体のヘルスプロモーション② 到達目標 健康な地域づくりに向けたヘルスプロモーションにおける住民、関係機関、行政の協働による展開方法を事例を通して理解する。 [授業形態：講義とディカッション]</p> <p>佐藤 7 住民主体のヘルスプロモーションの展開・演習 到達目標 健康な地域づくりに向けたヘルスプロモーションの展開方法を演習を通して深める。 [授業形態：グループディカッション]</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	配付された参考資料を熟読する。授業内容を確認するために出された課題をまとめて、期限までに提出する。予習復習及び課題作成には4.5時間の学習を行うこと。
教科書	特に指定しない
参考書	特に指定しない
成績評価	担当教員名：佐藤裕見子 研究室：10号館8階 メールアドレス：y-sato@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時
担当教員の基本情報	行政における実務経験を生かして、人口減少社会におけるヘルスプロモーションについて、保健師学生とともに議論し、将来の地域保健及び地域づくりの目指す方向について共有する。
備考	デプロマポリシーとの関連：◎ー③ ○ー④⑤

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択
担当教員			
大倉和子 玉井公子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	個々のネットワーク、コーディネート、ケアマネジメントなどに対して、組織的・系統的な支援を行い、全体として地域保健の向上を目指す地域保健システムの発展過程を考える。
授業計画	<p>1回 ガイダンス、地域ケアシステムとは [到達目標] 地域ケアシステムの概念、目的、発展過程について理解し、個別支援のチームづくりから地域ケアシステムの構築、政策形成過程を系統的に説明することができる。 宿題：家族の機能とは何か、テキストや資料からまとめておく。</p> <p>2回 家族支援ネットワークについて [到達目標] 家族の支援ネットワークについて、その形成過程及び支援システムについて理解する。 ソーシャルネットワークを家族支援に活用することができる。 [授業形態] グループワークにより事例を通してネットワークの形成過程を考察する。 宿題：すこやか親子21（第2次）が推進される背景とその方向性について調べてノートにまとめておく。</p> <p>3回 地域における家族支援システムの構築について [到達目標] 地域における家族支援システムの構築のための関係機関・関係職種・住民とのチームワーク及び連携・協働の必要性について理解する。児童虐待対策及び児童虐待防止に関する支援システムの現状と課題、保健師の役割を理解する。 [授業形態] グループワークにより育てにくさのある母子への支援方法について、課題別に考察する。</p> <p>4回 地域ケアシステムにおけるネットワーク形成と調整活動について [到達目標] 地域ケアネットワークの形成過程とそれに伴う調整活動及び保健師の役割について理解する。 地域ケアシステムの展開過程で実施される各種連携会議の構成機関メンバー、企画運営について具体的に説明することができる。 [授業形態] グループワークにより認知症高齢者の事例をもとに、模擬連携会議をシュミレーションし、地域で生活する高齢者の支援ネットワーク構築に対する参加メンバーの役割を考察する。 小テスト（1～4階の授業から出題） 宿題：難病に関する主な施策を調べノートにまとめておく。</p> <p>5回 難病患者と家族への支援システムの構築について [到達目標] 難病患者とその家族の地域生活の支援システムの構築に向けた保健師活動を理解する。 難病に関する法制度及び支援機関とその役割を具体的に説明することができる。 [授業形態] グループワークにより事例を通して、難病患者と家族支援の課題を考察する。</p> <p>6回 地域ケアシステムの構築と保健所の役割について [到達目標] 地域ケアシステムの構築に対する市町村と保健所（都道府県）の役割の違いを理解する。 [授業形態] グループワークにより事例を通して、各部署の役割を確認する。</p> <p>7回 地域保健活動システム論の総括 [到達目標] 地域保健活動の諸要素とネットワーク形成、システムづくりについて理解する。 [授業形態] グループワークにより多職種連携の必要な事例を通してネットワーク形成やシステムづくりを考察する。</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	必要に応じ、授業内でインフォメーションする。毎回の予習復習等には45分以上取り組むことを目安とする。
教科書	毎週プリントを配布
参考書	標準保健師講座2「公衆衛生看護技術」中村裕美子編（医学書院） 公衆衛生が見える3版（メディック・メディカ）
成績評価	授業への参加態度（グループ学習の参加態度を含む）・小テスト（40%）、レポート（60%） 最終レポート課題：テーマ「あなたの住んでいる町で住民が安心して生活するためには、どのような保健医療福祉の仕組みが必要かを、地域の特徴から優先順位からテーマを決めて、自分の考えを自分の言葉で記述してください。」 レポート用紙2枚（2, 400字程度）レポート提出（ 月 日（ ）午後5時まで）10号館8階地域領域BOX
担当教員の基本情報	担当教員名：大倉 和子 研究室：10号館7階 メールアドレス： オフィスアワー： 担当教員名：玉井 公子 研究室10号館7階 メールアドレス：k_tamai@meiji-u.ac.jp オフィスアワー：随時

備考	行政の実務経験の豊富な教員として、地域ケアシステム構築のための実践的な技術や方法について教授する。
	②「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-3、○-4

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
秦			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	国内・国外における国際看護の役割を理解することが出来る。諸外国の健康問題について学び、改善策への取り組みについて理解する。看護の対象の多様性を文化的側面から捉える必要性を理解出来る。国際看護学及び国際交流に貢献する知見を獲得出来る。
授業計画	<p>1回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際看護の定義と役割 ・異文化体験から捉える看護の意義と役割 ・世界の人々の健康に与える現状を知り、国際看護の視点から健康問題を理解する ・アメリカの暮らしや看護の実際を知り、異文化や他国の看護について理解ができる <p>2回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化に暮らす人々の様々な暮らし ・ミレニアム開発目標(MDGs)と持続可能な開発目標(SDGs)から捉える世界の健康問題と課題 ・文化や価値観などが生活や健康に大きく影響を与える因子であることが理解できる (ビデオ鑑賞) <p>3回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際協力の概要を知り、世界の健康問題への国際看護の取り組みが分かる ・ミレニアム開発目標(MDGs)の取り組みの実際と課題 ・開発途上国・先進国で異なる保健医療・看護が健康に及ぼす影響を知る (ビデオ鑑賞) ・開発途上国・先進国で異なる保健医療・看護の課題を知り理解を深める <p>4回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な開発目標(SDGs)の取り組みの実際と国内における国際看護活動 ・国内外のNGOや支援団体のサポートネットワークを知り、国際協力活動について理解を深める ・グローバル化する看護の現状と多文化共生社会について知る <p>5回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化や制度を考慮した看護 外国人患者とのコミュニケーションに必要な能力 ・国内に暮らす異なる文化背景を持つ外国人患者の多様なニーズを知る ・異なる文化背景を持つ患者とのコミュニケーションを体験する <p>6回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人患者への看護の実際 国内における国際看護活動の課題 ・医療英語を用いアメリカ人患者への看護活動を体験する <p>7回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめ ・国際看護の役割や国際看護活動に必要な能力について理解を深める <p>8回目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験
授業時間外の学習(準備学習等)について	準備学習として課題を事前に配布することもある。
教科書	教科書は指定しない。適宜資料を配布する。
参考書	看護の統合と実践? 国際看護学、メヂカルフレンド社 (2018) 国際看護：言葉・文化を超えた看護の本質を体現する (2016) 国際看護学：グローバル・ナーシングに向けての展開 (2013)
成績評価	クラス参加度・課題・学期末テスト・レポートなどによる
担当教員の基本情報	担当教員名 : 秦 康代 研究室 : 6号館1階非常勤講師室 オフィスアワー : 授業終了後
備考	日本で暮らす私たちにとって、今後はさらに多文化共生社会への理解が重要になります。文化的背景が異なる人々の暮らしを知り、健康問題を理解することで、対象者の多様性やニーズへの理解をさらに深めることができます。皆さんと一緒に学べる機会を楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。
	【この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：◎-2、○-4】

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	必修
担当教員			
山下八重子 各領域長			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	学生は、これまで学んだ理論や知識を統合するための臨地実習終了し、看護には知識理解後不可欠であると実感し理解している。卒業式業に向けて、これまで学んだ基礎的な知識の再確認を行うことにより理解が深める。 国家試験合格を目指して、知識・理解、思考・判断を定着させる。
授業計画	1回～14回 各領域の試験 毎回、各領域の試験をします。 この試験に合格しなければ、単位が出ません。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	前期中に各領域で必要な知識を提示する。各自、国試問題を並行してやりながら、提示された知識の理解を深める。
教科書	全ての領域の教科書。 各自が国試勉強のために購入した本。
参考書	適宜紹介
成績評価	各領域の問題を毎回試験します。 全ての回で合格しなければなりません。 合格は60点以上
担当教員の基本情報	各領域の領域長と助手
備考	D P との関連「①知識・理解」－◎ 「②思考・判断」－○

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択
担当教員			
山下八重子 4年生担任 他各領域長と助手			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	大学での学びの集大成となるように、看護に必要な知識を総合的に理解していることを学生が自覚できる。 国家試験での文章問題等を解けるように知識を身に付ける。
授業計画	1-14回 毎回試験 1コマ各領域に関連する知識を試験する。問題数は各領域で決定する。 試験後に解説をする。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	選択であるが、国試の模試が合格圏内でない学生は必ず選択すること。 時間外では国試勉強をしておく。
教科書	各自が国試対策用に購入した参考書
参考書	適宜紹介
成績評価	毎回の試験（14回で全て60点以上）で合格点数をとらなければ単は出ない。
担当教員の基本情報	各領域の担当者・助手
備考	D Pとの関連 ◎-1 ○-2

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択
担当教員			
今西二郎 岸田聡子			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<p>医学・医療のこれまでの歴史を踏まえ、現代医療の特徴と問題点を把握することにより、今、なぜ統合医療が注目されているのかを理解する。①統合医療の概念、②統合医療の現状と課題、③統合医療と医療行政、④統合医療と心身医学、⑤統合医療と先端医学、⑥統合医療と高齢者、⑦統合医療と健康食品、⑧統合医療の世界の動向などについて学修し、統合医療のあるべき姿、方向性について考えることを通して統合医療の基礎を理解する。さらに、看護における統合医療の必要性についても理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 補完・代替医療および統合医療の概念について理解すること 2. 近代医学の特徴および長所と短所を理解すること 3. 伝統医学、CAMの特徴および長所と短所を理解すること 4. 統合医療の意義、理念および形態について考えること 5. 統合医療における伝統医療の役割について考えること
授業計画	<p>1回目 統合医療と補完・代替医療 [到達目標] 統合医療とは何かを理解し、その構成要素である補完・代替医療を理解し、概説できるようにする。 [備考] 統合医療（テキスト） p. 1-101</p> <p>2回目 漢方医学 [到達目標] 漢方医学での病態の捉え方を理解し、診断法を知る。さらに生薬と漢方方剤を理解する。 [備考] 統合医療（テキスト） p. 6-13 入門漢方医学（参考書1）</p> <p>3回目 サプリメント [到達目標] サプリメント、特定保健食品、栄養機能食品、機能性表示食品を理解し、サプリメントの有用性、副作用など概説できるようにする。 [備考] 統合医療（テキスト） p. 18-21</p> <p>4回目 植物療法 [到達目標] メディカル・アロマセラピーおよびハーブ療法を含む植物療法とは何か、それらの手法、応用について理解を得られるようにする。 [備考] 統合医療（テキスト） p. 27-29、38-40</p> <p>5回目 温泉療法 [到達目標] 温泉療法、温浴療法とは何か、それらの手法、応用について理解を得られるようにする。 [備考] 統合医療（テキスト） p. 43-48</p> <p>6回目 環境を利用した統合医療 [到達目標] 環境を利用した統合医療である森林療法、地形療法、スパセラピー、タラソセラピーなどを理解できるようにする。 [備考] 統合医療（テキスト） p. 48-54</p> <p>7回目 次世代型および健康創生型統合医療 7回目： [到達目標] 統合医療の将来、現行型、次世代型、健康創生型統合医療について概説できるようにする。また、統合医療についての受講者の考え方をまとめる [備考] 統合医療（テキスト） p. 108-133</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	<p>教科書、参考書をあらかじめ読んでおくこと</p> <p>教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習（予習90分）し、講義で学修した内容をまとめて下さい（復習90分）。</p>
教科書	今西二郎著：統合医療改訂2版、金芳堂、2015。

参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入門漢方医学、日本東洋医学会学術教育委員会編集、南江堂、2002. 2. 『統合医療 基礎と臨床』Part1. 基礎編、日本統合医療学会、2007. 3. 今西二郎著：メディカル・アロマセラピー改訂3版、金芳堂、2015. 4. 今西二郎著：医療従事者のための補完代替医療第2版、金芳堂、2009.
成績評価	評価方法と評価割合：レポート80%、授業内演習20%
担当教員の基本情報	<p>担当教員名 : ○今西二郎 研究室 : 附属統合医療センター メールアドレス : imanishi-micro@nifty.com オフィスアワー : 随時</p> <p>担当教員名 : 岸田聡子 研究室 : メールアドレス : オフィスアワー :</p>
備考	<p>毎回、課題を与え、学生にそれについてのプレゼンテーションを行ってもらうなどのアクティブラーニングにより、講義内容の深化を図る。</p> <p>「この授業とディプロマ・ポリシーとの関連」：◎-5, ○-2・4</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	実習
担当教員			
岸田聡子			
配当学科：看護学科	時間数：30時間	授業形態：実習	
添付ファイル			

授業目標	メディカル・アロマセラピーの看護学への応用として、概論、演習を通して習得した知識を基に、実際に臨床で実践できるマッサージ技術を習得する。		
授業計画	1回目	アロママッサージの実際 1 [到達目標] マッサージを行う前の準備、環境の整え方を、実際に行い習得する [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p.66-70、実技編	
	2回目	アロママッサージの実際 2 [到達目標] 下枝後面マッサージを習得する [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p.66-70、実技編	
	3回目	アロママッサージの実際 3 [到達目標] 背部マッサージを習得する [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p.66-70、実技編	
	4回目	アロママッサージの実際 4 [到達目標] 背部マッサージを習得する [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p.66-70、実技編	
	5回目	アロママッサージの実際 5 [到達目標] 下枝後面、背部マッサージの手技の確認、習得 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p.66-70、実技編	
	6回目	アロママッサージの実際 6 [到達目標] 下肢前面マッサージの習得 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p.66-70、実技編	
	7回目	アロママッサージの実際 7 [到達目標] 腹部マッサージの習得 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p.66-70、実技編	
	8回目	アロママッサージの実際 8 [到達目標] 手のマッサージの習得 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p.66-70、実技編	
	9回目	アロママッサージの実際 9 [到達目標] 前胸部マッサージの習得 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p.66-70、実技編	
	10回目	アロママッサージの実際 10 [到達目標] 下肢前面、腹部、手、前胸部マッサージの手技確認、習得 [備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p.66-70、実技編	
	11回目	アロママッサージの実際 11	

	<p>[到達目標] フェイシャルマッサージの習得</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p.66-70、実技編 アロママッサージの実際1 2</p> <p>[到達目標] 全身マッサージの習得</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p.66-70、実技編 アロママッサージの実際1 2</p> <p>[到達目標] 全身マッサージの習得</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p.66-70、実技編 アロママッサージの実際1 2</p> <p>[到達目標] 全身マッサージの習得</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p.66-70、実技編 実技試験</p> <p>[到達目標] 実技習得の確認</p> <p>[備考] メディカル・アロマセラピー（テキスト）総論編p.66-70、実技編</p>
授業時間外の学習 （準備学習等）に ついて	<p>練習を行い、実技の習得を目指すこと。</p> <p>教科書・参考書を参考に、各講義のタイトルに関連するページを事前学習（予習30分）し、 講義で学修した内容をまとめて下さい（復習30分）。</p>
教科書	統合医療評価認証機構メディカル・アロマセラピーテキスト第2版
参考書	1. 今西二郎、荒川唱子編：アロマセラピー入門第2版、日本看護協会出版会、2010.
成績評価	全身マッサージの実技試験により評価する
担当教員の基本情 報	<p>担当教員名 : 岸田聡子</p> <p>研究室 : 附属統合医療センター</p> <p>メールアドレス : s_kishida@meiji-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワー : 随時</p>
備考	【この授業とディプロマ・ポリシーとの関連：○-2、○-4、◎-5】

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	1	選択
担当教員			
中務直美			
配当学科：看護学科	時間数：15時間	授業形態：講義	
添付ファイル			

授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・フットケアに関する基礎的知識を得る。 ・フットケアに関する専門知識を統合して実践方法を知る。 ・フットケアにおける看護師の役割を考えることができる。
授業計画	<p>1回目 フットケアとは何かを理解する [授業概要] ・フットケアの意義 ・看護におけるフットケア ・足の構造と足病変</p> <p>2回目 フットケアのためのスキンケアを知る [授業概要] ・皮膚の構造 ・高齢者の皮膚 ・スキンケアの方法</p> <p>3回目 フットケアの実際を理解する【演習を含む（爪切り）】 [授業概要] ・足のアセスメント ・爪のケア ・胼胝・鶏眼</p> <p>4回目 足病変について知る [授業概要] ・足潰瘍の評価と実際 ・糖尿病性潰瘍の治療とケア ・静脈性潰瘍の治療とケア</p> <p>5回目 虚血肢について理解する [授業概要] ・血流の重要性 ・治療とケア</p> <p>6回目 足の褥瘡について理解する【演習を含む（ポジショニング）】 [授業概要] ・足潰瘍と足の褥瘡の違い ・拘縮とポジショニング</p> <p>7回目 フットケアにおけるリスクマネジメントとチーム医療を理解する [授業概要] ・看護における爪切りとは ・院内連携と地域連携</p>
授業時間外の学習（準備学習等）について	臨床に必要な知識として機能解剖があり、習得するために反復して行うことが必要であり小テスト等により理解する。また実技においては期を通して実技を継続して行うことが必要である。（松元担当分）
教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価	筆記試験
担当教員の基本情報	担当教員名 : 中務 直美 研究室 : 非常勤講師室 メールアドレス : オフィスアワー : 授業終了後
備考	「この授業とディプロマポリシーとの関連」◎-⑤ ○-④

講義科目名称： 卒業研究

授業コード： 3K418

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4	3	必修
担当教員			
山下八重子 教員全員			
配当学科：看護学科	時間数：90時間	授業形態：演習	
添付ファイル			

授業目標	ゼミ単位で担当学生を受け持ち、各担当教員が論文検索方法や論文の読み方、引用論文の書き方等を指導する。 集めた論文を読み解き、課題を見つけ自己の研究へとつなげられるように、研究計画書を作成する。提出は、研究の動機となった論文のまとめと、「はじめに」で、研究動機と課題を入れて、何を明らかにするための研究計画書に記載する。研究方法や分析方法について記載して、提出期限を厳守して提出する。
授業計画	ゼミ 各領域のゼミで担当学生を決定し研究計画書の作成を進める。 各担当教員が3単位の相当する時間数を学生に指導する。 少なくとも21コマ分の指導を行う。 論文を検索し、批判的に読みまとめ、研究課題を見つけ、「はじめに」に課題と研究動機を記載し、研究方法を記載して締め切り日までに研究計画の提出をおこなう。
授業時間外の学習 (準備学習等)について	各担当教員
教科書	各担当教員
参考書	各担当教員
成績評価	各担当教員
担当教員の基本情報	山下八重子 研究室：10号館809号室 メールアドレス：y_ymashita@meiji-u.ac.jp 他：ゼミ担当教員
備考	D P との関連 ◎-3 ○-2.4